

二社平遺跡・石畑遺跡・石畑Ⅰ岩陰

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第75集

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第75集

二〇二一

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2021

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



二社平遺跡・石畑遺跡・石畑Ⅰ岩陰

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第75集

2021

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

八ッ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められてきました。八ッ場ダムの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、四半世紀となります。

二社平遺跡は平成28年度及び29年度に発掘調査が行われ、石畑遺跡は平成29年度・31年度に、石畑Ⅰ岩陰は平成29年度・30年度・令和元年度に発掘調査が行われました。調査の結果、それぞれの遺跡で天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流で被災した畑が発見された他、石畑遺跡では石垣が、石畑Ⅰ岩陰では古くは縄文土器から新しくは江戸時代の陶磁器まで発見され、長期間に渡って岩陰周辺で人々が活動していたことがわかりました。

これらの調査成果は、長野原町を中心とした地域、ひいては群馬県における地域史を考える上でも重要な資料となるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例 言

1 本書は八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成28・29・31・令和元年に実施された「二社平遺跡・石畑遺跡・石畑Ⅰ岩陰」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 遺跡の呼称及び所在地

二社平遺跡(じしゃだいらいせき)は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑地内に所在する。地番は、837・838・839-1他である。

石畑遺跡(いしはたいせき)は、群馬県吾妻郡長野原町大字河原畑地内に所在する。地番は1011・1023・1024他である。

石畑Ⅰ岩陰(いしはたいちいわかげ)は、群馬県吾妻郡大字川原畑地内に所在する。地番は1054 - 3他である。

3 事業主体 国土交通省関東地方整備局

4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5 発掘調査及び整理作業の期間

(1)発掘事業

◎二社平遺跡

調査期間① 平成28年6月30日～平成28年7月31日

発掘調査担当(職名は調査当時) 小林茂夫(主任調査研究員) 宮下 寛(主任調査研究員)

調査面積 638㎡

遺跡掘削工事 株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

調査期間② 平成29年10月1日～平成29年12月31日

発掘調査担当(職名は調査当時) 関口博幸(主任調査研究員) 山本光明(主任調査研究員) 石田 真(主任調査研究員) 小野 隆(主任調査研究員)

調査面積 4,716㎡

遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

◎石畑遺跡

調査期間① 平成29年11月1日～12月31日

発掘調査担当(職名は調査当時) 関口博幸(主任調査研究員) 山本光明(主任調査研究員) 石田 真(主任調査研究員) 小野 隆(主任調査研究員)

調査面積 1,691㎡

遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

調査期間② 令和元年8月2日～令和元年8月21日

調査担当者(職名は調査当時) 石田 真(主任調査研究員) 山本直哉(調査研究員)

調査面積 4,330㎡

遺跡掘削工事 株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

◎石畑Ⅰ岩陰

調査期間① 平成29年6月7日～8月4日、平成30年1月22日～3月16日

調査担当者(職名は調査当時) 山本光明(主任調査研究員) 石田 真(主任調査研究員) 山本直哉

(調査研究員)

調査面積 887㎡

遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事經常共同企業体

調査期間② 平成30年4月1日～5月31日、平成30年8月1日～10月31日

調査担当者(職名は調査当時) 黒崎博樹(主任調査研究員) 石田 真(主任調査研究員) 山本直哉(調査研究員)

調査面積 376㎡

遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事經常共同企業体

調査期間③ 令和元年6月3日～8月2日

調査担当者(職名は調査当時) 齊藤利昭(専門官・調査課長) 石田 真(主任調査研究員・調査統括) 山本直哉(調査研究員)

調査面積 1,765㎡

遺跡掘削工事 株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事經常共同企業体

(2) 整理事業(職名は整理当時)

整理期間 平成31年2月1日～平成31年3月31日 整理担当 大西雅広(専門調査役)

令和元年12月1日～令和2年3月31日 整理担当 黒田 晃(主任調査研究員)

令和2年4月1日～令和2年9月30日 整理担当 黒田 晃(主任調査研究員)

6. 本書作成の担当者は以下のとおりである。

編集 黒田 晃

本文執筆 執筆担当 第3章第4節8・第5章第2節 麻生敏隆 第5章第1節 石田 真

第4章第1節2 パレオ・ラボ(三谷智広) 第4章第2節2 株式会社古環境研究所

上記以外 黒田 晃

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺構写真 発掘担当者 上記6名発掘担当者








遺物写真 黒田 晃

7. 遺構測量 株式会社 測研

8. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県地域創生部文化財保護課、長野原町教育委員会、県立文書館のご指導とご助言を得た。長野原町教育委員会、県立文書館から、古文書や絵図面等の提供を得た。

9. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した座標値および方位は、世界測地系、平面直角座標系第IX系を用い、座標北で示した。調査区は、 $X=613600 \sim 61840$ 、 $Y=-100200 \sim -100800$ の範囲に収まる。
- 2 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
- 3 遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一縮尺ではない。なお、本文中のピットについては掘立・柱穴列のものはP、単独のものはピットとして扱っている。
遺構図：畑 1/200 円形平坦面 1/80 ヤックラ 1/100 建物 1/60 道 1/200 溝 1/100 土坑 1/60
墓 1/20 石垣 1/80 トレンチ 1/100 ピット 1/60 焼土 1/60
遺物図：縄文土器・弥生土器 1/3・1/4 土師器・須恵器 1/3・1/4 在地系 1/4 陶磁器 1/3
金属製品 1/1・1/2 石器・石製品 1/1・1/2・1/3・1/4・1/6・1/10
これ以外の縮尺の場合は、各図下部にスケールを示すか、個別図に縮尺を示している。
- 4 遺物の掲載は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
- 5 本書の図版に使用したスクリーンパターン及びマークは以下を使用する。
遺構図平面：軽石範囲  密度の濃い軽石範囲  泥流範囲  礫範囲 
畑の下から現れた礫範囲  崩落した石垣範囲  攪乱 
- 6 遺構平面図中の遺物記号は過年度に報告された『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』使用のものと統一し、以下を使用する。
全体： ● 出土遺物 祭祀(墓地)：● 土器 ◎ 陶磁器 ▲ 石器・石製品 ■ 鉄・金属製品
- 7 銭貨の拓本は表を左、裏を右に配置した。左右逆に配置した銭貨は、数枚が癒着して出土している中で、他の銭貨と重なり表裏が逆であったものである。
- 8 遺構の計測は、全容が計測できない遺構については残存値()で記してある。なお、畑の計測では、畝間から隣の畝間までの間を畝サク間隔として計測した。
- 9 本書で検出された畑の畝間を埋めている浅間A軽石(As-A)は、天明三(1783)年に浅間山が噴火した際に噴出した軽石の略称である。
また、「天明泥流」は、天明三年新暦8月5日の浅間山噴火に伴う泥流堆積物の略称である。
- 10 遺物観察表における計測値の単位はcmとし、重量はgで表記している。欠損した遺物の計測値は()で現存値を示した。
- 11 本書で使用した地形図は以下の通りである
国土地理院：地形図 5万分の1「草津」 国土地理院：地形図 20万分の1「長野」

目 次

目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真目次

第1章 調査の方法と経過	1	1 調査の概要	22
第1節 調査に至る経過	1	2 検出された遺構	22
第2節 二社平遺跡と石畑遺跡の調査経過・ 調査方法・調査概要・整理事業の経過	1	第4節 石畑I岩陰遺跡	39
1 調査経過	1	1 調査区と面	39
2 調査方法	2	2 検出された遺構と遺物	41
3 調査概要	2	3 A区北の調査	42
4 整理事業の経過	3	4 A区南の調査	55
第3節 調査区の概要	4	5 B区北の調査	70
1 遺跡番号について	4	6 B区南の調査	95
2 基準座標について	4	7 石器	96
第2章 遺跡の環境	6	第4章 自然科学分析	127
第1節 地理的環境	6	第1節 石畑I岩陰遺跡出土の動物遺体の同定	127
第2節 歴史的環境	9	1 同定委託について	127
第3章 発見された遺構と遺物	13	2 同定報告	128
第1節 各遺跡調査区の概要	13	第2節 石畑岩陰遺跡植物遺体同定	130
1 1面の調査	13	1 同定委託について	130
2 2面以下の調査	13	2 同定報告	131
第2節 二社平遺跡の調査	14	第5章 まとめ	127
1 調査の概要	14	第1節 調査の成果(総括)	127
2 検出された遺構	20	第2節 石畑I岩陰の縄文時代の石器について	127
第3節 石畑遺跡の調査	22		

挿図目次

第1図	地区・区・グリッドの概念図	4	第57図	石畑I岩陰A区南第3面中部	60
第2図	二社平遺跡・石渡遺跡位置図	5	第58図	石畑I岩陰A区南第3面西部	61
第3図	石畑遺跡A区基本土層概念図	5	第59図	石畑I岩陰A区南第4面全体図	61
第4図	二社平遺跡・石畑遺跡周辺の地名	7	第60図	石畑I岩陰A区南トレンチ配置図	62
第5図	遺跡位置図	8	第61図	石畑I岩陰A区南A・Bトレンチ断面図	63
第6図	中世及び天明泥流下の遺跡分布図	11	第62図	石畑I岩陰A区南C～Eトレンチ断面図	64
第7図	二社平遺跡1面全体図・B区断面図	14	第63図	石畑I岩陰A区南F～Hトレンチ断面図	65
第8図	二社平遺跡A区断面図①	15	第64図	石畑I岩陰A区南遺物分布図	66
第9図	二社平遺跡A区断面図②	16	第65図	石畑I岩陰A区南出土遺物(1)	67
第10図	二社平遺跡B区全体図	17	第66図	石畑I岩陰A区南出土遺物(2)	68
第11図	二社平遺跡B区西側自然地形確認トレンチ1断面図	18	第67図	石畑I岩陰A区南出土遺物(3)	68
第12図	二社平遺跡B区西側自然地形確認トレンチ2及び崩落土と畑断面図	18	第68図	石畑I岩陰B区北現況平面図	70
第13図	二社平遺跡B区畑平面図・断面図	19	第69図	石畑I岩陰B区北第1面	71
第14図	二社平遺跡A区2面全体図・断面図	20	第70図	石畑I岩陰B区北第2面2号灰層	72
第15図	二社平遺跡B区2面確認トレンチ平面図	21	第71図	石畑I岩陰B区北第2面2・3・5号灰層	73
第16図	二社平遺跡B区2面確認トレンチ断面図	22	第72図	石畑I岩陰B区北1・2号灰層前後関係模式図	75
第17図	二社平遺跡A区2面出土遺物	23	第73図	石畑I岩陰B区北7号灰層前後関係模式図	76
第18図	石畑遺跡A区南部全体図	24	第74図	石畑I岩陰B区北第2面10・11・21号灰層	77
第19図	石畑遺跡1号畑平面図・断面図	25	第75図	石畑I岩陰B区北第3面全体図と遺物分布図	78
第20図	石畑遺跡2号畑平面図・断面図	26	第76図	石畑I岩陰B区北第3面4・6・8号灰層	79
第21図	石畑遺跡3号畑平面図・断面図	27	第77図	石畑I岩陰B区北第4面	79
第22図	石畑遺跡2号石垣平面図・断面図	27	第78図	石畑I岩陰B区北第4面遺物分布図	81
第23図	石畑遺跡A区北部全体図	28	第79図	石畑I岩陰B区北第4面灰層分布と出土遺物分布	82
第24図	石畑遺跡B区断面図	29	第80図	石畑I岩陰B区北第4面出土遺物分布	83
第25図	石畑遺跡1号道平面図	29	第81図	石畑I岩陰B区北第5面出土遺物分布	84
第26図	石畑遺跡1号道断面図	30	第82図	石畑I岩陰B区北第5面9号灰層	85
第27図	石畑遺跡1号石垣	30	第83図	石畑I岩陰B区北第6面	85
第28図	石畑遺跡4号畑平面図・断面図	31	第84図	石畑I岩陰B区北トレンチ平面図・断面図(1)	86
第29図	石畑遺跡5・6・7号畑平面図・断面図	32	第85図	石畑I岩陰B区北トレンチ断面図(2)	87
第30図	石畑遺跡9・10号畑平面図・断面図	33	第86図	石畑I岩陰B区北出土遺物(1)	88
第31図	石畑遺跡3・4号石垣平面図・断面図	34	第87図	石畑I岩陰B区北出土遺物(2)	89
第32図	石畑遺跡1・2号ヤックラ平面図・断面図	35	第88図	石畑I岩陰B区北出土遺物(3)	90
第33図	石畑遺跡B区全体図	36	第89図	石畑I岩陰B区北出土遺物(4)	91
第34図	石畑遺跡B区1～5号トレンチ断面図	37	第90図	石畑I岩陰B区南全体図	97
第35図	石畑遺跡B区6～8号トレンチ断面図と出土遺物	38	第91図	石畑I岩陰B区南第2面3層遺物分布図	98
第36図	石畑I岩陰全体図	40	第92図	石畑I岩陰B区南第2面4層遺物分布図	99
第37図	石畑I岩陰A区北第1面全体図	43	第93図	石畑I岩陰B区南第2面5層遺物分布図	100
第38図	石畑I岩陰A区北第1面	43	第94図	石畑I岩陰B区南第2面6層遺物分布図	101
第39図	石畑I岩陰A区北第2面全体図	44	第95図	石畑I岩陰B区南第2面7層遺物分布図	102
第40図	石畑I岩陰A区北第2面全体図	45	第96図	石畑I岩陰B区南出土遺物(1)	103
第41図	石畑I岩陰A区北第2面全体図	46	第97図	石畑I岩陰B区南出土遺物(2)	104
第42図	石畑I岩陰A区北第3面	47	第98図	石畑I岩陰B区南出土遺物(3)	105
第43図	石畑I岩陰A区北第3面遺物分布図	48	第99図	石畑I岩陰B区南出土遺物(4)	106
第44図	石畑I岩陰A区北出土遺物(1)	49	第100図	石畑I岩陰B区南出土遺物(5)	107
第45図	石畑I岩陰A区北出土遺物(2)	50	第101図	石畑I岩陰B区南3層出土遺物	108
第46図	石畑I岩陰A区北出土遺物(3)	51	第102図	石畑I岩陰B区南4層出土遺物(1)	109
第47図	石畑I岩陰A区北出土遺物(4)	52	第103図	石畑I岩陰B区南4層出土遺物(2)	110
第48図	石畑I岩陰A区北出土遺物(5)	52	第104図	石畑I岩陰B区南5層出土遺物(1)	110
第49図	石畑I岩陰A区南第1面全体図	57	第105図	石畑I岩陰B区南5層出土遺物(2)	111
第50図	石畑I岩陰A区南第1面西端部	57	第106図	石畑I岩陰B区南5層出土遺物(3)	112
第51図	石畑I岩陰A区南第1面中部	57	第107図	石畑I岩陰B区南5層出土遺物(4)	113
第52図	石畑I岩陰A区南第1面中部平面図	57	第108図	石畑I岩陰B区南5層出土遺物(5)	114
第53図	石畑I岩陰A区南第2面全体図	59	第109図	石畑I岩陰B区南5層出土遺物(6)	115
第54図	石畑I岩陰A区南第2面中部	59	第110図	石畑I岩陰B区南6層出土遺物	116
第55図	石畑I岩陰A区南第2.5面全体図	60	第111図	石畑I岩陰B区南7層出土遺物(1)	116
第56図	石畑I岩陰A区南1号焼土	60	第112図	石畑I岩陰B区南7層出土遺物(2)	117
			第113図	石畑I岩陰B区南7層出土遺物(3)	118

表目次

第1表	周辺の中・近世遺跡一覧	10	第4表	石畑I岩陰A区北遺物観察表	53
第2表	二社平遺跡遺物観察表	23	第5表	石畑I岩陰遺跡A区南遺物観察表	69
第3表	石畑遺跡遺物観察表	38	第6表	石畑I岩陰遺跡B区北遺物観察表	91

第7表 石畑I 岩陰遺跡B区北遺物観察表…………… 119
 第8表 石畑I 岩陰遺跡動物遺体一覧…………… 130

第9表 トレンチごとの最小個体数…………… 130
 第10表 面・層ごとの最小個体数…………… 130

写真目次

P L. 1	1	調査前風景 (北東から)	P L. 10	出土遺物(石畑遺跡・二社平遺跡)
	2	調査前風景 (南西から)	P L. 11	1 調査区全景(西より)
P L. 2	1	1区1面 基本土層断面A (南西から)		2 調査区全景(東より)
	2	1区1面 基本土層断面A (南西から)	P L. 12	1 1号畑全景および土層断面(西より)
	3	1区1面 基本土層断面B (西から)		2 中央部トレンチ東部(西より)
	4	1区1面 基本土層断面B (南西から)		3 1号畑中央部土層断面(東より)
	5	1区1面 基本土層断面C (南西から)		4 1号畑と中央部土層断面(東より)
	6	1区1面東端トレンチ確認 (南から)		5 1号畑中央部土層断面(東より)
P L. 3	1	1区1面 土層断面D (北西から)		6 1号畑中央部土層断面(東より)
	2	1区1面 土層断面D (東から)		7 A区東端部土層断面(西より)
	3	1区1面 土層断面D (東から)		8 A区東部中央土層断面(南より)
	4	1区1面 土層断面D (東から)	P L. 13	1 A区1・2号トレンチ全景(南西より)
	5	1区1面 土層断面E (南西から)		2 A区土層断面(西より)
	6	1区1面 土層断面E (北から)		3 A区土層断面(西より)
	7	1区1面 土層断面E (南東から)		4 A区土層断面(西より)
	8	1区1面 土層断面F (南西から)		5 A区北部土層断面(西より)
P L. 4	1	1区1面 土層断面F (北西から)		6 A区北部土層断面(西より)
	2	1区1面 土層断面G (北西から)		7 A区北部土層断面(南より)
	3	1区1面 土層断面H (南から)		8 A区北部土層断面(南より)
	4	1区1面 土層断面H (南西から)	P L. 14	1 A区北部土層断面(南より)
	5	1区1面 土層断面I (西から)		2 A区北部土層断面(南より)
	6	1区1面 土層断面I (西から)		3 A区中央部土層断面(東より)
	7	1区1面 西側自然地形確認 (北東から)		4 A区中央東部下層確認(西より)
	8	1区1面 西側崩落土、畑 (南から)		5 A区中央東部下層確認(西より)
P L. 5	1	1区1面 7号トレンチ土層断面 (南西から)		6 A区中央東部下層確認(西より)
	2	1区1面 7号トレンチ土層断面 (南から)	P L. 15	1 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	3	1区1面 西部全体図 (南から)		2 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	4	1区1面 西部全体図 (南から)		3 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	5	1区1面 畑 (南から)		4 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
P L. 6	1	1区1面 1号土坑 (南から)		5 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	2	1区1面 1号土坑 (南から)		6 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	3	1区1面 As-A 下旧地形 (東から)		7 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	4	1区1面 As-A 下旧地形 (西から)		8 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	5	1区1面 As-A 下旧地形 (西から)	P L. 16	1 A区北部As-A軽石検出状況(南東より)
	6	1区1面 As-A 下旧地形 (西から)		2 A区As-A下土砂崩れ下面(南より)
	7	1区1面 As-A 下旧地形 (東から)		3 A区1号畑東部全景(南より)
	8	A区1面 As-A 下旧地形 (西から)		4 A区炉遺物出土状況(南より)
P L. 7	1	A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)		5 A区1号畑南部(東より)
	2	A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)		6 A区トレンチ軽石確認状況(北より)
	3	A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)		7 A区東部軽石状況(西より)
	4	A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)	P L. 17	1 A区1号畑北部全景(南西より)
	5	A区1面 下位層黄褐色砂礫層 (南から)		2 A区1号畑南西部全景(南より)
	6	A区1面 下位層黄褐色砂礫層 (南から)	P L. 18	1 A区1号畑南西部全景(東より)
	7	A区1面 東部谷跡 (南から)		2 A区1号畑東半中央東部全景(西より)
	8	A区1面 東部谷跡 (東から)	P L. 19	1 A区1号畑東半中央東部全景(南より)
P L. 8	1	A区1面 西端表土盛土下 (西から)		2 A区1号畑東半中央東部全景(東より)
	2	A区1面 遺物出土状況		3 A区1号畑東半中央西部土層断面(東より)
	3	A区1面 遺物出土状況		4 A区1号畑北部全景(南東より)
	4	A区1面 暗褐色土上面遺物出土状況 (東から)		5 A区1号畑西部土層断面(東より)
	5	A区1面 暗褐色土上面遺物出土状況 (東から)		6 A区1号畑西部土層断面(東より)
	6	A区2面 1号トレンチ土層断面 (東から)		7 A区1号畑西部土層断面(東より)
	7	A区2面 1号トレンチ土層断面 (西から)		8 A区1号畑As-A軽石状況(南より)
	8	A区2面 柱状基本土層 (西から)	P L. 20	1 A区As-A下土砂崩れ全景(西より)
P L. 9	1	A区2面 柱状基本土層 (南から)		2 A区As-A下土砂崩れ全景(西より)
	2	A区2面 柱状基本土層 (南から)		3 A区東部瀨なり軽石状況(東より)
	3	A区2面 西端黒褐色土土層断面 (東から)		4 A区東部瀨なり軽石状況(東より)
	4	A区2面 遺物出土状況		5 A区東部瀨なり軽石状況(西より)
	5	A区2面 遺物出土状況		6 A区東部瀨なり軽石状況(西より)
	6	A区2面 遺物出土状況		7 A区東部瀨なり軽石状況(西より)
	7	A区2面 遺物出土状況		8 A区東部瀨なり軽石状況(西より)
	8	A区2面 遺物出土状況	P L. 21	1 A区3号畑中央東部出土状況(西より)

- 2 A区3号畑中央東部(中央攪乱、東より)
- 3 A区3号畑中央東部出土状況(西より)
- 4 A区3号畑中央東部出土状況(西より)
- 5 A区3号畑中央東部出土状況(西より)
- 6 A区3号畑中央東部出土状況(西より)
- 7 A区3号畑中央東部出土状況(西より)
- P L. 22 1 A区北部土層断面(西より)
- 2 A区北部石垣全景(南東より)
- 3 A区北部石垣全景(南東より)
- 4 A区北部石垣全景(南東より)
- 5 A区北部石垣全景(南東より)
- 6 A区北部石垣全景(南東より)
- 7 A区北部石垣全景(南より)
- P L. 23 1 A区中央部2面石垣(南より)
- 2 A区中央部2面土石崩れ(南より)
- 3 A区中央部土層断面(西より)
- 4 A区中央部北西土層断面(南より)
- 5 A区中央部2面石垣(南より)
- 6 A区中央部2面土石崩れ石垣(南より)
- 7 A区中央西部2面遺物出土状況(No. 3、西より)
- 8 A区中央西部2面遺物出土状況(No. 2、西より)
- P L. 24 1 B区1号道土層断面(東より)
- 2 B区1号道土層断面(東より)
- 3 B区1号道土層断面(東より)
- 4 B区2号道下段土層断面(北より)
- 5 B区下段東端道部分検出状況(東より)
- 6 B区下段遺物出土状況(南より)
- 7 B区3号石垣全景(東より)
- 8 B区3号石垣全景(南より)
- P L. 25 1 B区4号石垣全景(西より)
- 2 B区5号石垣全景(西より)
- 3 B区5号石垣全景(東より)
- 4 B区5号石垣西端部(南より)
- 5 B区5号石垣西部(東より)
- 6 B区5号石垣中西部(南より)
- 7 B区5号石垣中部(南より)
- 8 B区5号石垣中東部(東より)
- P L. 26 1 B区5号石垣東部(東より)
- 2 B区5号石垣東端部(東より)
- 3 B区上部緩斜面部1号ヤックラ全景(北東より)
- 4 B区1号ヤックラ全景(東より)
- 5 B区1号ヤックラ遺物出土状態(東より)
- 6 B区1号ヤックラ土層断面(西より)
- 7 B区1号ヤックラ土層断面西部(南より)
- 8 B区1号ヤックラ土層断面中部(南より)
- P L. 27 1 B区1号ヤックラ土層断面東部(南より)
- 2 B区1号ヤックラ縁部分礫検出状況(南より)
- 3 B区1号ヤックラ遺物出土状況(No. 4、西より)
- 4 B区2号ヤックラ土層断面(南より)
- 5 B区2号ヤックラ上部緩斜面全景(東より)
- 6 B区2号ヤックラ上部緩斜面全景(南より)
- 7 B区1号トレンチ土層断面(西より)
- 8 B区1号トレンチ全景(北より)
- P L. 28 1 B区2号トレンチ土層断面(西より)
- 2 B区2号トレンチ全景(北より)
- 3 B区3号トレンチ土層断面(西より)
- 4 B区3号トレンチ全景(北より)
- 5 B区5号トレンチ土層断面(西より)
- 6 B区5号トレンチ中部土層断面(西より)
- 7 B区5号トレンチ南部土層断面(西より)
- 8 B区5号トレンチ全景(南より)
- P L. 29 1 B区6号トレンチ土層断面(南より)
- 2 B区6号トレンチ全景(西より)
- 3 B区7号トレンチ全景(南より)
- 4 B区7号トレンチ土層断面(西より)
- 5 B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)
- 6 B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)
- 7 B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)
- 8 B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)
- P L. 30 1 B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)
- 2 B区8号トレンチ全景(南より)
- 3 B区8号トレンチ土層断面(南より)
- 4 B区8号トレンチ土層断面(西より)
- 5 C区上部緩斜面全景(東より)
- 6 C区上部緩斜面全景(南より)
- P L. 31 1 調査区遠景(西より)
- 2 調査区遠景(南東より)
- P L. 32 1 A区北東部(南西より)
- 2 A区北1面全景(西より)
- 3 A区北1面畑全景(南より)
- 4 A区北1面断ち割り状況(西より)
- 5 A区北土層断面(東より)
- 6 A区北南部天明畑耕作土中出土遺物(南より)
- 7 A区北2面遺物出土状況(東より)
- 8 A区北2面遺物出土状況(東より)
- P L. 33 1 調査区全景(南より)
- 2 調査区全景(西より)
- P L. 34 1 A区北3面遺物出土状況(南より)
- 2 A区北3面遺物出土状況(南より)
- 3 A区北3面No.53出土状況(南より)
- 4 A区北3面遺物出土状況(南より)
- 5 A区北3面遺物出土状況(南より)
- 6 A区北3面No.3出土状況(南より)
- 7 A区北東部(西より)
- 8 A区北中部航空写真
- P L. 35 1 A区北3面No.3出土状況(南より)
- 2 A区北3面遺物出土状況(南より)
- 3 A区北3面No.89出土状況(南より)
- 4 A区北3面遺物出土状況(南より)
- 5 A区北3面No.42出土状況(南より)
- 6 A区北3面No.54出土状況(南より)
- 7 A区北3面遺物出土状況(南より)
- 8 A区北3面No.22出土状況(南より)
- P L. 36 1 A区南調査区全景(東南より)
- 2 A区南調査区航空写真
- P L. 37 1 A区南1面西側(東より)
- 2 A区南石礫出土状況(南西より)
- 3 A区1面西部全景(西より)
- 4 A区1面東側調査風景(東より)
- 5 A区南拡張部1面全景(東より)
- 6 A区拡張部As-A下面(西より)
- 7 A区南の南東部トレンチ調査(北より)
- 8 A区南の南側法面部分トレンチ全景(南より)
- P L. 38 1 A区南1面西側全景(西側)
- 2 A区南5面拡張部(北より)
- 3 A区南5面遺物出土状況(南より)
- 4 A区南5面西部焼土検出状況(北より)
- 5 A区南5面西部焼土検出状況(北より)
- 6 A区南5面西部焼土面(南西より)
- 7 A区南拡張部3面全景(西より)
- 8 A区南拡張部3面全景(東より)
- P L. 39 1 A区南3面礫集中遺物出土状況(北より)
- 2 A区南3面No.19破片出土状況(南より)
- 3 A区南3面No.148出土状況(南より)
- 4 A区南3面遺物出土状況(南より)
- 5 A区南3面遺物出土状況(南より)
- 6 A区南3面No.7出土状況(北より)
- 7 A区南3面遺物出土状況(西より)
- 8 A区南3面遺物出土状況(西より)
- P L. 40 1 A区南4面旧地形調査風景(東より)
- 2 A区南中央部自然流路(東より)
- 3 A区南中央部全景(東より)

- 4 A区南中央部自然流路周辺(西より)
5 A区南拡張部全景(北より)
6 A区南中央部遺物出土状況(南より)
7 A区南の東側トレンチ(北より)
8 A区南東側旧石器確認調査(東より)
- P L. 41 1 B区北岩張り出し状況(西より)
2 B区北調査前状況(西より)
- P L. 42 1 B区北1面泥流上面(西より)
2 B区北1面泥流上面トレンチ(西より)
3 B区北B - B'土層断面(西より)
4 B区北E - E'土層断面(南東より)
5 B区北F - F'土層断面(南西割)
6 B区北鉄製品(No.99)出土状況(南より)
7 B区北2面灰層含む全景(西より)
8 B区北2面1号トレンチ灰層(西より)
- P L. 43 1 B区北2号灰層検出状況(南より)
2 B区北2号灰層検出状況(南より)
3 B区北2号灰層遺物出土状況(南より)
4 B区北2A号灰層土層断面(西より)
5 B区北2号灰層検出状況(南より)
6 B区北2号灰層東部検出状況(南より)
7 B区北2面灰層土層断面(南より)
8 B区北2号灰層遺物出土状況(南西より)
- P L. 44 1 B区北3号灰層全景(南より)
2 B区北3号2面灰層全景(南より)
3 B区北5号灰層検出状況(南より)
4 B区北2面5号灰層掘方全景(南より)
5 B区北10・11号灰層検出状況(南より)
6 B区北4号灰層遺物出土状況(南より)
7 B区北4号灰層F - F'土層断面部分(南より)
8 B区北4号灰層掘方全景(南より)
- P L. 45 1 B区北3面6号灰層(東より)
2 B区北3面10層遺物出土状況(南より)
3 B区北1号土坑板状鉄斧出土状況(南より)
4 B区北3号トレンチ10層遺物出土状況(南より)
5 B区北7号灰層検出状況(西より)
6 B区北9号灰層検出状況(南より)
7 B区北3面8号灰層(南より)
8 B区北8号灰層掘方(南より)
- P L. 46 1 B区北5面17号灰層獣骨出土状況(西より)
2 B区北5面17号灰層人骨出土状況(南より)
3 B区北3号トレンチ遺物出土状況
4 B区北5面2号トレンチ17号灰層(南西より)
5 B区北1号トレンチ遺物出土状況(南より)
6 B区北5面2号トレンチ17層(南西より)
7 B区北4号トレンチ15層礫状況(東より)
8 B区北2号トレンチ17号灰層(南より)
- P L. 47 1 石畑I岩陰全景(西より)
2 石畑I岩陰全景(南より)
3 B区南調査区全景(東より)
4 B区南1面1号道全景(南東より)
5 B区南1面全景(西より)
- P L. 48 1 B区南調査風景(東より)
2 B区南調査風景(西より)
3 B区南1号トレンチ(南より)
4 B区南2号トレンチ(南より)
5 B区南2号トレンチ(西より)
6 B区南3号トレンチ(東より)
7 B区南3号トレンチ遺物出土状況
8 B区南3号トレンチ遺物出土状況(南より)
- P L. 49 1 B区南3号トレンチ遺物出土状況
2 B区南4号トレンチ遺物出土状況
3 B区南4号トレンチ遺物出土状況
4 B区南4号トレンチ遺物出土状況
5 B区南4号トレンチ遺物出土状況
6 B区南4号トレンチNo. 1出土状況(南より)
- 7 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況(南より)
8 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況
- P L. 50 1 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況
2 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況(南より)
3 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況(南より)
4 B区南4号トレンチNo.67出土状況(南より)
5 B区南5号トレンチ遺物出土状況(東より)
6 B区南6号トレンチ(南より)
7 B区南調査風景(北より)
8 B区南6号トレンチB - B'土層断面(東より)
- P L. 51 A区北出土石器
P L. 52 A区北出土石器・石器
P L. 53 A区南出土石器・石器
P L. 54 B区北出土石器
P L. 55 B区北・石器・金属製品
P L. 56 B区南出土石器
P L. 57 B区南出土石器
P L. 58 B区南出土石器
P L. 59 B区南出土石器
P L. 60 B区南出土石器
P L. 61 B区南出土石器
P L. 62 B区南出土石器
P L. 63 B区南出土石器
P L. 64 B区南出土石器
P L. 65 B区南出土石器

第1章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経過

吾妻川は、その源を群馬・長野県境の鳥居峠に発し、浅間山・草津白根山の間を東流して万座川・熊川・白砂川等の支流を合わせ、途中、吾妻狭と称される美観をつくりながら、さらに温川・四万川・名久田川等の支流を合わせ、渋川市付近で利根川と合流する全長76.2kmの一級河川である。

ハッ場ダムは、その吾妻川の中流に建設され、①洪水調節、②流水の正常な機能維持、③水道及び工業用水の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムで、天端標高586m、堤高116m、湛水面積約3.0km²、総貯水容量1.075m³の規模を測る重力式コンクリートダムである。

ダム位置は、左岸が群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字ハッ場、右岸が大字河原湯字金花山にあり、名勝「吾妻狭」の入り口付近にあたる。

ハッ場ダム建設計画は、「昭和24年利根川改修改定計画」の一環として、昭和27年5月に調査着手後、平成4年7月、「ハッ場ダム建設事業に係る基本協定書」及び「用地補償調査に関する協定書」が締結されることによって本格着工となった。

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関しては、平成6年3月18日に建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定した。これにより、委託者である建設省関東地方建設局長と受託者である群馬県教育委員会教育長とが年度区分ごとに発掘調査受委託契約を締結のうえ、以後発掘調査が実施されることが決定したのである。

この協定を踏まえて、平成6年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受委託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、ハッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とするハッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

平成11年4月1日には、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の間で、「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書(第1回変更)」が締結され、発掘調査受委託契約についての変更が行われた。これにより、受託者が群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長へ変更となり、現在の調査体制に至っている。

また、平成17年4月1日、同協定書(第2回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が、「平成18年3月31日」から「平成23年3月31日」まで延長、平成20年3月31日、同協定書(第3回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が「平成28年3月31日」まで延長、平成28年3月25日、同協定書(第4回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が「平成29年3月31日」まで延長。平成29年3月29日、同協定書(第5回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が「平成32年3月31日」まで延長された。

第2節 二社平遺跡と石畑遺跡の調査経過・調査方法・調査概要・整理事業の経過

1 調査経過

二社平遺跡

平成28年度調査地点は、長野原町大字河原畑地内に存在し、調査範囲の大部分が斜面地であったが、調査前に行われた県文化財保護課による試掘・確認調査で天明泥流によって埋没した畑が確認されたためハッ場ダム建設工事関連事業として調査された。

調査は平成28年7月1日から平成28年7月31日まで行われ、天明泥流下の畑が確認された。調査面積は638m²である。

平成29年度調査地点は、長野原町大字河原畑地内に存在し、平成8・10年度に工事用進入路建設に伴う試掘・確認調査が行われ、As-Aや天明泥流の堆積と縄文時代から弥生時代の遺物を確認した。また、この地点は平成

第1章 調査の方法と経過

28年度調査区の東に隣接しており、同一遺構面の畑が連続すると考えられることから、平成29年度八ッ場ダム建設工事関連事業として調査を実施した。調査面積は4,716㎡である。

調査は平成29年10月1日から平成29年12月31日まで行われた。

調査区南東部では後世の破壊をあまり受けておらず畑が残っていた。また調査区中央部からは、縄文前期の土器片が検出された。

石畑遺跡

石畑遺跡は長野原町大字河原畑地内に存在し、平成6・8・9年度に工事用進入路建設に伴う試掘・確認調査が行われ、平成10年度には一部で本調査が行われた。その際、縄文・弥生時代の遺構や遺物、天明泥流下の畑等が確認された。

平成26年度八ッ場ダム関連埋蔵文化財試掘・確認調査の段階で、調査が必要とされた範囲が確定し南側に張り出した小尾根を挟んで調査区を2つに分け、東側の調査区をA区、西側の調査区をB区とした。

平成29年度には八ッ場ダム建設工事に伴って、調査対象6,021㎡のうち遺跡を二分する小尾根の東側A区に当たる1,691㎡の調査を行った。

調査期間は平成29年11月1日から平成29年12月31日である。

調査の結果、調査区中央部から東端部においてAs-Aに覆われた畑が検出された。また、調査区北部最上段からは大量の礫が積まれた石垣が検出された。

調査区中央部北寄りで検出された畑の畝間に径5～15cm程度の礫を大量に充填した地点がある。

令和元年度には八ッ場ダム建設工事に伴って、調査対象6,021㎡のうち遺跡を二分する小尾根の西側B区にあたる4,330㎡の調査が行われた。

調査期間は令和元年8月2日から令和元年8月21日である。

調査の結果天明泥流下の畑・石垣・ヤックラが検出された。

石畑岩陰Ⅰ遺跡

本遺跡は、八ッ場沢が吾妻川に流れ込む合流点右岸の岩塊下部にある。周辺の露出した岩塊は、吾妻川を塞ぐようにせまり、岩塊の間を吾妻川が流れ下り吾妻溪谷を造り出している。吾妻川左岸部に旧国道145号、JR吾妻線が併走し、当遺跡を横断している。

本遺跡の発掘調査は、昭和53年に旧JR吾妻線落石防止柵の設置工事の際に県文化財保護課により実施され、縄文時代の遺構・遺物が発見され、岩陰遺跡として認定された。

今回、本遺跡から約300m下流部に、八ッ場ダムの堤体が造られることとなり、水没地域の遺跡として発掘調査が行われることとなった。

平成27年度に県文化財保護課による試掘調査が実施され、調査範囲が確定された。

発掘調査に際して堤体工事の隣接地であることから、旧国道は工事関係車両の通行、JR吾妻線軌道敷きには骨材運搬のベルトコンベアーが設置されるなど多くの制約があり、幾度となく発掘調査の工程の調整が行われた。調整結果として、一括調査は困難であるとの判断から調査地点を旧国道南側、旧国道下、旧JR吾妻線軌道下、旧JR吾妻線落石防止柵裏側と分割して調査を実施することとなった。

平成29年度は、旧国道南側とJR吾妻線落石防止柵裏側の調査を実施した。旧国道南側は、再度県文化財保護課による試掘調査が実施され、調査範囲の拡張が行われた。

2 調査方法

遺跡は主に吾妻川中位河岸段丘面上に立地し、厚さ30cm～2mの天明泥流に被覆されている。

調査の方法としては、掘削機を使用して天明泥流などを除去する作業から始め、その後発掘作業員を導入して遺構面の検出後、畑や土坑などの遺構の掘削を進め、掘削後は図面作成・写真撮影等の記録保存を行った。

出土した遺物の取り上げについては、遺構別・地点別取り上げを基本とし、表土中の遺物や遺構が明確でない地点から出土した遺物に関しては、遺構外遺物として取り上げた。

遺構平面測量・断面測量にあたっては、測量業者委託

によるデジタル測量を基本として、縮率1/10・1/20・1/40を基準に、縮率を適宜選択して実施した。

遺構写真については、現場担当者によるデジタルカメラ撮影、業者委託による航空写真撮影などを行った。

3 調査概要

① 二社平遺跡

①-1 平成28年度調査

調査は平成28年6月30日から7月8日まで行われた。遺跡は吾妻川左岸の段丘面上に位置し、長野原町河原畑地内に所在する包蔵地二社平遺跡の西端の傾斜地の638㎡が対象地である。調査地の北側傾斜部は、近現代の開発により削平されており、大部分が攪乱状態であった。南側の斜面部は、表土の下に天明泥流が50cmほど堆積し、その直下より畑を検出した。1面目調査終了後に下層の有無を確認するためにトレンチを入れたが、遺構は確認されず遺物も出土しなかった。また、自然地形を確認するために西側斜面部にトレンチを入れた。その結果西側斜面部には、上層部から崩落した部分があることが確認できた。

①-2 平成29年度調査

調査は平成29年10月1日から平成29年12月31日まで行われた。調査地点は吾妻溪谷の上流側入口付近左岸にあり、中位段丘面に相当する緩斜面地に位置し、調査面積は4,716㎡である。

調査区南東部の一部を除き後世の攪乱が多く、As-A及び天明泥流は残存しない。また調査区南東部においても、As-Aの堆積は認められたが、降下火山灰の下から畑や道などの遺構は検出されなかった。

調査区中央付近の下位黒褐色土層中には、遺構は伴わないが、縄文時代前期と考えられる土器片が十数点含まれていた。

② 石畑遺跡

②-1 平成29年度調査

調査は平成29年11月1日から平成29年12月31日まで行われた。調査地点は吾妻溪谷の上流側入口付近の左岸にあり、上位から中位段丘に相当する緩斜面地に位置し、調査面積は1,691㎡である。

調査区中央部はAs-Aの堆積が比較的厚く、畝やサクが明確に残っていた。この畑には、谷地形の縁に沿うよう

な部分でサクに径5～15cmほどの礫が大量に入った箇所が検出された。

中央部北や東部から東端部の畑では、As-Aの列が所々途切れて地山が露出する部分や砂に埋もれて著しく乱れている部分もあった。

また北部の最上段からは、大量の礫が積まれた石垣が検出された。

更に中央部畑面の下位層からは、径20～40cm程の礫の列が検出された。この列は谷地形に沿って並んでおり、土留めであろうか。

②-2 令和元年調査

調査は令和元年8月2日から令和元年8月21日まで行われた。調査区は吾妻川左岸の上位から中位段丘に相当する斜面地に位置しており、上位段丘から河床面に至る急傾斜地にテラス状の狭小な緩斜面地がいくつか存在する。その中の緩斜面地部分(北側)と旧道として利用されていた部分(南側)に調査区は2分される。

緩斜面地と旧道部を合わせた調査面積は4,330㎡で、天明泥流下の畑・石垣・ヤックラなどが検出された。また、旧道部分の調査区西端からは、天明泥流以降に築かれた道に付随する石垣を検出した。

天明泥流以前の面についてはトレンチ調査を行い、遺構の確認を行ったが、土器片のみが出土し遺構は検出されなかった。

③ 石畑Ⅰ岩陰(調査概要は、39・40に後述する。)

発掘調査は、平成29年6月1日～8月31日、平成30年の1月1日から5月31日と8月1日から10月31日、令和元年6月3日から同年8月2日までの間実施した。

なお、調査概要は第3章第4節(39・40頁)に後述する。

4 整理事業の経過

1 平成31年度整理

平成31年2月1日から平成31年3月31日まで二社平遺跡の遺構図修正・写真整理等を行い、図面のデジタル化を行った。

2 令和元年度整理

令和元年12月1日から令和2年3月31日まで実施した。

石畑遺跡の遺構平面図の修正及び・遺構写真の選定から開始し、レイアウトの作成を行った。版組・製本等を行った。

第3節 調査区の概要

1 遺跡番号について

平成6年度から始まったハッ場ダム建設に伴う発掘調査においては、遺跡名勝の略号やグリッドの設定などについて「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。以下本書でもそれに準拠し必要部分について記載する。

調査における遺跡番号は、ハッ場ダム建設にかかわる長野原町の大字5地区(1:河原畑、2:川原湯、3:横壁、4:林、5:長野原)と東吾妻町の大字3地区(6:三島、7:大柏木、8:松谷)に番号を付し、ハッ場ダムの略号(YD)に続ける。ハイフン以下は各地区内に所在する遺跡について調査順に通し番号を付し、遺跡番号とする。

二社平遺跡・石畑遺跡は、長野原町の小字番号が1番である河原畑に存在し、河原畑において5番目・3番目に調査された遺跡であるためそれぞれ「YD 1-05」「YD 1-03」となる。

2 基準座標について

基準座標は、国家座標(2002年4月改正以前の日本測地系)に基づく平面直角座標第IX系(日本測地系)を使用して、東吾妻町大柏木付近を原点(座標値X=+58000.0、Y=-97000.0)とした1km方眼を基点として、ハッ場ダム関連の調査区域全域を区画すると、60区画に分割することができる。南東端のグリッドにNo.1の番号を付け、西に向かってNo.2・No.3と順に称していくと、

北西端のグリッドはNo.60となる。

この1辺1kmの「大グリッド」を「地区」と呼ぶ。本遺跡はNo.34に所在する。

更に1辺1km「地区」を1辺100m四方のグリッドに分割すると、東西10グリッド×南北10グリッドの100区画が生まれる。

南東端のグリッドを1として、西へ向かって1～10の番号を付し、1の北側を11、更に北を21とすると、北西端のグリッドは100となる。この「地区」を100分した「中グリッド」を「区」とする。(表1参照)

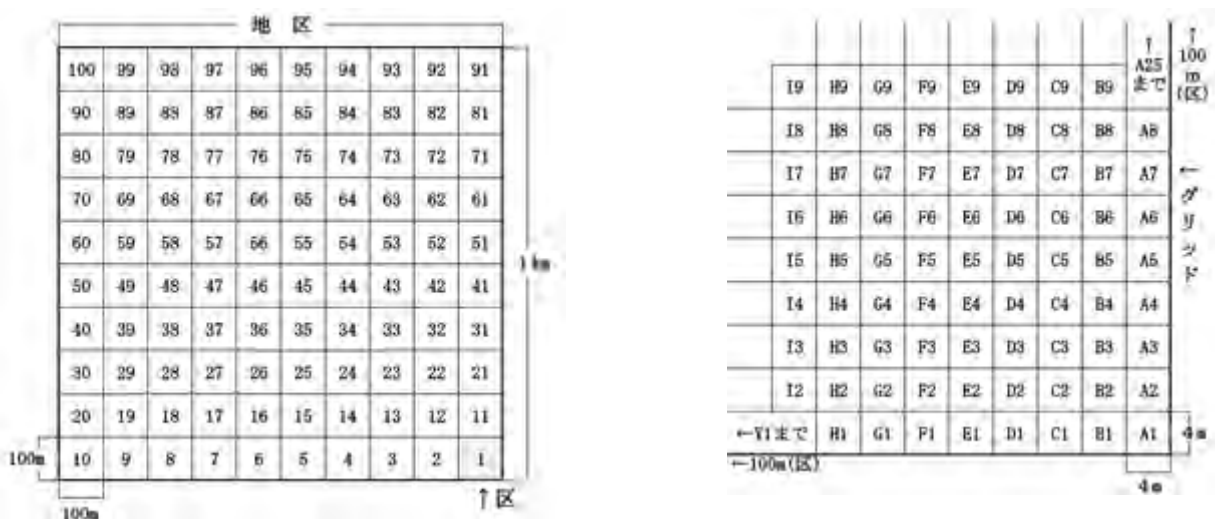
更に1辺100mの「区」を4m×4mの区画で分割すると縦25区×横25区の総計625の区画ができる。

この「小グリッド」を「グリッド」と呼び、南東端のグリッドをA1、西に向かってB1・C1・D1と呼称していくと、南西端は25区画あるのでY1グリッドとなる。

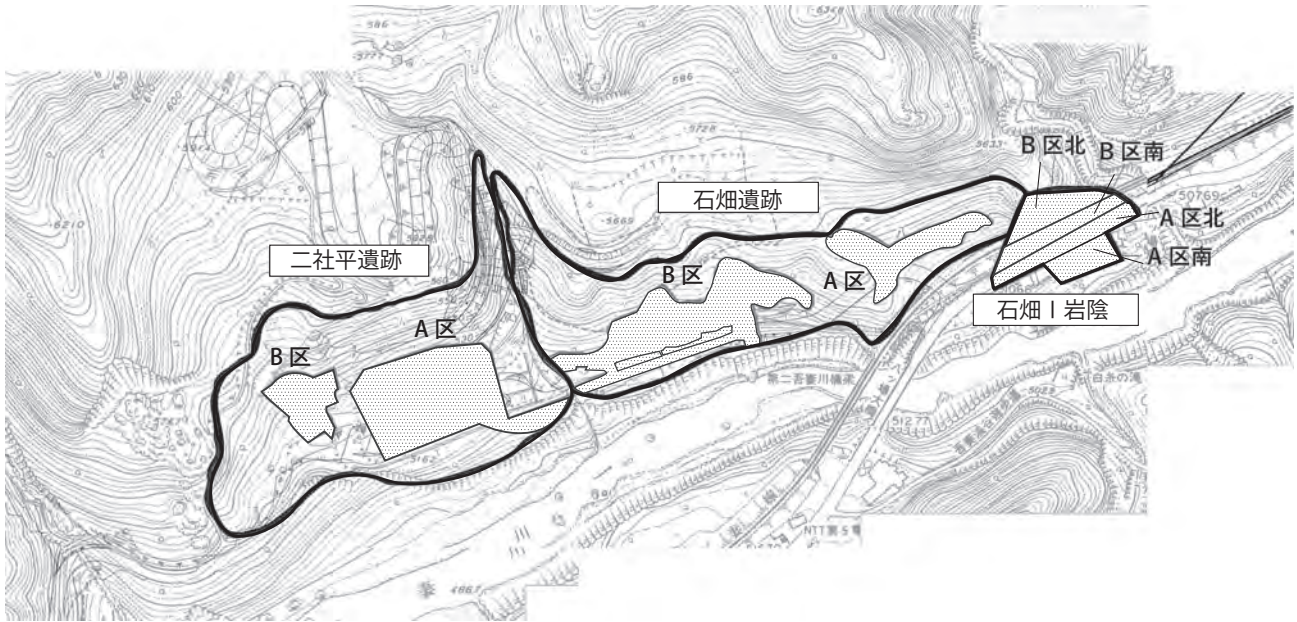
また、A1グリッドの北の区画をA2グリッド、更に北をA3グリッドと呼称していくと、北東隅はA25グリッドとなり北西隅はY25グリッドとなる。(表2参照)

このように、地区番号・区番号・グリッド番号を記載することで、ハッ場ダム発掘調査地域における特定の地点を、4m×4mのグリッド区画まで平面的な座標値として特定することができる。

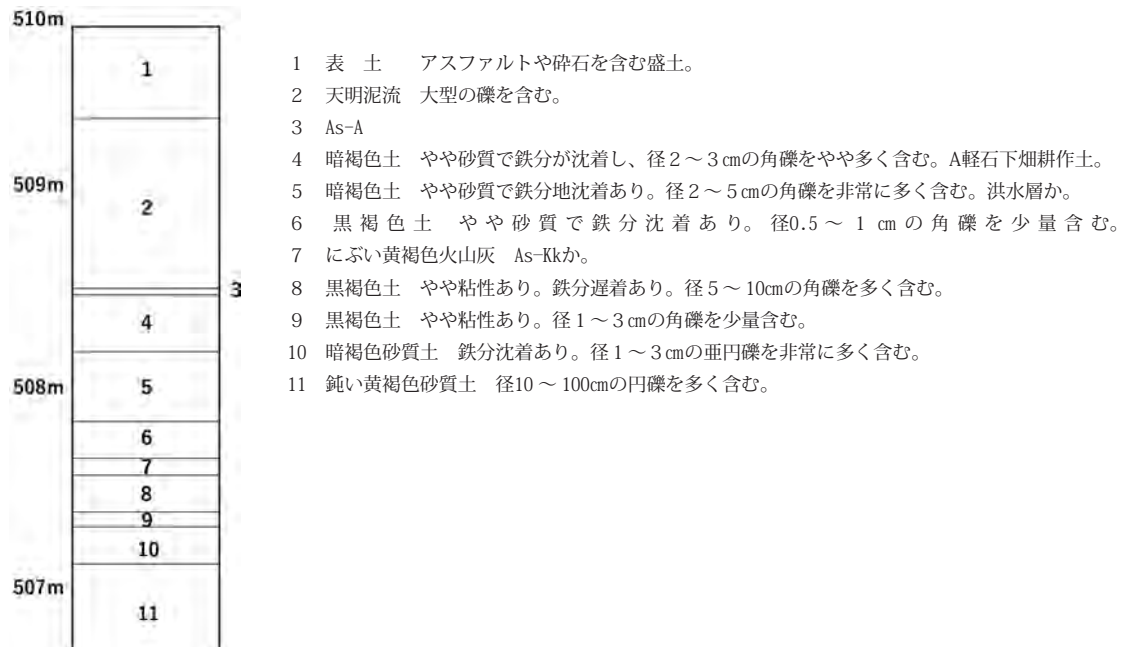
本書では、遺構図や本文中の記載において特に混乱が予想されない場合においては地区番号を略して用いる。



第1図 地区・区・グリッドの概念図



第2図 二社平遺跡・石畑遺跡位置図



第3図 石畑遺跡A区基本土層概念図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

長野原町は群馬県北西部、吾妻郡の南西隅に位置する。町域の北部を吾妻川が東流し川を挟んで北西には草津白根山、南西には浅間山が位置する。また東部には、吾妻川の北に高間山(1,342m)や王城山(1,123m)、南には丸岩(1,124m)や菅峰(1,474m)、浅間隠山(1,757m)、鼻曲山などが南北に連なる。

長野原町は、その地形的特徴から、高間及び白根の両山系と菅峰に挟まれた吾妻川流域地帯の北部と、浅間高原地帯の南部とに大別される。

吾妻川は、長野県境の鳥居峠(1,362m)付近に水源を發して東流し、町域のほぼ中央では川幅をやや広くするものの、東端では第3期層を挟んで吾妻溪谷を形成している。その支流は兩岸の山地から發する河川や溪流が多く、左岸には草津白根山麓から發する万座川や赤川、遅沢川、上信越国境の白砂山麓から發する白砂川などが南流する。また右岸には浅間山麓から發する小宿川や、鼻曲川麓から發する熊川などが北流する。

流長76.2kmの吾妻川は、渋川市街付近で、全長322kmの利根川に合流する。

長野原町は、那須火山帯と富士火山帯が接する付近にあるため、周辺の山地は火山性山地が多く浅間山や白根山は現在も活動を続ける。高間山や王城山、菅峰も約100～90万年前頃活動していた火山であるが、現在は浸食が進みほとんど原型をと留めていない。菅峰火山から流失した溶岩が断層によって独立したものが丸岩である。丸岩は南側を除いた三方が100mにも達する垂直な

崖に囲まれ、吾妻川方面から望むと巨大な円柱状に見える特徴的な岩峰である。その形は長野原・横壁・林・川原湯・河原畑の八ッ場ダム関連の5地区のどこからでも望むことができる。

吾妻川兩岸には最上位・上位・中位・下位の4段階の河岸段丘面が形成されている。現在の吾妻川からの平均的な比高差は、最上位段丘で約80～90m、上位段丘で約60～65m、中位段丘で約30～50m、下位段丘で約10mを測る。

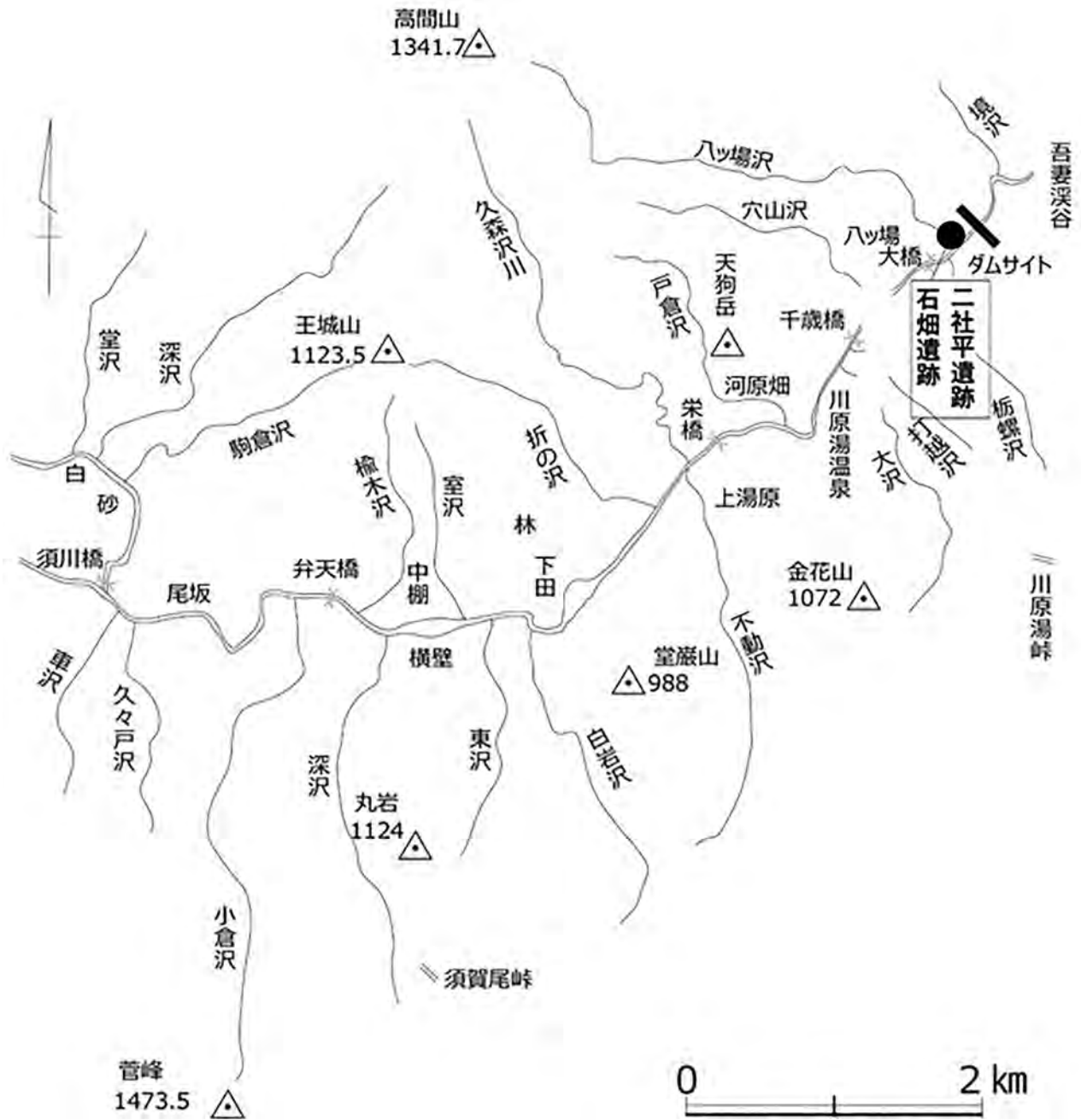
長野原町の地質形成に大きな影響を与えた火山は浅間山である。町域南西部の長野県境に位置し、古い方から黒斑山・仏岩・前掛山・釜山の4つの火山体で構成される標高2,568mの成層火山である。

約2万1千年前の黒斑山の噴火では、山体崩壊によって「応桑泥石流」が発生した。この泥石流堆積物は当時の河床を数10mの厚さで埋め、その後の浸食によって吾妻川兩岸に最上位と上位の河岸段丘が形成されたといわれる。

浅間山はその後も多くの火山噴出物を堆積させているが、特に町域では浅間草津黄色軽石(As-YPk：1万3千年～1万4千年前)の堆積が顕著である。

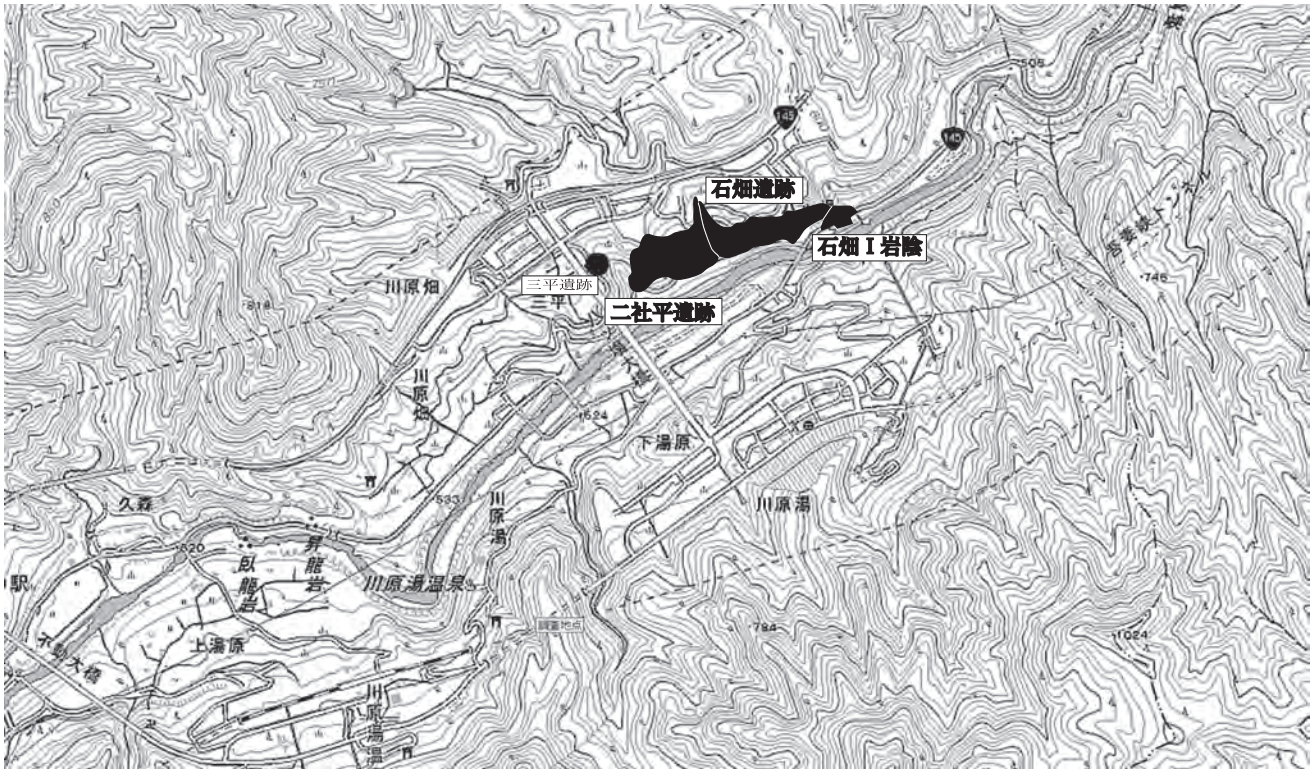
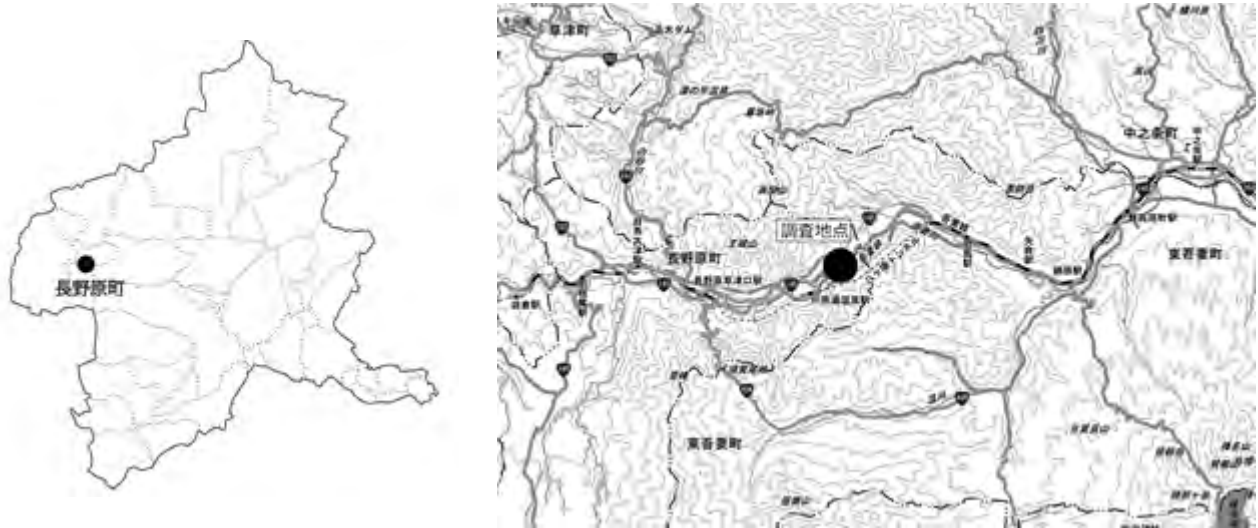
また、浅間Bテフラ(As-B：1108年)や浅間粕川テフラ(As-Kk：1128年)も平安時代の黒色土中に数cmの厚さで確認できる。

更に天明三年(1783年)の噴火により発生した泥流は、下位段丘面や中位段丘面を平均約1mの厚さで覆っている。



第4図 二社平遺跡・石畑遺跡周辺の地名(『長野原町の自然』長野原町1993 図1～56を加除筆引用)

第2章 遺跡の環境



第5図 遺跡位置図(国土地理院2万5千分の1地形図「長野原」平成28年8月1日発行を元に作成)

第2節 歴史的環境

二社平遺跡・石畑遺跡は、大部分が江戸時代天明三年泥流下の遺構である。そこで旧石器時代から近世までの遺構や遺物について概略を説明し、江戸時代を中心とした周辺の遺跡について説明する。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は現在のところ出土していない。

縄文時代

吾妻川およびその支流沿岸の段丘面、特に中・上・最上位河岸段丘及び丘陵部に多くの遺跡が分布し、それぞれの時期の集落が展開している。

早期前半の燃系文土器などが楡木Ⅱ遺跡(15)・立馬Ⅱ遺跡(14)等で出土している。前期の遺構数は少なく、上原Ⅰ遺跡(文44)で竪穴建物が確認されている。中期になると遺跡・遺構の数が大幅に増加する。中縄文中期遺構が発見された遺跡の中で大規模集落の例としては、林中原Ⅱ遺跡(文45)・長野原一本松遺跡(22)・上ノ平Ⅰ遺跡(5)・横壁中村遺跡(9)などがあるが、後期になると集落数はやや減少する。代表的な遺跡として長野原一本松遺跡・横壁中村遺跡・林中原Ⅱ遺跡等がある。晩期になると更に遺跡数が減少する傾向が見られる。川原湯勝沼遺跡(7)では、氷Ⅱ式土器による再葬墓と考えられる遺構が検出された。

弥生時代

長野原町では、この時期の遺跡は非常に少ない。尾坂遺跡(25)では前期の再葬墓や土坑、立馬Ⅰ遺跡(14)では中期の竪穴建物と甕棺墓が調査されている。

古墳時代

長野原町では古墳は確認されていない。調査された竪穴建物も極めて少ない。上原Ⅰ遺跡(文44)では、前期と考えられる竪穴建物が検出されている。下原遺跡(18)・上原Ⅳ遺跡(16)では、5～6世紀後半の竪穴建物が発見されている。

奈良・平安時代

奈良時代の集落は、現在までに調査されていない。平安時代(9世紀中頃)になると、長野原町の多くの地域で大きな集落が営まれるようになる。上ノ平遺跡(5)では、

皇朝十二銭の「貞観永宝」や多くの灰釉陶器などが出土した。多くの遺跡で県内外との交流を窺うことができる。中心となる時期は9～10世紀代であり、大規模な遺跡としては横壁中村遺跡(9)・楡木Ⅱ遺跡(15)があげられる。

中・近世

長野原町では、1500年代後半を中心に真田氏が吾妻地域に進出してくる。その頃の城として、羽根尾城・長野原城・林城・丸岩城・柳沢城などがある。長野原城を中心とした「長野原合戦」(永禄五年・1563)を経て、同じ年に東吾妻町岩櫃城が真田氏の支配下に置かれることになる。

下湯原遺跡は、近世の畑を中心とした遺跡であり、対岸の東宮遺跡(2)や西宮遺跡(3)と異なり集落は造られていなかった。畑の他に建物を伴う祭祀(墓地)と多くの墓地が調査されている。

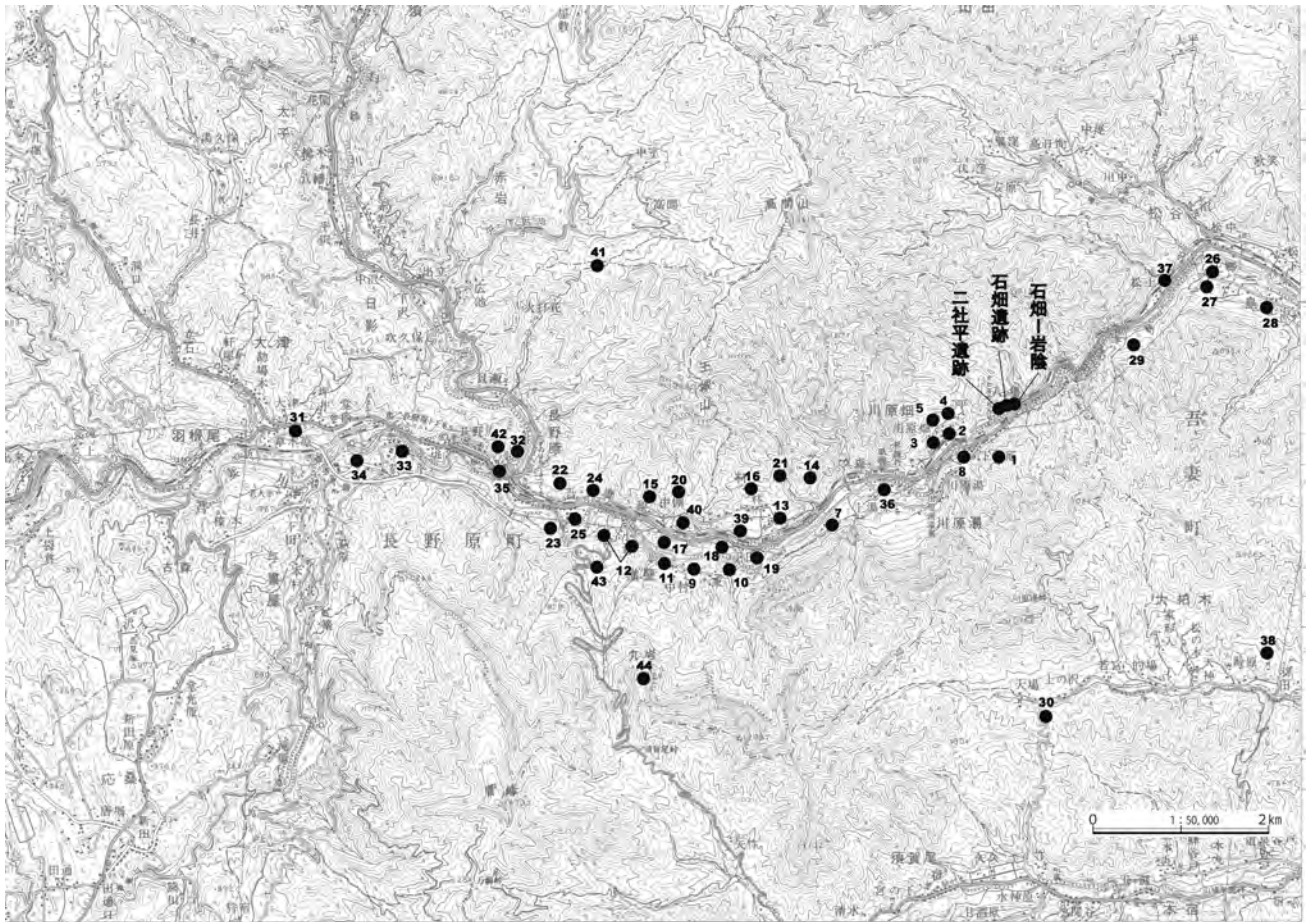
これまでに発掘調査された中・近世の大型建物は、堀や石垣を調査された中世林城の他に、中・近世の掘立柱建物が68棟調査された林中原Ⅰ遺跡(文46)・11棟調査された下田遺跡(19)・13棟調査された横壁中村遺跡(9)・34棟調査された上郷岡原遺跡(26)。近世建物を数多く調査した石川原遺跡(36)・東宮遺跡(2)・西宮遺跡(3)・尾坂遺跡(25)・町遺跡(35)・下田遺跡(19)・東吾妻町の上郷岡原遺跡(26)などがある。これらの集落には、道・井戸・水路・石垣等が確認されている遺跡も多く、天明三年段階での集落の様子が次第と明らかになってきている。調査遺跡は、今回報告の下湯原遺跡の他尾坂遺跡(25)・上郷岡原遺跡(26)などである。

第2章 遺跡の環境

第1表 周辺の中・近世遺跡一覧

No.	遺跡名(所在地)	遺構内容	文献 No.
	二社平遺跡	(近世) 畑	本 書
	石畑遺跡	(近世) 畑・道・石垣・ヤックラ	
1	下湯原遺跡(川原湯)	(中世) 掘立柱建物・竪穴状遺構・土坑 (近世) 道・溝・墓地・畑	48・49
2	東宮遺跡(川原畑)	(中世) 集石・墓 (近世) 家・畑・石垣・道・溝・集石・井戸・土坑・炬燵・礎石など	2・30・31
3	西宮遺跡(川原畑)	(近世) 畑・屋敷・井戸・道	38
4	三平Ⅰ・Ⅱ遺跡(川原畑)	(中・近世) 掘立柱建物・土坑・焼土・集石・柱穴列・礎石・溝	12
5	上ノ平Ⅰ(川原畑)	(近世) 墓・土坑	21
6	石畑(川原畑)	(近世) 畑	2
7	川原湯勝沼(川原湯)	(中・近世) 溝・畑・ヤックラ・道	2・5
8	西ノ上(川原湯)	(近世) 畑・道	4
9	横壁中村(横壁)	(中・近世) 掘立柱建物・竪穴遺構・土坑・石垣・列石・石列・石組遺構・配石・集石・石囲い遺構・溝・焼土・礎石建物・鍛冶跡・ヤックラ・墓・畑 など	3・6・9・18・20・28
10	横壁勝沼(横壁)	(中・近世) 墓	2
11	山根Ⅲ(横壁)	(中・近世) 墓 (近世) 土坑	2
12	西久保Ⅰ・Ⅳ(横壁)	(中・近世) 土坑 (近世) 畑 等	32
13	東原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(林)	(近世) 掘立柱建物・礎石建物・土坑・柱穴列・溝・焼土	29
14	立馬Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(林)	(近世) 掘立柱建物・ピット群・土坑・溝状遺構	7・10・24
15	榎木Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(林)	(近世) 掘立柱・礎石建物・石垣・集石・石列・礎石・テラス・墓・溝・湧水・畑ほか	2・16・32
16	上原Ⅳ遺跡(林)	(近世) 溝・旧河道・土坑	15
17	中棚Ⅱ遺跡(林)	(近世) 畑・ヤックラ・道・石垣・墓	3・4
18	下原(林)	(近世) 掘立柱建物・畑・溝・土坑・石垣・焼土・ヤックラ・柵列・墓・水田・道ほか	3・11
19	下田(林)	(近世) 家・畑	2
20	二反沢(林)	(中世) 造成・石垣 (近世) 溝・畑	8
21	花畑(林)	無し	2
22	長野原一本松(長野原)	(近世) 土坑・溝・暗渠・道路跡・集石土坑・竪穴遺構・柵列・集石・掘立柱建物・焼土・石列 等	1・13・17・22・25・33
23	久々戸遺跡(長野原)	(近世) 畑・ヤックラ・石垣・道・土盛り・掘立柱建物	3・4
24	幸神遺跡(長野原)	(近世) 畑	15
25	尾坂遺跡(長野原)	(近世) 畑・石垣	2・47
26	上郷岡原遺跡(東吾妻郡三島)	(近世) 家・掘立柱建物・竪穴状遺構・礎石建物・土坑・墓・石組遺構・集石・焼土・井戸・畑・水田・道・溝・積石・石列・馬屋跡・便槽・火葬跡・墓	14・19・26
27	上郷A遺跡(東吾妻郡三島)	(近世) 溝	4・27
28	上郷B遺跡(東吾妻郡三島)	(近世) 土坑・溝・井戸	8
29	上郷西遺跡(東吾妻郡三島)	(近世) 畑・道・溝	23
30	廣石A遺跡(東吾妻郡大柏木)	(近世) 土坑・墓	8
31	坪井遺跡(大津)	(近世) 配石遺構・集石遺構	34
32	嶋木Ⅰ遺跡(長野原)	(近世) 畑	36
33	小林家屋敷跡(長野原)	(近世) 吾妻の分限者小林助左衛門屋敷の一部を検出 土蔵跡・礎石建物・屋敷背後の石垣・搗臼・固定臼・石臼・鉄銅製品・陶磁器等	35
34	旧新井村跡(与喜屋)	(近世) 石臼(餅つき用)・米碾用石臼・五輪塔・鉈・秤	39・40
35	町遺跡(長野原)	(近世) 母屋思われる建物から大量の建築部材・下駄等の木製品出土。遺跡北側は畑	41
36	石川原遺跡(川原湯)	(近世) お堂・寺院・道・用水・畑・寺院出土の密教用具等・寺院は天台宗不動院と考えられる。	42

No.	遺跡名(所在地)	遺構内容	文献 No.
37	雁の沢の砦(東吾妻町松谷)	①山・平地 ②山林・畑 ③中等 ④16世紀 ⑤横谷氏 ⑥『加沢記』『横谷文書』 ⑦雁ヶ沢・萱刈場 ⑧堀切・腰郭 ⑨『上野志』には横谷となっている。	37
38	羽田城(大柏木城・芳の城) (東吾妻郡大柏木)	①傾斜地 ②山林・畠 ③良 ④16世紀 ⑤羽田氏・浦野氏 ⑥『関東幕注文』『下 屋文書』『浦野文書』『長純寺文書』『高崎近郷百姓由来書』『佐藤文書』 ⑦羽田 ⑧堀・堀切・土橋・戸口・堅堀・土居・腰郭・帶郭 ⑨	37
39	林城(林)	①崖地 ②山林 ③不良 ④不明 ⑤ ⑥ ⑦城 ⑧ ⑨	37
40	中棚の砦(林中棚)	①段丘上 ②宅地・畠 ③不良 ④不明 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	37
41	長野原館(中之条町赤壁(旧 六合村))	①高原 ②山林 ③良 ④不明 ⑤ ⑥ ⑦字新左衛門 ⑧ ⑨長野氏の 隠棲 地と伝えられている。	37
42	長野原城(長野原)	①山 ②山林、墓地、社地 ③良 ④16世紀 ⑤湯本氏・常田氏 ⑥ 熊谷文 書・生島足島起請文・加沢記 ⑦城山・箱岩・字古城址 ⑧堀切・土居・腰郭・ 堅堀 ⑨畑	37
43	横壁城(柳沢城)(横壁)	①丘と山 ②山林・畠 ③中等 ④16世紀 ⑤横壁玄蕃 ⑥加沢記 ⑦字地藏 台・ジョウヒラ ⑧郭面・堀・土居 ⑨	37
44	丸屋城(丸岩城)(横壁)	①山 ②山林 ③良 ④16世紀 ⑤ ⑥歴代古案 ⑦字堂石丸山 ⑧堀切・ 土居・戸口 ⑨頭状山谷を示す	37



第6図 中世及び天明泥流下の遺跡分布図(国土地理院5万分1の地形図「草津」を元に作成)

第2章 遺跡の環境

文献

- 1 『長野原一本松遺跡(1)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 2002
- 2 『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集 2002
- 3 『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集 2003
- 4 『久々戸遺跡・中棚Ⅱ(2)遺跡・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集 2005
- 5 『川原湯勝沼遺跡(2)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集 2005
- 6 『横壁中村遺跡(3)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集 2006
- 7 『立馬Ⅱ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集 2006
- 8 『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集 2006
- 9 『横壁中村遺跡(4)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集 2006
- 10 『立馬Ⅰ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集 2006
- 11 『下原遺跡Ⅱ』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集 2007
- 12 『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集 2007
- 13 『長野原一本松遺跡(2)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集 2007
- 14 『上郷岡原遺跡(1)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集 2007
- 15 『山根Ⅲ遺跡(2)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 2008
- 16 『楡木遺跡(1) (平安時代・中近世編)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集 2008
- 17 『長野原一本松遺跡(3)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集 2008
- 18 『横壁中村遺跡(6) 土坑編』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集 2008
- 19 『上郷岡原遺跡(2)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集 2008
- 20 『横壁中村遺跡(7)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集 2008
- 21 『上ノ平Ⅰ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集 2008
- 22 『長野原一本松遺跡(4)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集 2008
- 23 『上郷西遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第25集 2008
- 24 『立馬Ⅲ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第26集 2009
- 25 『長野原一本松遺跡(5)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集 2009
- 26 『上郷岡原遺跡(3)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集 2009
- 27 『上郷A遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第32集 2009
- 28 『横壁中村遺跡(10) 古代・中世・近世編1』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第33集 2010
- 29 『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第35集 2010
- 30 『東宮遺跡(2) 遺構・建築部材編』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第36集 2011
- 31 『東宮遺跡(2) 遺物編』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第38集 2012
- 32 『楡木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ遺跡・西久保Ⅳ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集 2012
- 33 『長野原一本松遺跡(6)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第40集 2013
- 34 『坪井遺跡Ⅱ』 長野原町埋蔵文化財調査報告書 第7集 長野原町教育委員会 2000
- 35 『小林家屋敷跡』 長野原町埋蔵文化財調査報告書 第12集 長野原町教育委員会 2005
- 36 『町内遺跡Ⅴ』 長野原町埋蔵文化財調査報告書 第15集 長野原町教育委員会 2005
- 37 『群馬県の中世城館跡』 群馬県教育委員会 1988
- 38 『西宮遺跡(1)・西宮岩陰遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第54集 2017
- 39 『長野原町の遺跡』 長野原町埋蔵文化財調査報告書 第1集 長野原町教育委員会 1990
- 40 『緑よみがえった町鎌原』 あさを社 上州路文庫⑥ 1982
- 41 『町遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第45集 2015
- 42 『遺跡は今(24)』 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2016
- 43 『下田遺跡(2)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第52集 2017
- 44 『上原Ⅰ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第46集 2013
- 45 『林中原Ⅱ遺跡(1)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第47集 2016
- 46 『林中原Ⅰ遺跡』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第43集 2014
- 47 『尾坂遺跡(2)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第48集 2016
- 48・49 『下湯原遺跡(1)(2)』 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第59集 2018 第68集 2020

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 各遺跡調査区の概要

今回報告する各遺跡の調査区は、天明泥流下の面を1面とし、1面よりも古い遺構確認面を2面、更に下層の面を3面・4面として調査を進めた。

しかし調査期間が3箇年度にわたり、各調査区の距離が離れているために、共通する浅間泥流に覆われた1面より古い時代の2面・3面・4面に関しては、As-Aのような確実な鍵層が存在しなかったため、全ての調査区において同じ面の調査を行ったとは言えず、特に2面・3面に関しては、各区の想定時期にずれが生じている。

しかし概ね共通する時代認識として確実な1面は江戸時代天明三(1783)年の地表面、2面は天明泥流以前の江戸時代から中世を含んで平安時代まで、3面は縄文時代から中世、4面は縄文時代及びそれ以前の時代となっている。

1 1面の調査

天明三(1783)年の浅間山の噴火は、新暦の5月8日または9日(以下日付は全て新暦)から始まり、数か月にわたり幾度も噴火を繰り返し、軽石を降下させた。

8月に入ると噴火も大きくなり、周囲は噴煙で昼間も暗くなり、提灯が必要であったという。

8月5日午前10時頃にはそれまで最大の噴火があり、浅間山の東南東方向を中心に大量の軽石を堆積させた。この噴火に伴って、大量の噴出物や山体の一部が土石なだれとなって浅間山北麓を高速で流下、直撃を受けた鎌原村では2～10mも埋まってしまい、住民の約8割にあたる477名が犠牲になったという。この土石なだれを「鎌原土石なだれ」と呼んでいる。

鎌原土石なだれの一部は、吾妻川に流れ込んで大量の泥流となった。泥流は吾妻川から利根川を流下し、千葉県銚子で太平洋に達したとされている。これを「天明泥流」と呼ぶ。

天明泥流は140もの村に被害を与え、およそ1,500名の

犠牲者を出したという。

天明泥流に伴う堆積物は、今回報告の遺跡各区において現在も堆積したまま残っている。

この洪水層を剥ぐと、下から泥流でパックされた天明三年の地面が現れ、土地の利用によっては畑の畝及びサクが現れる場合がある。

サクの中には天明三年の浅間山軽石(As-A)が入り、その上を天明泥流が覆っているため、掘削機及び人力で泥流のみを丁寧に除去すると、畑の畝部分は褐色の土壌が見え、サクがAs-Aによって白く筋状にマークされた状態で検出することができる。

調査区内において天明泥流下畑は二社平遺跡1区の斜面地をはじめ石畑遺跡、石畑I岩陰のA区北などでも確認されている。

更に耕作時に利用されていた溝や道などの施設が検出された。

また土地を区画する石垣や石垣のように石を積み上げないヤックラも複数検出された。

2 2面以下の調査

1面を更に掘り下げた2面以下の遺構面の調査は、前述のように天明泥流以前の遺構面であると考えられるが、二社平遺跡の1区では新しい時代の生活面が存在せず黒浜式・諸磯a式・諸磯b式・称名寺1式等の縄文土器片を検出する古い面になっている。

石畑遺跡においてもA区では天明泥流以前に築かれた石垣が検出され、数は少ないが縄文時代前期土器片が出土している。

第2節 二社平遺跡の調査

1 調査の概要

二社平遺跡は旧吾妻川左岸の段丘面上に位置し、標高は510～530mで吾妻川との比高は40～50mほどある。

試掘調査により天明泥流の存在が確認されていたため発掘調査は平成28・29年度に行われた。

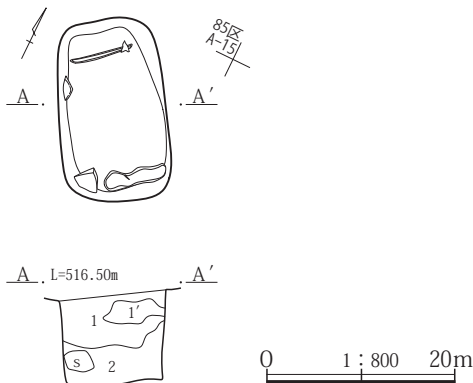
調査区は、遺跡の東側のA区と、西側のB区に分かれており、B区は傾斜の強い斜面地である。(第2図)

平成28年度はB区の斜面部分の調査が行われた。B区北側の斜面部分は開発による攪乱と崖崩れによる崩落が進んでおり、遺構は検出されなかった。B区南端部は、比較的傾斜が緩くなっており泥流が50cm程度残存していたため泥流下に畑が残存していた。

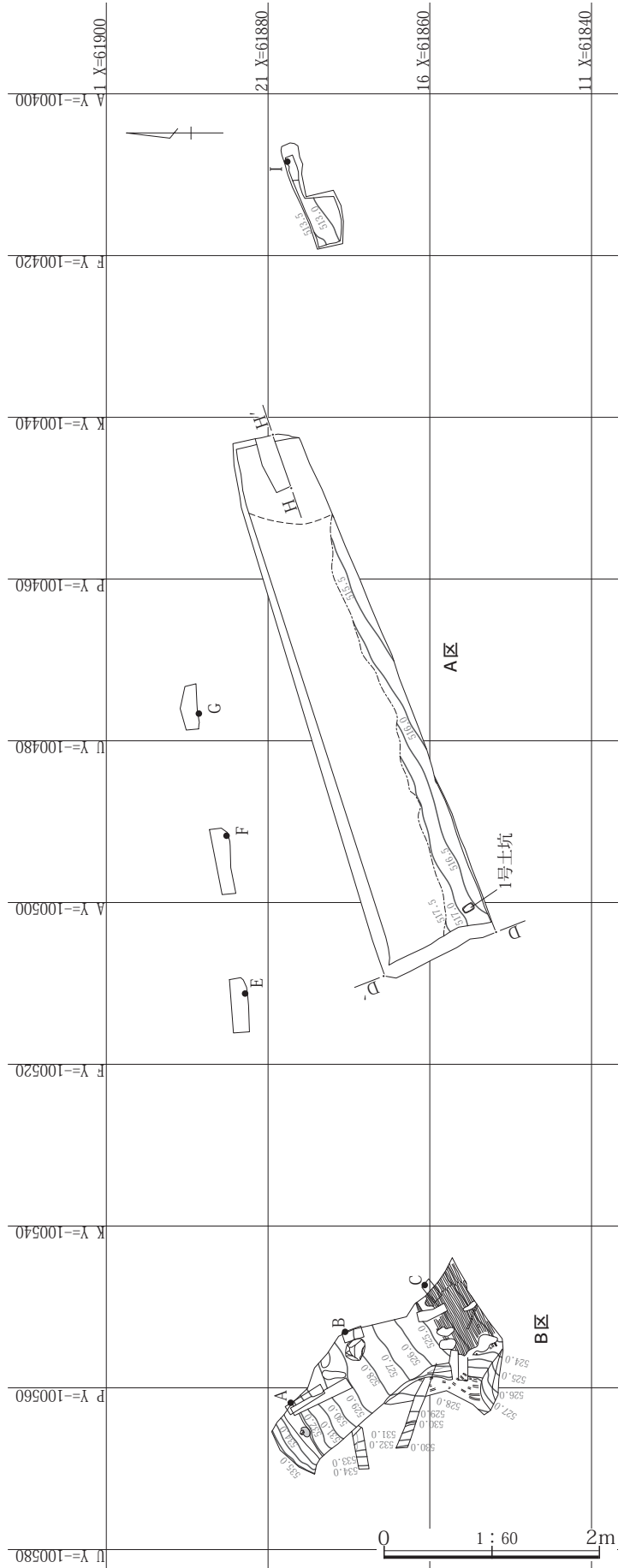
平成29年度はA区において平成8年度の試掘・確認調査で確認された天明泥流とAs-Aに覆われた面(第1面)の調査と、その下位層の遺構・遺物の確認を行った。

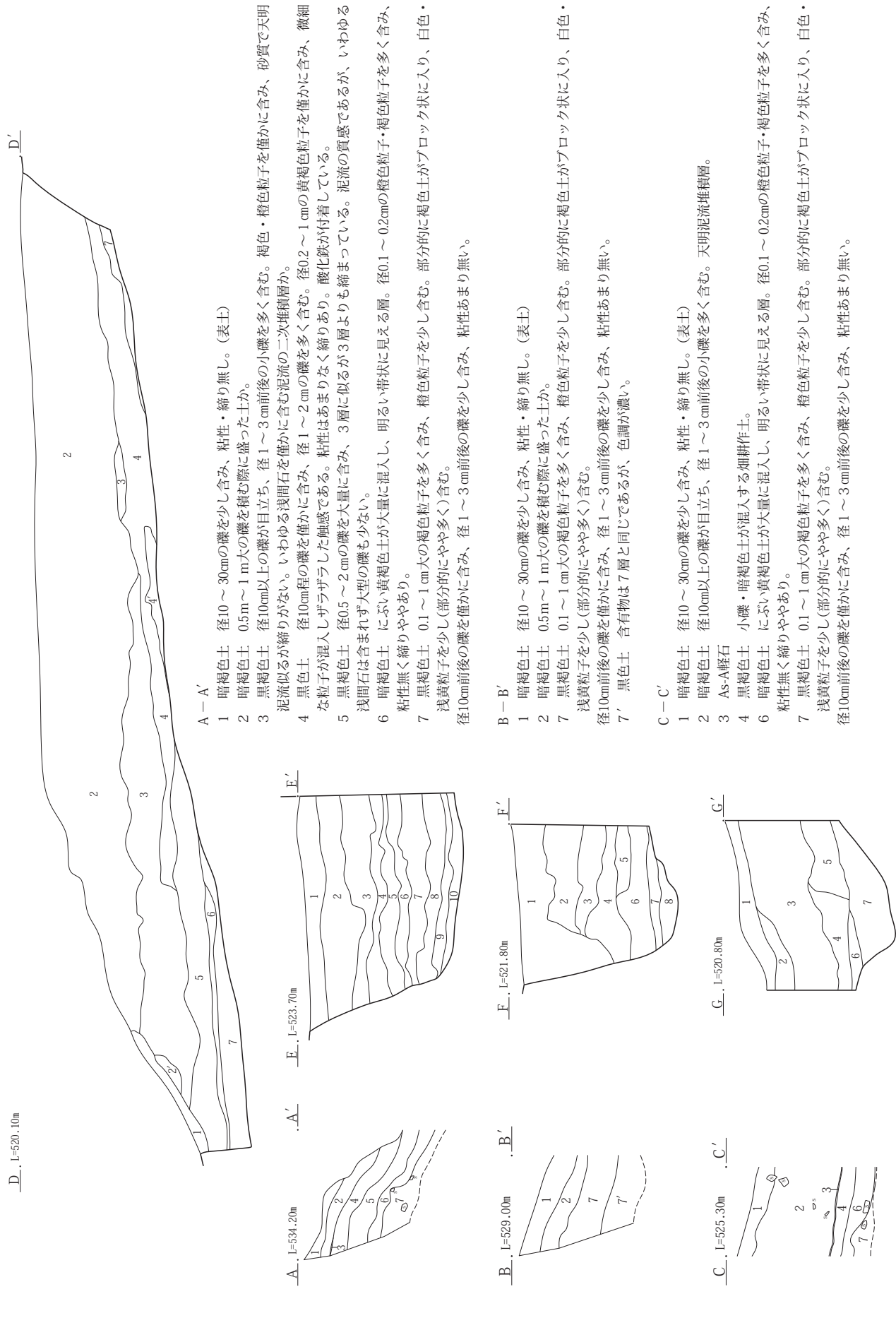
まずトレンチを入れることで、A区のAs-A及び天明泥流の分布を確認した所、南側で天明泥流及びAs-Aに覆われた旧地表面が確認された。

区の中央部分と北側部分においては、明らかな天明泥流は確認できず、As-Aも検出されなかった。中央部北側には、盛土あるいは北側急斜面か



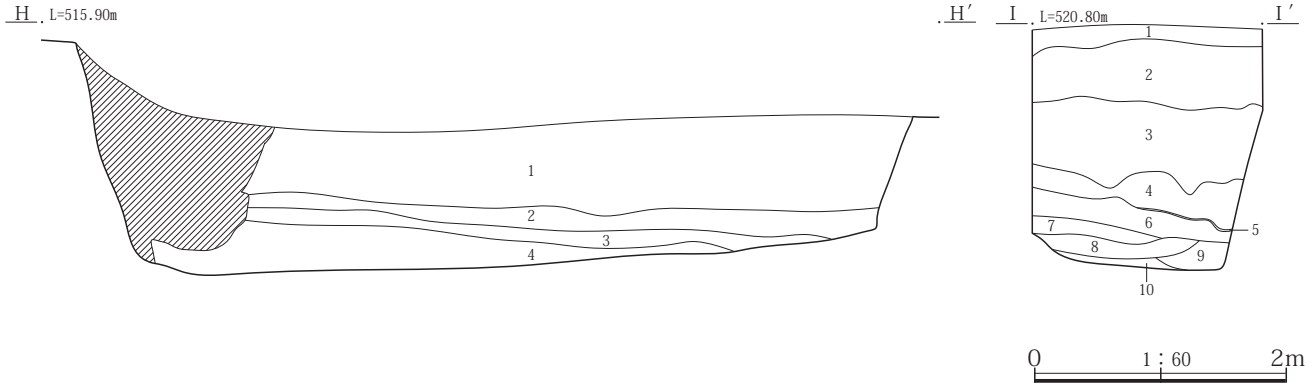
第7図 二社平遺跡1面全体図・B区断面図





第8図 二社平遺跡A区断面図①

第3章 発見された遺構と遺物



E - E'

- 1 暗褐色土 10～30cmの大型の礫多く、黄色粒子が部分的にブロック的に入る。締り弱く粘性あまりなし。
- 2 暗褐色土 径10cm以上の礫を少し含み、0.5cm～2cmの礫を多く含む。砂質で、橙色・褐色粒子を多く含む。締り・粘性あまりなし。
- 3 黒褐色土 径0.5～2cmの小石を大量に含み、径5～20cm以上の大型の角礫も多く含む。ザラザラした砂質で、橙色・褐色粒子を多く含み粘性あまりなし、締り少しあり。
- 4 オリーブ黒色土 部分的にグライ化した層で、他の層より暗く見える。径3～15cm程度の角礫が非常に多く、褐色粒子を少し、黄褐色砂礫がブロック状に入る。粘性があり、締りあり。
- 5 暗灰黄色土 径1～3cmの礫が多く、径5～15センチ程度のやや大型の礫も含まれる。褐色粒子と黄色砂礫を少し含む。砂質で粘性が少しあり、締りはある。
- 6 オリーブ褐色土 僅かに砂質で、黄色砂礫を多く含む。橙色・白色粒子を多く含み径3～10cmの角礫を多く含む。炭化物を僅かに含む。
- 7 黒色土 黄・褐色粒子及び橙色粒子を少し含み、径1～3cm大の礫を含む。径20cm大の礫も含まれるが、量は多くない。少し砂質で粘性はあまりなし。締りはややあり。
- 8 黒褐色土 橙色・褐色粒子を極めて多く含み、黄色砂礫を含む。大型の礫の含有量は、他の層と比較して少ない。
- 9 黒褐色土 黄色・褐色・橙色粒子を多く含み、径5～20mmの小礫を少しと径10cm以上の礫を僅かに含む。粘性ややあり、締りあり。砂質感はない
- 10 暗オリーブ褐色土 橙色・黒色粒子が少し入り、部分的に黒色土がブロック的に入る。黄褐色砂礫が大量に入り、径1～4cmの小礫を非常に多く含むまた径5～10cm以上の礫が多く入る。

F - F'

- 1 暗褐色土 径10～30cm大の礫をかなり多く含む。粘性なく締り無し。表土。
- 2 黒褐色土 10～20cm大の礫と砂粒を多く含む盛土。粘性無く締り無し。
- 3 黒褐色土 径10～30cm大の礫と3～5cm大の礫及び砂粒を含む。粘性なく締り無し。
- 4 黒褐色土 径5～10cm大の礫と砂粒を多く含む。粘性なく締り無し。
- 5 暗褐色土 径1～2cm大の礫と砂粒を含む。粘性なく締り無し。
- 6 暗褐色土 径3～5cm大の礫をやや多く含む。粘性なく締り無し。
- 7 黒褐色土 径3～5cm大の礫を多く含む。粘性なく締り無し。
- 8 黒褐色土 径3～5cm大の礫を含み、鉄分の沈着が見られる。粘性なく締り無し。

G - G'

- 1 暗褐色土 径10～30cm大の礫を少し含む。粘性なく締り無し。表土。
- 2 暗褐色土 1～3cmの礫をやや多く含む盛土。
- 3 黒褐色土 径2～10cm前後の礫をやや多く含む。黄褐色粒子を少し含み、砂質で天明泥流に似るが、締りがなく軽石の含有がわずかに見られる。天明泥流の二次堆積層であろう。
- 4 黒褐色土 1～2cm前後の礫を多く含み、径2～10mmの黄褐色粒を僅かに含む。砂粒が多く混入し粘性はあまりなく、ざらざらした感触である。
- 5 黒褐色土 砂質でざらざらした感触であるが締りはある。橙色粒子を少し含み、径5～20mm程度の小礫が多く含まれる。3層に似るが、大型の礫が少ない。
- 6 にぶい褐色土 にぶい黄褐色土が多く混入し、橙色粒子を多く含む。粘性あまりなく、締りはややあり。
- 7 黒褐色土 褐色粒子・橙色粒子を含み、一部褐色土がブロック状に入る。締りややあり。粘性あまりない。

H - H'

- 1 黄褐色砂礫層 3～20cm大の礫をやや多く含む砂礫層。
- 2 暗褐色砂礫層 大型の礫を含まない砂礫層。
- 3 黄褐色砂礫層 1層に似るが、大型の礫を全く含まない砂礫層。
- 4 黄褐色砂礫層 3層に似るが、やや色が濃い。

I - I'

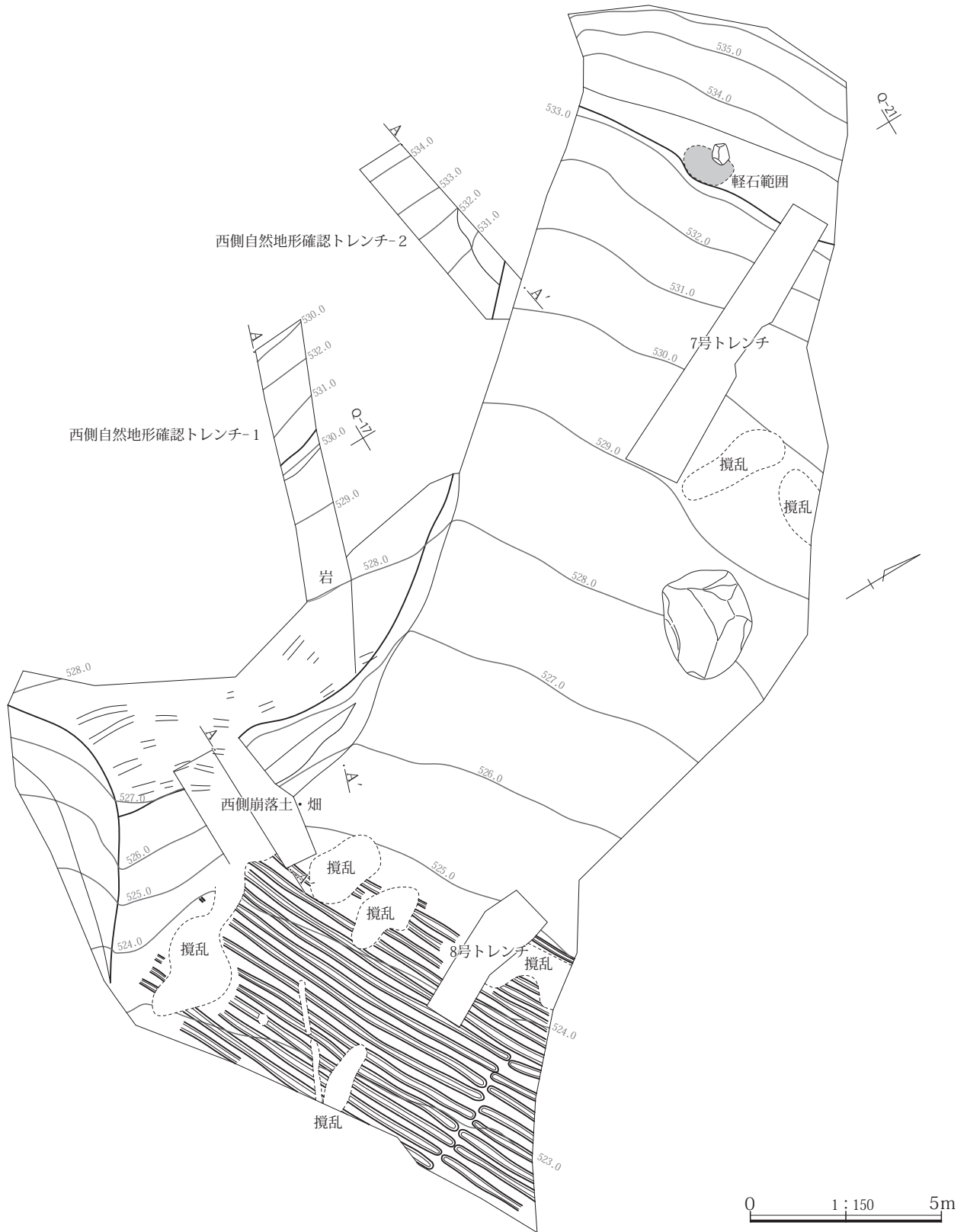
- 1 黒褐色土 径1～2cmの礫を多く含む。粘性・締り無し。
- 2 暗褐色土 径3～10cm大の礫を大量に含み、一部径30cm以上の大型礫を含む層。堆積やや粗で粘性無し。
- 3 暗褐色土 径30cm以上の大型礫をやや多く含み、径5～10cmの礫を大量に含む層。堆積やや粗で、粘性無し。
- 4 黒褐色土 径1～3cmの礫を含み、径5cm程の礫を僅かに含む。堆積やや密。粘性あり。
- 5 As-A
- 6 暗褐色土 径1～2cmの礫を含み。砂粒を含む。堆積やや密、粘性あまり無い。
- 7 暗褐色土 径1～5cmの礫を含み、砂粒を含む。堆積やや密、粘性あまり無い。
- 8 暗褐色土 径3～5cmの礫をやや多く含む。堆積密。粘性無し。
- 9 暗褐色土 径2cm大の礫及び砂粒を大量に含む。堆積密・粘性無し。
- 10 暗褐色土 9層に似るが、色がやや濃い。

第9図 二社平遺跡A区断面図②

らの崩落土を多く含む土砂崩れ等によって厚く堆積した層が見られ、この層の下位にはローム層相当の地山があると考えられたが、調査面積に対する掘削深度が深くな

りすぎるため、安全法面角度が確保できないことから確認できなかった。

A区東部では表土及び盛り土の下位には、水性堆積と



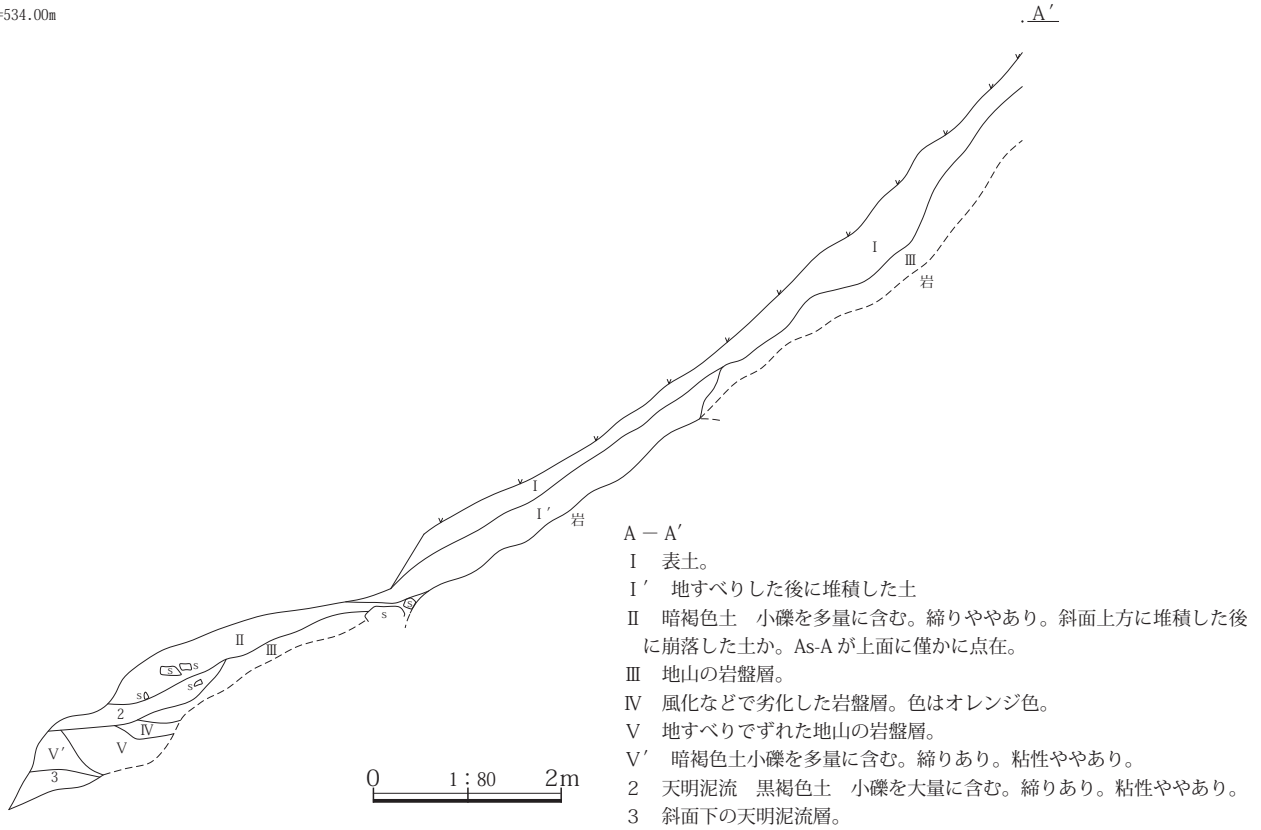
第10図 二社平遺跡B区全体図

思われる黄褐色土や褐色土が層状に堆積しており、遺構・遺物は確認できなかった。東側の沢の谷地部分であると考えられる。

A区西部でも明らかな天明泥流は確認できず、As-A

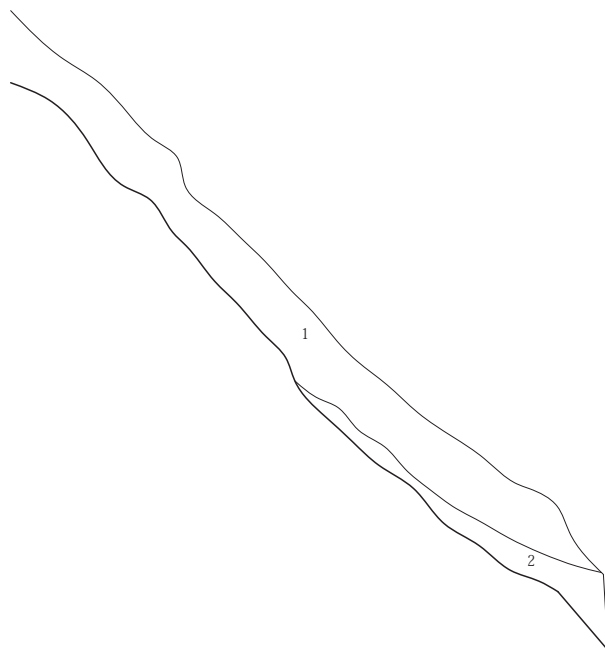
も検出できなかった。しかし、下層を確認する際に縄文前期土器片等を出土する黒色土層が確認できた。そのため、掘削範囲を広げてこの遺物包含層を掘り下げて調査を行ったところ、時期は不明であるが土坑を1基確認し

A, L=534.00m



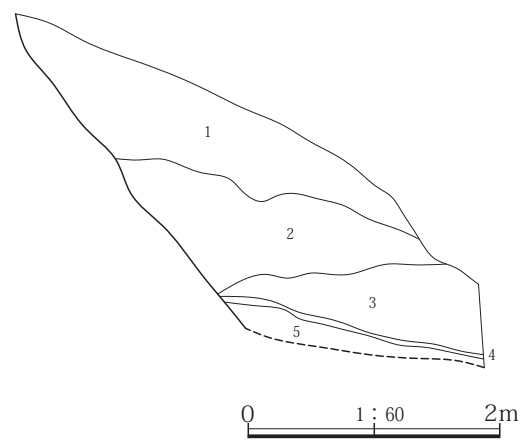
第11図 二社平遺跡B区西側自然地形確認トレンチー1 断面図

A, L=534.90m



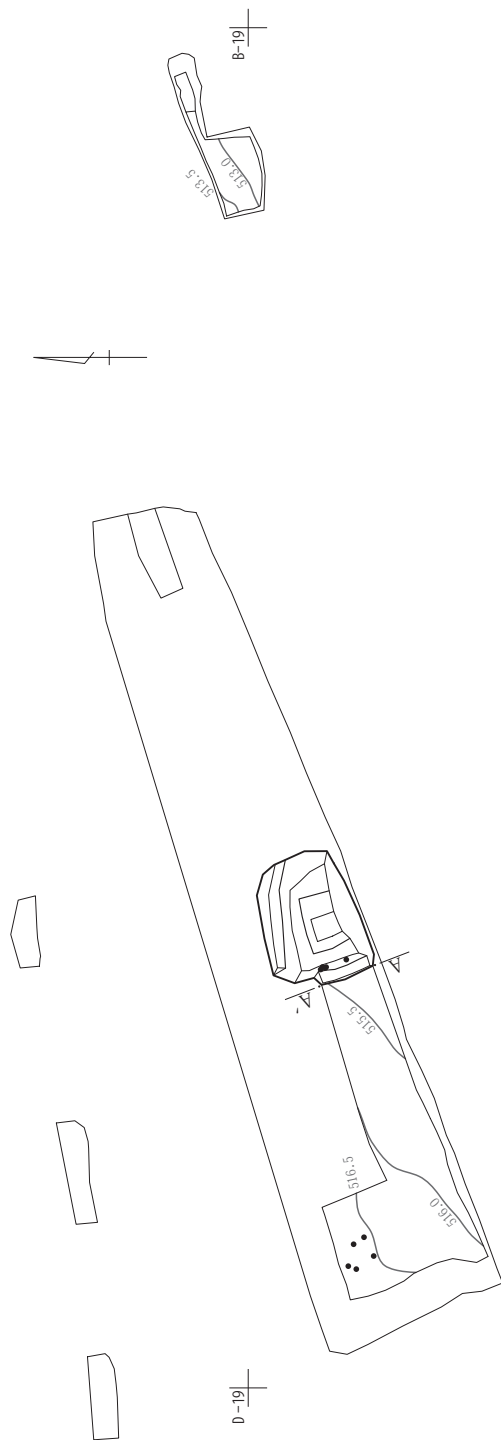
A'

A, L=527.40m



A'

第12図 二社平遺跡B区西側自然地形確認トレンチー2及び崩落土と畑 断面図

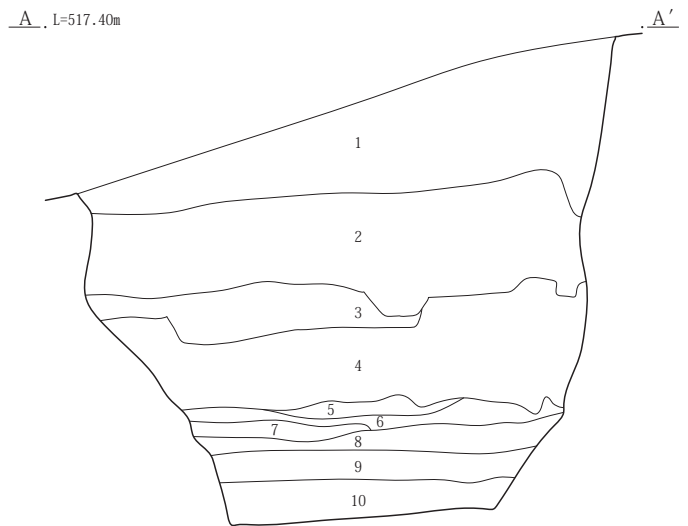


第14図 二社平遺跡A区2面全体図・断面図

た。包含層出土の遺物も僅かに出土した。

下位層には土砂崩れによる堆積層が見られ、更に下位を見ると大量に礫を含有する褐色土が厚く堆積しており、掘削が困難な上危険が伴うためこの面で調査を終了した。

A区北側は、いずれも盛り土もしくは北側急斜面からの崩落土等が厚く堆積しており、2m以上の掘削は危険



A - A'

- 1 暗褐色土 1～3cm大の礫をやや多く含堆積は密で粘性はあまりない。
- 2 黒褐色土 3～5cmの礫を多く含み、20cm前後の礫を一部含む。砂粒を含むので、粘性は無いが、堆積は密である。
- 3 暗褐色土 2～5cm大の礫を多く含み砂粒を含むが、2層と異なり大型の礫を含まない層。粘性無く堆積密。
- 4 暗褐色土 2～5cm大の礫を少し含み、白色粒子を多く含む層。堆積は密で砂粒を含むが、粘性ややあり。
- 5 黄褐色土 シルトブロックを含み、若干動いた形跡のある層。
- 6 黄褐色土 上層の暗褐色土が混入している。
- 7 黄褐色土 上層の暗褐色土がかなり多く混入した層。
- 8 黄褐色土 僅かに礫が混じる層。
- 9 黄褐色土 混入物が見られないローム。
- 10 高褐色土 9層と異なりやや大きめの礫が見られるが、地山の礫と考えられる。

0 1:60 2m

0 1:600 20m

であるためそまでの土層等を確認・記録して調査を終了した。

2 検出された遺構

B区はやや急な斜面部分の等高線に直交する形で調査区を設定した。

区の北半は崖崩れや開発などによってかなり土が動かされていたため天明泥流は残っていなかった。

しかしAs-Aは調査区北端の斜面に若干残っているのが確認されている。(第10図)

天明泥流は斜面の傾斜がやや緩くなった標高575m付



第15図 二社平遺跡B区2面確認トレンチ平面図

近より南から下に見られ、泥流下より畑が検出された。
畑のサクの中にはAs-Aが残っている。

畑の畝・サクの耕作された方位を見てみると等高線と

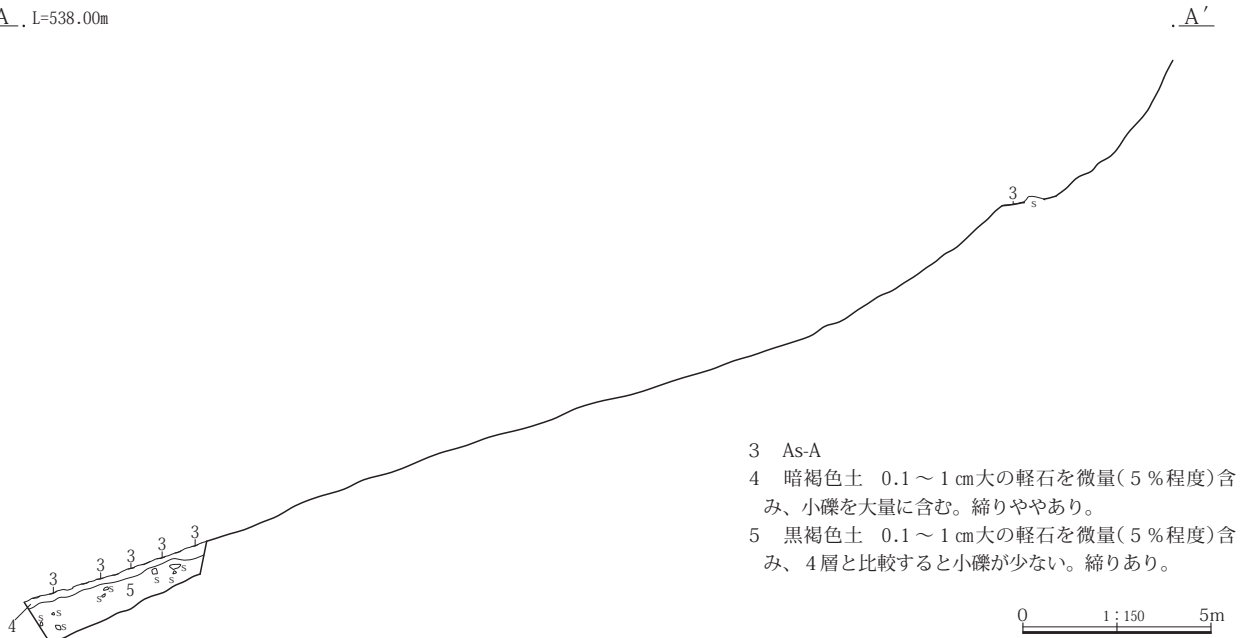
並行関係にあることがわかり、畝の盛土で水を留めサクの中を水が流下して行かないように工夫されていることが分かる。斜面を耕作した畑の特徴であろう。

畝・サクの規模を計測して見ると、サク部分の幅は平均して21.4cm、畝部分の幅は17.6cmであるが、これは平均値であり場所によっては畝部分が25cmや30cmを超える箇所も存在する。

サクの切れ目による畑の分割線調査区の東端部分で確認されているが、分割線は北端のサクまでは続いていかない。

従ってB区にはサクの切れ目で分割される東・西の2面の畑と、分割されていない北側の3面の畑が存在する

A, L=538.00m



第16図 二社平遺跡B区2面確認トレンチ断面図

ことになる。

第13図の4層は畑を作る際の耕作土として利用されていた土である。小礫は含むが下の5層と異なり大型の礫を含まない。

A区の縄文土器片を出土する遺物包含層の黒色土を広げた際に確認された1号土坑は検出された面1面より下層であるため時期が確認できないが、垂直の掘り込みを持ち、鉄製の留具状のものが出土したことから、近代の遺構となる可能性も考えられる。全体図には1面の図に入っている。(第7図)

遺物は遺構には伴っていないが包含層から縄文前期の黒浜式・諸磯a式、後期の称名寺1式土器片が少数ながら出土しており、数千年前から江戸時代に至るまで遺跡周辺の土地が活用されていたことが判明した。

第3節 石畑遺跡の調査

1 調査の概要

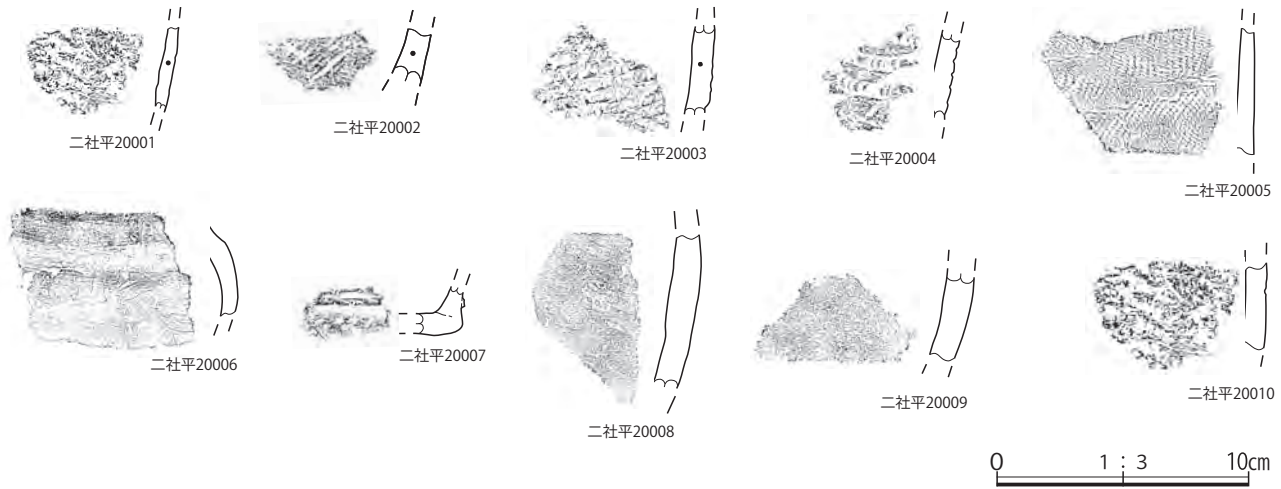
石畑遺跡の調査は工事用新誘導路建設に伴い、平成6年と平成8・9年に試掘・確認調査が行われ、平成10年度に一部本調査が行われた。その際に、縄文時代前期の遺物包含層と弥生時代の土坑、近世の畑などの遺構・遺物が検出された。

平成26年度八ッ場ダム関連埋蔵文化財試掘・確認調査の段階で調査が必要とされた範囲が確定し、南側に張り出した小尾根を挟んで東側をA区、西側をB区として調査区が確定し、A区は平成29年度に、B区は令和元年度に調査を行った。

石畑遺跡は吾妻川左岸に帯状に立地する遺跡であるが、その大部分が斜面地となっており平地が少ない。

A区は吾妻川左岸の上位～中位段丘に相当する斜面地に位置している。この地域には、上位段丘から河床に至る急傾斜地に、テラス状の狭小な緩斜面地がいくつかあり、調査区はそれらの中の一つである。

緩斜面地といっても、周囲と比較すれば若干傾斜が緩い程度であり、生活面としては急傾斜地といってよいであろう。標高は525～545mで、河床からはおよそ45～



第17図 二社平遺跡A区2面出土遺物

第2表 遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17図 PL.10	1	縄文土器 深鉢	2面4 体部破片	*	*	*	*	粗繊維・石英/や や軟/明黄褐色	体部下半か。小径で器厚は薄手。縦位RLを施すが不鮮明。内面撫で、外面は被熱のため器壁剥落	黒浜式か
第17図 PL.10	2	縄文土器 深鉢	2面5 体部破片	*	*	*	*	細繊維・白色粒/ 良好/橙色	体部下半か。厚手の器厚。無節R縦位施文。内面撫で調整	黒浜式
第17図 PL.10	3	縄文土器 深鉢	2面6 体部破片	*	*	*	*	細繊維・輝石・白 色粒/良好/にぶい 橙色	厚手の器厚。無節L横位施文。内面弱い撫で調整	黒浜式
第17図 PL.10	4	縄文土器 深鉢	2面下仮16・仮 26 体部破片	*	*	*	*	細・石英粒・白色粒/ 良好/白色	C字状の連続爪型文を横位弧状に施す。内面研磨	諸磯a式
第17図 PL.10	5	縄文土器 深鉢	2面下仮76 体部破片	*	*	*	*	細・輝石・白色粒/ 良好/浅黄橙色	横位結節縄文LRが覆う。内面弱い研磨	諸磯a式
第17図 PL.10	6	縄文土器 浅鉢	2面下仮76 口縁部破片	*	*	*	*	粗・チャート・白 色粒/良好/浅黄橙 色	口縁～体部内湾する。口縁部に横位凹線を設ける。内外面とも丁寧な研磨を施し、外面には赤彩痕が僅かに残る	諸磯a式
第17図 PL.10	7	縄文土器 深鉢	2面下仮16 底部破片	*	*	*	*	粗・輝石・白色粒/ 良好/にぶい橙色	直立気味に開く体部下半。地文に横位LRを施し、斜位刻みを加えた横位浮線文を付す。内面弱い撫で調整	諸磯b式
第17図 PL.10	8	縄文土器 深鉢	2面9 体部破片	*	*	*	*	粗・石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 橙色	体部上半か。厚手の器厚で無文。外面丁寧な撫で調整、内面は弱い撫で調整	称名寺1式
第17図 PL.10	9	縄文土器 深鉢	2面下仮66 体部破片	*	*	*	*	粗・石英・輝石・白 色粒/良好/橙色	20008と同一個体か。無文で内外面撫で調整を施す	称名寺1式
第17図 PL.10	10	縄文土器 深鉢	2面下仮76 体部破片	*	*	*	*	細・石英・輝石・白 色粒/良好/黄灰色	浅い沈線で画された施文部弧状意匠。磨消部は撫で、施文部はLR充填施文。内面平滑な撫で。内外面とも器面摩滅	称名寺1式

65mの高低差がある。

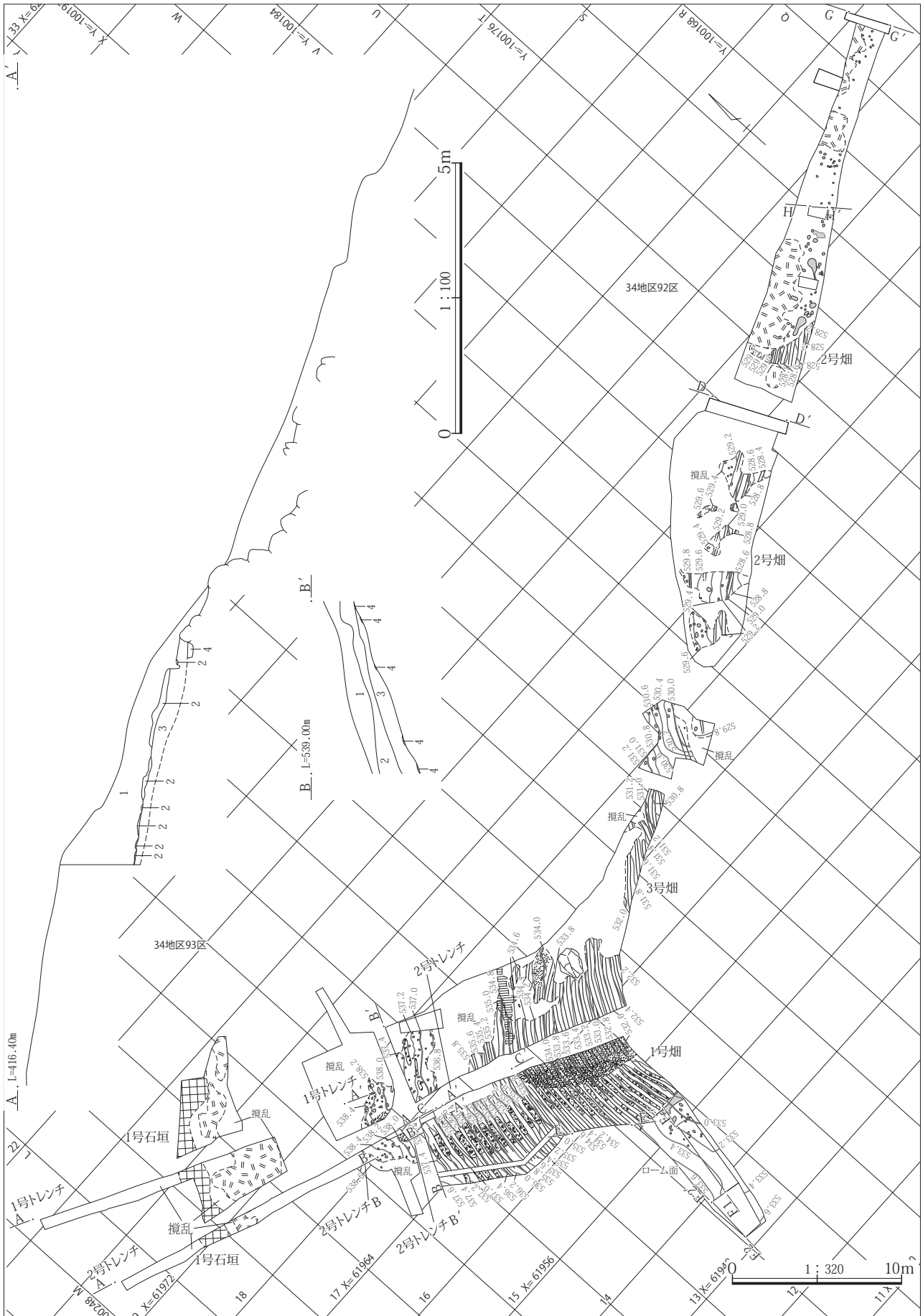
調査の際は区全体が南へ急傾斜しているため、吾妻川側の南側調査区外への土砂の流失や落石への対策が必要であった。そのためコンクリート型枠用合板を利用して落下防止柵を設置した。また、調査区内のうち、特に傾斜の急な箇所には仮設階段を設置してから調査を行った。

調査では、天明泥流とAs-Aに覆われた面(第1面)の調査とその下位層の遺構の確認を行い、泥流下の畑を検出。時期は不明であるが近世以前に築かれた石垣を2基確認した。(第18図)

B区に関しては、A区と同じ吾妻川左岸の上位～中位段丘上斜面地上の、上位段丘から河床に至る急斜面地にテラス状に広がる狭小な緩斜面地と旧道部分の調査を実施した。標高はA区と変わらない。

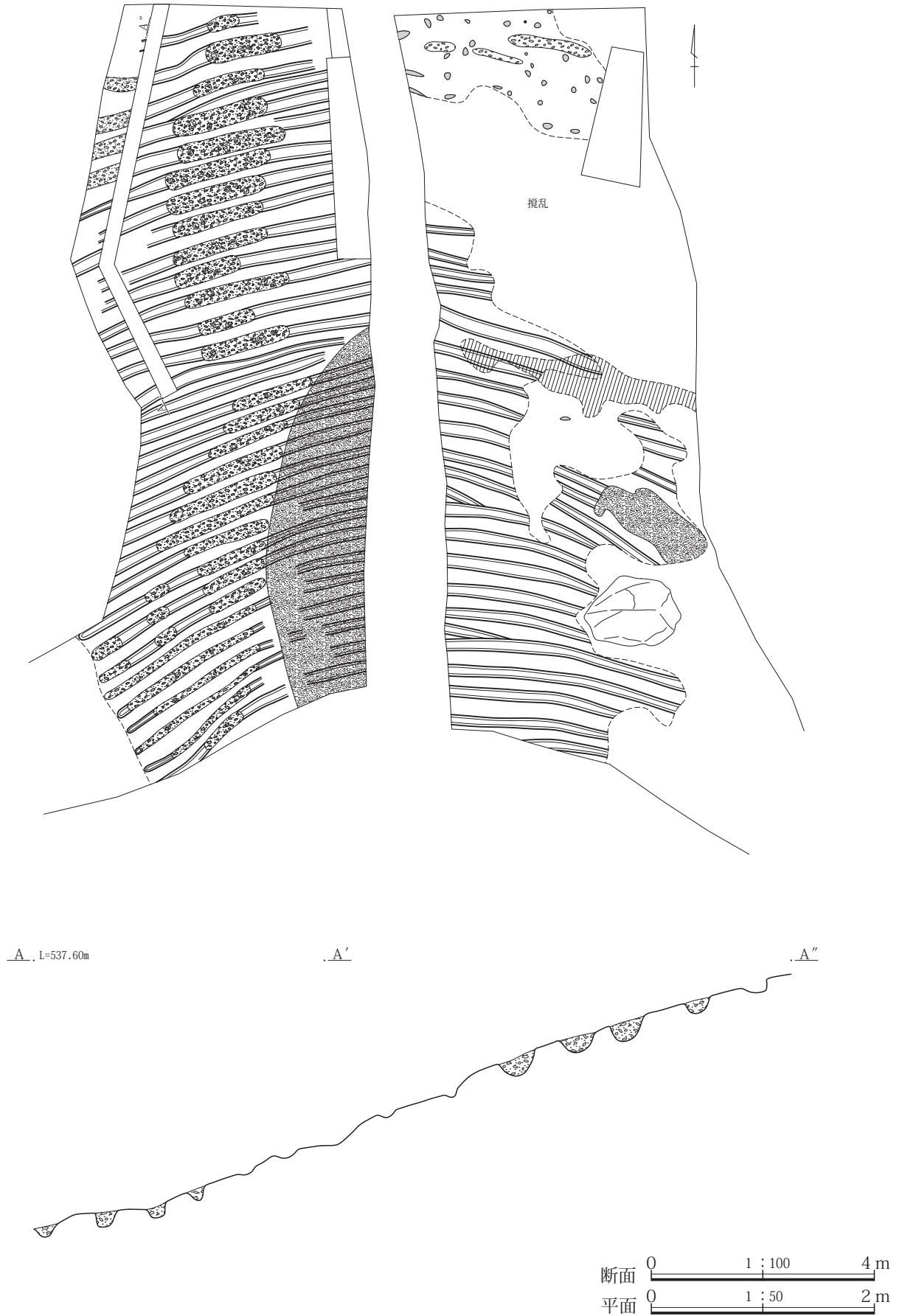
第1面の天明泥流下の調査では、畑が8面、石垣2基、ヤックラ2基が検出された。

上段部分の畝・サクは、等高線に沿って東西方向に伸びており、中央部分に存在するヤックラを挟んで東側の畑はAs-A降下後そのままの状態ではあり、西側の畑は大部分でAs-A降下後に耕作土の天地返しを行った状況が確認できた。



第18図 石畑遺跡A区南部全体図

1号畑



第19図 石畑遺跡1号畑平面図・断面図

2号畑

下段の旧道部分では現代の道を作る際に多くの削平を受けており、南側の僅かな部分に天明泥流下畑を検出するのみであった。また、旧道部分の西側からは、天明泥流以前に築かれた道に付随する石垣を約10m検出した。

2面より古い時代の遺構確認のためトレンチ調査を行ったが、遺物が出土したのみで、遺構は存在しなかった。(第33図)

2 検出された遺構

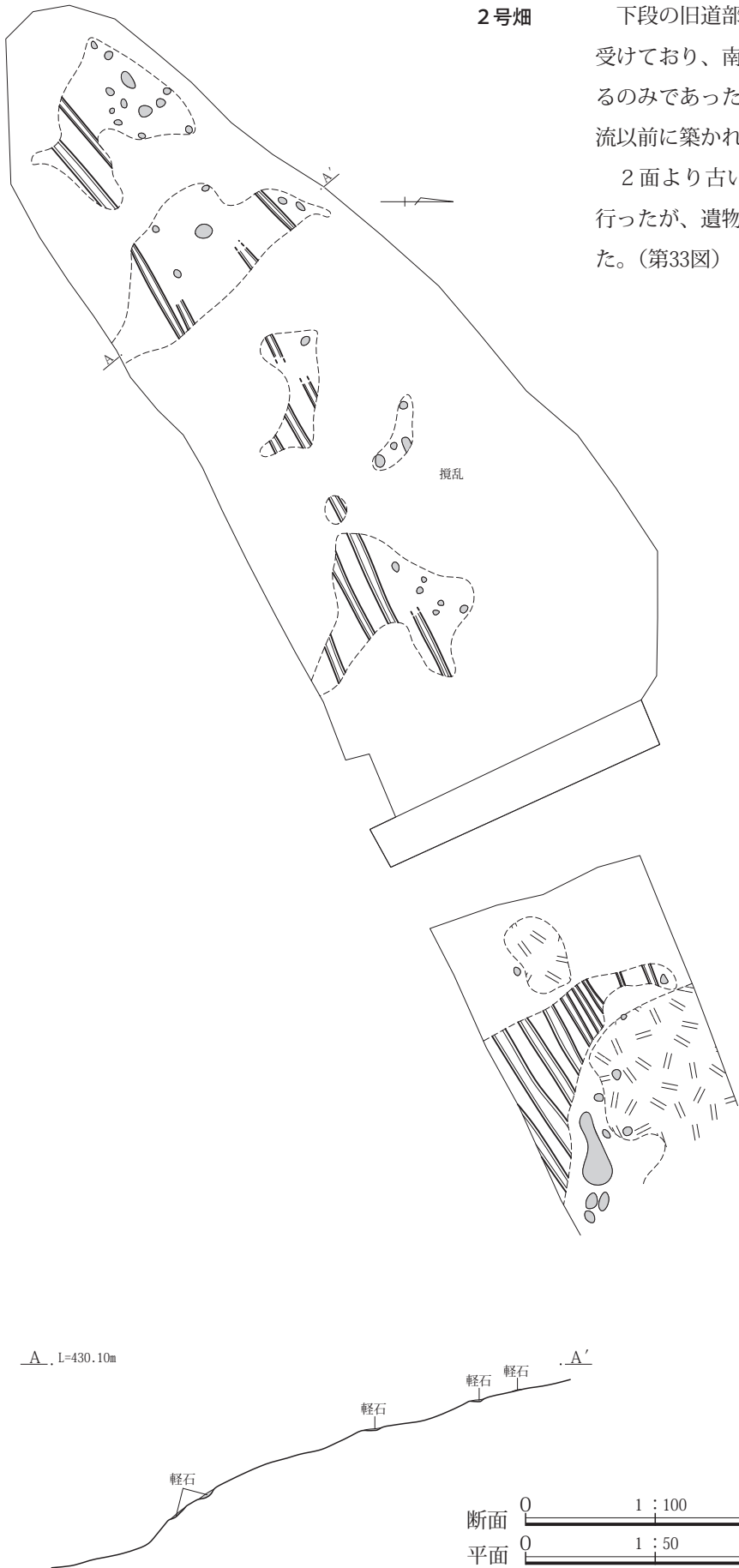
A区の南西部分は天明泥流下から畑が良好な状態で検出されサクも深く掘られている。第20図は最も広く畑が確認された1号畑の平面及び断面図である。サクの幅は16cm～34cmで平均すると24cm前後であるが、畝の幅は狭いもので6cm、広いものでは40cmあり、平均値を出すと21.4cmになるが、畝によっては幅が40cm～20cmと同じ畝の中で変化するものが多い。

僅かながら緩斜面となった等高線に直行するように畑のサクが掘られていることが図面から理解できる。更に1号畑の西側ではサクの中に径5～15cm程の礫が大量に入った箇所があった。

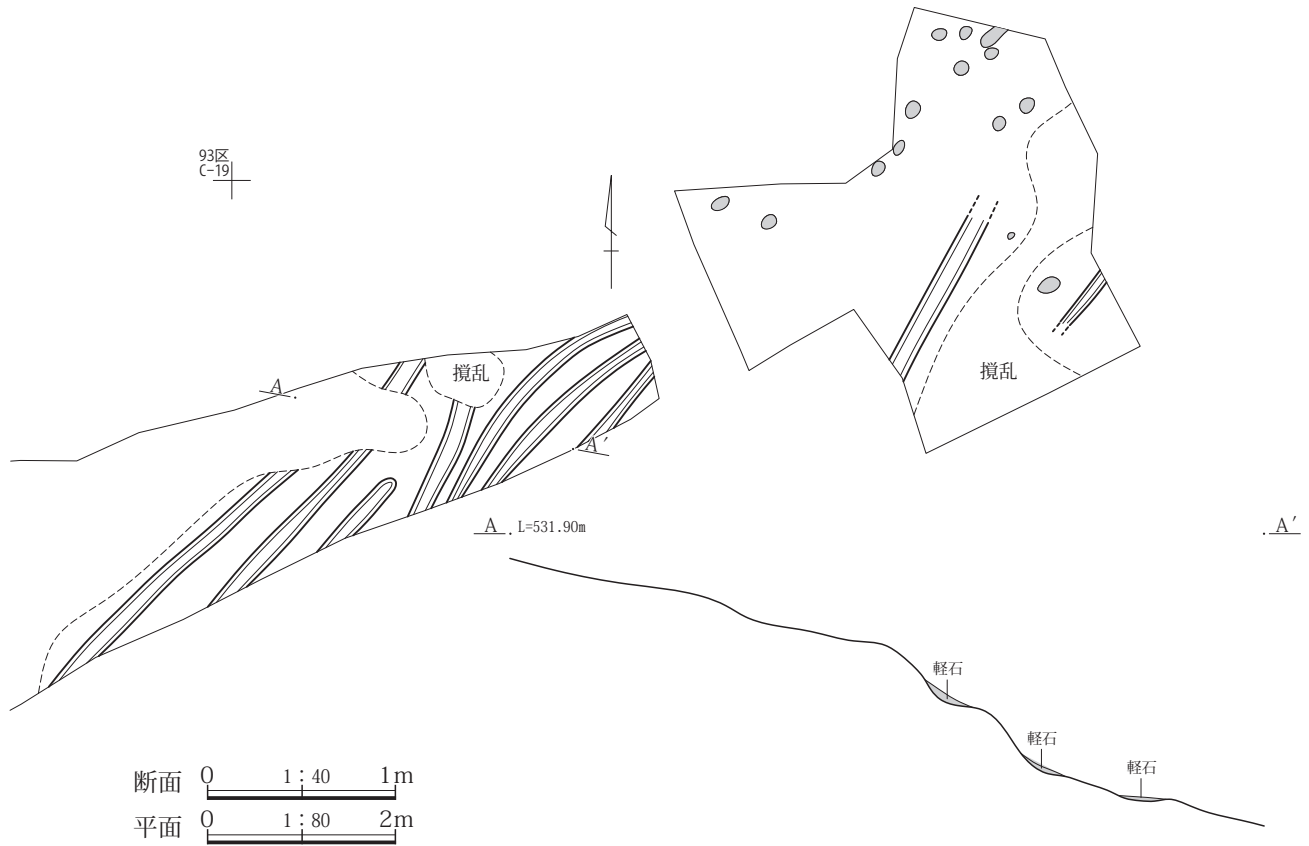
天明3年浅間山の噴火以前にこの畑が土砂崩れなどで覆われた後、復旧のためにそれらの礫を取り除いた際に残されたものか、あるいはサクの中に埋めたものと推測される。

A区の北側には、表土の下位に土砂崩れによると思われる砂を多く含む土層があり、その下のAs-Aや天明泥流の層が不明瞭である。

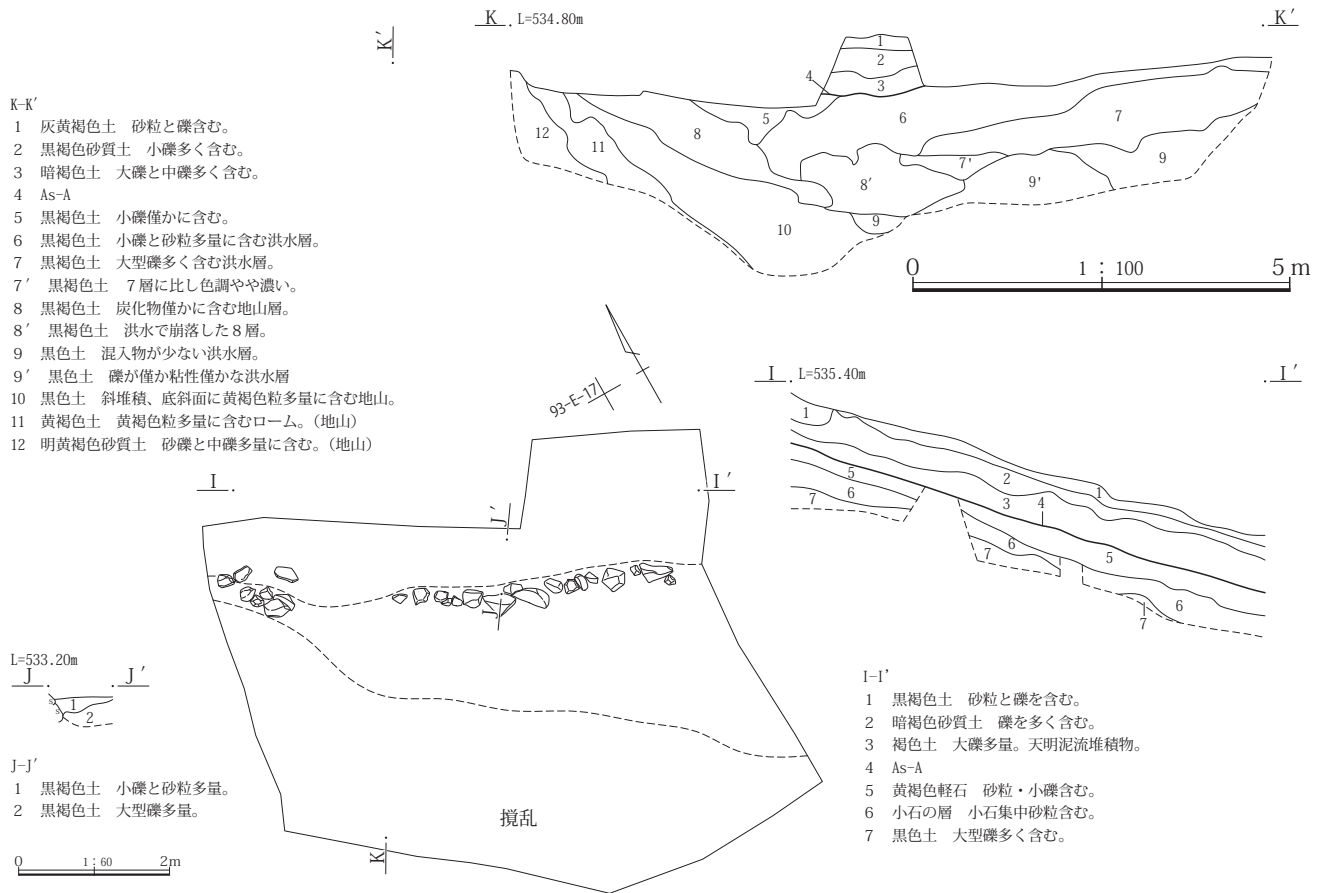
同様の現象はA区東側の畑跡



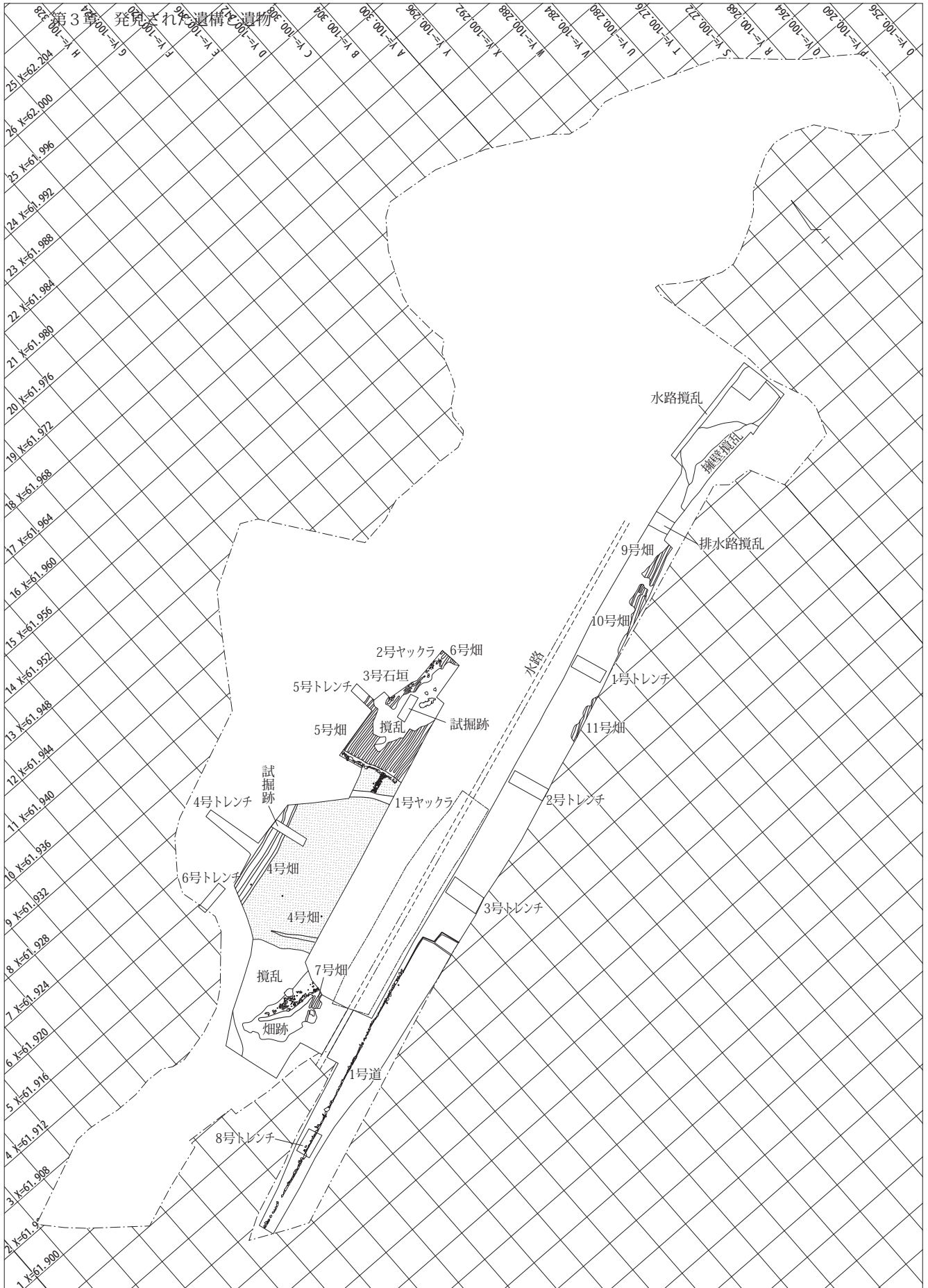
第20図 石畑遺跡2号畑平面図・断面図



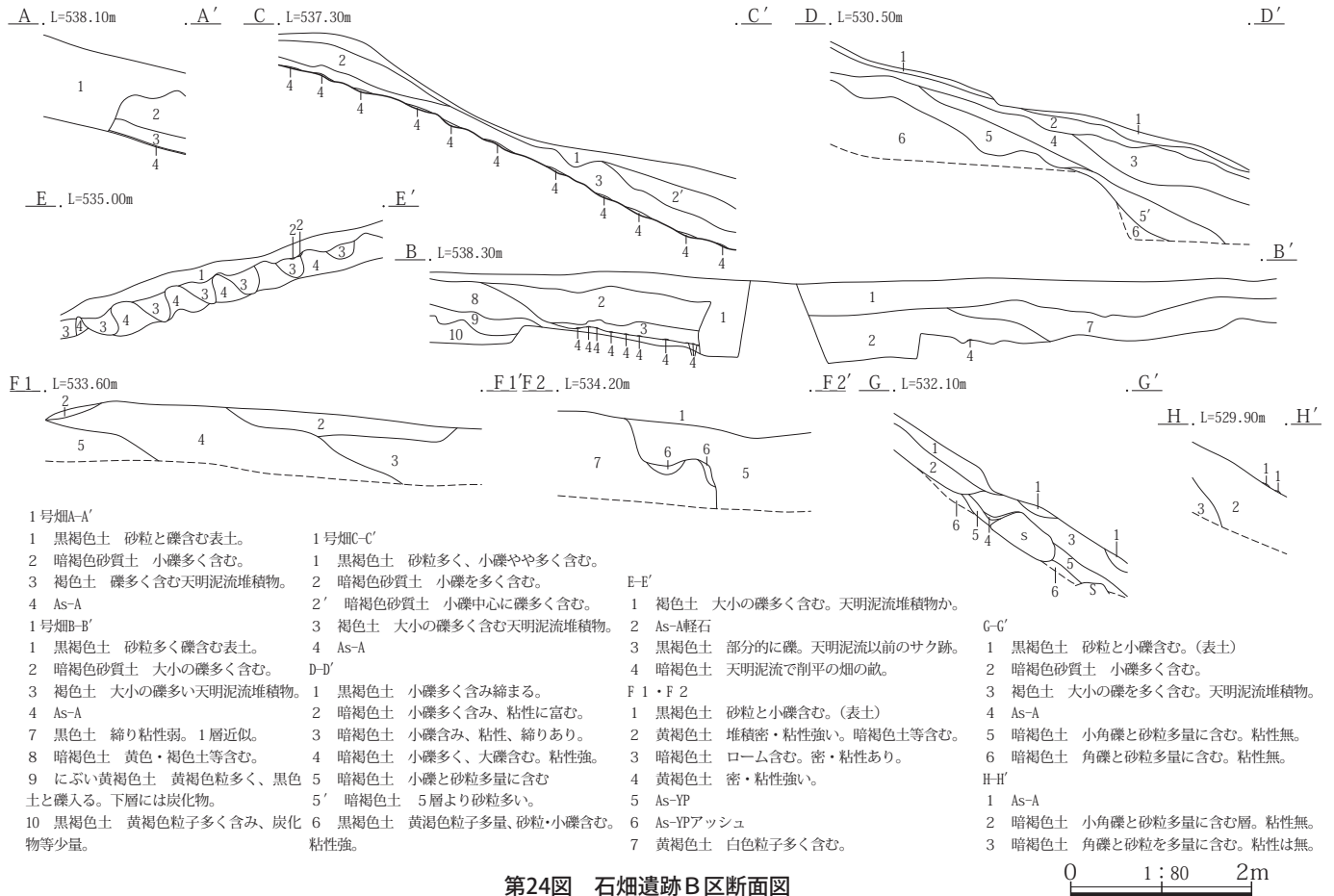
第21図 石畑遺跡3号畑平面図・断面図



第22図 石畑遺跡2号石垣平面図断面図

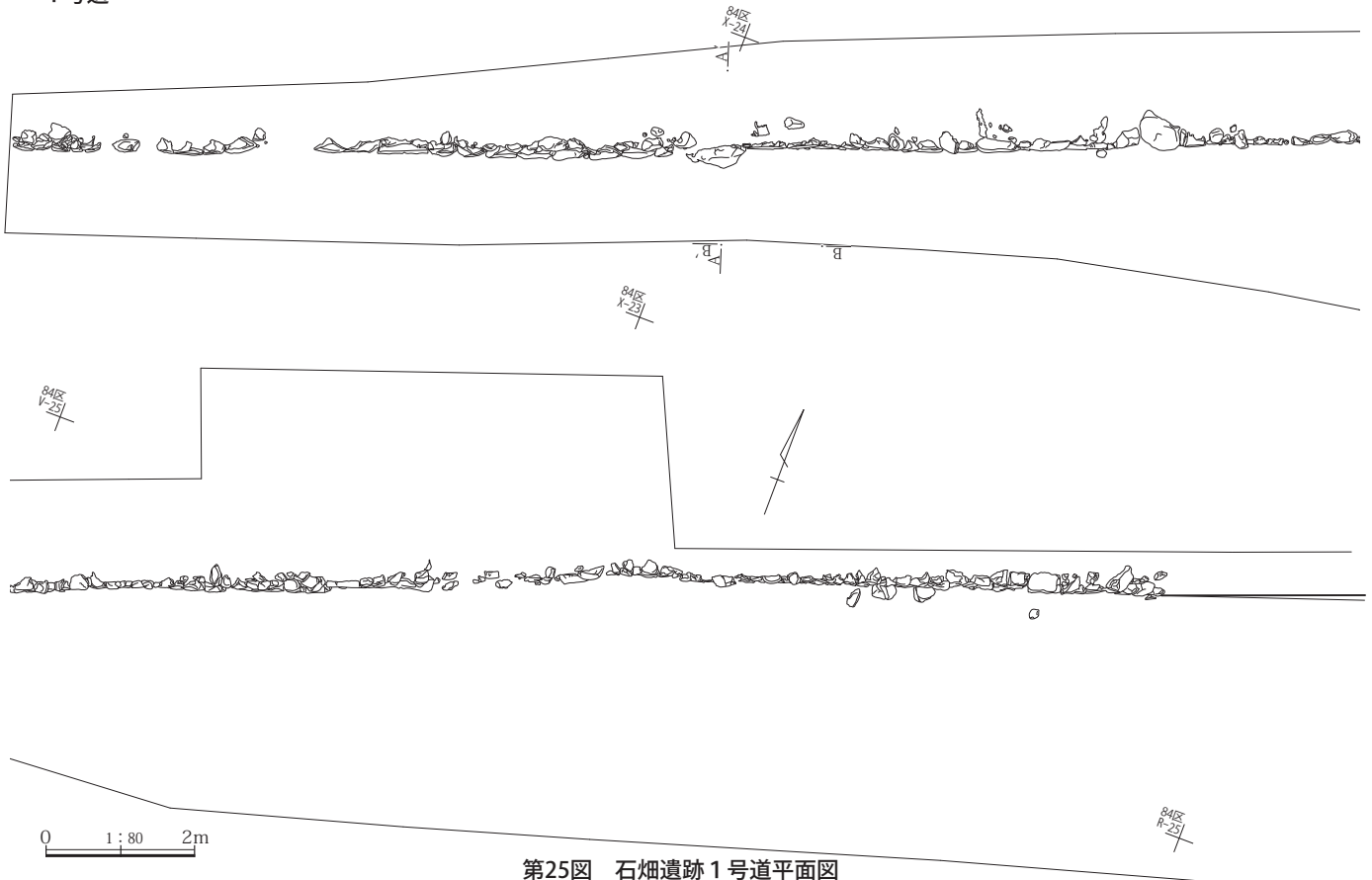


第23図 石畑遺跡A区北部全体図

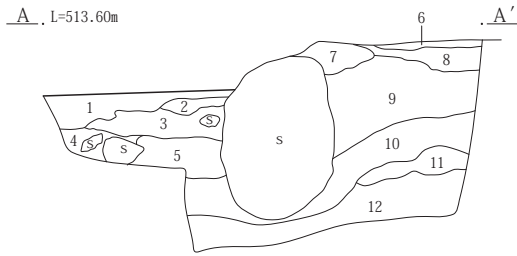


第24図 石畑遺跡B区断面図

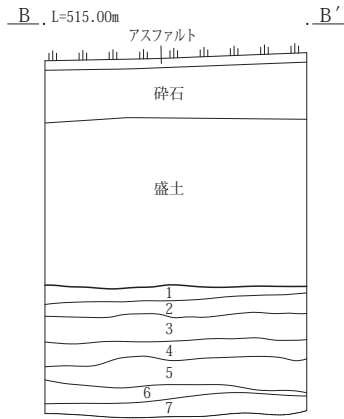
1号道



第3章 発見された遺構と遺物



b01michi001_a_40.ai



b01michi001_b_40.ai

1号道

SPA

1

SPB

- 1 10YR3/1黒褐色土 締まりあり、やや砂質。φ 3～10cm程の礫少量含む。
- 2 10YR4/1褐灰色土 締まりあり、やや砂質。φ 5～10cm程の小亜角礫多量に含む。
- 3 10YR3/2黒褐色土 締まりややあり、粘性ややあり。鉄沈着有。φ 3cm程の礫若干含む。
- 4 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、やや砂質。φ 5～10cm程の小礫多量に含む。
- 5 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、やや砂質。
- 6 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、やや砂質。黄褐色粒少量、φ 3～5cm程の礫少量含む。
- 7 10YR5/6黄褐色土

サクの幅は 8 cm～ 22cmで畝幅は20cm～ 40cmを計測するが、畝に関しては隙間が空きすぎているが、平地ではなく斜面部の畑なので仕方がないのかもしれない。(第21図)

またA区は急斜面からの石の崩落を防ぐ土留めの石垣が畑の周囲に複数設置されていたと考えられ、崩落した石が畑の上部に堆積した跡が見られる。

3号畑も1号畑に連続する。耕作の方向は等高線に直交しているが、畝・サクの並びも、その間隔も、地形に合わせて平行ではなく乱れている。

サクの幅は16cm～ 22cmで、畝幅は20cm～ 40cmを計測する。

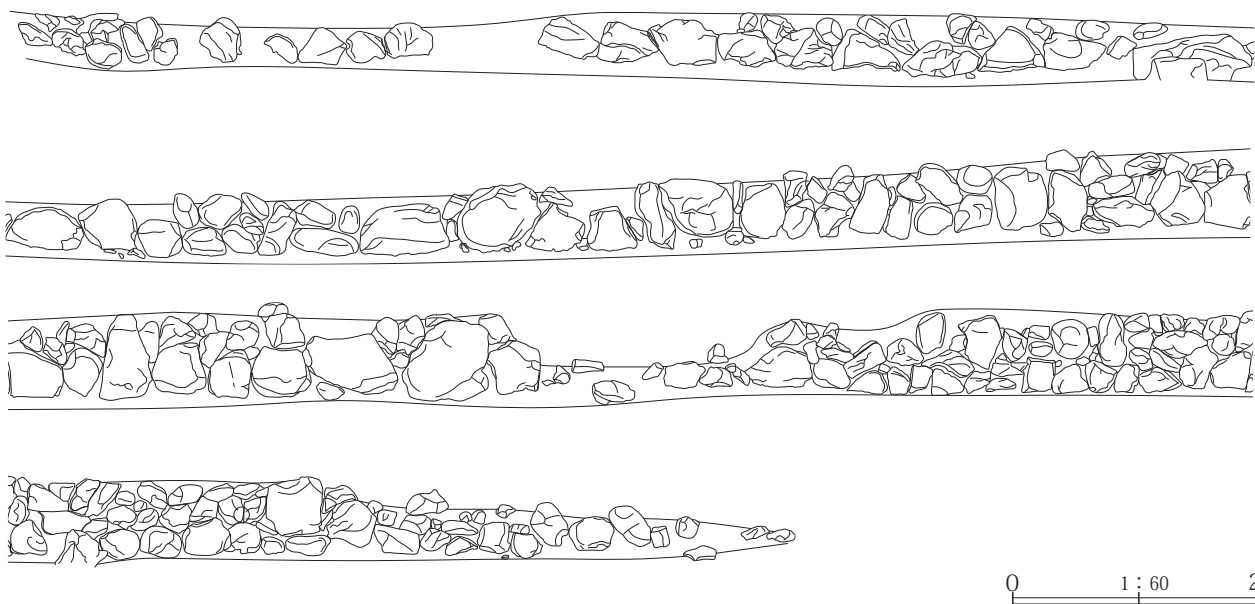
崖崩れのため残存状態は極めて悪いが、1面からは1

第26図 石畑遺跡1号道断面図

でも顕著に見られ、サク部分に残ったAs-A軽石の痕跡が所々で途切れていることから、天明三年の被災後にこの畑の上を土砂崩れが襲ったものと考えられる。

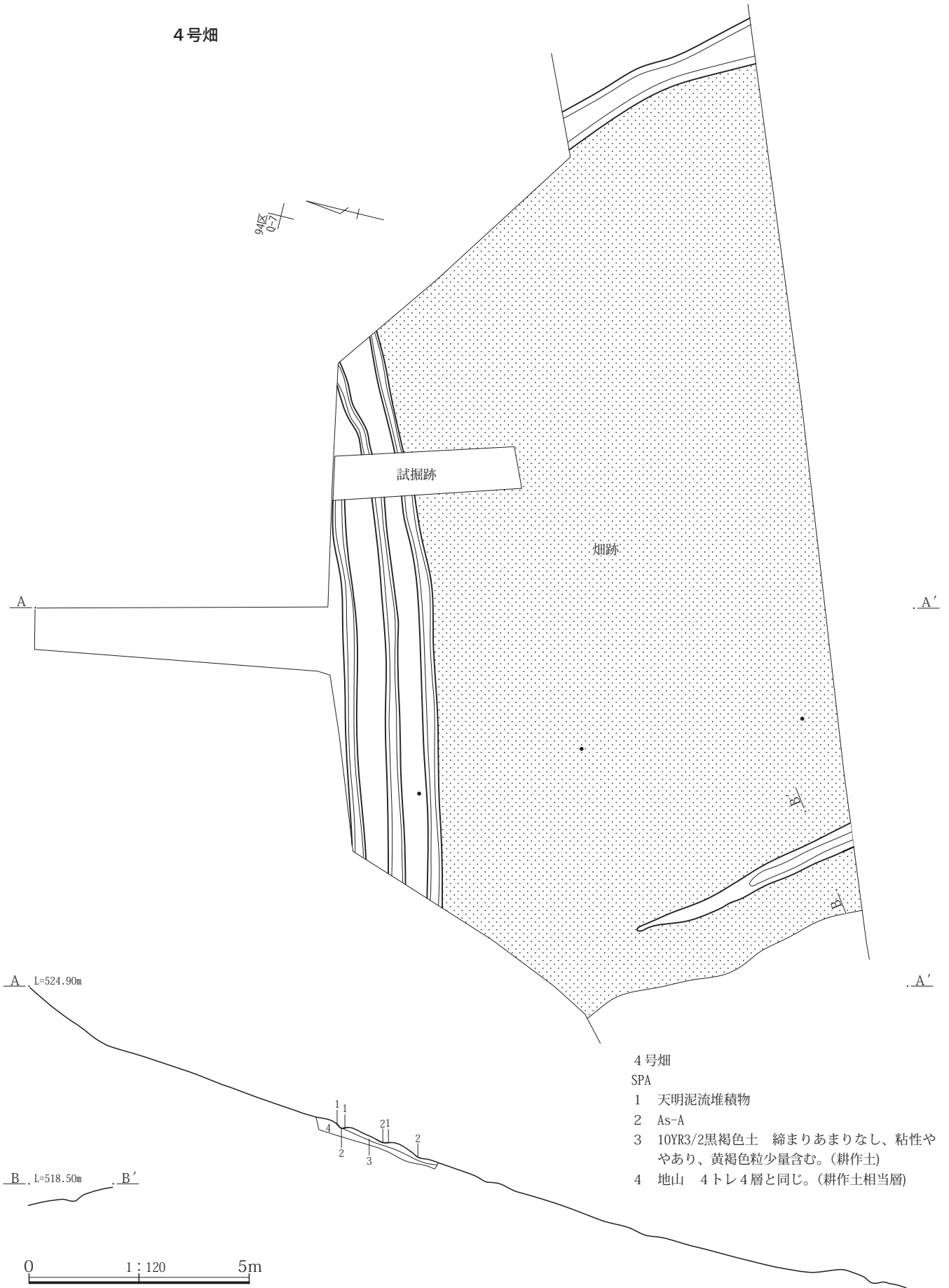
1号畑の北東に存在する2号畑も基本的には1号畑に連続する畑面であると考えられる。

1号石垣

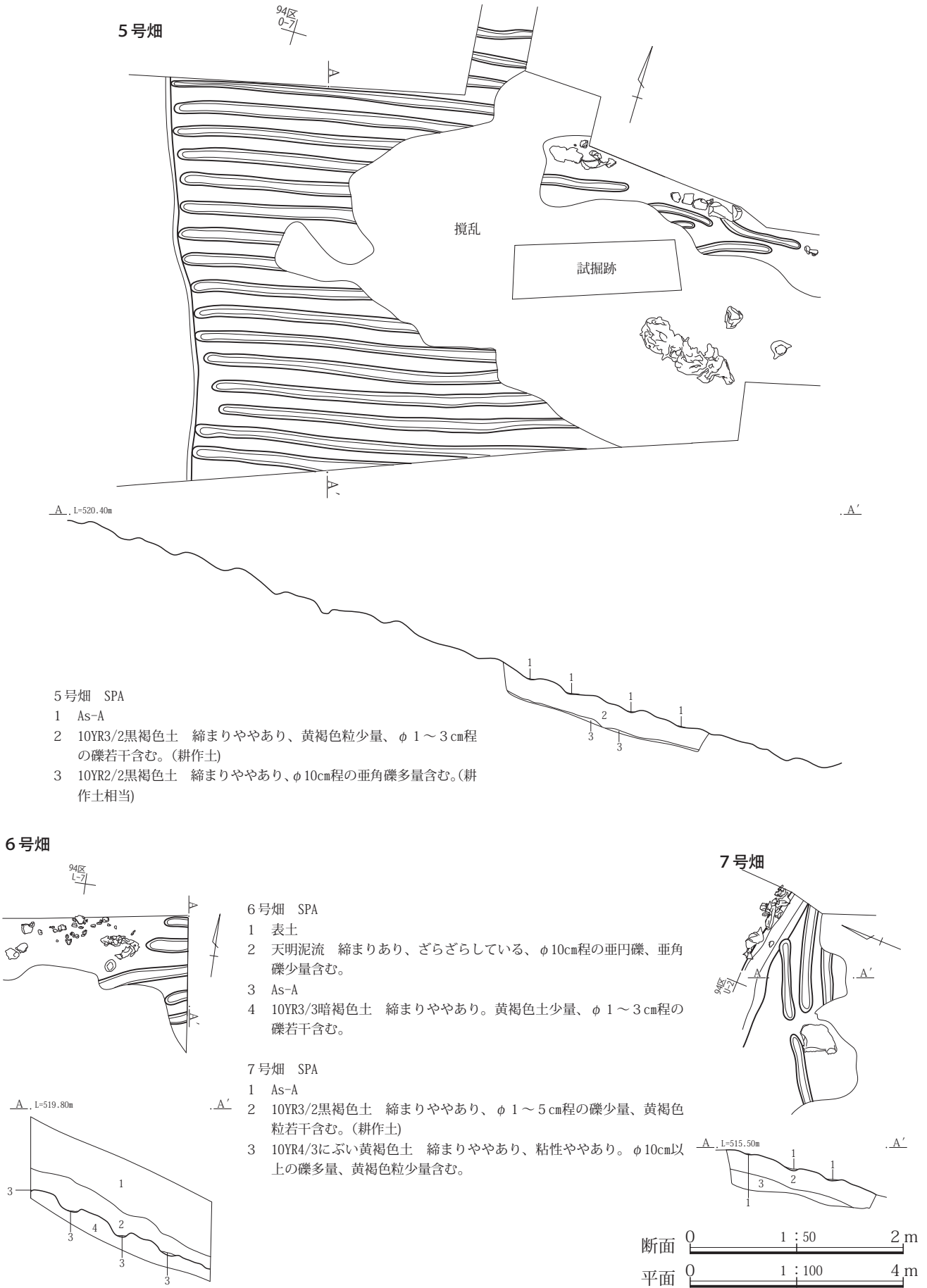


第27図 石畑遺跡1号石垣

4号畑



第28図 石畑遺跡4号畑平面図・断面図



第29図 石畑遺跡5・6・7号畑平面図・断面図

9・10号畑

11号畑

号石垣(第19図)2面からは2号石垣(第23図)を検出した。このような状況を見る限り、調査地点周辺は決して耕作に適した状況では無かったことがわかる。

B区で検出された1号道及び付随する1号石垣は、天明泥流以降に築かれたもので、長期にわたって利用されていたことが出土した銭からもわかる。(第27図)

4号畑はその大部分が天地返しによりその形を失っているが、残存部から見るとやはり等高線に直交して畝・サクが作られていたことがわかる。残存部のサクの幅は18cm~22cmで畝幅は34cm~40cmを計測する。4号畑はサクの幅と比較して畝の幅が広い。(第28図)

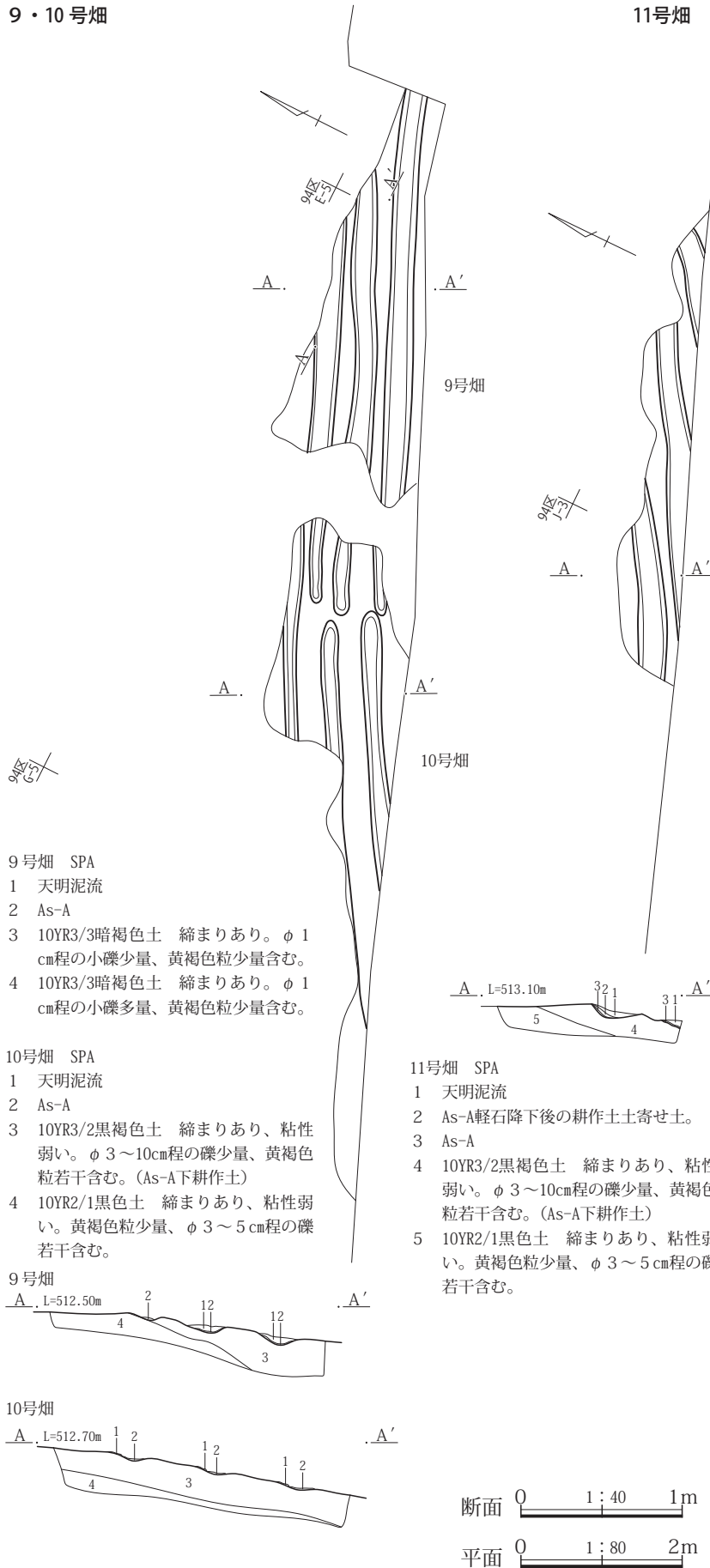
5号畑は西に続く天地返し部分の4号畑と連続していると考えられるが、畝の幅がかなり狭い。耕作された作物の違いか、耕作した人物の違いか不明であるが、少なくとも畑の単位が異なるようである。サクの幅は20cm~28cmで平均的には24.4cmで、畝幅は18cm~26cmでを計測し平均的には21.4cmである。(第29図)

6号畑はB区北側東端で検出された。やはり等高線に直交して耕作され、サクの幅は18cm~28cmで、畝の幅は20cm~24cmを計測する。(第29図)

7号畑はB区北側西で検出された。これも等高線に直交して耕作され、サクの幅は16cm~22cmで、畝の幅は16cm~18cmを計測する。(第29図)

9・10号畑はB区南旧道下の東側で検出された。旧道部分は他と比較して緩斜面であるが、やはり等高線に直交して耕作されており、サクの幅は18cm~24cmで畝幅は28cm~32cmを計測する。(第30図)

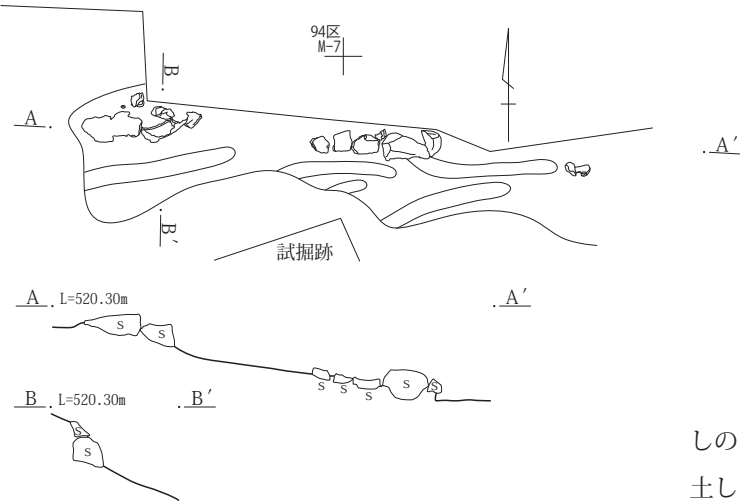
11号畑は10号畑の西に連続する畑で、等高線に直交して耕作され、サクの幅は30cm~32cmで畝幅は12cm~28cmである



- 9号畑 SPA
- 1 天明泥流
 - 2 As-A
 - 3 10YR3/3暗褐色土 締まりあり。φ 1 cm程の小礫少量、黄褐色粒少量含む。
 - 4 10YR3/3暗褐色土 締まりあり。φ 1 cm程の小礫多量、黄褐色粒少量含む。
- 10号畑 SPA
- 1 天明泥流
 - 2 As-A
 - 3 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。φ 3~10cm程の礫少量、黄褐色粒若干含む。(As-A下耕作土)
 - 4 10YR2/1黒色土 締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒少量、φ 3~5 cm程の礫若干含む。
- 11号畑 SPA
- 1 天明泥流
 - 2 As-A軽石降下後の耕作土土寄せ土。
 - 3 As-A
 - 4 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。φ 3~10cm程の礫少量、黄褐色粒若干含む。(As-A下耕作土)
 - 5 10YR2/1黒色土 締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒少量、φ 3~5 cm程の礫若干含む。

第30図 石畑遺跡9・10号畑平面図・断面図

3号石垣



が、計測位置により幅が大きく変化する。
(第30図)

3号石垣はB区北西で6号畑に接して築かれている。40～60cm大のやや大きめの角礫を根石に据えて石を積んでいる。

4号石垣は4号畑の南西に位置し、7号畑に隣接するが極めて残存状態が悪い。大型の角礫がある部分に合わせて急斜面部分に石を積み上げている。

1号ヤックラは5号畑と4号畑の天地返しの中に存在し、東西方向に集石されている。遺物が出土していないため、築造時期は確定できないが東に隣接する5号畑西の石列より新しい。

4号石垣

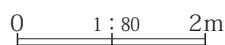


第37図の1号ヤックラの断面図を見ると、7号畑西の石列の手前に浅い溝があり、ここにAs-Aが堆積している。更に断面を西に追っていくと角礫が存在しており、これは上の右図に示した西側の石列になる。更に断面を西に追うと、礫との位置関係は微妙であるが窪みがあり、As-Aが堆積している。すなわち、石列が2列とその外側に2条の溝が存在したと考えられることから、1号ヤックラの下は道であった可能性も想定できる。

2号ヤックラはB区北東端部に存在する。天明泥流下で風化した岩石を集めている。

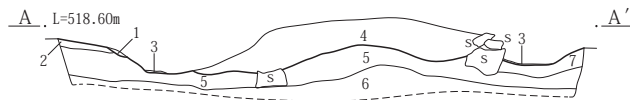
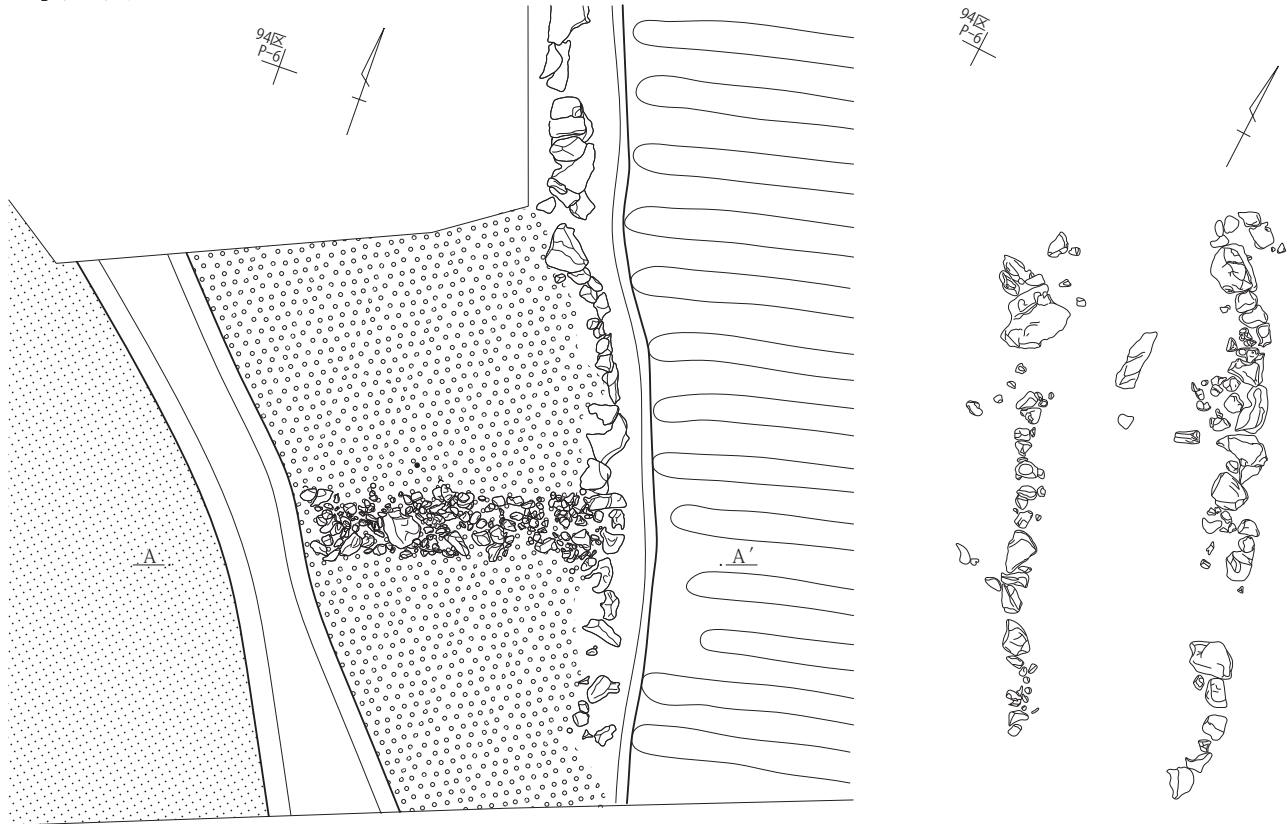
2面以下の面の遺構確認のため確認調査を行ったが、遺構は検出されなかった。(第33～35図)

7号トレンチから縄文前期後葉の土器片が出土している。(第35図)

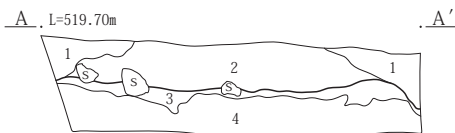
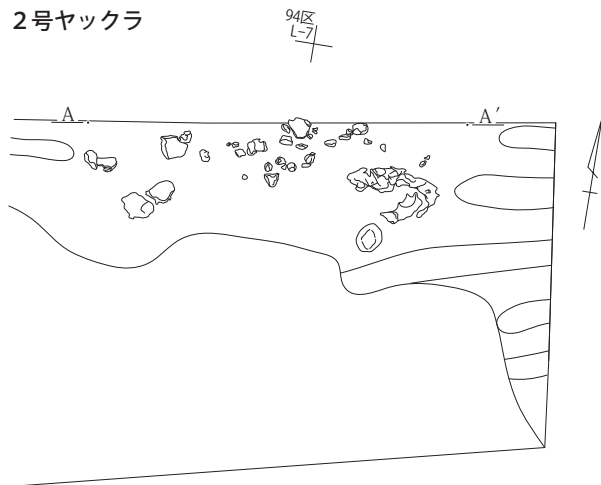


第31図 石畑遺跡3・4号石垣平面図・断面図

1号ヤックラ

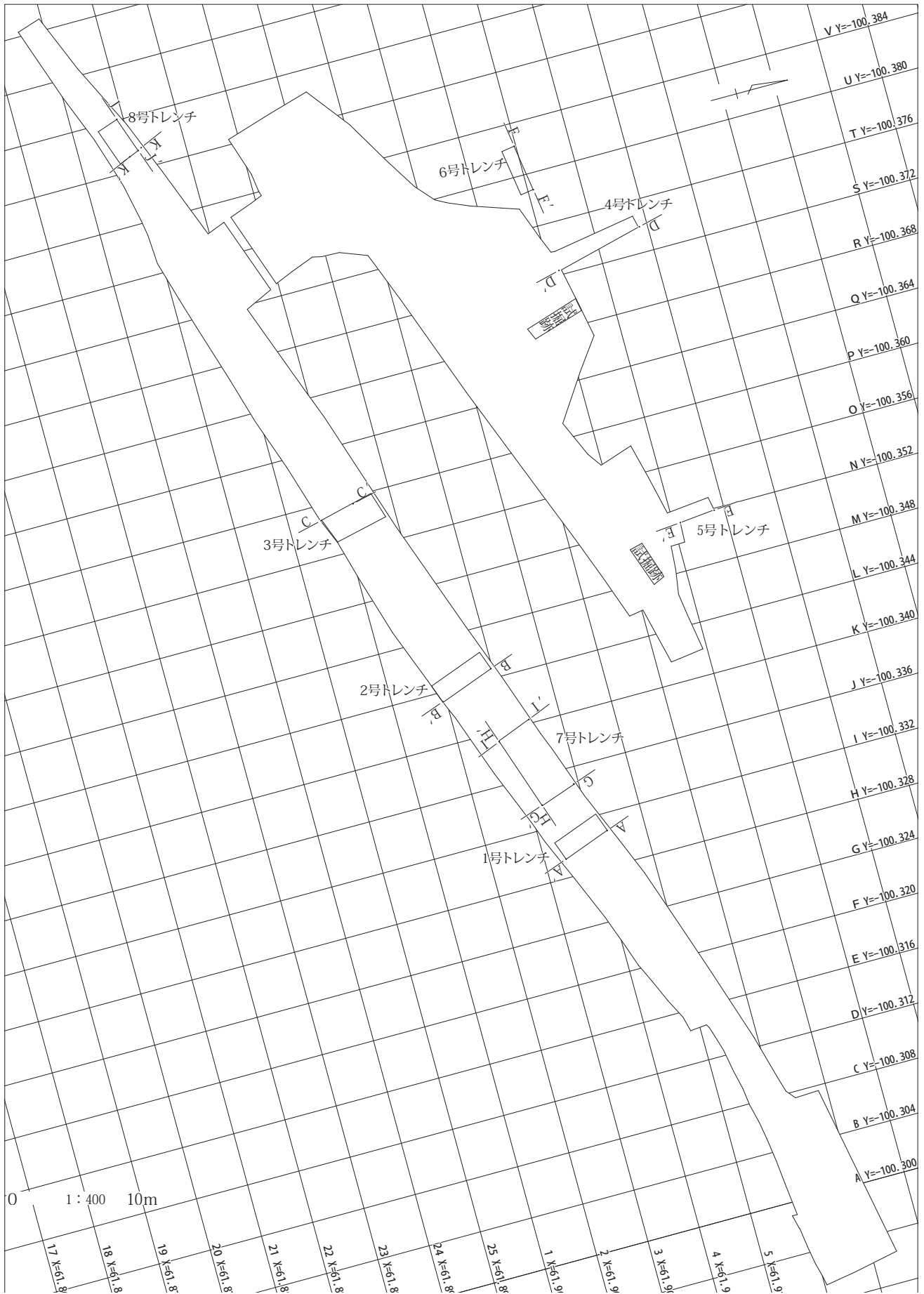


2号ヤックラ



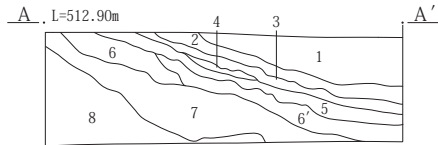
- 1号ヤックラ SPA
- 1 天明泥流
 - 2 As-A混じり耕作土 (4号畑SPBの4層と同様)
 - 3 As-A
 - 4 10YR3/3暗褐色土 締まりややあり、φ10cm程の亜角礫大。
 - 5 10YR3/2黒褐色土 締まりややあり、粘性ややあり。φ10cm程の亜角礫少量、黄褐色粒少量含む。
 - 6 10YR2/2黒褐色土 締まりややあり、粘性ややあり。φ10cm程の礫多量、黄褐色粒少量含む。
 - 7 10YR3/2黒褐色土 締まりややあり。黄褐色粒少量、φ1~3cm程の礫若干含む。(耕作土)
- 2号ヤックラ SPA
- 1 天明泥流 所々2層との間にAs-Aがみられる。
 - 2 10YR3/3暗褐色土 締まりややあり、やや砂質。φ10~30cm程の亜角礫大。
 - 3 10YR3/3暗褐色土 締まりややあり、粘性ややあり。風化した岩石片(黄褐色)少量含む。
 - 4 10YR4/4にぶい黄褐色土 締まりあり。風化した岩石層。

第32図 石畑遺跡1・2号ヤックラ平面図・断面図



第33図 石畑遺跡B区全体図

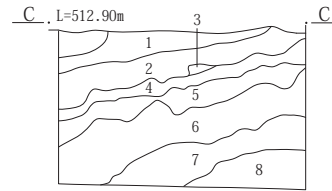
1号トレンチ



1号トレンチ

- 1 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。φ 3～10cm程の礫少量、黄褐色粒若干含む。(As-A下耕作土)
- 2 10YR2/1黒色土 締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒少量、φ 3～5 cm程の礫若干含む。
- 3 10YR2/2黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。にぶい黄褐色火山灰(As-Kkか)少量まばらに含む。炭化物粒若干含む。
- 4 10YR2/2黒褐色土 As-Kk及びAs-Bを多く含む。部分的に上部が青灰色、下部が黄褐色火山灰に分かれる。
- 5 10YR2/2黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。φ 10～20cm程の礫含む。
- 6 10YR4/4褐色土 締まりややあり、粘性ややあり。φ 10～20cm程の亜角礫含む。
- 6' 6層より土が暗い。黒褐色土。含有物同じ。
- 7 10YR2/1黒色土 締まり弱く、粘性あり。φ 10～30cm程の亜角、風化した礫含む。
- 8 10YR3/2黒褐色土 φ 10～30cm程の亜角礫多量、黄褐色粒少量含む。

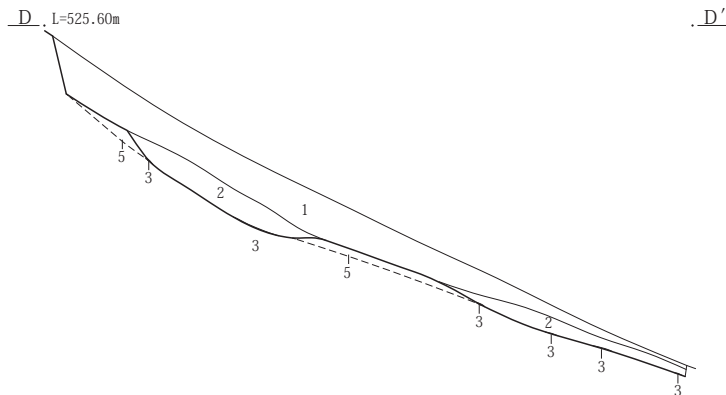
3号トレンチ



3号トレンチ

- 1 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。φ 3～10cm程の礫少量、黄褐色粒若干含む。(As-A下耕作土)
- 2 10YR2/1黒色土 締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒少量、φ 3～5 cm程の礫若干含む。
- 3 As-Kkか ゼラゼラしている。
- 4 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色土40%程、黄褐色粒若干含む。
- 5 10YR2/1黒色土 締まりややあり、粘性ややあり。黄褐色粒少量、炭化物粒若干、φ 3～5 cm程の礫若干含む。
- 6 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色土30%程、黄褐色粒若干含む。
- 7 10YR3/2黒褐色土 締まりあまりなし、粘性弱い。黄褐色粒少量含む。
- 8 10R3/2黒褐色土 締まりややあり、粘性あり。黄褐色土、褐色粒若干含む。

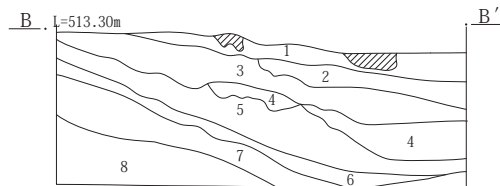
4号トレンチ



4号トレンチ

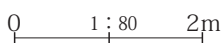
- 1 10YR3/2黒褐色土 締まりあまりなし。φ 3～10cm程の円礫多量。天明泥流堆積物が攪拌・耕作された層。(表土)
- 2 10YR3/3暗褐色土 締まりあり。黄褐色粒少量、φ 3～20cm程の円礫多量。ざらざらしている。(天明泥流堆積物)Kkか)少量まばらに含む。炭化物粒若干含む。
- 4 10YR2/2黒褐色土 As-Kk及びAs-Bを多く含む。部分的に上部が青灰色、下部が黄褐色火山灰に分かれる。

2号トレンチ

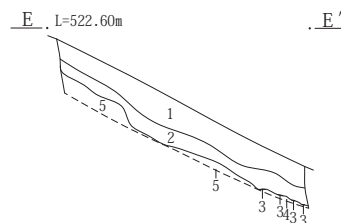


2号トレンチ

- 1 10YR2/1黒色土 締まりややあり、粘性ややあり。φ 1～3 mm程の黄褐色粒(As-YPか)少量、炭化物粒若干含む。
- 2 10YR5/8黄褐色土 締まりややあり。φ 3～50mm程の礫少、黒褐色土若干含む。
- 3 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。As-YP軽石少量、黄褐色土ブロック状に多量、炭化物粒少量、黄褐色粒少量、φ 5～10cm程の亜角礫若干含む。
- 4 10YR2/2黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色粒少量、φ 5～20cm程の礫少量、炭化物粒若干含む。
- 5 10YR4/4褐色土 締まりあり、粘性ややあり。やや砂質。黄褐色粒少量。φ 5～10cm程の亜角礫少量含む。
- 6 10YR2/2黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色土少量。φ 5～10cm程の礫少量含む。
- 7 10YR3/3暗褐色土 締まりあり、粘性他の層より強い。黄褐色粒少量、φ 5～10cm程の礫少量含む。
- 8 10YR2/2黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色土少量、φ 5～10cm程の礫少量含む。黒色層より色調やや明るい。層が互層状に続いている。



5号トレンチ



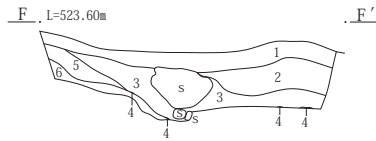
5号トレンチ

- 1 10YR3/2黒褐色土 締まりあまりなし。φ 3～10cm程の円礫多量。天明泥流堆積物が攪拌・耕作された層。(表土)
 - 2 10YR3/3暗褐色土 締まりあり。φ 3～20cm程の円礫多量に含む。ざらざらしている。(天明泥流堆積物)
 - 3 As-A
 - 4 10YR2/2黒褐色土 締まりややあり。φ 10cm程の亜角礫多量に含む。(耕作土相当)
 - 4' 4層より礫が取り除かれている層。(耕作土)
- ※トレンチ内南側にAs-A下畑を2条ほど確認。

第34図 石畑遺跡B区1～5号トレンチ断面図

第3章 発見された遺構と遺物

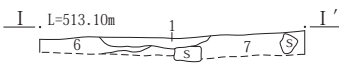
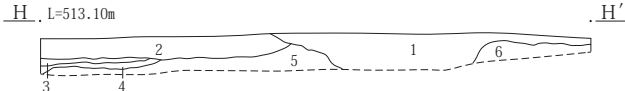
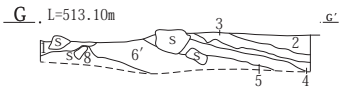
6号トレンチ



6号トレンチ

- 1 10YR3/2黒褐色土 締まり弱い、粘性なし。大量の植物根の影響あり。
- 2 10YR3/1黒褐色土 締まりあまりなし。φ 5～10cm程の礫大量に含む。植物根の影響わずかにあり。
- 3 10YR3/1黒褐色土 締まりあり。φ 5～20cm程の礫大量に含む。(天明泥流堆積物)
- 4 As-A
- 5 10YR3/2黒褐色土 締まりややあり、粘性ややあり。黄褐色粒若干、φ 10cm程の亜角礫量含む。
- 6 10YR3/3暗褐色土 締まりややあり、粘性ややあり。白色粒少量、φ 10cm程の礫若干含む。

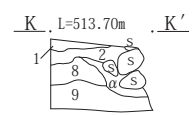
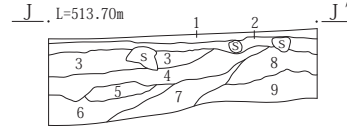
7号トレンチ



7号トレンチ

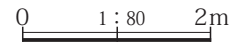
- 1 カクラン
- 2 10YR3/2黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。φ 5～10cm程の礫少量、黄褐色粒少量含む。(耕作土相当)
- 3 10YR3/2黒褐色土(2層よりやや黒味強い。) 締まりややあり、黄褐色粒少量、φ 3～5 cm程の礫若干含む。
- 4 10YR3/2黒褐色土に10YR3/3暗褐色土混じる 締まりややあり、粘性ややあり。黄褐色粒少量、炭化物粒若干含む。
- 5 10YR3/2黒褐色土 黄褐色粒少量、炭化物粒少量含む。
- 6 10YR5/6黄褐色土 締まりややあり。褐色粒少量、炭化物粒少量含む。
- 6' 6層にφ 10～20cm程の亜角礫多量に含む。
- 7 10YR3/2黒褐色土 締まりややあり。黄褐色土ブロック状に40%程、黄褐色粒少量、φ 1～5 cm程の礫若干含む。
- 8 10YR2/2黒褐色土 締まりややあり。黄褐色粒少量、白色粒若干、炭化物粒若干含む、φ 1～10cm程の亜角礫若干含む。

8号トレンチ



8号トレンチ

- 1 5B3/1青黒色土 碎石混じり、締まりあり。砂質。
- 2 5B2/1青黒色土 黄褐色粒若干含む、φ 5 cm程の礫含む。1・2層はグライ化している。
- 3 10YR3/1黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色粒少量、φ 5 cm程の礫若干含む。
- 4 10YR3/1黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色粒少量、黄褐色土まばらに20%程含む。
- 5 10YR4/4褐色土 締まりあり、粘性なし。黄褐色粒少量、φ 5～10cm程の礫若干含む。
- 6 10YR3/1黒褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色の礫多量、φ 5～10cm程の礫含む。
- 7 10YR3/3暗褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色の礫少量、φ 10cm程の亜角礫少量含む。
- 8 10YR3/3暗褐色土 締まりあり、粘性ややあり。黄褐色粒少量、黒褐色土20%程含む。
- 9 10YR5/6黄褐色土 締まりあり、粘性ややあり。白色粒少量、黄褐色粒少量、φ 5～10cm程の礫含む。
- α 10YR3/1黒褐色土 締まりややあり。黄褐色粒少量、黄褐色土30%程含む。(石垣掘方の土)



第35図 石畑遺跡B区6～8号トレンチ断面図と出土遺物

第3表 石畑遺跡遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35図 PL.10	1	縄文土器 深鉢	7㍻ 体部破片	- -	細:石英・褐色粒/ 良好/浅黄橙色	幅狭の横位平行沈線以下に沈線による細身の木葉文を配す。無節Lを施す。内外面とも平滑な撫で調整	前後後葉

第4節 石畑 I 岩陰の調査

1 調査区と面

石畑 I 岩陰は長野原町川原畑大字石畑地内に存在し、長野原町と吾妻町の町境から600mほど吾妻川をさかのぼった左岸に位置する。

岩陰は南向きに開口し、岩陰と吾妻川の間には、JR吾妻線と国道が吾妻川に沿って東西に走っていた。標高は岩陰部で約519m、国道部で約509mである。

昭和53年に岩陰付近において鉄道敷設に伴う擁壁設置工事があり、群馬県教育委員会による発掘調査が行われ、縄文時代の土器や獣骨等が出土して注目を集めた。

今回調査された遺跡は、工事工程との関係で、遺跡を4回に分けて調査することになり、まず吾妻線軌道部分よりも北側の地区をB区、国道145号線よりも南側の地区をA区として2区分し、更に北から南に向かってB区の岩山の下のいわゆる岩陰の地点をB区北、吾妻線の軌道地点をB区南、A区の国道145号線(八ッ場ダム建設工食用道路)下の地点をA区北、そして工事用車両の駐車場になっている道路の南側地点をA区南として4区に分けて調査を進めた。(第36図)

標高は岩陰部のB区北で519m、国道部のA区北で509mを計測する。

石畑 I 岩陰は、岩場の上に土壌が堆積しているため、降雨や掘削によって崩落する危険が伴っていた。また岩場と擁壁の間の狭い部分の調査も対象地となっており、掘削深度や掘削壁の角度など、安全対策に十分留意した上で、最大限の成果を上げられるように調査を進めた。

A区南では計4面の調査を行った。1面では天明泥流下の畑3区画と道2条を検出した。他の区においては天明3年以前の江戸時代の面を2面とするため、As-Kkが乗る古代の面を2面より古い2.5面として調査を進めた。ここでは焼土を1基検出した。

3面では埋土に縄文土器をやや多く含む自然流路を1条検出し、多くの縄文土器片・石器を検出した。4面も多くの縄文土器片・石器を検出したが遺構は伴っておらず包含層として処理した。

A区南では調査区の中央部から東部でAs-A下の畑が検出された。中央部ではAs-Aの堆積が比較的厚かったため

畝・サクが良好に残存していた。(第52図)

この中央部の畑では、サクの中に径5～15cm程度の礫が大量に入った箇所があった。

天明三年の浅間山噴火以前にこの畑が土砂崩れなどに覆われた後、復旧するためにそれらの礫を取り除いた際に残されたものか、あるいはあるいはサクに埋めたものと推測される。中央部北では表土の下に土砂崩れによるものとみられる砂礫を多く含む土層があり、その下にあるAs-Aや天明泥流と見られる層が不明瞭であった。このような状況は東部の畑跡でも顕著に見られる。

サクに残った軽石の列が所々途切れている様子が見られる箇所があった。砂礫を多く含む層の土層の下に、すぐに地山とみられる層が出る箇所もあった。

これらは天明三年の被災後、この畑を襲った土砂崩れなどに削り取られた痕跡と考えられる。

北側の急斜面下位に大量の礫が積まれた石垣が検出された。これは計画的に積まれた石垣ではなく、下位の畑などから取り除いた礫を急斜面部に張り付けるように積んでいったように見える。

調査区最上段の窪みを形成した崩落により、この石垣の一部が崩落したものと考えられる。

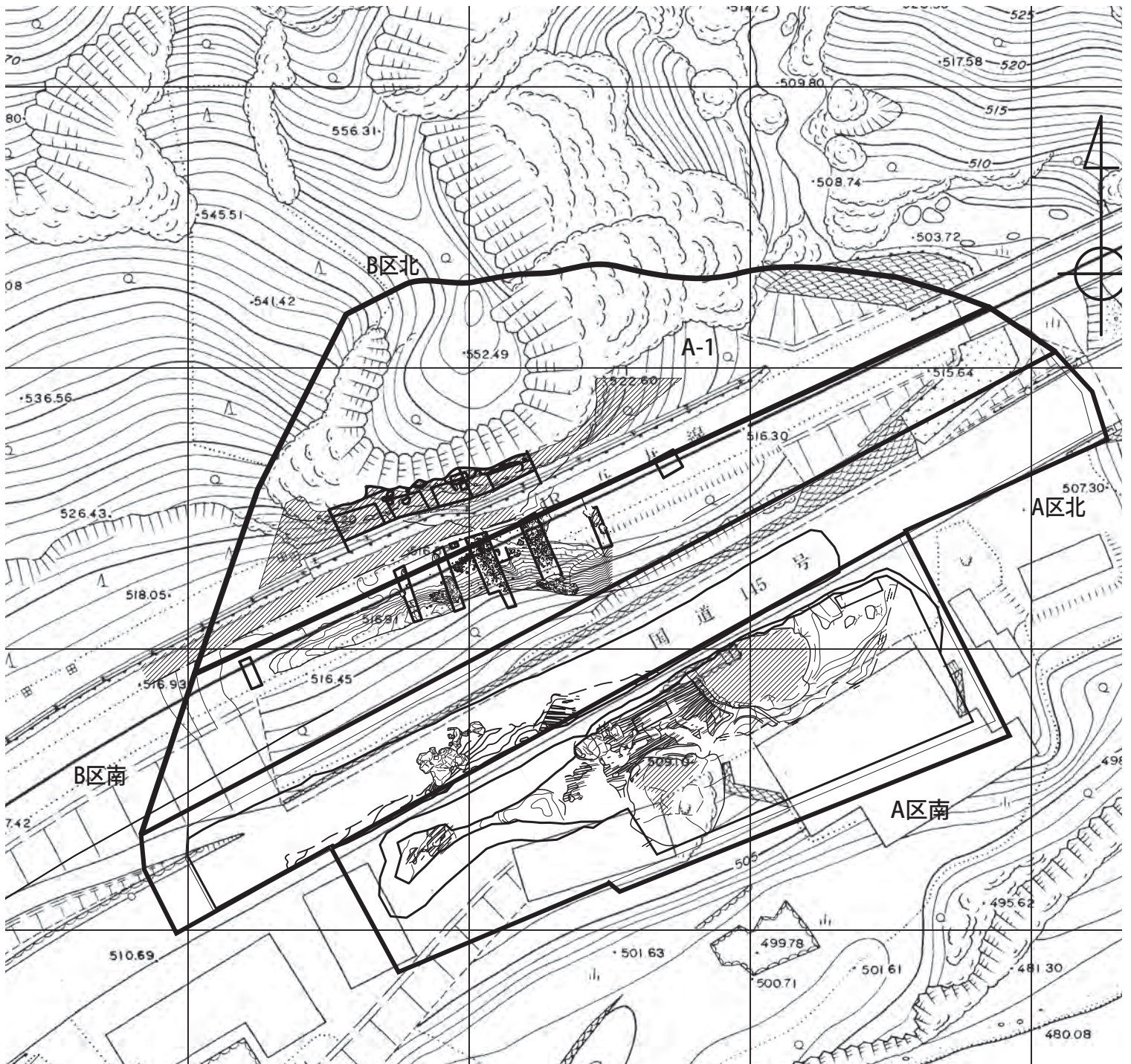
平成30年度にはA区北及び29年度からの継続でB区北の調査を行った。

A区北では天明泥流下の畑を検出した。29年度に調査された畑・道に連続する形で検出されると考えていたが、畑の耕作方向は僅かに異なり、連続する道は検出されなかった。

B区北では29年度に調査した区域の北側を岩陰岩体際まで掘り進めて調査を行った。その結果天明泥流直下で2か所の灰層を検出し、岩陰岩体の至近まで灰層が分布していることが判った。

下層を調査すると、B区北で古代の灰層が1か所検出され、獣骨(骨片)が出土した。骨片には焼けているものと焼けていないものが存在するが、いずれも細片となっている。

更に下層では灰層4箇所・土坑1基・溝1条を検出した。灰層は古墳時代から縄文時代晩期にかけての土器や獣骨片を多く含み、土坑からは弥生土器と共に鉄器1点が出土している。溝は人為的なものではない可能性がある。更に時期は不明であるが、落盤の間や下から大量の



第36図 石畑Ⅰ岩陰全体図

獣骨片が出土した。

A区北では縄文前期を主体とする比較的幅広い時期の包含層が確認された。

令和元年度にはB区南の調査を行った。調査区の南北は擁壁の建設によって攪乱の受けているため、擁壁の間部分について調査を行った。その結果、調査区南側の一部でAs-Aを検出し、江戸時代(天明期)の東西方向の道路と天明以降の道路を検出した。(第37図)

B区南は調査区が狭小であるため、全面掘削は崩落の危険があるため、安全を考慮して第1面以降は7箇所の特レンチを設定して掘削を行った。(第90図)

岩陰の中心部付近に設定した特レンチからは、古墳時代から弥生時代の土器が複数点出土した。しかしこの時期の遺構は検出されなかった。

更に深く調査を進め縄文晩期から早期の土器片を複数点検出したが、遺構や灰層は検出されなかった。

2 検出された遺構と遺物

石畑I岩陰は岩山から岩がせり出して形成しているいわゆる岩陰部分のB区北と吾妻線路線のB区南、道路部分のA区北、国道と吾妻川の間A区南の4区に分割されることは既に述べたが、同一調査面である1面の検出された標高が、北端のB区北は約518mであるのに対し、南端のA区南では508m前後であり、近接する調査区で同じ面の比高差が約10mもある。

更にB区は北側に岩山が迫る急斜面であるのに対し、A区は吾妻川へ張り出したやや広い緩斜面でありA区とB区では地形的な差が認められることが、平面図からわかる。(第36図)

更にB区北では他の地区と異なり天明泥流の上の面を1面とした。これは表土下の2層の下で幾度も火を燃やして灰がたまった跡である灰層が検出されたためである。

次に天明泥流下でやはり灰層が確認されたため2面とした。この面にはAs-Aが広く分布している箇所があり、2号灰層が存在する。

3面はやはり灰が分布しているが、6号灰層、8号灰層が分布している。

4面も灰が分布しており、7号灰層、12号灰層が分布している。

5面も灰が分布しており9号灰層が分布している。上面には礫交じりの黒色土で骨片を大量に含む17層が存在する場合があります、細かな砂礫層がかぶっている。

6面には灰層が見られなくなり遺物の包含層のみが存在する。

B区南は調査区の南と北がコンクリート擁壁建設の際の攪乱を受けているため非常に狭小であり、全面を深く掘削するのは崩落の危険があるので、擁壁の間部分を調査した。1面が確認され調査されたが、1面以下の面確認に関しては7箇所のトレンチを掘削して調査を行った。

その結果縄文時代早期・晩期及び弥生から古墳時代の土器片を検出したが生活面は検出できなかった。(第91～94・96～113図)

A区北では1面が確認され、天明泥流下の畑を検出した。(第38図)

2面は全体が南東に傾斜しており、遺構は検出されなかったが、調査区中央・部付近から弥生時代から古墳時代の土器が出土した。(第39・46図・49図)

3面からは遺構は検出されなかったが、縄文早期～晩期の土器・石器類が数多く出土した。(第44図～46図)

4面はトレンチを入れながら面の確認を行った。Hトレンチの断面を見ると南に向かって地山が崩落している様子が判った。更に少し下げると、拳大の円礫が多数見られた(Eトレンチ)。遺物は出土していない。

A区南はA区北の南に隣接している。調査区内に、径10mを超える巨大な礫が2基と、手で動かせない巨礫が多数存在している。また調査区南東部は吾妻川へ下る急崖になっており遺構は存在しない。(第60図)

表土を除去して調査を進めると、調査区北東部に一部であるが天明泥流が残存しており、泥流下から1面の畑が検出された。

A区南の2面は1面の下で所々砂が分布する面が検出された。第49図に平面図を示したが、砂は巨礫の間に带状・島状に分布している。

実測し得なかったが土器の小片が数十点、巨石の西側から出土した。その中に実測可能な中世の甕が含まれている。更に2面とは時代が若干異なるが、縄文時代の石鏃が1点包含層から出土した。(第66図-26)

A区南の2面の下層には1128年降下のAs-Kkと考えられる火山灰が乗っていたので他の地点の3面より新しく2面より古い古代の面として2.5面として調査を進めた。(第55図)

A区南の3面は2基の巨礫の間を北西から南東へ向けて幅の広い自然流路が吾妻川河床の谷に向かって流れていた。

この流路の周囲及び上面周辺からはおびただしい数の遺物が出土した。遺物には縄文前期の花積下層・黒浜・諸磯a式土器片の他、弥生土器や古墳時代の碗・小甕等の破片が含まれている。かなり長期にわたって土地が利用されていたのであろう。(第64図)

A区南の4面は、3面の下に黄色い砂層があったためこの面において最終的な遺構確認を行った。しかし、上面の3層と異なり遺構・遺物共に検出されなかったためA区の調査を終了した。(第59図)

3 A区北の調査

1面の調査

A区北は石畑I岩陰全調査区の中央部分を横断している。調査区の上にはかつて国道145号線が通っていたため、道路建設のために大部分が削平を受けていた。しかし、区の中央部の南側に巨大な礫が存在していたため、その南東部分が削平から免れて僅かに泥流とAs-Aが残っていた。泥流下からは畑が検出された。(第57図)

明治時代に道路が造られた場所は現在の道路に引き継がれていると考えられ、寛永通宝と共に明治十七年銘の半銭銅貨が出土している。

◎1号畑

位置 D・E-17～18

重複 なし

内容 1号畑は、畑の西にある等高線を見てみると、等高線に対して直交する方向に耕作しているように見えるが、断面図A-A'を見ると、畝・サクは等高線に平行して耕作している。

すなわち隣接する岩の無い部分の地形と畑の傾きは異なっているのである。

ここから畝・サクが検出されなかったのは、地面に巨大な礫が存在するだけでなく、地形もやや急であることが原因であろう。

1号畑の西側は区切りが見られ畝の単位としては完了している。

区切りは幅30cm前後の区画となっており、道であった可能性がある。

1号畑のサクの幅は20～25cm、畝幅にはばらつきがあるが24～32cmである。

2面以下の調査

A区北2面からは遺構は検出されなかったが、5～6世紀代の甕・高台付碗・高台付甕等の小片がまとまった状態で出土した。(第54図)

A区北3面からは土器片や石器が多数出土した。

遺物が出土した地点を見ると調査区全体に点在しているのではなく、大型礫の東側に偏っていることがわかる。すなわち、人々の活動拠点は調査区全域にあるのではな

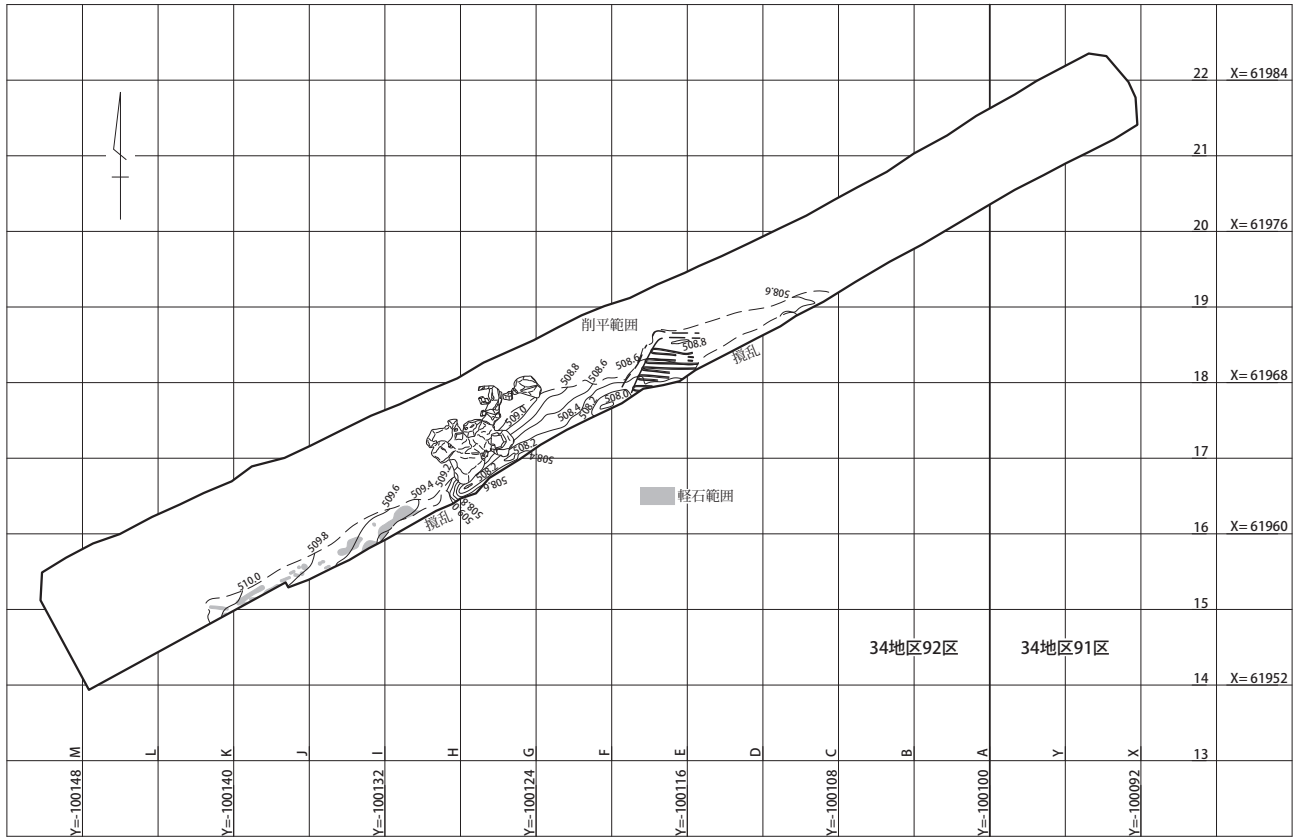
く、大礫の東側周辺にあったのであろう。(第40図)

遺物の内容を見ると、縄文前期の押型文・条痕文・花積下層・関山・黒浜・諸磯a・諸磯b式土器等で、弥生土器も含まれている。(第44～46図)

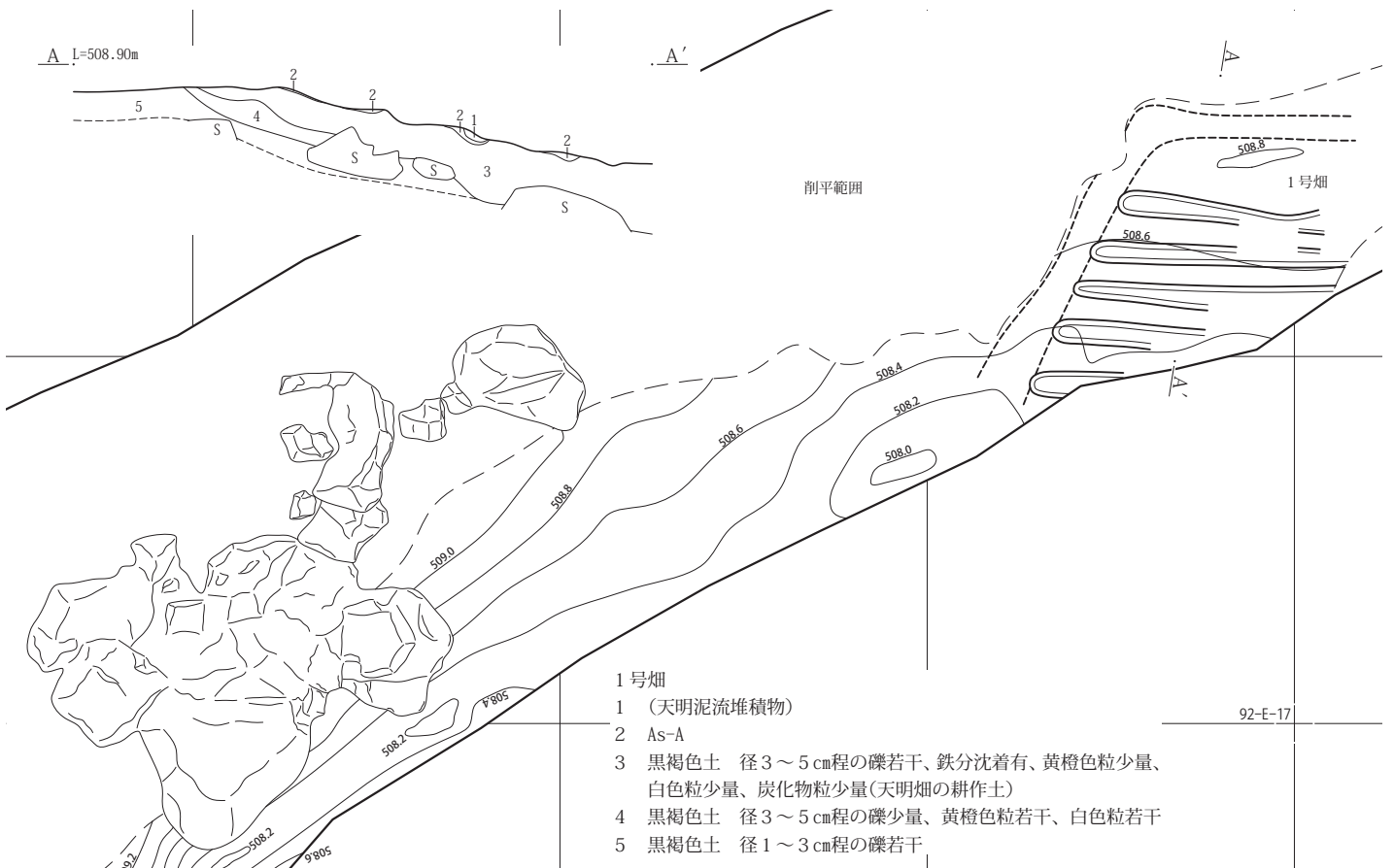
遺物の出土点数を見ると早期の条痕文系後半がやや多く、前期に入ると若干数が減るが、関山式から増え始め、黒浜・有尾、諸磯a・bでは最も数が多くなる。

その後中期に入ると徐々に数を減らし、勝坂2式以降は一時姿を消し、後期堀之内1・2式で再び姿を現し、その後は晩期の土器が出土している。

更にA区北の包含層から出土した遺物として石鏃2点と磨石1点をあげた。(第48図)

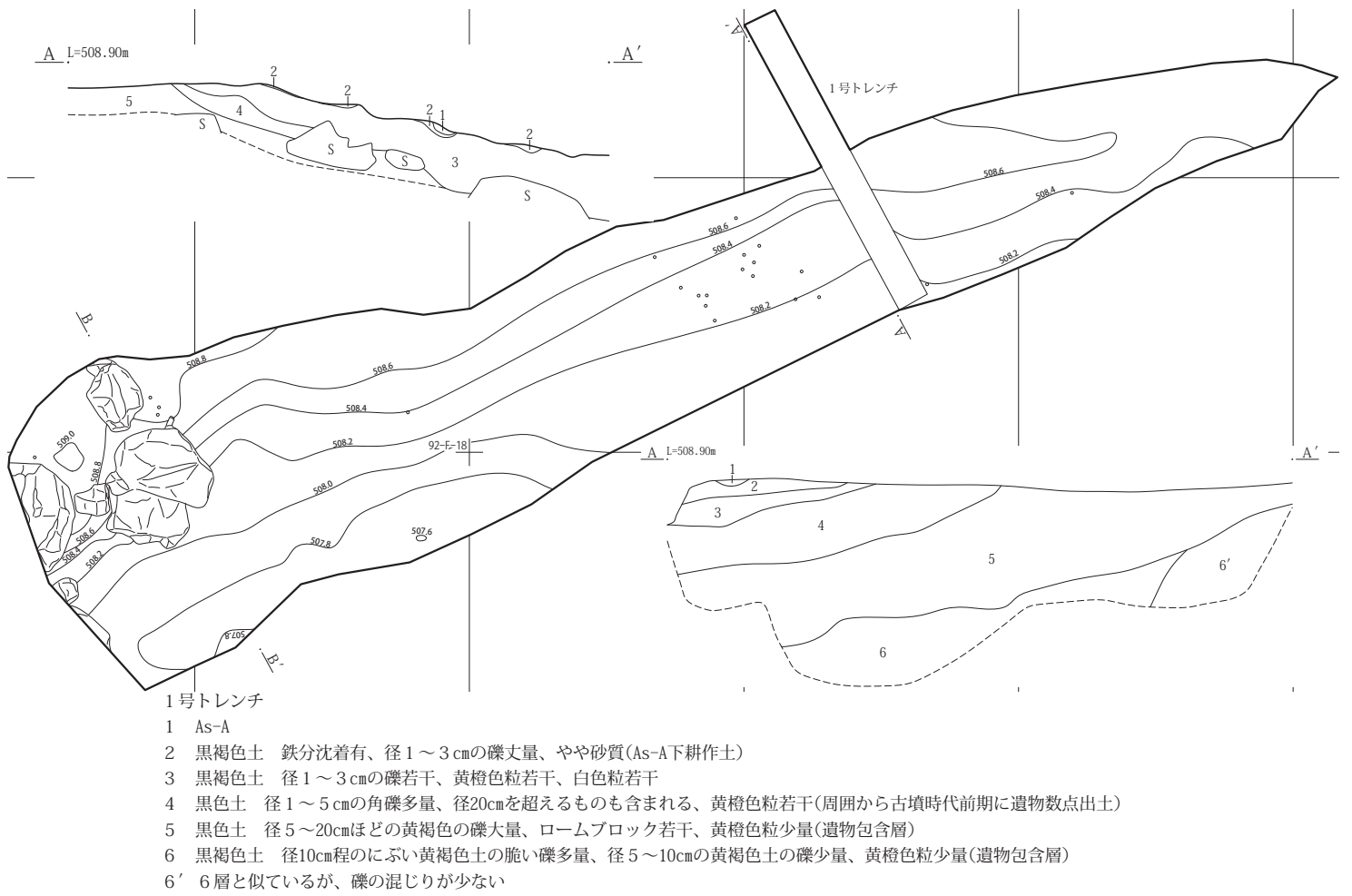


第37図 石畑I岩陰A区北第1面全体図

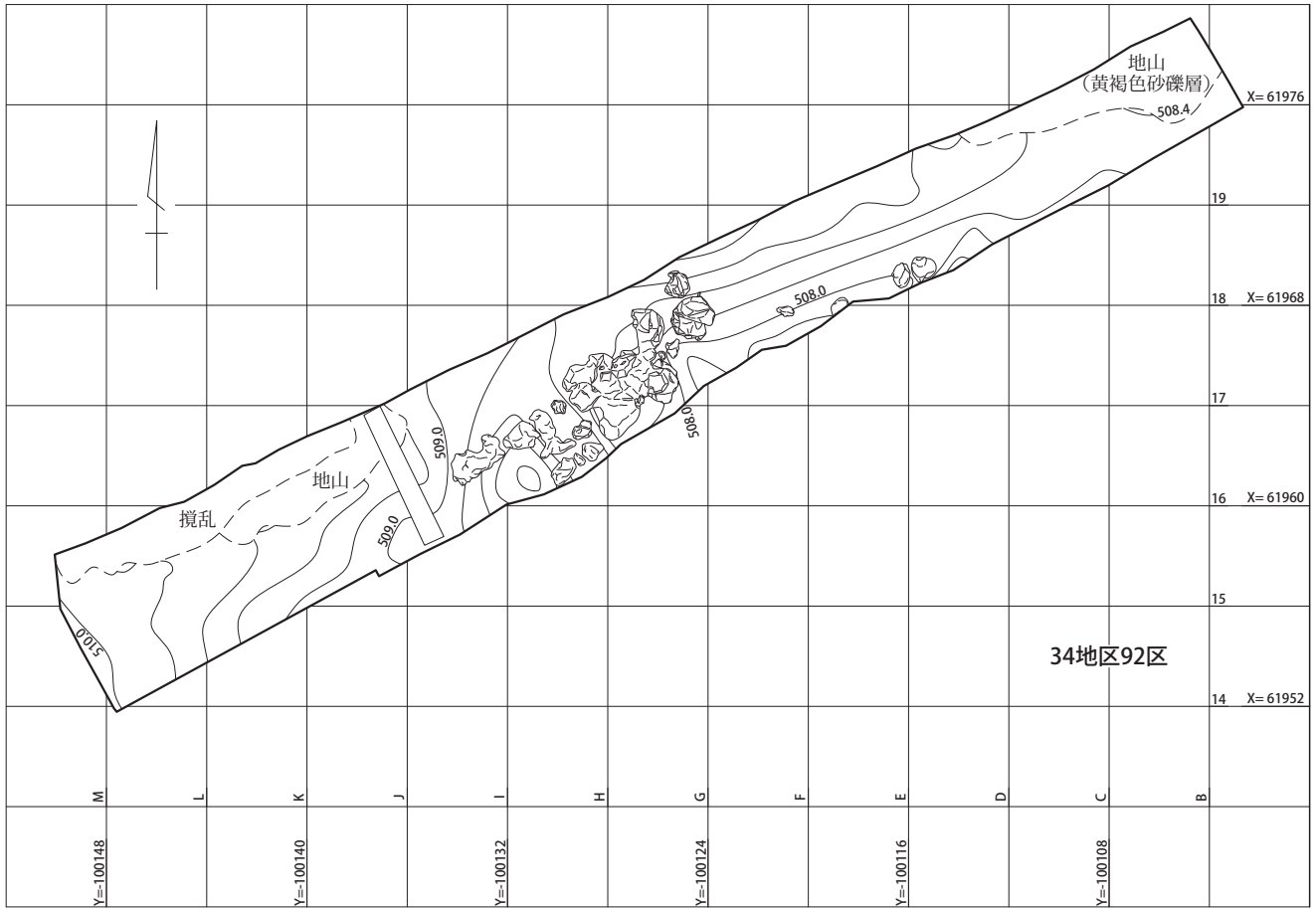


第38図 石畑I岩陰A区北第1面

第3章 発見された遺構と遺物



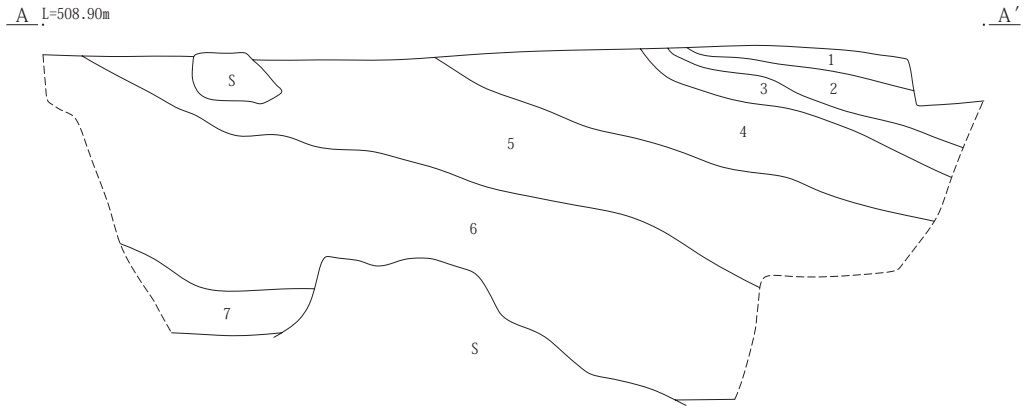
石畑Ⅰ岩陰A区北2面東側(東から)



第40図 石畑I岩陰A区北第3面全体図

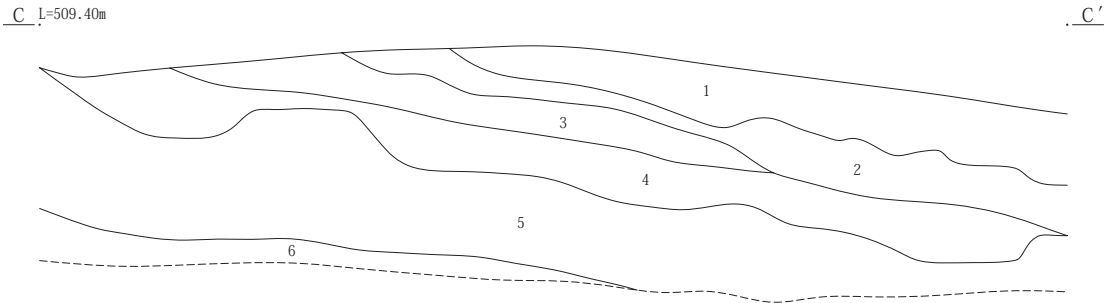


石畑I岩陰A区北3面東側(南西から)



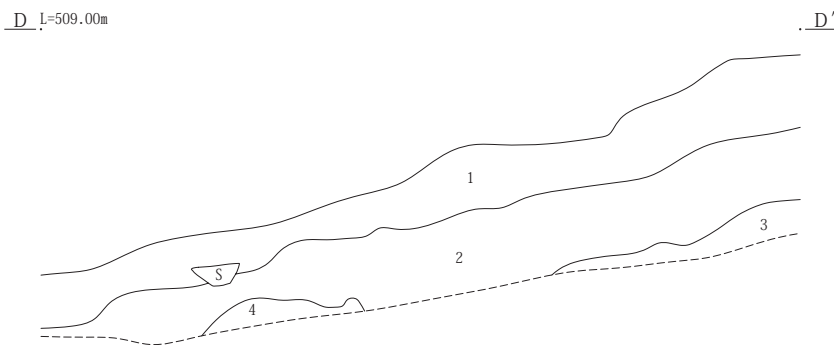
A-A'

- 1 黒褐色土 鉄分沈着有、径1～3cmの礫少量、白色粒若干、炭化物粒若干。上面にわずかにAs-A軽石を確認(As-A下耕作土相当)
- 2 黒褐色土 鉄分沈着有、径1～3cmの礫少量、黄橙色粒若干
- 3 黒褐色土 径1～5cmの礫少量、黄橙色粒・白色粒をすごくわずかに含む
- 4 黒褐色土 径3～20cmの礫大量、やや砂質
- 5 黒色土 径1～10cmの礫多量、径20～30cmの礫も含まれる、黄橙色粒若干、白色粒若干、やや砂質(縄文遺物包含層)
- 6 黒色土だが5層よりはやや明るい。径5～30cmの礫大量、黄橙色粒少量、白色粒少量(縄文遺物包含層)
- 7 暗褐色土 径2～5cmの礫少量



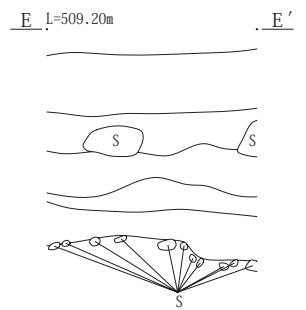
C-C'

- 1 黒色土 径3～10cmの歪角礫少量、黄橙色粒多量(遺物包含層)
- 2 黒褐色土 黄橙色粒多量、径5～10cmの礫若干
- 3 暗褐色土 やや砂質、径1～10cmの礫多量、黄橙色粒少量、白色粒少量
- 4 黒褐色土 径1～10cmの礫多量、黄橙色粒多量
- 5 暗褐色土～にぶい黄褐色土 やや砂質、径1～10cmの脆い礫多量、所々まとまって径10cm大の礫多量
- 6 褐色土 砂質、径5～10cmの歪円礫少量

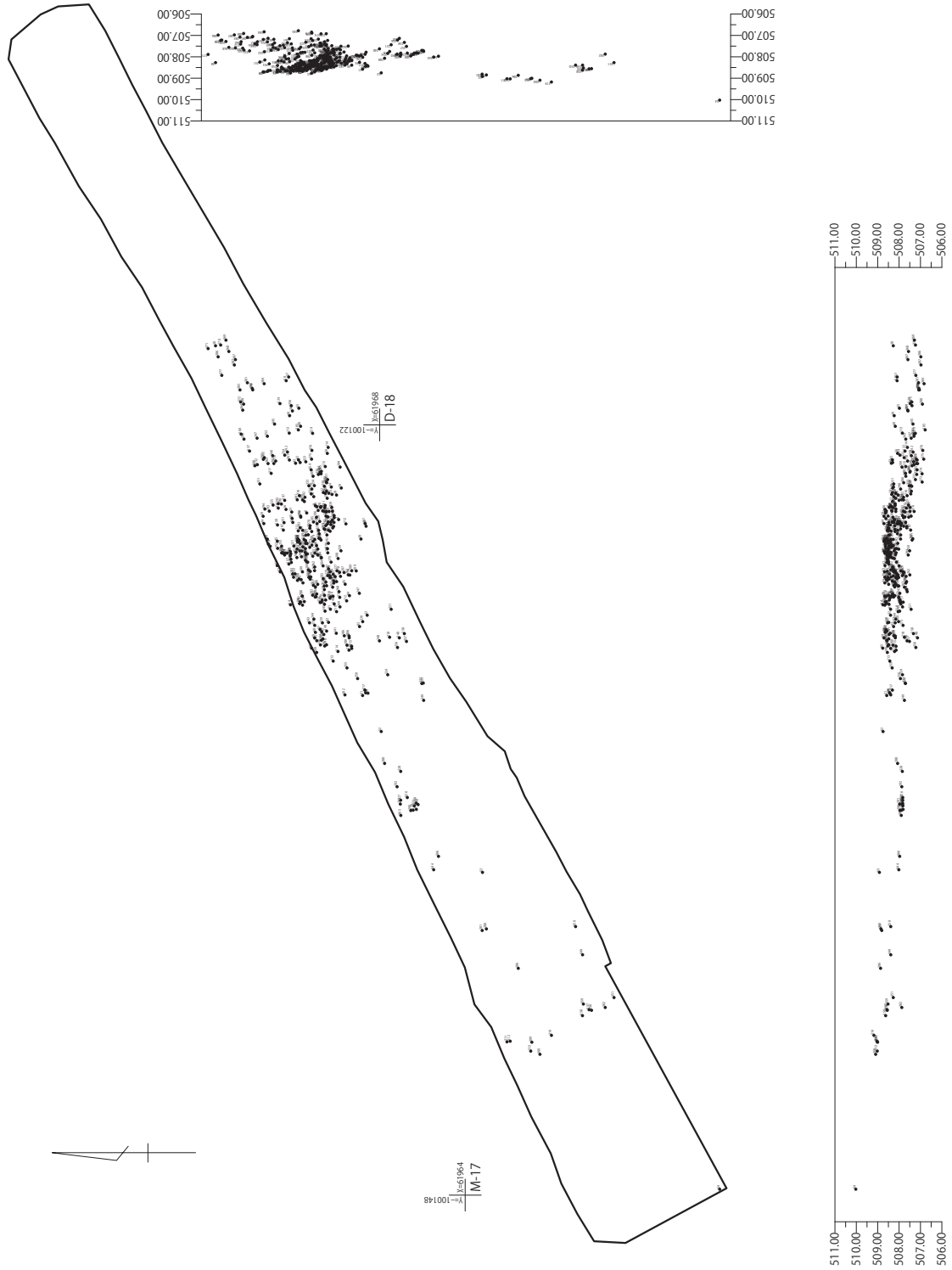


D-D'

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6

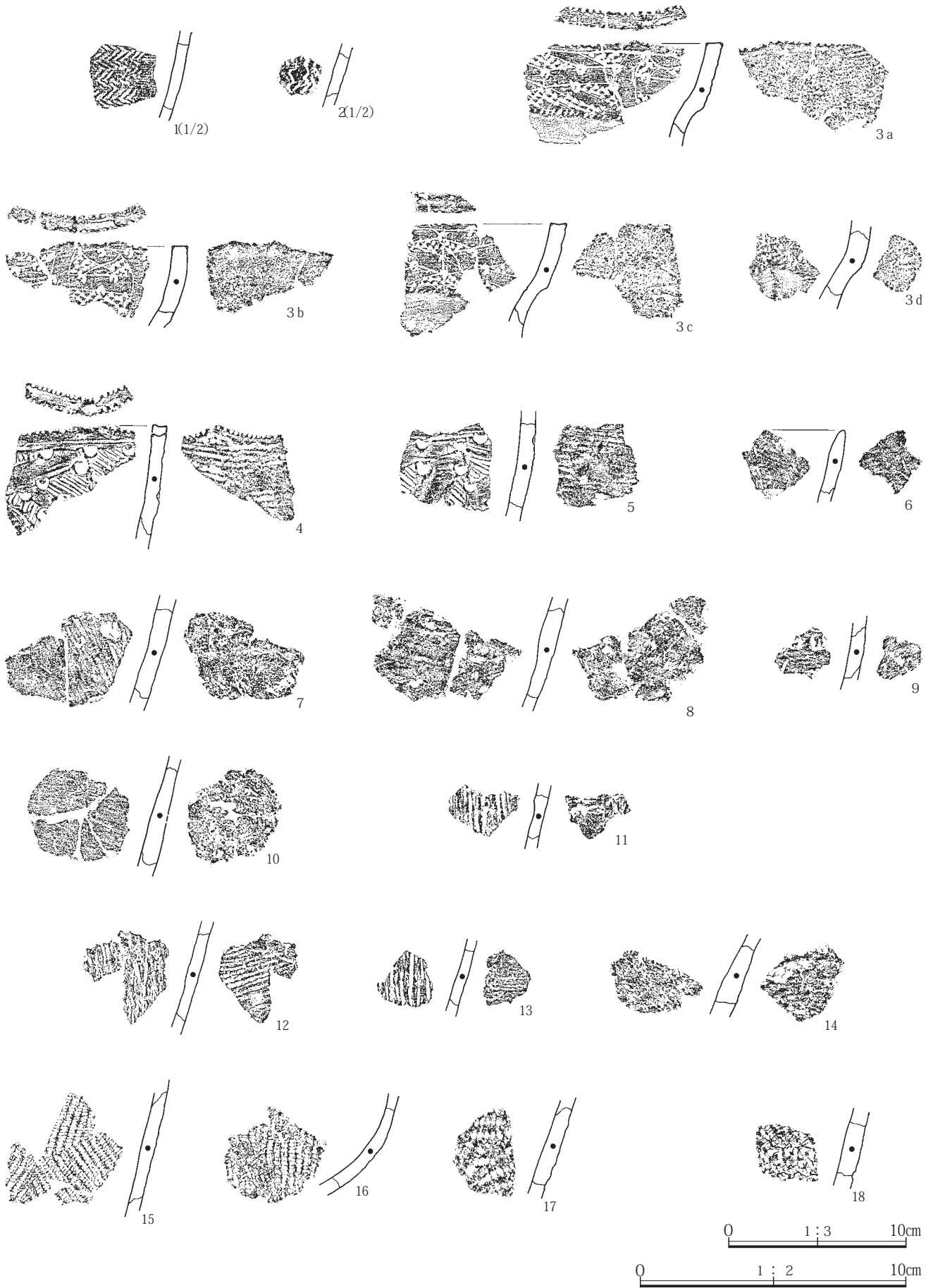


第42図 A区北 第3面断面図

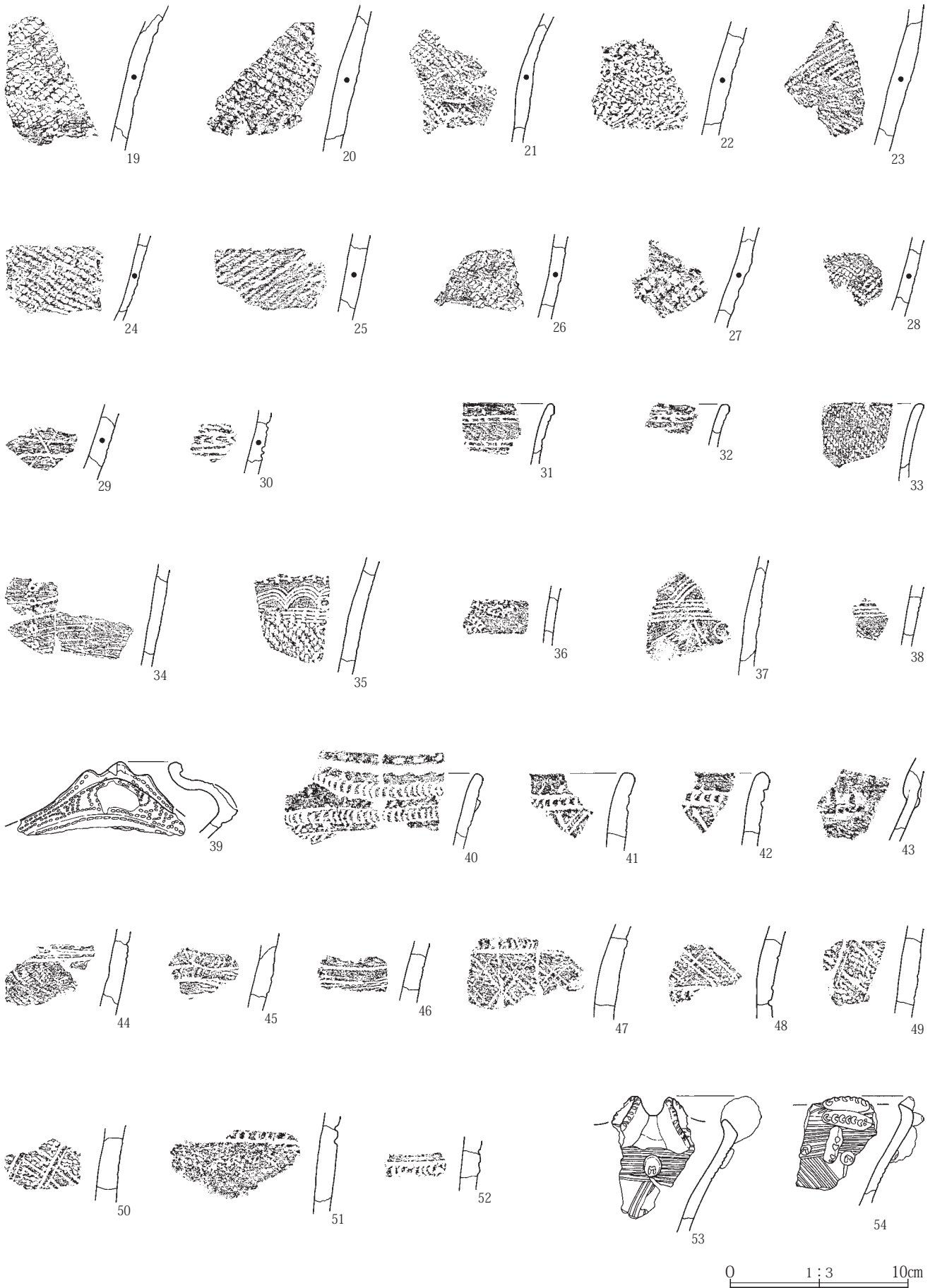


第43図 石畑 I 岩陰A区北 第3面遺物分布図

第43図 石畑 I 岩陰 A 区北第 3 面遺物分布図



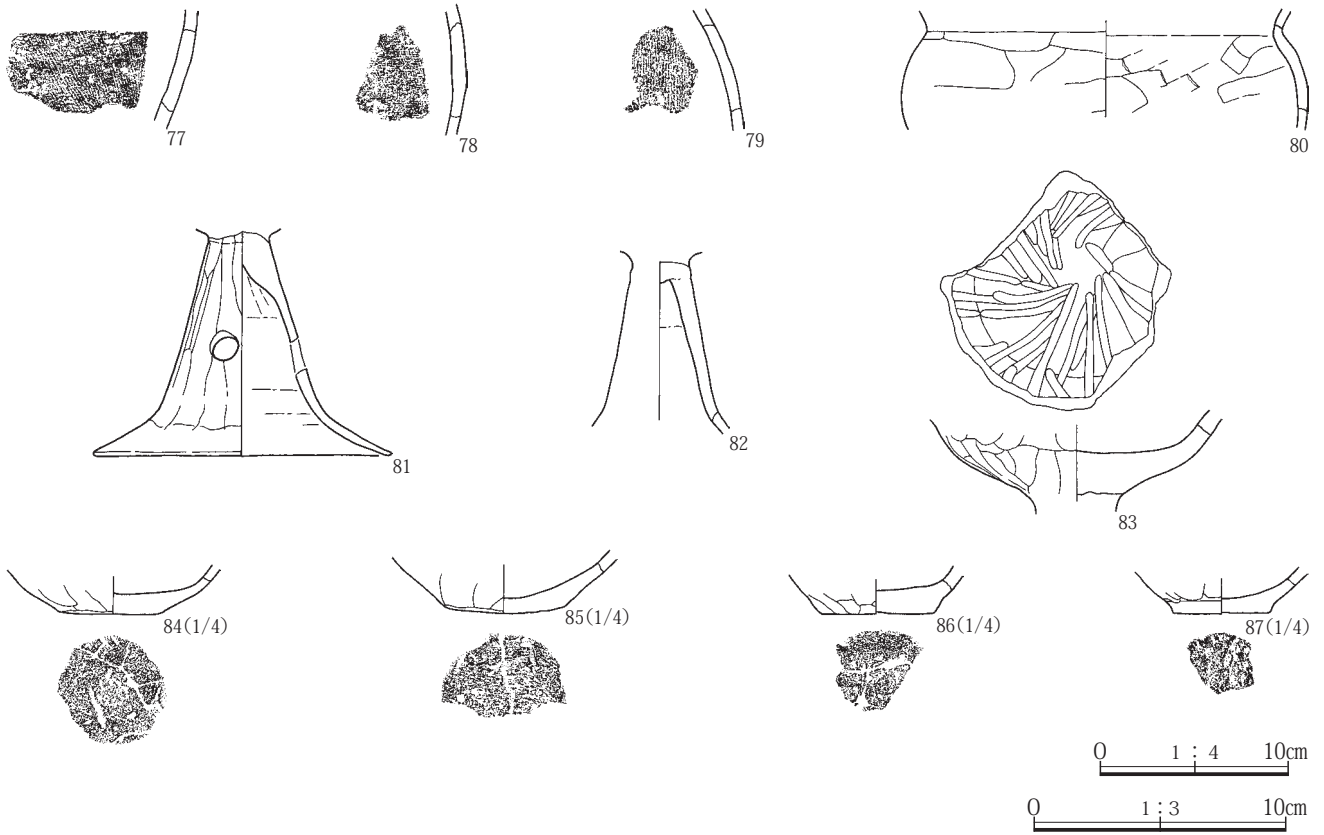
第44図 石畑I岩陰A区北第3面出土遺物(1)



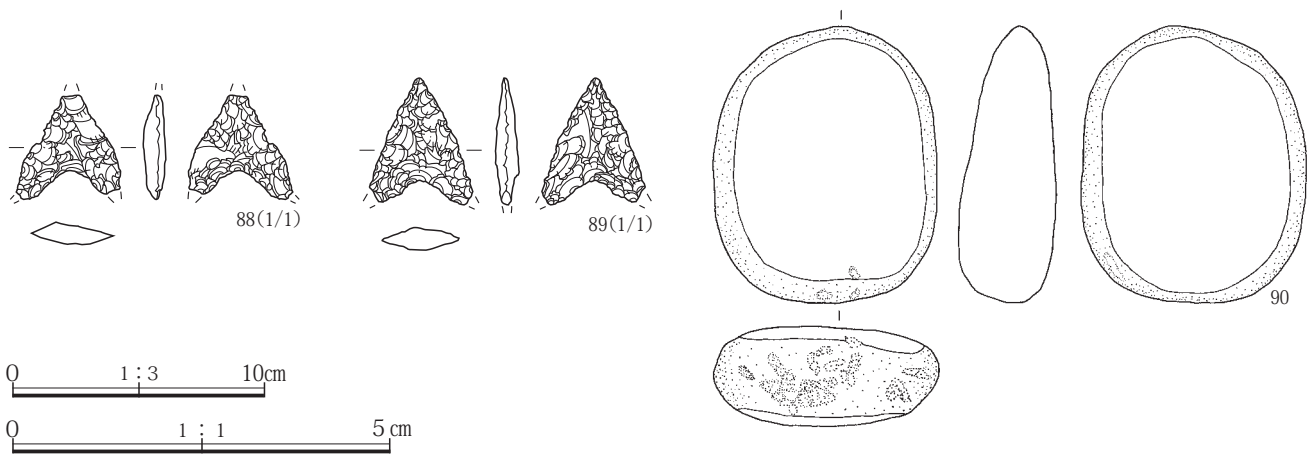
第45図 石畑I岩陰A区北出土遺物(2)



第46図 石畑I岩陰A区北出土遺物(3)



第47図 石畑 I 岩陰A区北出土遺物(4)



第48図 石畑 I 岩陰A区北出土遺物(5)

第4表 A区北出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図 PL.51	1	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	石英多、雲母少/ 良/くすんだ黄褐色	外面に丁寧な施文された山形押型文。内面丁寧ナデ。	縄文早期前半
第44図 PL.51	2	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	石英多、雲母少/ 良/くすんだ黄褐色	1と同個体。	縄文早期前半
第44図 PL.51	3	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒・片岩多、線 維少/良/にぶい赤 褐色	小波状口縁。口縁部上面形が方形。口縁部に沈線と刺突 文で文様構成。文様の接点に円形刺突文を加える。外面ナ デ後に文様施文。内面に横位条痕を僅かに残す。	鵜が島台式
第44図 PL.51	4	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒多、繊維少/ 良/黒褐色	小波状口縁。口縁部に微隆線内に沈線を充填した文様を構 成。文様の接点等に刺突文を加える。内面に横位条痕。	鵜が島台式
第44図 PL.51	5	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	-	-	-	砂粒多、繊維少/ 良/黒褐色	4と同個体	鵜が島台式
第44図 PL.51	6	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒・片岩多、線 維少/良/褐色	波状口縁。外面に斜行条痕、内面ナデ。	鵜が島台式
第44図 PL.51	7	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒・片岩多、線 維少/良/黄褐色	外面に斜行条痕、内面に粗いナデ。器面に凹凸あり。	鵜が島台式
第44図 PL.51	8	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒・片岩多、線 維少/良/黄褐色	7と同個体。	鵜が島台式
第44図 PL.51	9	縄文土器 深鉢	3面包含層上 胴部片	-	-	-	砂粒・片岩多、線 維少/良/黄褐色	7と同個体。	鵜が島台式
第44図 PL.51	10	縄文土器 深鉢	3面包含層上 胴部片	-	-	-	砂粒・片岩多、線 維少/良/褐色	7と同個体。	鵜が島台式
第44図 PL.51	11	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維少/ 良/暗褐色	外面に縦位条痕、内面粗いナデ。凹凸あり。	鵜が島台式
第44図 PL.51	12	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維少/ 良/赤褐色	外面に縦位条痕、内面に横位条痕。	早期後半
第44図 PL.51	13	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維少/ 良/赤褐色	12と同個体。	早期後半
第44図 PL.51	14	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒・片岩多、纖 維多/良/赤褐色	内外面に条痕。器面荒れ、不明瞭。	早期後半
第44図 PL.51	15	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/灰黄褐色	外面に縄文0段3条RLを菱形羽状に施文。内面ナデ。	花積下層式
第44図 PL.51	16	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/明褐色	外面に縄文LRを条を縦位に施文、内面かいるナデ。	花積下層式
第44図 PL.51	17	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/明赤褐色	外面に縄文LR。内面ナデ。	花積下層式
第44図 PL.51	18	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面にループ縄文RL。内面かいる研磨。	関山式
第45図 PL.51	19	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	外面に縄文LR、内面かいる研磨。	黒浜式
第45図 PL.51	20	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面に縄文RL、内面かいる研磨。	黒浜式
第45図 PL.51	21	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面に縄文RL、内面ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	22	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/暗赤褐色	外面に結束縄文RLとLRで羽状構成。内面丁寧ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	23	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面に羽状縄文、不鮮明。内面ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	24	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/明褐色	外面に縄文LR、内面ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	25	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	外面に縄文RL、内面ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	26	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面に縄文RLとLRで羽状構成。内面丁寧ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	27	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	外面に縄文RLとLRで羽状構成。内面丁寧ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	28	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/暗褐色	外面に縄文RLとLRで菱形縄文構成。内面かいる研磨。	黒浜式
第45図 PL.51	29	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	外面に横位平行沈線と斜格子沈線。内面ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	30	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/暗褐色	外面に横位平行沈線と爪形文。内面ナデ。	黒浜式
第45図 PL.51	31	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	-	-	-	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	口縁部に数条の爪形文を施した横位平行沈線。内面かいる 研磨。	諸磯a式
第45図 PL.51	32	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	-	-	-	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	31と同個体。	諸磯a式
第45図 PL.51	33	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	-	-	-	砂粒少/良/黒褐色	外面に縄文RL、内面かいる研磨。	諸磯a式
第45図 PL.51	34	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	-	-	-	砂粒少/良/黒褐色	外面に肋骨文と円形刺突文。内面研磨。	諸磯a式
第45図 PL.51	35	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少/良/灰黄褐 色	外面に櫛状施文具で横位の刺突列と波状文と横帯文を施 文。胴部に縄文RL。内面かいる研磨。	諸磯a式

第3章 発見された遺構と遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				—	—			
第45図 PL.51	36	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	—	—	砂粒少/良/褐色	爪形文で木の葉文様構成、円形刺突文を伴う。縄文RL。 内面研磨。	諸磯a式
第45図 PL.51	37	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/赤褐色	口縁部に櫛状施工による横位条線と波状文を交互に施 文。円形刺突文あり。器面荒れ。	諸磯a式
第45図 PL.51	38	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 赤褐色	40と同個体。	諸磯a式
第45図 PL.51	39	縄文土器 深鉢	3面遺構外 口縁部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	波状口縁。口縁部くの字に内接して袋状。口縁部に平行刺 突列で風車状の文様構成。内面粗いナデ。	諸磯b式
第45図 PL.51	40	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 褐色	外面に幅広爪形文を横位多段施文。爪形文間の隆帯と口唇 部上面に斜めの刻目。内面かるい研磨。	諸磯b式
第45図 PL.51	41	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/明赤褐 色	口唇下と文様帯下に爪形文を施し、その間に平行沈線で斜 格子文を施文。胴部に縄文RL。内面かるい研磨。	諸磯b式
第45図 PL.51	42	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 赤褐色	45と同個体。	諸磯b式
第45図 PL.51	43	縄文土器 深鉢	3面包含層上 口縁部片	—	—	石英・雲母多/良/ にぶい褐色	器面荒れ。口縁部に梯子状浮線文。縄文不鮮明。	諸磯b式
第45図 PL.51	44	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒少/良/暗赤褐 色	数条の集合沈線を横位施文。縄文RL。内面ナデ。	諸磯b式
第45図 PL.51	45	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 褐色	幅広爪形文で曲線的な文様を構成。内面ナデ。	諸磯b式
第45図 PL.51	46	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒少/良/赤褐色	外面に横位平行沈線を施文。内面ナデ。	諸磯b式
第45図 PL.51	47	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/明赤褐 色	45と同個体。	諸磯b式
第45図 PL.51	48	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/明赤褐 色	45と同個体。	諸磯b式
第45図 PL.51	49	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/明赤褐 色	45と同個体。	諸磯b式
第45図 PL.51	50	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 赤褐色	45と同個体。	諸磯b式
第45図 PL.51	51	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/明赤褐 色	45と同個体。	諸磯b式
第45図 PL.51	52	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/明赤褐 色	45と同個体。	諸磯b式
第45図 PL.51	53	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	—	—	砂粒少/良/褐色	平縁。口縁に耳状突起がつく。外面に集合沈線で文様構成。 文様の要所にボタン状貼付文がつく。内面かるい研磨。	諸磯c式
第45図 PL.51	54	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	平縁。外面に集合沈線で文様構成。文様の要所に耳状・ボ タン状貼付文がつく。内面ナデ。	諸磯c式
第46図 PL.51	55	縄文土器 深鉢	3面包含層 口縁部片	—	—	石英・雲母多/良/ 暗褐色	平縁。口縁に大きな弧状貼付文。口縁部に横位結節浮線文。 縄文RL。内面ナデ。	前期末
第46図 PL.51	56	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	石英・雲母少/良/ 黒褐色	57と同個体。	前期末
第46図 PL.51	57	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	石英・雲母多/良/ 暗褐色	55と同個体。上位に波状浮線文、その下に数条の結節浮線 文。縄文RL。内面ナデ。	前期末
第46図 PL.51	58	縄文土器 深鉢	3面包含層 頸部片	—	—	石英・雲母少/良/ 黒褐色	口縁部に結節浮線文で渦巻き状の文様、胴部に結節浮線文 を横位等間隔に施文。縄文RL。内面かるい研磨。	前期末
第46図 PL.51	59	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	—	—	砂粒少/良/明褐色	59と同個体。	五領ヶ台式
第46図 PL.51	60	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	—	—	砂粒少/良/明褐色	外面に結節を伴う縄文LRを縦位施文。内面ナデ。	五領ヶ台式
第46図 PL.51	61	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	—	—	砂粒少/良/褐色	外面に結節を伴う縄文LRを縦位施文。内面ナデ。	五領ヶ台式
第46図 PL.51	62	縄文土器 深鉢	3面包含層 口頸部片	—	—	砂粒・片岩少/良/ にぶい赤褐色	隆帯と押引文で文様構成。内面丁寧ナデ。	阿玉台I b式
第46図 PL.51	63	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐色	隆帯と平行沈線で文様構成し、押引文や三角印刻文を加え る。内面かるい研磨。	勝坂2式
第46図 PL.51	64	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐色	63と同個体。	勝坂2式
第46図 PL.51	65	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	—	—	砂粒少/良/明褐色	隆帯と数条の集合沈線で文様構成。貼付文多様。内面丁寧 ナデ。	勝坂2式
第46図 PL.52	66	縄文土器 鉢か	3面包含層上 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	外面に浅い凹線を数条施文。内面ヨコナデ。	晩期
第46図 PL.52	67	縄文土器 深鉢	3面包含層上 頸部片	—	—	細砂多/良/にぶい 黄褐色	頸部に微隆線で工字文。内面丁寧ナデ。	晩期後半
第46図 PL.52	68	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/灰黄褐 色	外面に縄文帯を横位施文。内面ナデ。	晩期
第46図 PL.52	69	縄文土器 深鉢	3面包含層 胴部片	—	—	砂粒多/良/灰黄褐 色	外面に反撚り縄文LL施文。内面ナデ。	晩期後半
第46図 PL.52	70	縄文土器 深鉢	3面包含層 底部	—	—	砂粒多/良/黒褐色	内面ナデ。底面に木の葉文。	晩期
第46図 PL.52	71	縄文土器 深鉢	包含層包含層 口縁部片	—	—	細砂多/良/にぶい 褐色	内外面に横位の粗いナデ。口縁部下に隆帯。口縁部に縦位 の平行沈線。	晩期
第46図 PL.52	72	縄文土器 鉢か	耕作土 胴部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	胴部上位に隆線がめぐる。内外面燻し焼成、研磨。	晩期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長	幅	厚				
第46図 PL.52	73	弥生土器 甕	2面e-18 口縁部片	—	—	—	石英多/良/明褐色	口縁部に変形工字文。内面ナデ。	弥生中期前半	
第46図 PL.52	74	弥生土器 壺	3面包含層 肩部片	—	—	—	砂粒多/良/褐色	肩部に横位縄文帯、縄文LR。内面ナデ。	弥生中期前半	
第46図 PL.52	75	弥生土器 壺	耕作土 肩部片	—	—	—	砂粒多/良/黄褐色 ～黒褐色	肩部に横位縄文帯2帯、縄文LR。内面ナデ。	弥生中期前半	
第46図 PL.52	76	弥生土器 甕	包含層 口頸部片	—	—	—	砂粒多/良/黒褐色	口縁部くの字に外折、口唇部に縄文LR。肩部に波状文。内面研磨光沢。	弥生中期前半	
第47図 PL.52	77	土師器 土師器甕	耕作土 胴部片	—	—	—	砂粒多/良/暗褐色	単口縁台付き甕か。外面に斜位～縦位の細かな刷毛目。内面丁寧ナデ。一部にヘラ痕残る。	4世紀	
第47図 PL.52	78	土師器 土師器甕	耕作土 胴部片	—	—	—	砂粒多/良/褐色	30006と同個体。	4世紀	
第47図 PL.52	79	土師器 土師器甕	2面f-8 胴部片	—	—	—	砂粒多/良/暗褐色	30006と同個体。	4世紀	
第47図 PL.52	80	土師器 土師器小型 広口壺	2面 胴部片	—	—	—	細砂少/良/にぶい 黄橙色	頸部～肩部に刷毛目調整後ナデ、胴部にヘラ削り。内面ナデ。	4世紀	
第47図 PL.52	81	土師器 土師器高坏	2面 脚部2/3残	—	—	—	砂粒少/良/明褐色	円形透かし1段3方向。外面研磨、内面ナデ～かるい研磨。	4世紀	
第47図 PL.52	82	土師器 土師器高坏	2面 脚部1/3残	—	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	透かし無し。器面荒れ。	4世紀	
第47図 PL.52	83	土師器 土師器高坏	坏部1/3残	—	—	—	砂粒多/良/明赤褐色	有段。外面ヘラナデ。内面ヘラ磨き。	5世紀末～6世紀初頭	
第47図 PL.52	84	土師器 甕	2面 底部	—	—	—	砂粒多/良/にぶい 赤褐色	内外面ヘラナデ。内面燻し、黒色化。	5世紀末～6世紀初頭	
第47図 PL.52	85	土師器 甕	底部	—	—	—	砂粒多/良/にぶい 赤褐色	外面～底面ヘラ削り。内面ナデ～かるい研磨。内面燻し、黒色化。	5世紀末～6世紀初頭	
第47図 PL.52	86	土師器 甕	底部	—	—	—	砂粒多/良/褐色	外面～底面ヘラ削り。内面ナデ。	5世紀末～6世紀初頭	
第47図 PL.52	87	土師器 甕	底部	—	—	—	砂粒多/良/褐色	外面～底面ヘラ削り。内面ナデ。	5世紀末～6世紀初頭	
第48図 PL.52	88	打製石鏃	3面包含層中 先端欠損	長幅 (1.4)	(1.4)	厚重 0.3	0.3 0.3	黒曜石	凹基無茎(1類)。	
第48図 PL.52	89	打製石鏃	Aセクションベ ルト 一部欠損	長幅 (1.7)	(1.4)	厚重 0.3	0.3 0.5	黒曜石	凹基無茎(1類)。	
第48図 PL.52	90	磨石	完形	長幅 10.7	8.9	厚重 3.8	518.2	玄武岩	扁平礫。表裏両面磨き面。一端敲打痕。	

4 A区南の調査

1面の調査

調査区内に径10mを超える巨大な礫が2基あり、その他に手で動かさない大きさの礫が多数見られる。

表土を除去して調査を進めると、区の北東に一部天明泥流が残存し、As-A下の畑(1号畑)が検出された。

1号畑は区の東や南の斜面部までは続かないが、調査区の西端部を越えて更に西へ続くので、区の範囲を西に広げて畑の広がりを確認した。

その結果、1号畑に連続すると考えられる2号畑と、2号畑より更に西で耕作方向と畝幅がやや異なる3号畑を検出した。

更に畑に伴うと考えられる1・2号道を検出した。

(第52図)

◎1号畑

位置 92区A～E-17～19

重複 なし

内容 1号畑は調査区中央北側の巨石と南西端の巨石の間に挟まれた僅かな窪地に存在し、サクの幅は17.6cm～25.6cm、畝幅は24cm～48cm程度である。畑の北東と南には1号道・2号道が存在する。(第52図)

◎2号畑

位置 92区A～D-17～19

第3章 発見された遺構と遺物

重複 なし

内容 2号畑はサク幅が16.8cm～24cm、畝幅は20cm～32cmを計測する。攪乱を挟んで1号畑に続くと考えられる。(第52図)

◎3号畑

位置 G～H-15

重複 なし

内容 3号畑は2号畑よりも10m西で検出された。残存状態があまり良好ではない。サク幅は12cm～17.6cm、畝幅は32cm～40cmである。(第52図)

◎1号道

位置 91区Y-18・92区A～D-17～19

重複 なし

内容 1号畑の北東及び南に存在し、道の両端に浅い溝が掘られており、溝の中にはAs-Aが入る。溝幅は、0.52mを計測する。畑を区画すると共に、通路として利用されていたと推定される。西端部に攪乱が入っており、2号道が連続することから、1号道と2号道は同一の道であると考えられる。(第52図)

◎2号道

位置 92区B～D-16～17

重複 なし

内容 1号畑の南に存在し、1号道と同様道の両端に浅い溝が掘られておりAs-Aが堆積している。溝幅は、0.76mを計測する。(第52図)

2面以下の調査

第56・57図を見ると、A区南では畑のサクの中や道の両脇の溝以外に数か所As-Aが残存している地点がある。

As-Aが確認された地点については、スクリーントーンでその場所を示した。

A区南の2面は1面の下で所々砂が分布する面が存在する。

第53図に示したが、砂は巨礫の間に帯状・島状に分布している。

実測し得なかったが土器の小片を数十点巨石の西側か

ら出土し、その中に実測可能な中世の甕が含まれていた。更に2面とは時代が若干異なるが、縄文時代の石鏃が1点包含層から出土した。(第67図-26)

A区南の2面の下の層には1128年降下のAs-Kkと考えられる火山灰が乗っていたので他の地点の3面より新しく2面より古い古代の面として2.5面として調査を進めた。(第55図)

A区南の2.5面からは南側に位置する巨礫の北西に接して1号焼土1基を検出した。(第56図)

◎1号焼土

位置 92区C-16

重複 なし

内容 1号焼土は100cm×60cmの崩れた長円形を呈し、覆土に焼土及び炭化物は含むが、床面は固く焼け固まって焼土化しておらず、長期にわたって利用したものではないらしい。遺物は出土していない。(第56図)

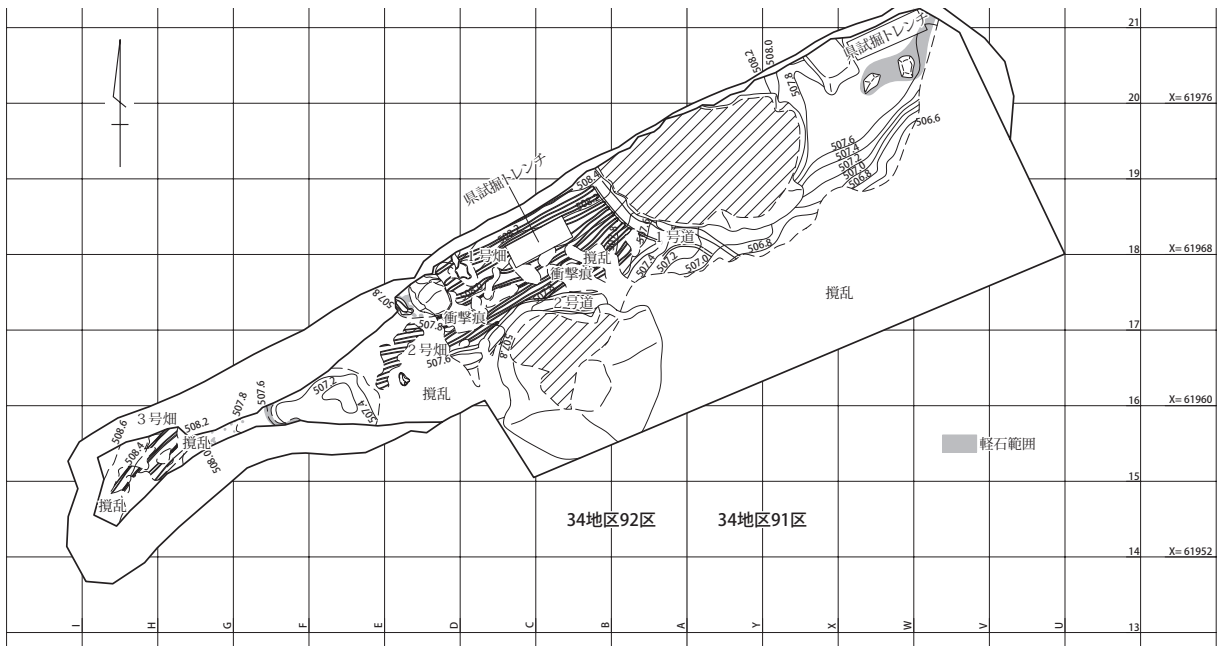
2.5面の包含層遺物として時期は異なるが石鏃が2点と実測し得なかったが土器の小片が出土している。

(第67図)

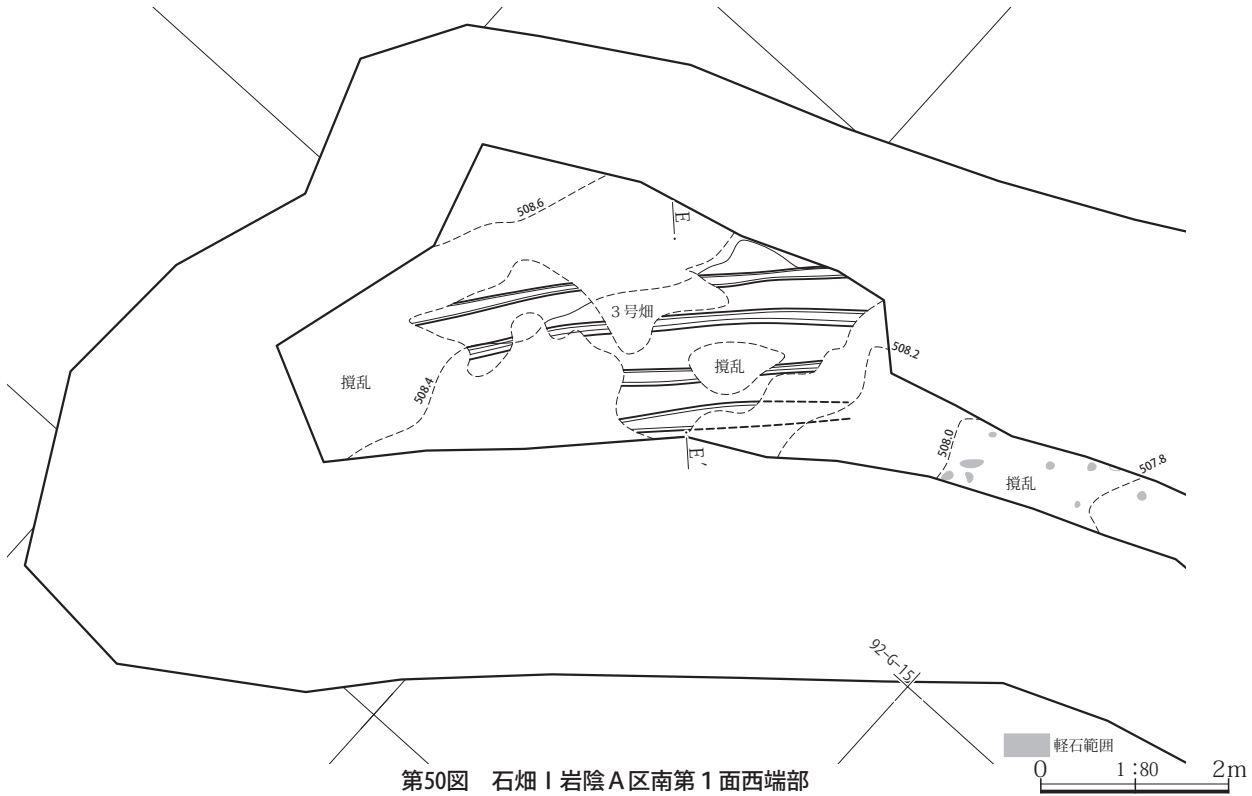
A区南の3面では2基の巨礫の間を北西から南東へ向けて幅の広い自然流路が吾妻川河床の谷に向かって流れている。

この流路の周囲及び上面周辺からはおびただしい数の遺物が出土した。遺物には縄文前期の花積下層・黒浜・諸磯a式土器片の他、弥生土器や古墳時代の碗・小甕などの破片が含まれている。かなり長期にわたって利用されていたのであろう。(第67図)

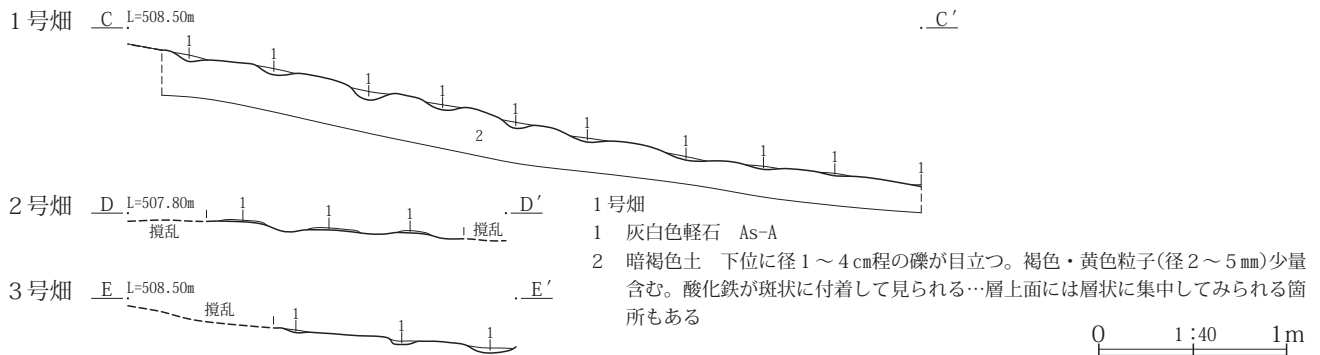
A区南の4面は、3面の下に黄色い砂層があったためこの面において最終的な遺構確認を行った。しかし、上面の3層と異なり遺構・遺物共に検出されなかったためA区の調査を終了した。(第59図)



第49図 石畑I岩陰A区南第1面全体図



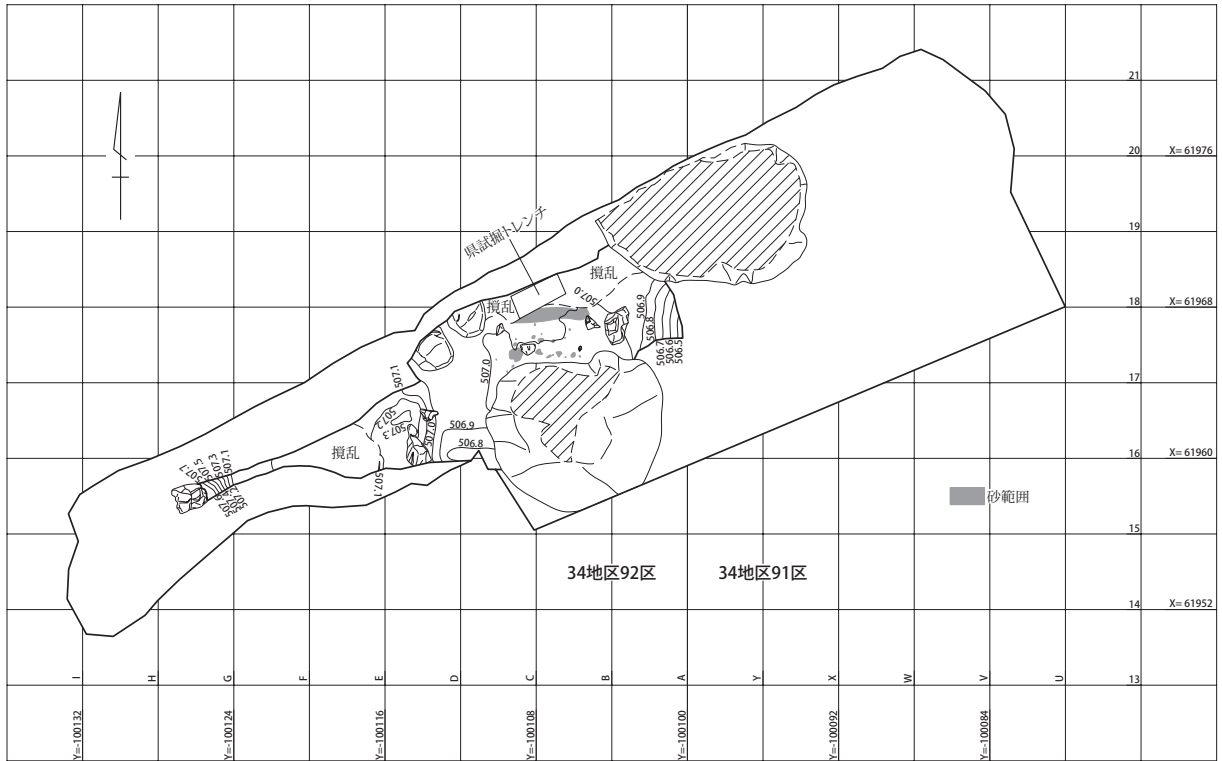
第50図 石畑I岩陰A区南第1面西端部



第51図 石畑I岩陰A区南第1面中部断面図



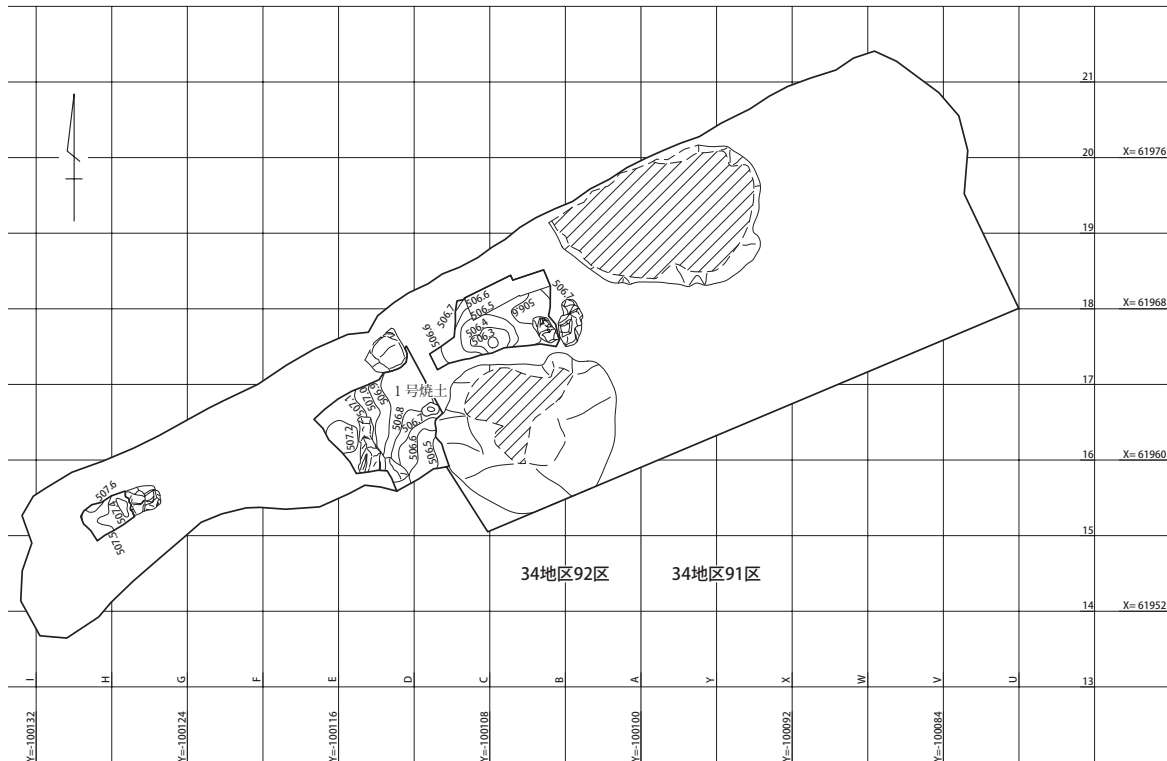
第52図 石畑I岩陰A区南1面中部平面図



第53図 石畑I岩陰A区南 第2面全体図

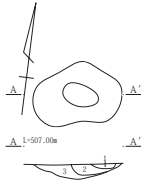


第54図 石畑I岩陰A区南 第2面



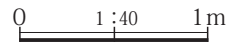
第55図 石畑I岩陰A区南 第2.5面全体図

1号焼土

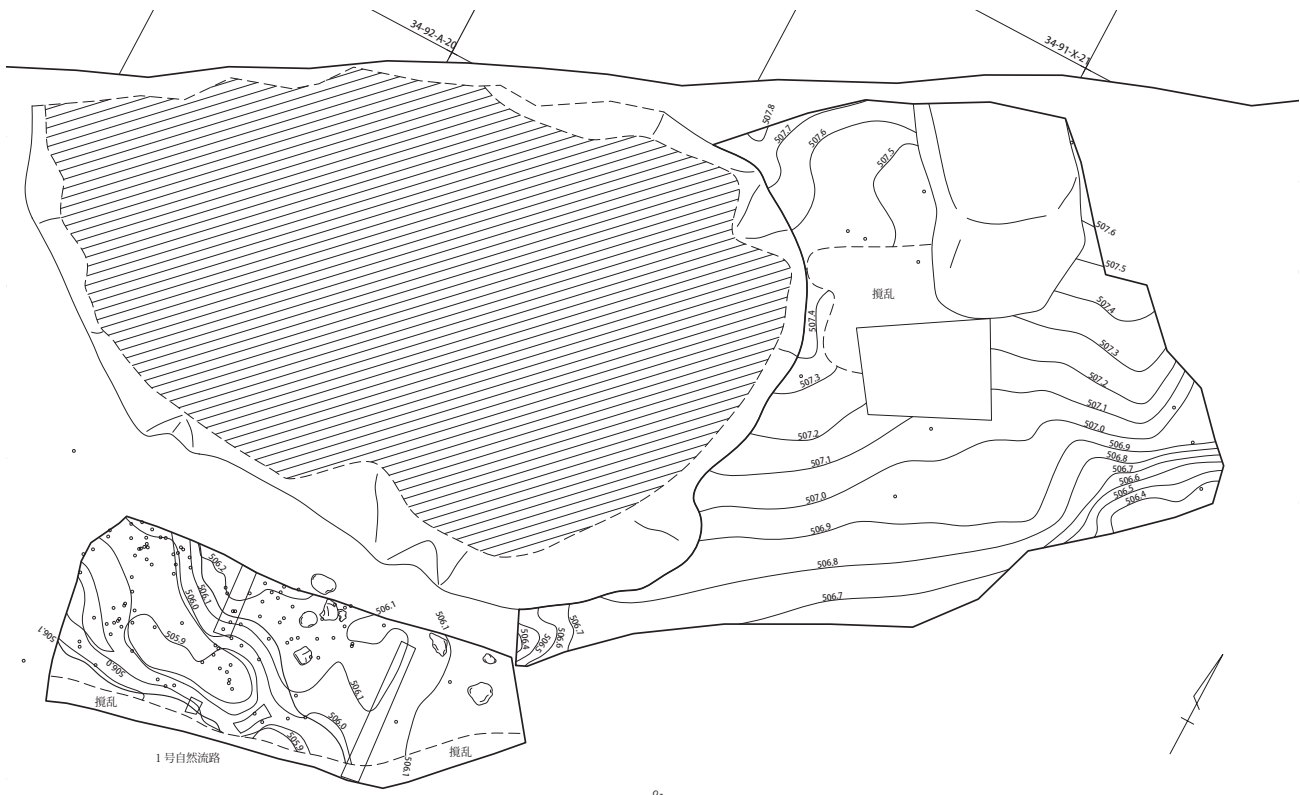


1号焼土

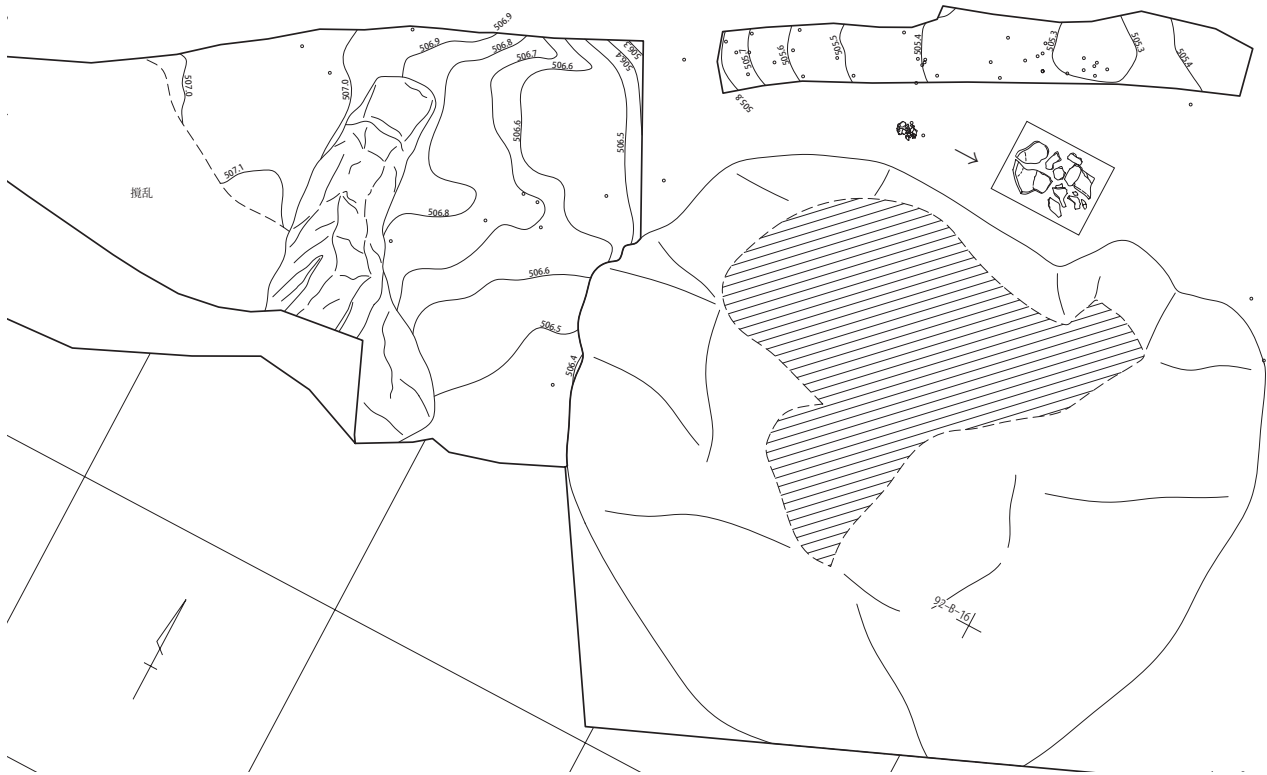
- 1 黒色土 焼土粒・炭化物をやや多く含む
- 2 黒褐色土 焼土ブロック・焼土粒を非常に多く含む。炭化物を多く含む
- 3 黒褐色土 焼土粒・炭化物を多く含む



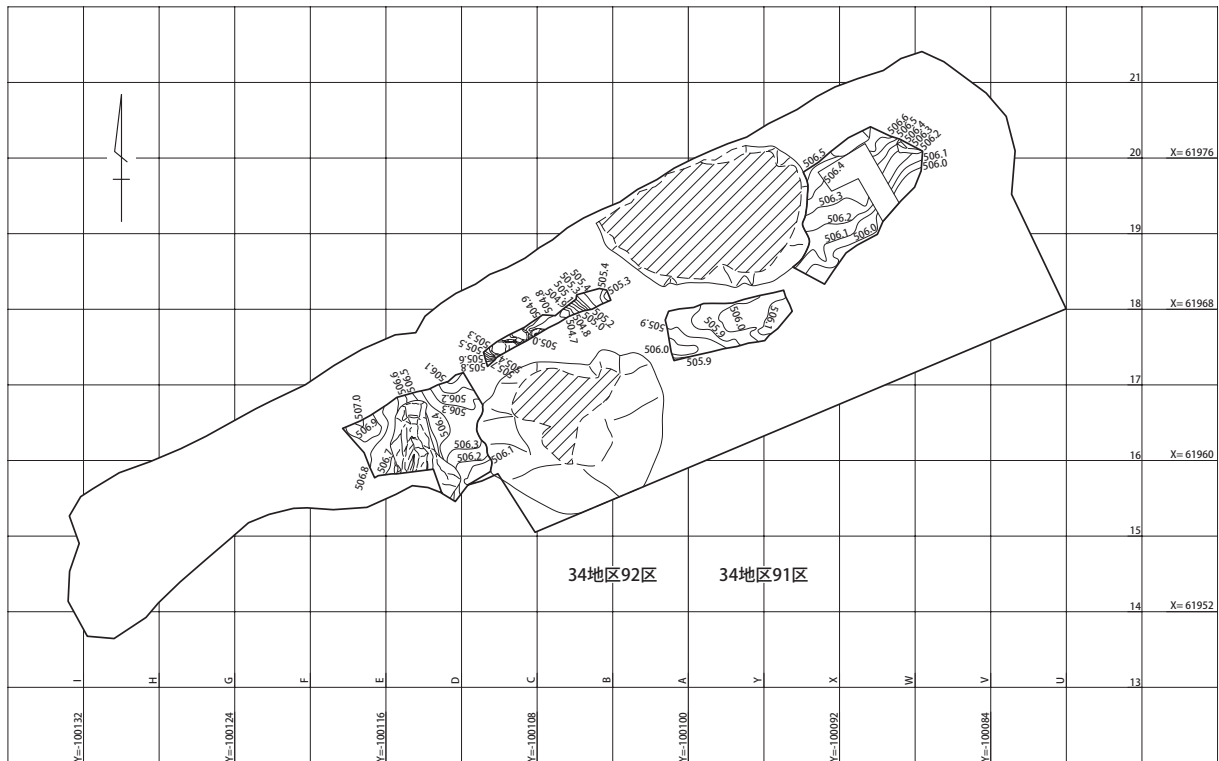
第56図 石畑I岩陰A区南 1号焼土



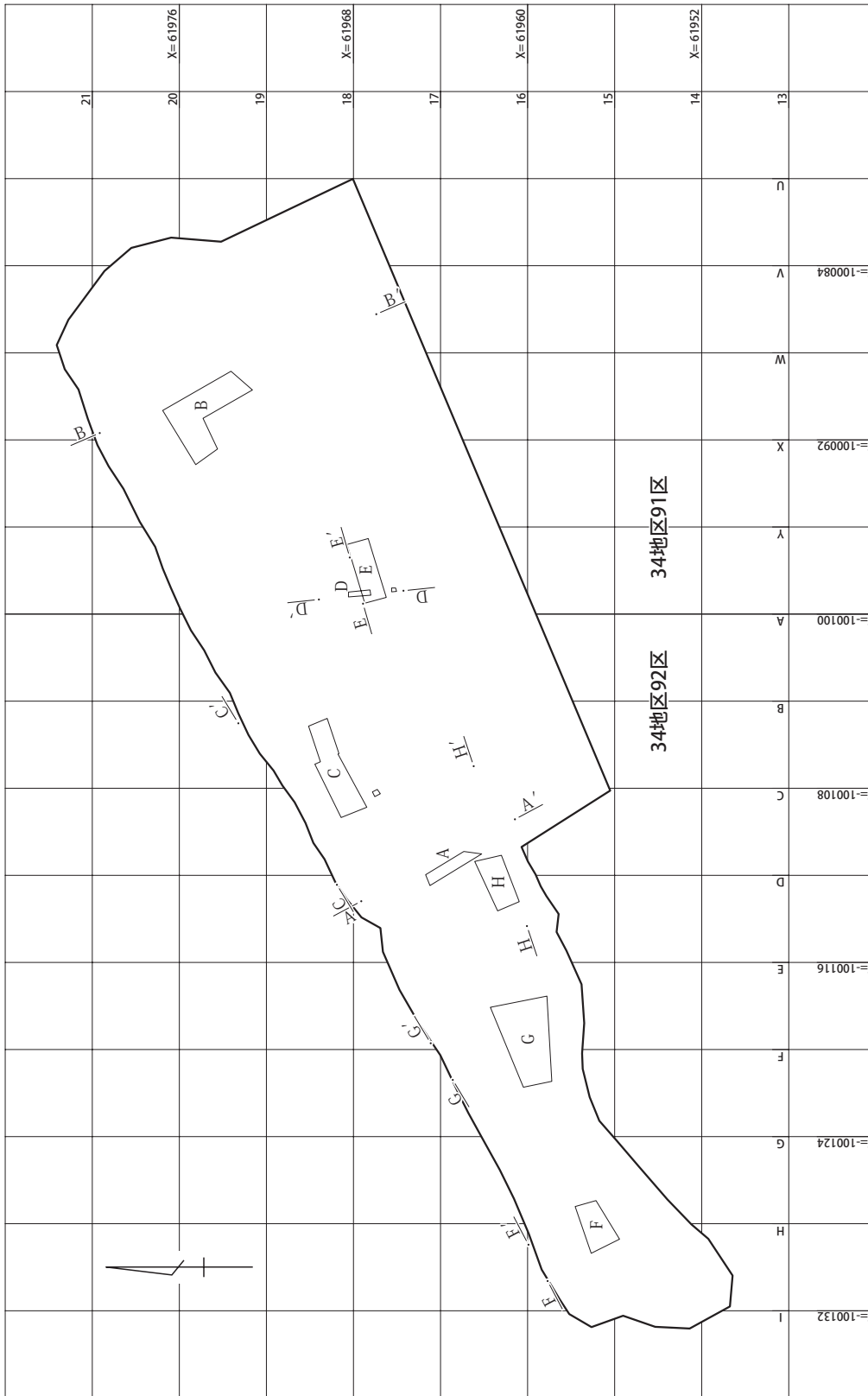
第57図 石畑I岩陰A区南第3面中部



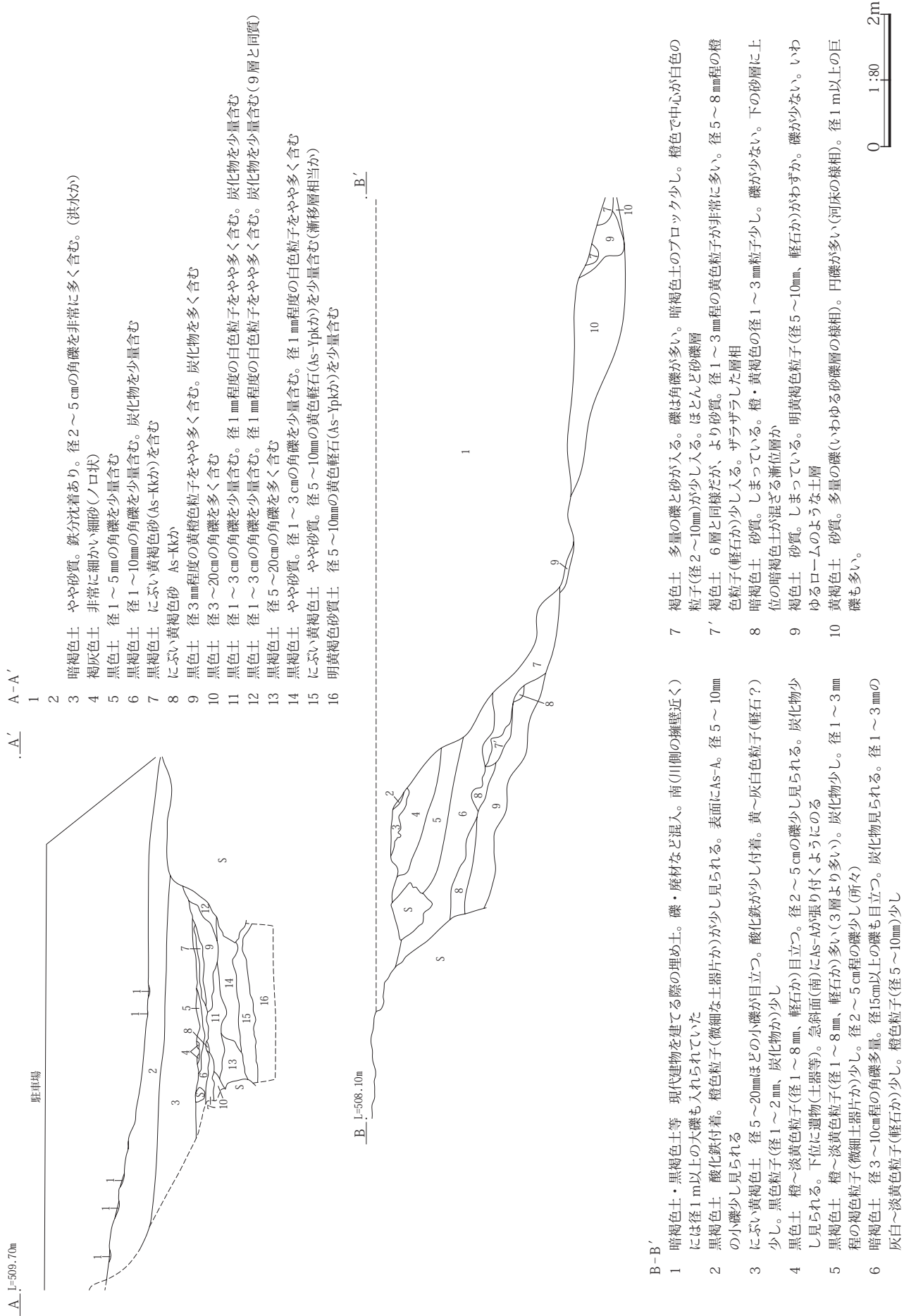
第58図 石畑I岩陰A区南第3面西部



第59図 石畑I岩陰A区南第4面全体図



第60図 石畑I岩陰A区南トレンチ配置図



A-A' I=509.70m

駐車場

A-A'

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

B B' I=508.10m

B'

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

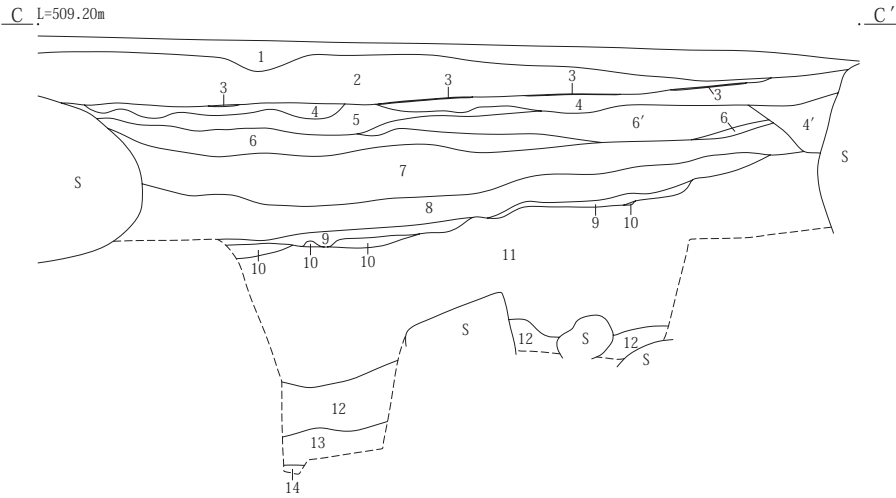
B-B'

- 1 暗褐色土・黒褐色土等 現代建物を建てる際の埋め土。礫・廃材など混入。南(川側の擁壁近く)には径1m以上の大礫も入れられていた
- 2 黒褐色土 酸化鉄付着。橙色粒子(微細な土器片か)が少し見られる。表面にAs-A。径5~10mmの小礫少し見られる
- 3 にぶい黄褐色土 径5~20mmほどの小礫が目立つ。酸化鉄が少し付着。黄~灰白色粒子(軽石?)少し。黒色粒子(径1~2mm、炭化物か)少し
- 4 黒色土 橙~淡黄色粒子(径1~8mm、軽石か)目立つ。径2~5cmの礫少し見られる。炭化物少し見られる。下位に遺物(土器等)。急斜面(南)にAs-Aが張り付くようにのる
- 5 黒褐色土 橙~淡黄色粒子(径1~8mm、軽石か)多い(3層より多い)。炭化物少し。径1~3mm程の褐色粒子(微細土器片か)少し。径2~5cm程の礫少し(所々)
- 6 暗褐色土 径3~10cm程の角礫多量。径15cm以上の礫も目立つ。炭化物見られる。径1~3mmの灰白~淡黄色粒子(軽石か)少し。橙色粒子(径5~10mm)少し
- 7 褐色土 多量の礫と砂が入る。礫は角礫が多い。暗褐色土のプロック少し。橙色で中心が白色の粒子(径2~10mm)が少し入る。ほとんど砂礫層
- 7' 褐色土 6層と同様だが、より砂質。径1~3mm程の黄色粒子が非常に多い。径5~8mm程の橙色粒子(軽石か)少し入る。ザラザラした層相
- 8 暗褐色土 砂質。しまっている。橙・黄褐色の径1~3mm粒子少し。礫が少ない。下の砂層に上の暗褐色土が混ざる漸位層か
- 9 褐色土 砂質。しまっている。明黄褐色粒子(径5~10mm、軽石か)がわずか。礫が少ない。いわゆるロームのような土層
- 10 黄褐色土 砂質。多量の礫(いわゆる砂礫層の様相)。円礫が多い(河床の様相)。径1m以上の巨礫も多い。

第61図 石畑I岩陰A区南・Bトレンチ断面図



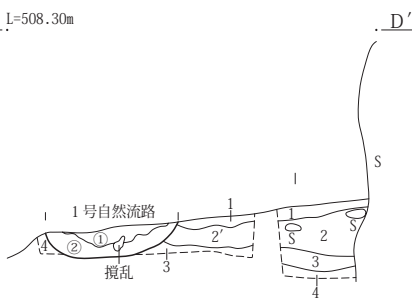
第3章 発見された遺構と遺物



C-C'

- 1 表土。アスファルト・碎石等
- 2 天明3年浅間山噴火に伴う泥流層
- 3 灰白色軽石 As-A
- 4 黒褐色土 径5~10mm程の礫少し。白・淡黄・橙色粒子少し混じる。酸化鉄付着。畑の耕作土や道の土
- 5 黒褐色土 4層と同様の土に径5~30mm程の小礫が多量に含まれる部分。酸化鉄付着。
- 6 黒褐色土 径1~3cm程の礫が目立つ(5層に似る)。酸化鉄の付着がほとんど無い。黄・橙色粒子少し。淡黄・白色粒子少し
- 6' 黒褐色土 含有粒子や土色は6層と同じ。礫が明らかに少ない部分。
- 7 黒褐色土 径5~20mm程の小礫を多量に含む。径5cm以上の礫も少し。橙色粒子(微細土器片か)が少し見られる。淡黄~黄色粒子少し。6層との違いは礫の量(7層の方が多)
- 8 黒色土 径1~4cm程の小礫を多く含む。径10mm以上の礫も少し見られる。白~黄色粒子少し。SP-C西の岩(大)と同時期か(この岩の周囲に角礫(大)多数)。7層より黒味が強い
- 9 黒褐色土 砂質。径3~6mm程の礫がやや多く入る。径10cm以上の礫も少し。橙・黄・暗褐色粒子(径1~3mm)少し入る。ブロック状に暗褐色の砂(?)が入る。
- 10 オリーブ褐色灰(?) As-Kk (またはAs-B、あるいはその両方)。微細粒子(シルト状)の火山灰。場所によっては黄色。ほぼ純層の部分と黒褐色土が混じる所がある
- 11 黒色土 明黄褐色の礫(角礫)が多量に入る部分(ほぼ礫層の状態)がある。径30mm以上の大型礫も見られる。部分的に暗褐色土。しまりが弱く、粘りあり。橙色粒子わずか
- 12 黒褐色土 明黄~褐色・橙色粒子(径1~3mm)少し。径5~10mmの黄褐色粒子(軽石?)少し。しまりややあり。粘り弱い。大型の礫が入る(径50cm以上の巨礫も)
- 13 暗褐色砂質土 径1~5mmの角礫を少量含む(漸移層相当?)
- 14 暗灰黄色砂 径1~3mm程度の砂主体

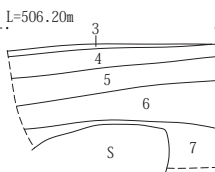
D D' L=508.30m



D-D'

- 1 黒褐色土 にぶい黄褐色土ブロックを多く含む。径1~2mmの淡黄色軽石をやや多く含む
- 2 黒色土 径3~30cmの円礫・角礫をやや多く含む
- 2' 黒色土 径3~20cmの円礫・角礫を少量含む
- 3 暗褐色土 やや砂質。(漸移層相当?)
- 4 明黄褐色砂質土 径5mm程度の黄色軽石を少量含む(ローム相当?、水成堆積)
- ① 黒褐色土 炭化物を非常に多く含む。径5~20cmの円礫・角礫を含む。遺物(縄文前期?)を多く含む
- ② 灰黄褐色土 炭化物を非常に多く含む。3層、4層ブロックを多く含む。遺物少量

E E' L=506.20m

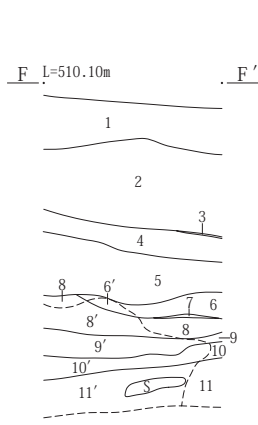


E-E'

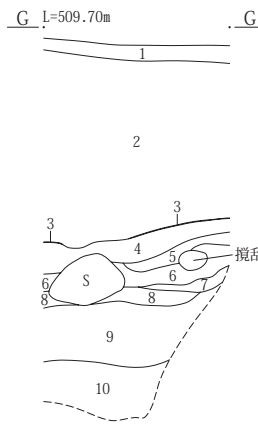
- 3 暗褐色土 D-D'の3層と同一
- 4 明黄褐色砂質土 D-D'の4層と同一
- 5 にぶい黄褐色砂
- 6 灰黄褐色砂 径1~2cmの亜円礫を少量含む
- 7 黒褐色砂礫 径1~3cmの亜円礫を多量に含む

0 1:80 2m

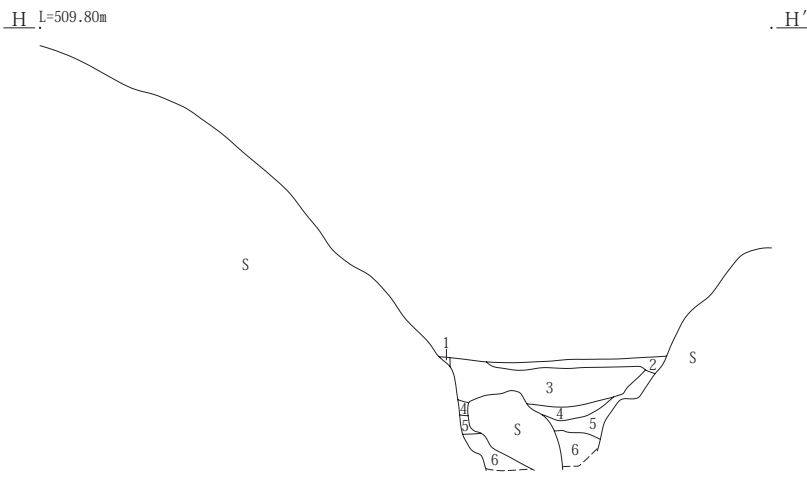
第62図 石畑I岩陰A区南C~Eトレンチ断面図



- F-F'
- 1 アスファルト・碎石・盛土
 - 2 As-A泥流
 - 3 As-A軽石
 - 4 暗褐色土 やや砂質。鉄分沈着あり。径2～3cmの角礫をやや多く含む(A下畑耕作土相当)
 - 5 暗褐色土 やや砂質。鉄分沈着あり。径2～5cmの角礫を非常に多く含む(洪水?)
 - 6 黒褐色土 やや砂質。鉄分沈着あり。径0.5～1cmの角礫を少量含む
 - 6' 黒色土 6層と同(グライ化)
 - 7 にぶい黄褐色火山灰 (As-Kkか)
 - 8 黒褐色土 やや粘性あり。鉄分沈着あり。径5～10cmの角礫を多く含む
 - 8' 暗灰色土 8層と同(グライ化)
 - 9 黒褐色土 やや粘性あり。径1～3cmの角礫を少量含む
 - 9' 黒色土 9層と同(グライ化)
 - 10 暗褐色砂質土 鉄分沈着あり。径1～3cmの亜円礫を非常に多く含む
 - 10' 暗灰色砂質土 10層と同(グライ化)
 - 11 にぶい黄褐色砂質土 径10～100cmの円礫を多く含む
 - 11' 灰色砂質土 11層と同(グライ化)

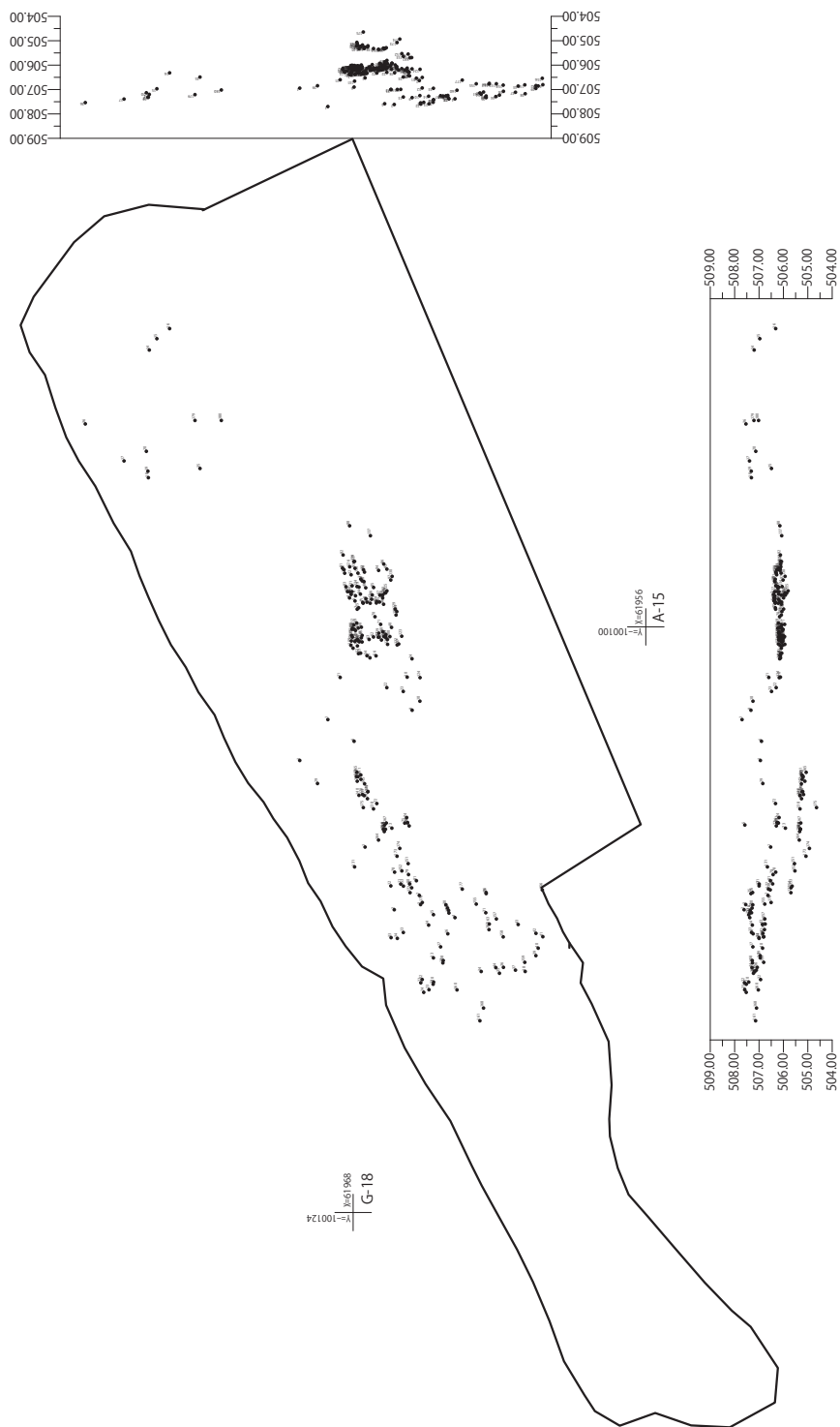


- G-G'
- 1 碎石
 - 2 As-A泥流
 - 3 As-A軽石
 - 4 暗褐色土 やや砂質。鉄分沈着あり。径2～3cmの角礫をやや多く含む(A下畑耕作土相当)
 - 5 暗褐色土 やや砂質。鉄分沈着あり。径2～5cmの角礫を非常に多く含む(洪水?)
 - 6 黒色土 鉄分沈着あり。径1～2cmの角礫を少量含む。径1mm程度の白色粒を多く含む
 - 7 褐灰色土 やや粘性あり。鉄分沈着あり
 - 8 黒褐色砂質土 鉄分沈着あり。径1～10cmの亜円礫を多く含む
 - 9 にぶい黄褐色砂質土 径5～30cmの円礫を非常に多く含む
 - 10 黄褐色砂礫 径10～80cmの円礫を非常に多く含む

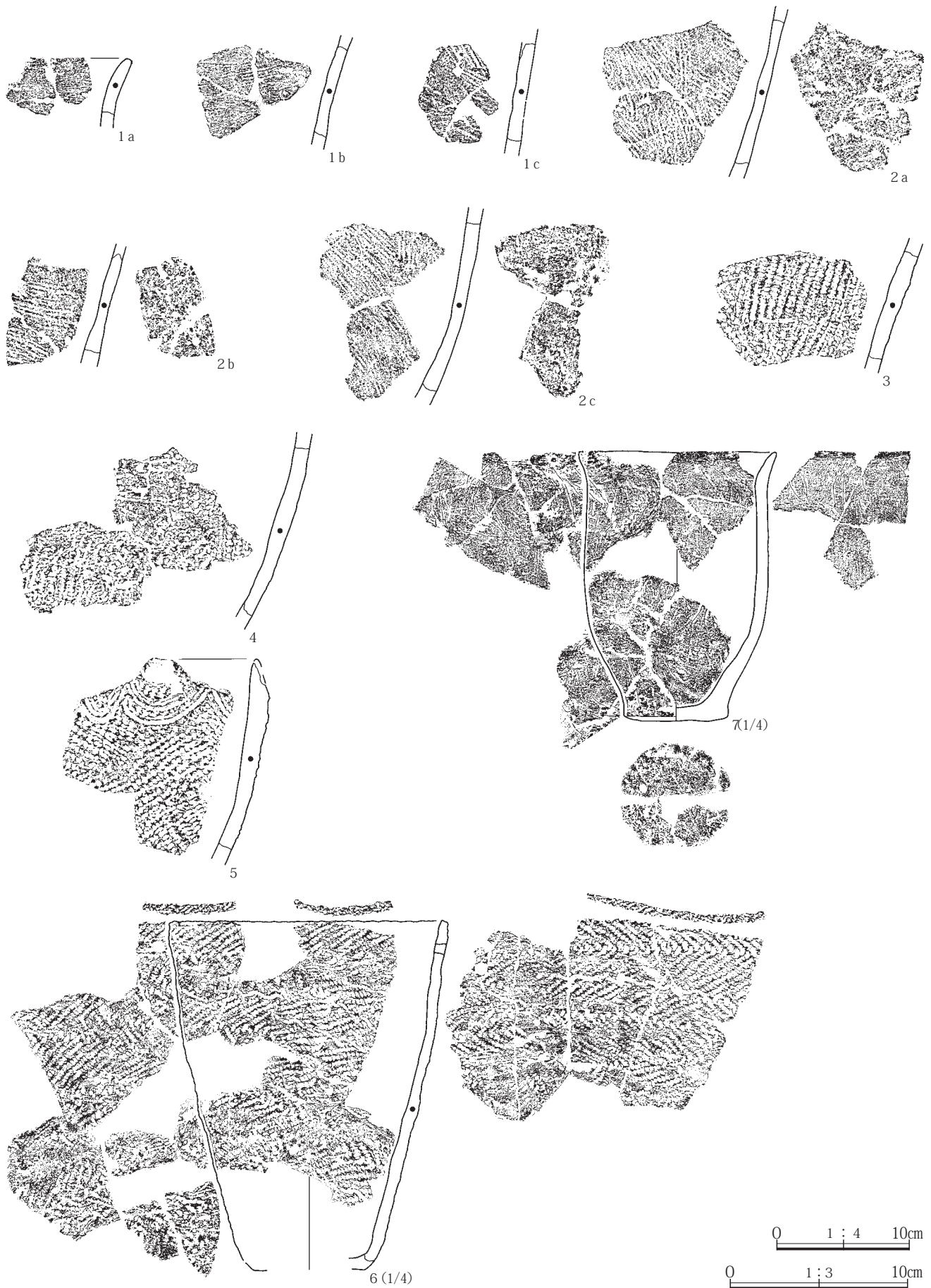


- H-H'
- 1 黒褐色土 やや砂質。径1～3cmの角礫を少量含む。径1mm程度の白色粒子をやや多く含む
 - 2 にぶい黄褐色土 やや砂質。径5～10mmの黄色軽石(As-Ypk?)を少量含む(漸移層相当?)
 - 3 明黄褐色砂質土 径5～10mmの黄色軽石(As-Ypk?)を少量含む
 - 4 橙色砂質土 やや粘性あり
 - 5 にぶい黄褐色砂質土 径5～10mmの黄色軽石(As-Ypk?)を少量含む
 - 6 灰黄褐色砂礫 径3～5cmの円礫を主体

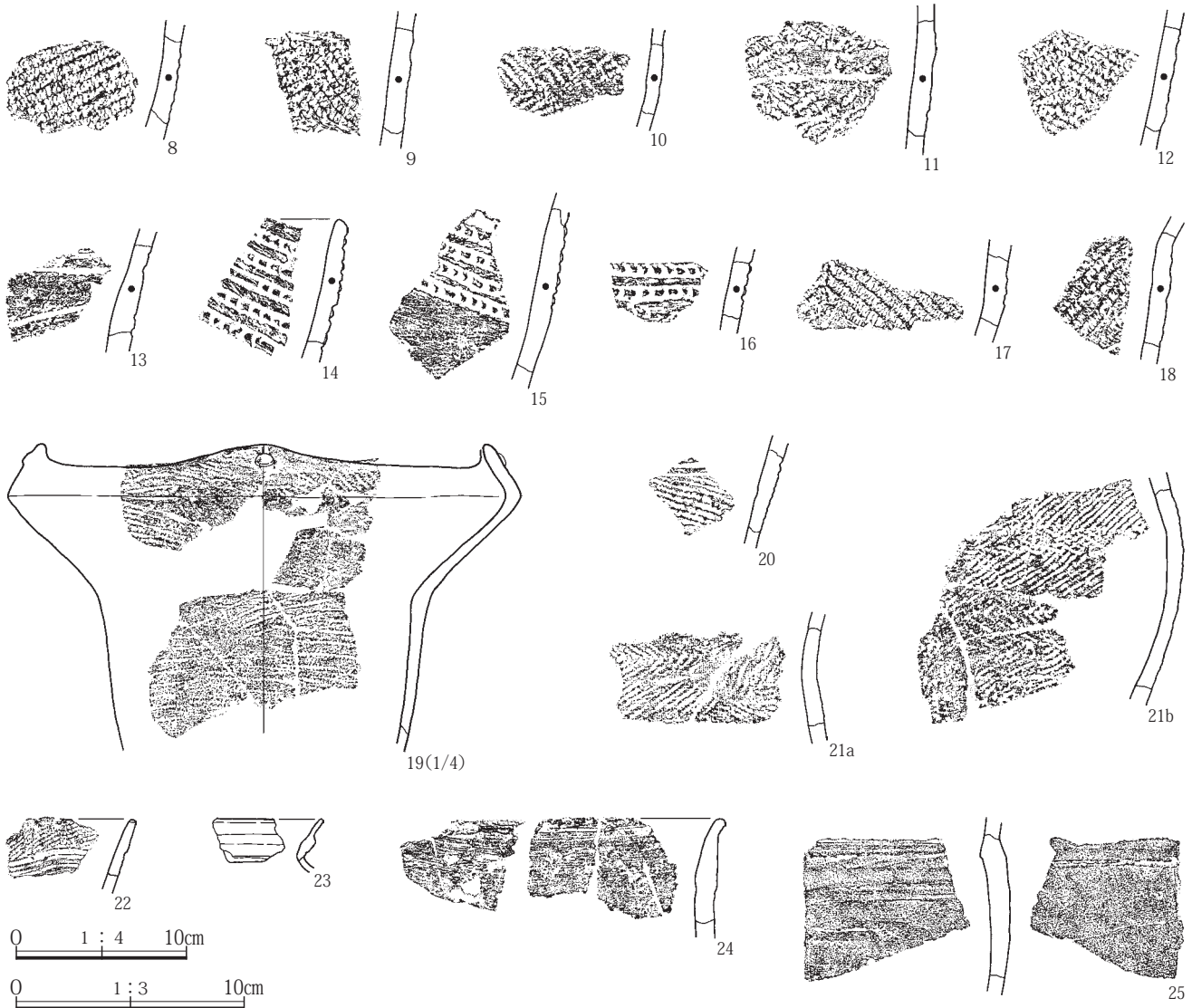
第63図 石畑I岩陰A区南F～Hトレンチ断面図



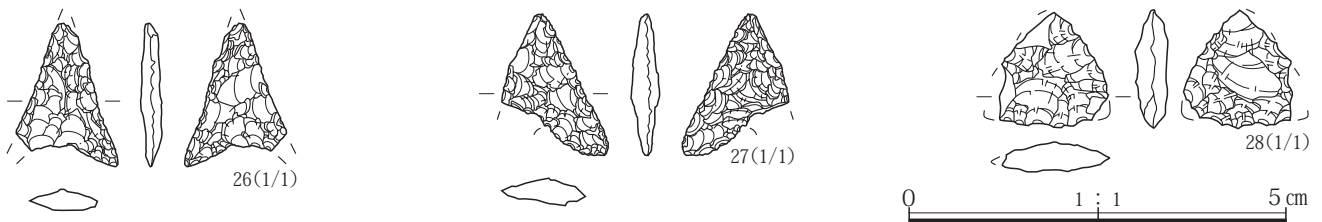
第64図 石畑Ⅰ岩陰A区南遺物分布図



第65図 石畑I岩陰A区南出土遺物(1)



第66図 石畑Ⅰ岩陰A区南出土遺物(2)



第67図 石畑Ⅰ岩陰A区南出土遺物(3)

第5表 A区南出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚			
第65図 PL.53	1	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 並/暗褐色	平縁。内外面ヨコナデ。	早期後半
第65図 PL.53	2	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒多、繊維多/ 良/暗褐色	外面に斜位・縦位の条痕文、内面に横位・斜位の条痕文。	早期後半
第65図 PL.53	3	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面に0段3条RLとLRを施文。内面ナデ。	花積下層式
第65図 PL.53	4	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	227と同個体。	花積下層式
第65図 PL.53	5	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/灰黄褐色	突起を伴う小波状口縁。口縁部に平行沈線で波状文施文。縄文RLとLRで菱形縄文構成。内面が粗い研磨。	黒浜式
第65図 PL.53	6	縄文土器 深鉢	3面 1/2残存	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/明褐色～黒褐色	口唇部に縄文LR。外面に結束縄文RLとLRで羽状縄文構成。内面ナデ。器面に凹凸あり。	花積下層式
第65図 PL.53	7	縄文土器 深鉢	3面 2/3残存	-	-	-	石英・雲母多/良/ にぶい褐色	平縁。口縁部外反。内外面丁寧ナデ。	前期後半
第66図 PL.53	8	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい明褐色	0段多条RLとLRで菱形縄文構成。内面が粗い研磨。	黒浜式
第66図 PL.53	9	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい明褐色	76と同個体。	黒浜式
第66図 PL.53	10	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面に縄文RLとLRで羽状縄文構成。内面が粗い研磨。	黒浜式
第66図 PL.53	11	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黄褐色	76と同個体。	黒浜式
第66図 PL.53	12	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい明褐色	76と同個体。	黒浜式
第66図 PL.53	13	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒多、繊維多/ 良/褐色	外面に平行沈線で菱形文構成。内面が、擦痕残す。	黒浜式
第66図 PL.53	14	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	口縁部に数条の平行爪形文で菱形状文様を構成。内面研磨。	黒浜式
第66図 PL.53	15	縄文土器 深鉢	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐灰色	82と同個体。	黒浜式
第66図 PL.53	16	縄文土器 深鉢	3面 頸部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	82と同個体。	黒浜式
第66図 PL.53	17	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐灰色	82と同個体。胴部に0段多条RLとLRで菱形縄文構成。内面研磨。	黒浜式
第66図 PL.53	18	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/明褐色	82と同個体。胴部に0段多条RLとLRで菱形縄文構成。内面研磨。	黒浜式
第66図 PL.53	19	縄文土器 深鉢	3面 口縁-胴部片	-	-	-	砂粒多/良/にぶい 赤褐色	4単位波状口縁。口縁部くの字に内折。波頂部に円形の貼付文がつく。外面に縄文RL、内面丁寧ナデ。	諸磯b式
第66図 PL.53	20	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	石英・雲母多/良/ 暗褐色	外面に横位平行沈線、縄文RL。内面が粗い研磨。	五領ヶ台式か
第66図 PL.53	21	縄文土器 深鉢	3面 胴部片	-	-	-	砂粒少/良/赤褐色	外面に結束縄文RLとLRで羽状縄文構成。結節部施文。内面研磨。	前期未か
第66図 PL.53	22	弥生土器 甕	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒少/良/黒褐色	平縁。口唇部に刻み目。口縁部縄文帯下を平行沈線で区画。縄文LR。内外面燻し焼成、黒色化。内面丁寧ナデ。	弥生中期前半
第66図 PL.53	23	土師器 台付き甕	3面 口縁部片	-	-	-	細砂多/良/褐灰色	口縁部S字状。内面ヨコナデ。	4世紀
第66図 PL.53	24	土師器 甕	3面 口縁部片	-	-	-	砂粒多/良/明褐色	内外面ヨコナデ。	5世紀末～6世紀初頭
第66図 PL.53	25	土器 内耳鍋	2面 胴部片	-	-	-	細砂多/良/にぶい 橙色	外面ヨコナデ。内外面燻し、器表面黒色化。	中世
第66図 PL.53	26	打製石鏃	2面 片脚・先端欠損	長幅 (1.9)	厚 (1.4)	0.3 0.5	流紋岩	凹基無茎(I類)。	
第66図 PL.53	27	打製石鏃	2.5面 片脚欠損	長幅 (1.9)	厚 (1.4)	0.4 0.5	黒曜石	凹基無茎(I類)。	
第66図 PL.53	28	打製石鏃	2.5面 三端欠損	長幅 (1.5)	厚 (1.5)	0.4 0.5	黒曜石	平基無茎(II類)。	
第66図 PL.53	29	寛永通寶	表採	径内 2.802 2.135	厚 0.164 4.9		新寛永	四文銭11波。ゆがみによるヒビが見られる。面、背の文字、輪、郭などは明瞭。	

B区北の調査

B区北の現況平面図(第68図)を見ると、区の東側と西側が急斜面になっており、中央部付近だけがやや平坦になっている。またこの平坦な部分には北側の岩場が切り立った状態で入り込んでおり、南側にはJR線路を保護するためのコンクリート擁壁が設置されている。

従って、B区北で掘削できる調査区の幅は1～3m程度である。

調査を進めるに際しては、崩落の危険を避けるため、1号から4号トレンチを設定して複数の土層観察を行って、掘削深度が危険にならないように注意すると共に、最大限の成果を上げられるように努力を行った。

上部に岩が張り出している箇所に関しては、雨だれラインを図中に記入した。この位置より内側(擁壁と反対側)は岩陰の中に入っていることになる。

B区北のでは他の調査区と異なり天明泥流より上位の面を1面とした。

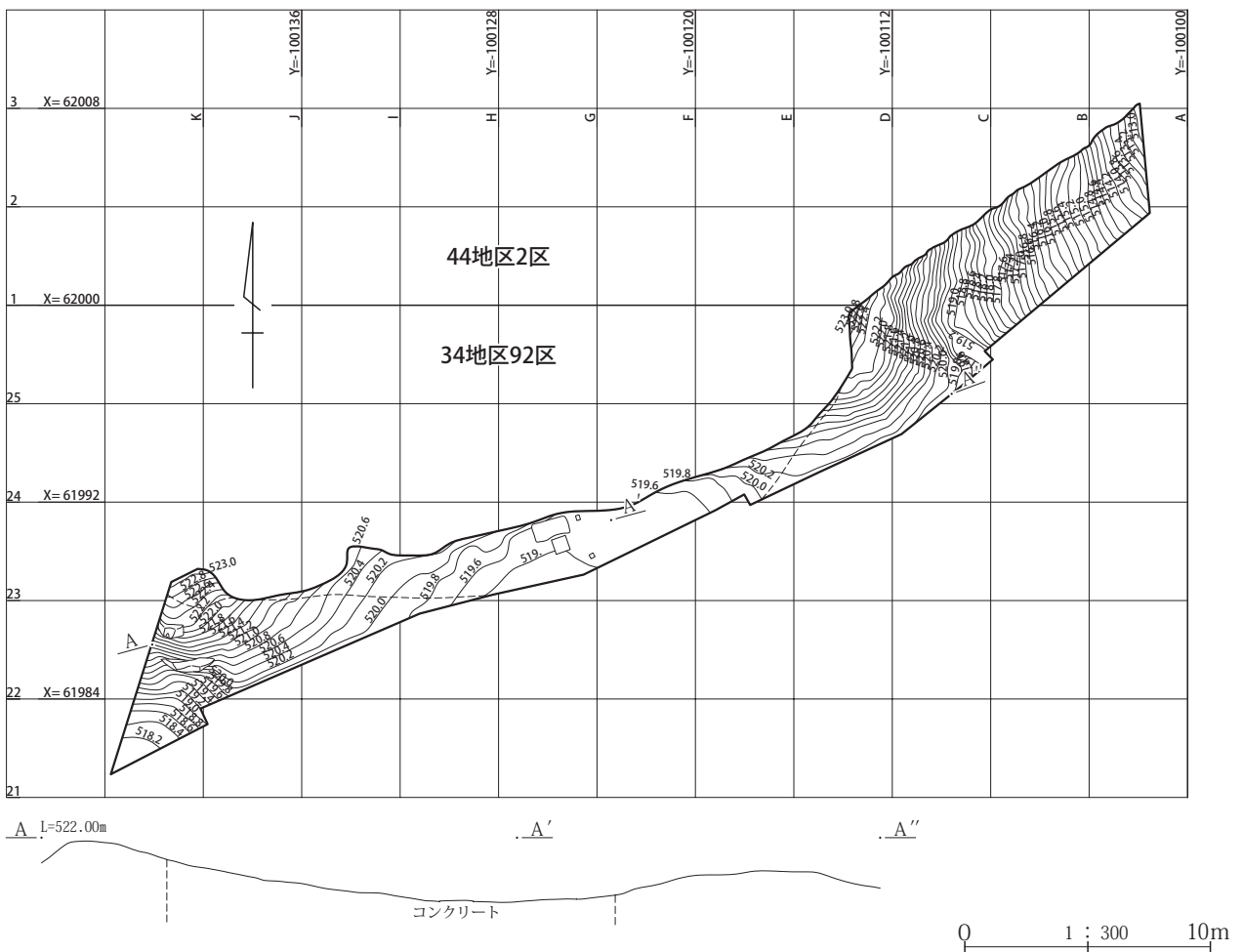
これは、表土下の2層の下で灰層が検出されたためである。

1面では区の東側と中央部やや西側で灰層を検出した。東側の灰層は、天明泥流より新しい遺構であるため1基の大型灰層のように平面図化しているが、実際は2層以下の灰層群と同様に焼土・灰が折り重なるように面的に分布している状況を示しており、何度も火を焚いた痕跡の集合体として考えている。従って1面の中央部西側で単独で見られる灰層と同じ構造である。(第69図)

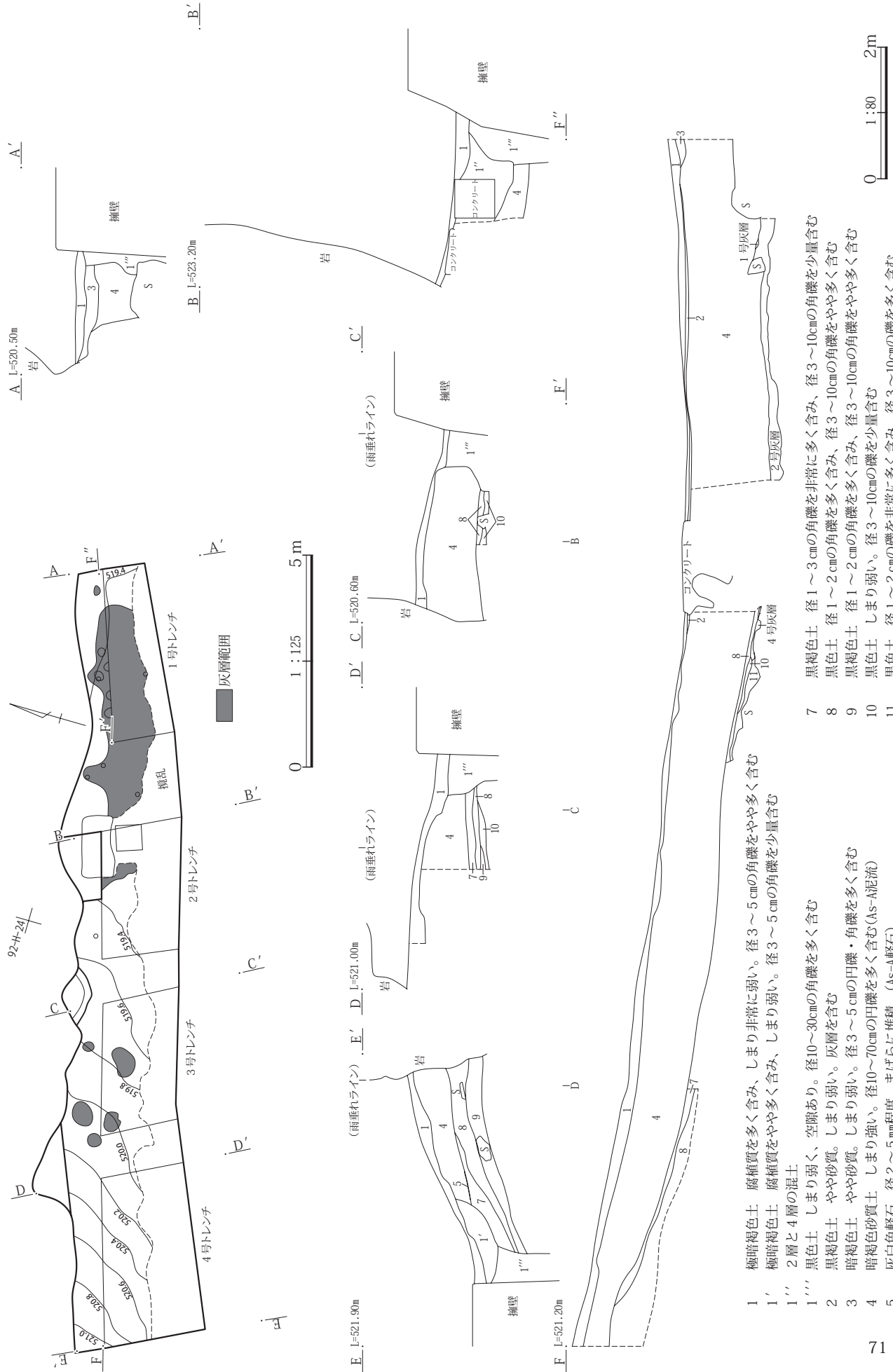
灰層と同一面からは陶磁器片や寛永通宝(第101・102図)が出土した。

2面は基本的には天明泥流直下の面である。As-Aは岩陰の外に堆積しているものと考えられ、B区北においては区の西端部分で確認されたのみであった。断面を見ると所々に落盤層が入り、崖の崩落が多いことが判明した。

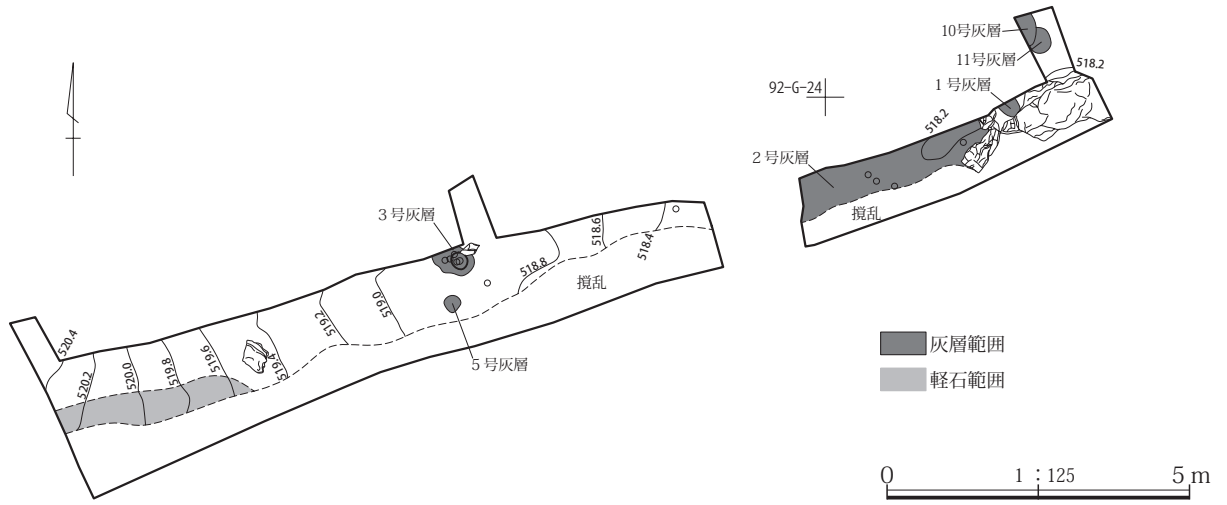
灰層は区の2面東半を覆いつくすように検出されているが、巨大に見えるのは1面で述べたように小型の土坑



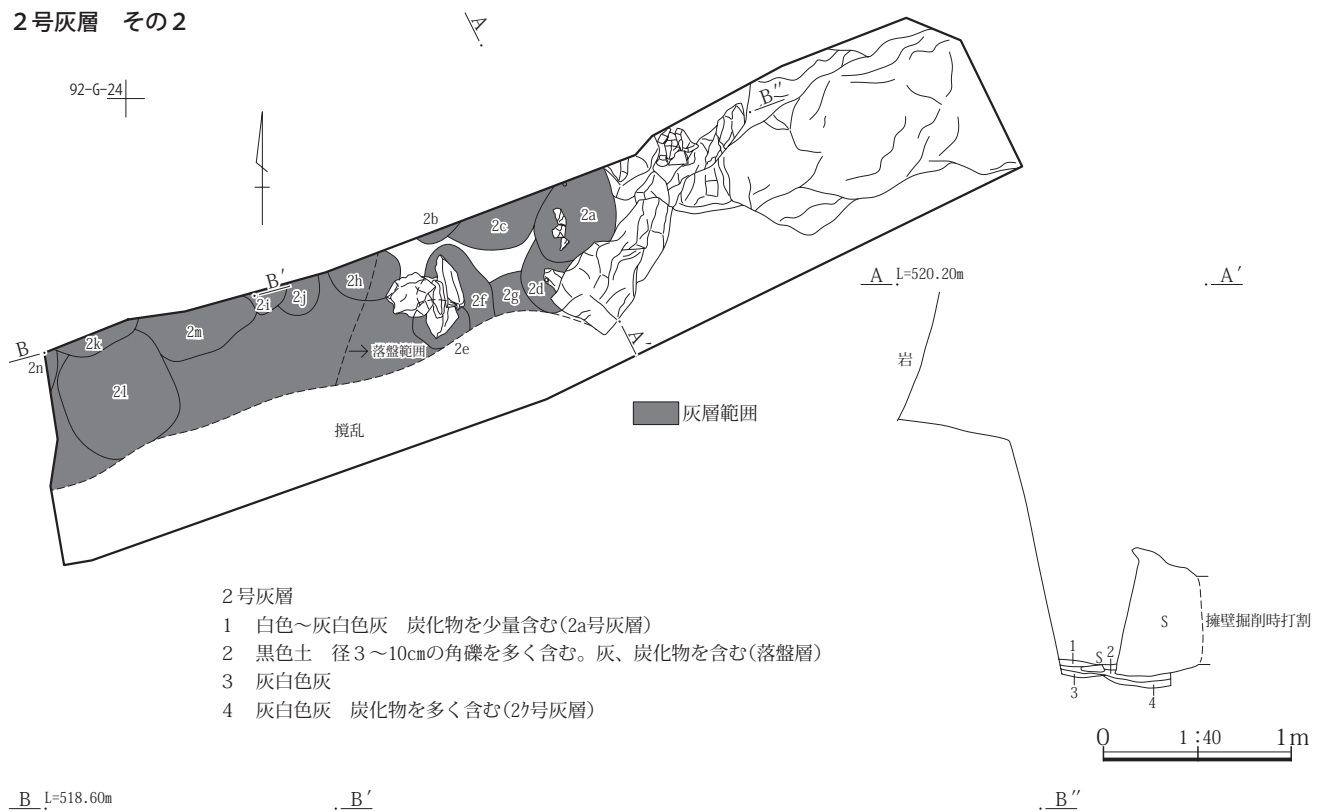
第68図 石畑I岩陰B区北現況平面図



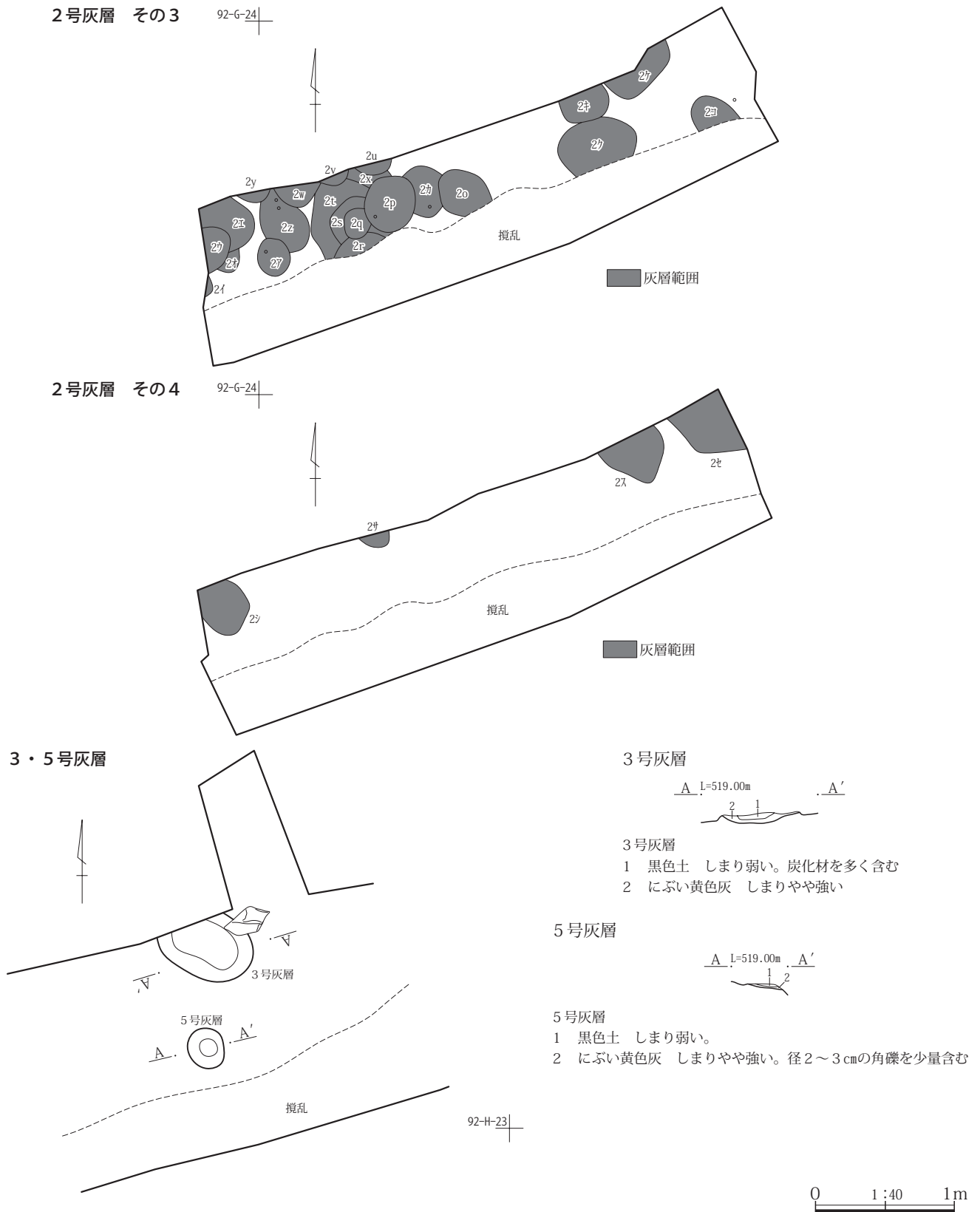
第69図 石畑I岩陰B区北第1面



2号灰層 その2



第70図 石畑I岩陰B区北第2面2号灰層



第71図 石畑I岩陰B区北第2面2・3・5号灰層

状の灰層が重なっているもので、元来大型の遺構ではない。

1号灰層はB区北の北東部壁際で落盤の礫と調査区壁

の間から検出された。As-Aの堆積は見られず、径30cm程度の円形を呈する。出土遺物は無い。

2号灰層はB区北の東部に広く炭化物を含んで分布す

第3章 発見された遺構と遺物

る。径30～50cm程度の単位灰層の集合体と考えられるが、当初検出時には単位として捉えられていなかった。

近世陶磁器が遺物として出土している。

2号灰層の東端(後述する2a号灰層)は、落盤と岩陰本体の間にあり、落盤の側面にもススが付着していることから、落盤後に利用していることがわかる。掘削を進めていく段階で、2号灰層がいくつかの単位灰層として捉えられることが判明した。そのため、2号灰層を14単位に分割して2a～2nとして、ここまでの灰層を「2号灰層」とした。

この14単位に分けた「2号灰層」の灰を採取し、更に1段下げて調査を進めたところ、下から更に単位灰層を確認した。そこで新たに2o～2z・2ア～2コを設定して、新たな灰層を「2号灰層2」とした。

次に「2号灰層2」の灰を採取し、更に1段下げて調査を進めたところ、下から更に単位灰層を確認した。そこで新たに2サ～2セを設定して、新たな灰層を「2号灰層3」とした。

2号灰層からは江戸時代の陶磁器片が出土している。

10号灰層・11号灰層はB区北東端の1号トレンチ北端で検出された。重複関係にあり、10号灰層の方が新しい。10号灰層は径2～3cmの礫を多く含むが、11号灰層は含まない。

このように2面には、2号灰層の単位灰層が2aから2zまでの26単位と2アから2セまでの14単位の計40単位が存在し、単独で検出された1号灰層・10号灰層・11号灰層を加えると計43単位の灰層が存在することになる。B2区北2面の各灰層単位と落盤の先後関係は第7図の模式図を参照されたい。図において矢印の無い単位の先後関係は不明である。

他に2面の灰層として3号灰層・5号灰層・9号灰層があげられるが、天明泥流直下の灰層ではない。

3号灰層は天明泥流下畑の耕作土である6層の下で検出された灰層で、10号灰層もほぼ同じ面から検出された。

3号灰層の灰は2層に分層されるが、1層目の灰を除くと中央付近が円形の窪みになる。また断面2層目の灰の色調を見ると黄味が強く1・2号灰層と焼成したものの違いを感じる。遺物は2層(灰層)から鉄製品が4点出土した。(第89図)

5号灰層は6層相当の黒色土中から検出され、2層に

分割されるが、確認された灰の色調が3号灰層に似ていることから、層を単位として分割せずに5号灰層として一つに扱った。遺物は出土していない。

B区北3面は、当初10層から土師器が出土することから平安時代の層と考えていたが、10層下にAs-Kkが含まれることから、平安から中世の層と考えるようになった。第3面として図化した面は10層上面で等高線を抑えている。

遺構としては、4・6・8号灰層を検出した。

4号灰層は当初1トレンチと2トレンチの間にあるコンクリートブロックの崩落防止のため、調査区を狭めていたため遺構の西側のみを調査し、その後東側を拡張して調査した。そのため全景写真は半分ずつになっている。

トレンチFラインの8層よりも下層にあるため2面とは異なると考え3面の遺構とした。

1cm前後の土師器小破片と獣骨の小片が出土した。

灰の色調は、1・2号灰層および3号灰層とも異なり灰色味が強い。

6号灰層は10層を掘り下げて行く途中で検出され、10層下よりも上位である。層位を見る限り純粋な灰層ではなく、ブロック状を呈しているため二次的な灰の堆積であると考えられ、焼骨が出土した。

6号灰層の東には巨礫が多数見られる。この礫群は66号灰層よりも時期が新しいことから、灰層が利用された後に壁が崩落した落盤の跡であろう。灰層の西側にはAs-Kkが広い範囲で堆積している。

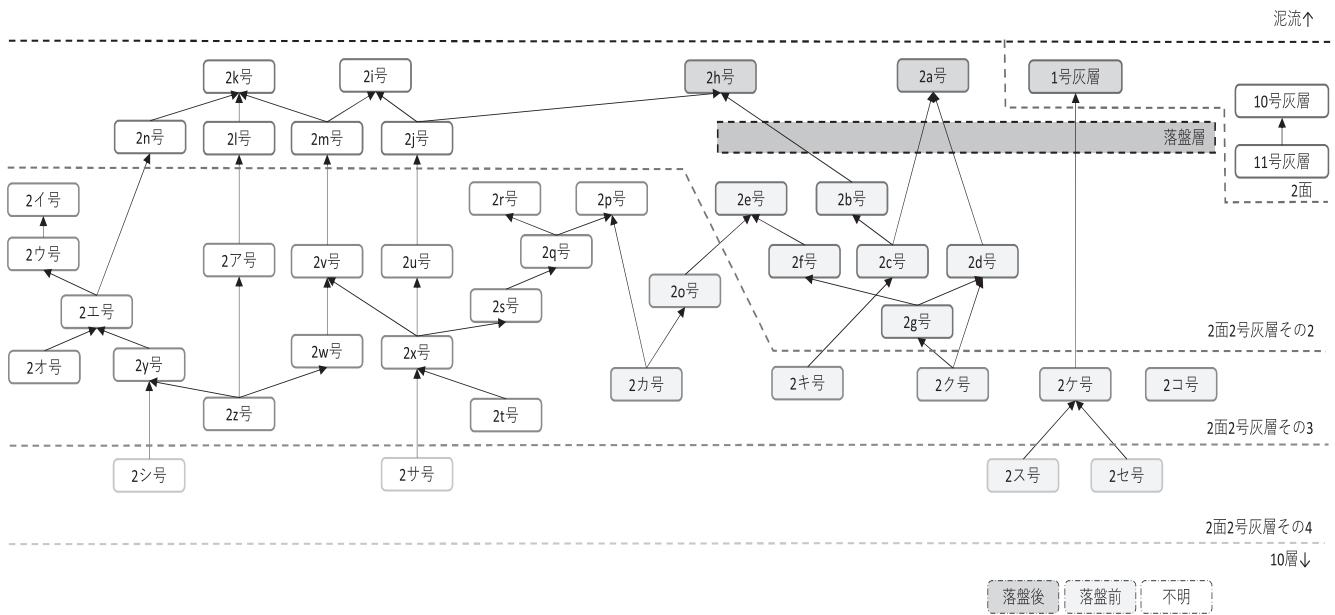
8号灰層は10層下を除去後に検出した灰層で、B区北3面では下位の遺構である。骨片が多数出土した。

断面の灰は灰白色と灰色の灰層などに分類でき、長期間繰り返し使用されてきたものと考えられる。しかし単位灰層として細かく分類することはできなかった。

10層下の様相を見てみると、3号トレンチの北側が若干凹むようになっており、そこにAs-Kkと考えられる砂粒が堆積している。これは、純層ではなく2次堆積と考えられ、風性堆積の可能性が高い。

As-Aが岩陰の庇の外に堆積しているのに対し、As-Kkが庇の内部に堆積しているのは、2次堆積の一つの根拠となるだろう。

出土した遺物を見ると、10層及び10層下の両層で、小片であるが獣骨の骨片が大量に出土している。



第72図 石畑I岩陰B区北1・2号灰層前後関係模式図

B区北4面は2トレンチが縄文土器を含んでおり縄文時代の面として扱い始めたのが始まりである。平面図の等高線は、11層の下面で取っている。

遺構は1号土坑の他7号灰層、12号灰層、13号灰層、1号溝が検出された。

4面から出土した土器の時期を見ると、縄文晩期の他弥生、古墳時代を含んでおり、縄文晩期から古墳時代の面として捉えることができる。

1号土坑は周囲より黒色に落ち込んでいたため土坑として扱った。遺構は調査区北側の外に広がっており、調査区内で全体の2分の1程度を確認した。

覆土中に焼骨の極小片を含んでいたが人為的埋没か自然埋没か判断できない。

遺物は弥生の深鉢の他鉄斧と考えられる鉄製品が出土した。弥生時代の遺構から鉄製品が出土するの稀な例である(第89図-98)

1号溝は12号灰層の遺構確認中に12号灰層の南西に接して検出された。

時期的には12号灰層よりも新しく、遺物も若干出土しているが、人為的に掘削されたものではなく、雨水流路の可能性が高い。

溝は北壁に沿って東に分岐している。

11層・11'層は共に10層よりも下面にある。

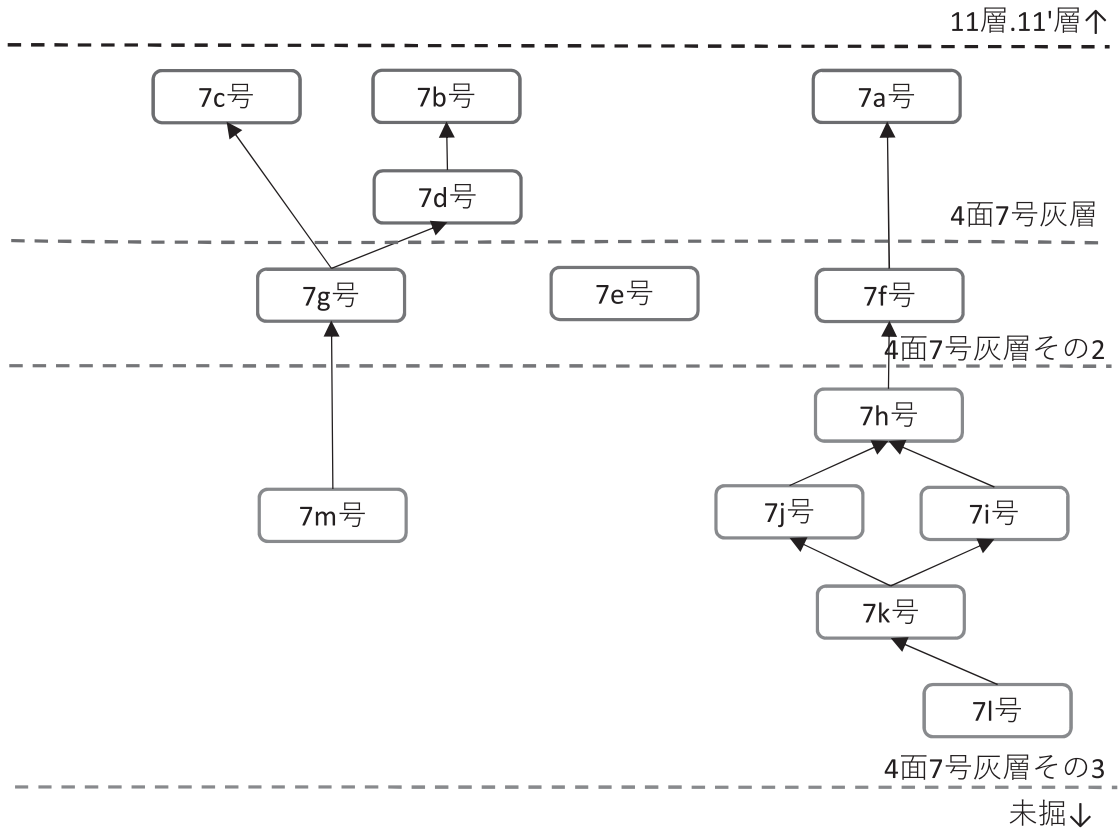
11層は径1～2cmの角礫を非常に多く含み、径10～30cmの角礫を多く含む。灰を含むため、やや灰色味が強い色調を呈し、細かい骨片や土器片を含む。

11'層は11層の下にあり7号灰層の上にある。しまりが強く灰を含むため、7号灰層の一部になる可能性も否定できない。

7号灰層は11・11'層下で確認された灰層で、B区北の東端部北側に広く分布しているが、やはり細かく単位層に分けられる。第73図の模式図と第77図の断面図Cを見ると理解し易い。なお貝製指輪(103)は7号灰層から出土している。

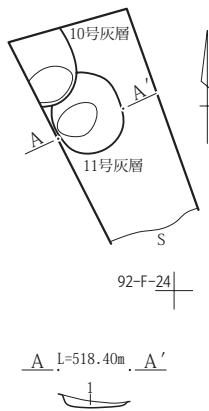
第77図で矢印の付いている単位に関しては先後関係が成立している。また点線の区画で区切られた単位に関しては同時期のグループとして考えており、上位のグループよりも下位のグループの方が古い。ただし同一時期グループ内においても矢印が無い場合先後関係は不明である。

12号灰層は当初8号灰層の真下にあるため、8号灰層の最下層として認識していたが、若干12号灰層の方が広い。周囲の11層・12層は弥生土器を含んでいる。



第73図 石畑Ⅰ岩陰B区北7号灰層前後関係模式図

10・11号灰層



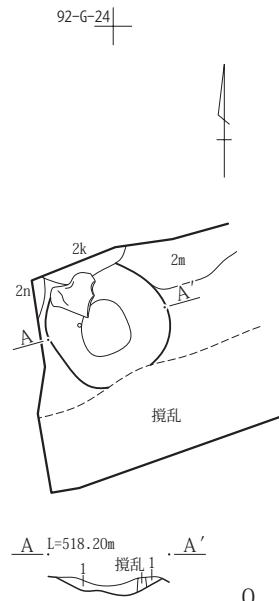
11号灰層

- 1 灰白色灰～淡黄色灰 しまりやや強い。炭化物を少量含む(灰層の下は焼土化)

21号灰層

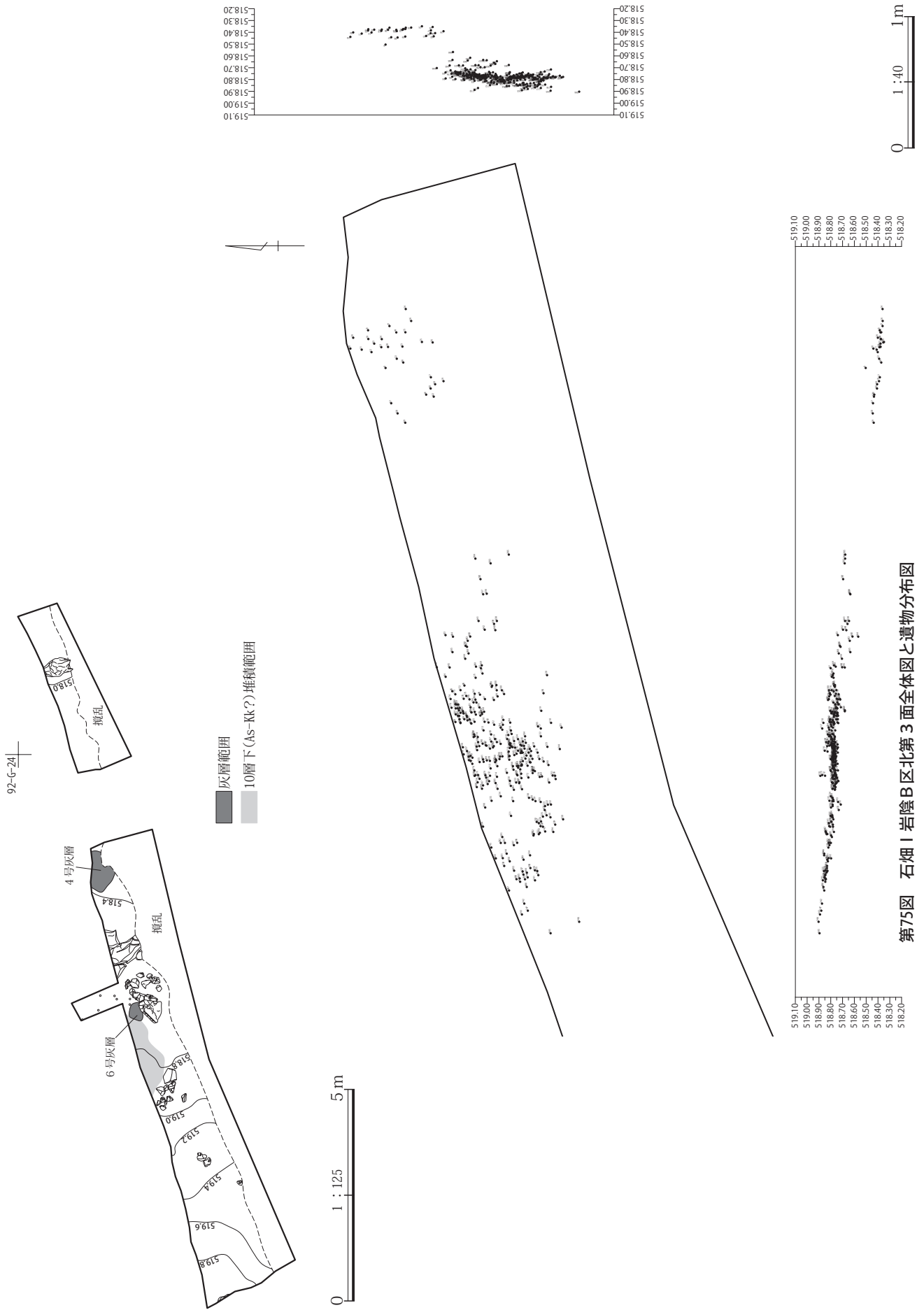
- 1 灰白色灰 しまりやや強い。炭化材をやや多く含む

21号灰層



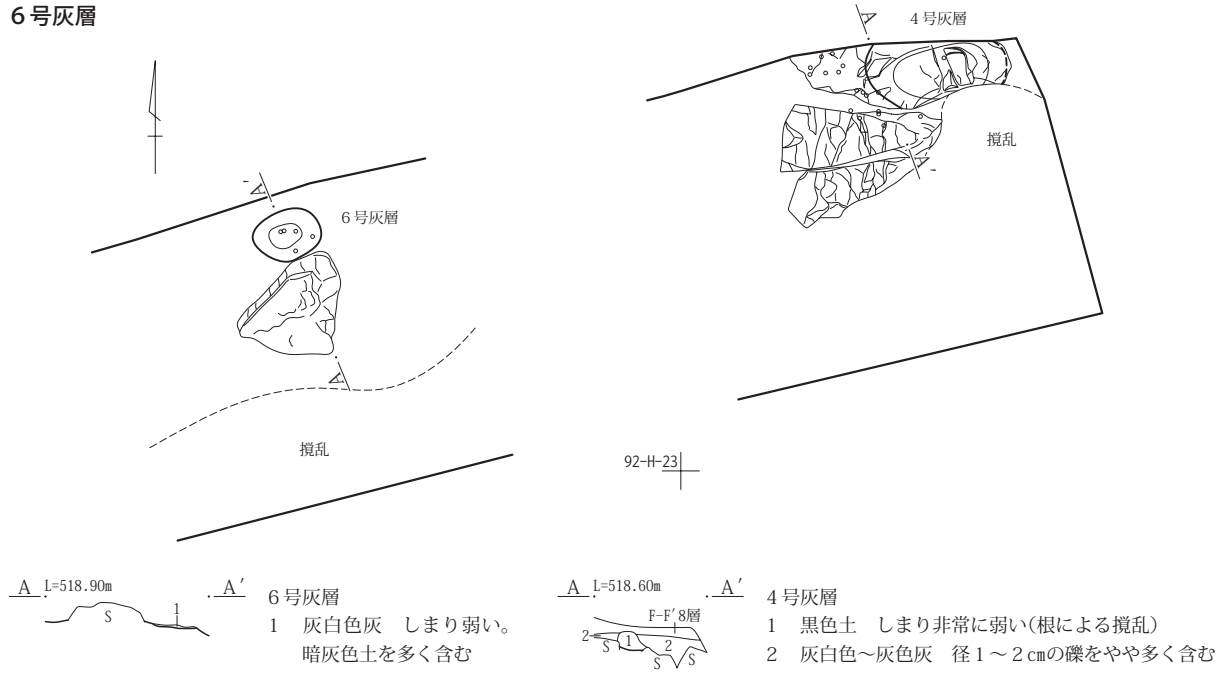
0 1:40 1m

第74図 石畑Ⅰ岩陰B区北第2面10・11・21号灰層

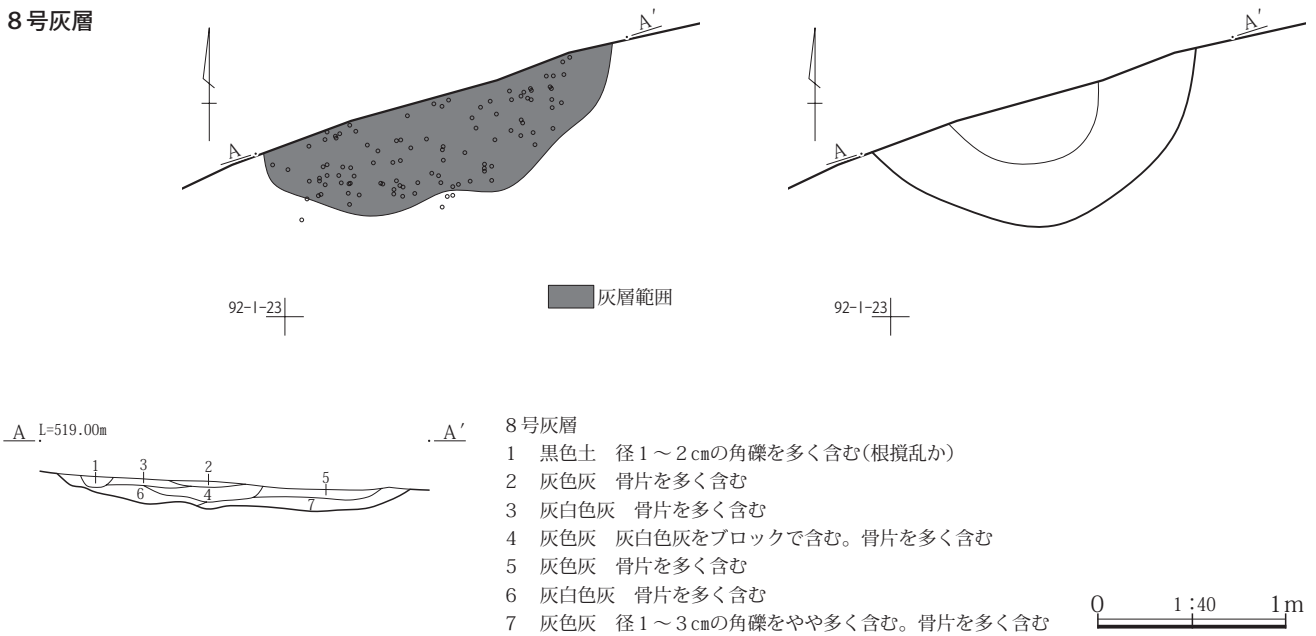


第75図 石畑I岩陰B区北第3面全体図と遺物分布図

4・6号灰層

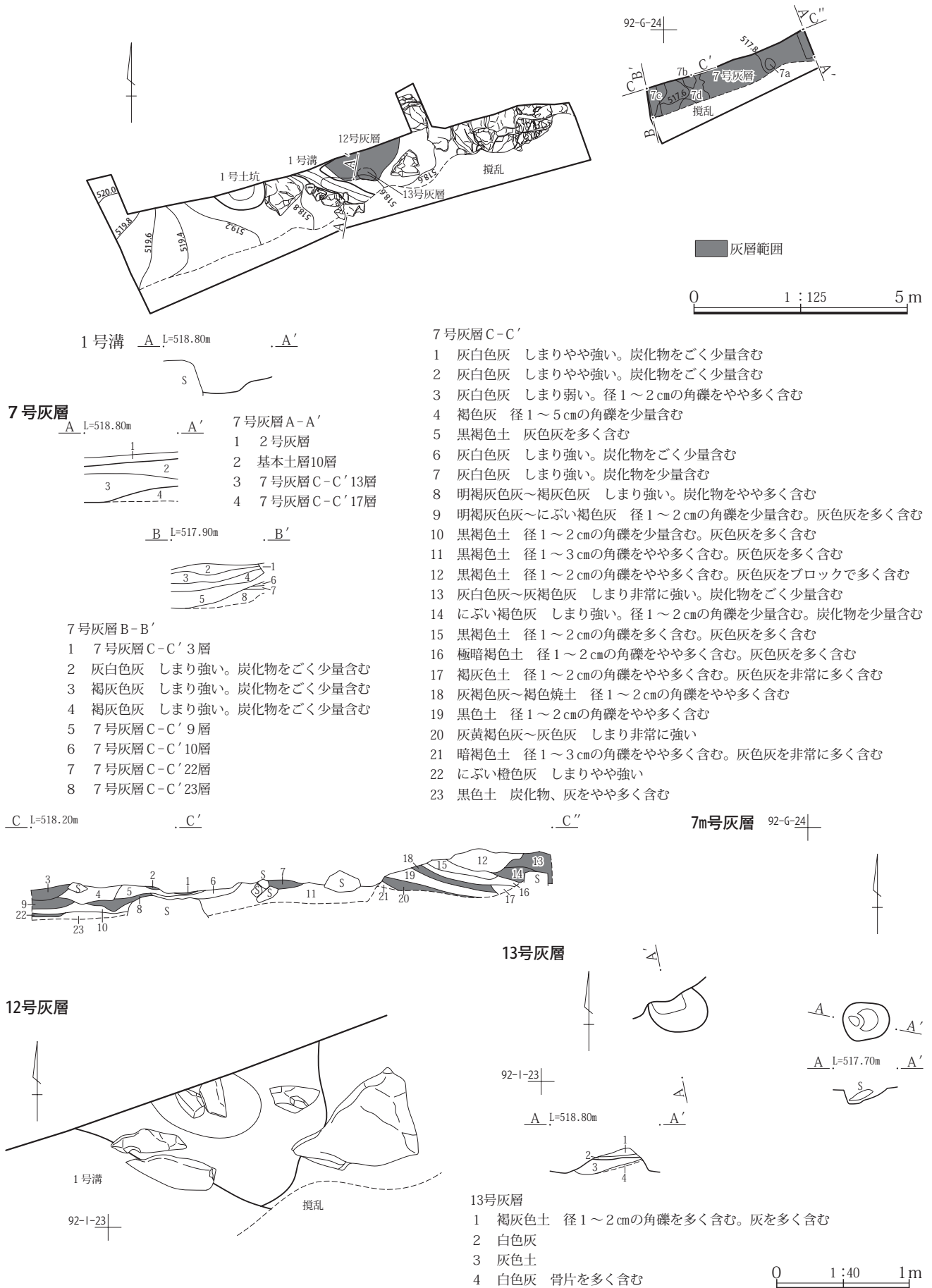


8号灰層

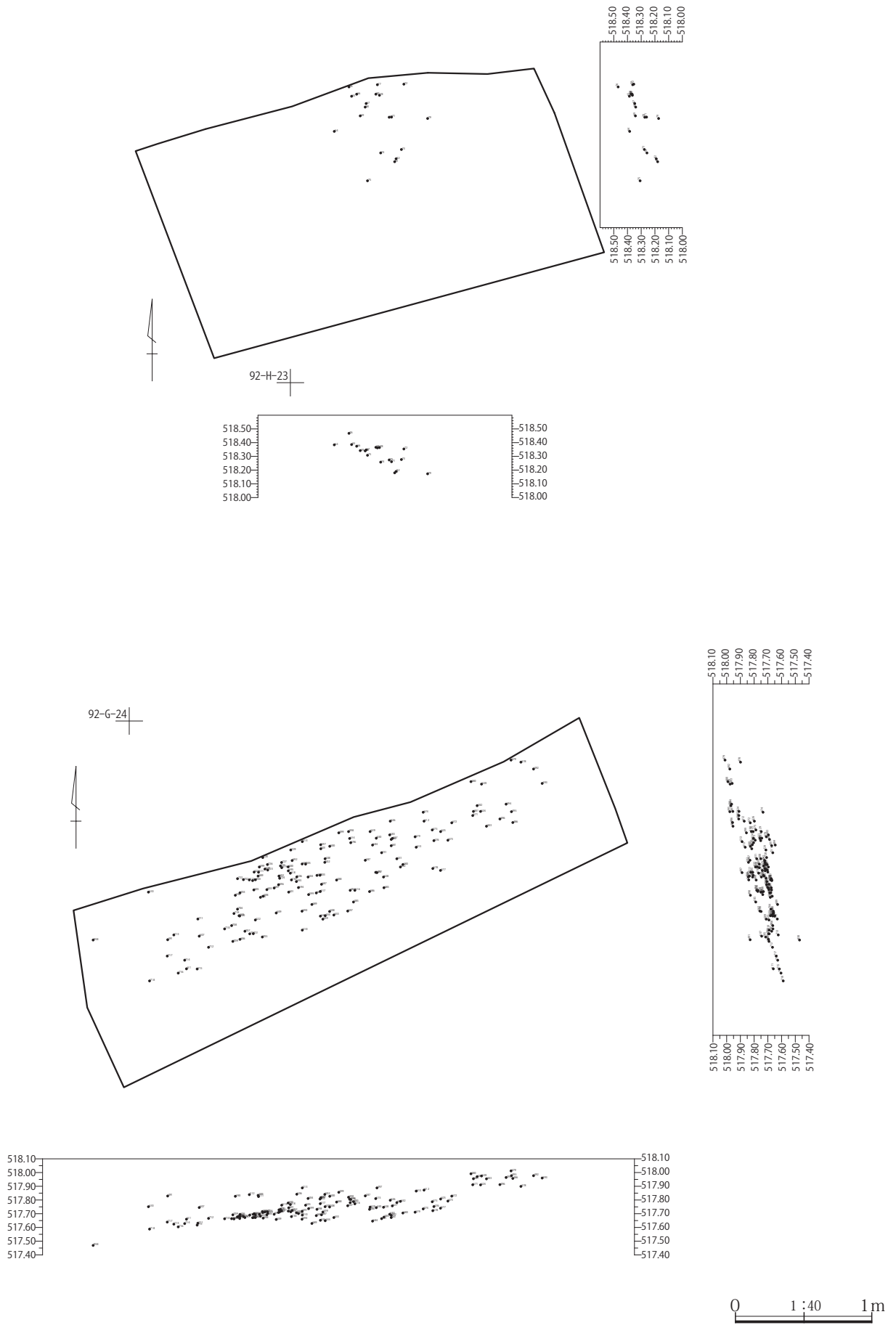


第76図 石畑I岩陰B区北第3面4・6・8号灰層

第4節 石畑I岩陰の調査



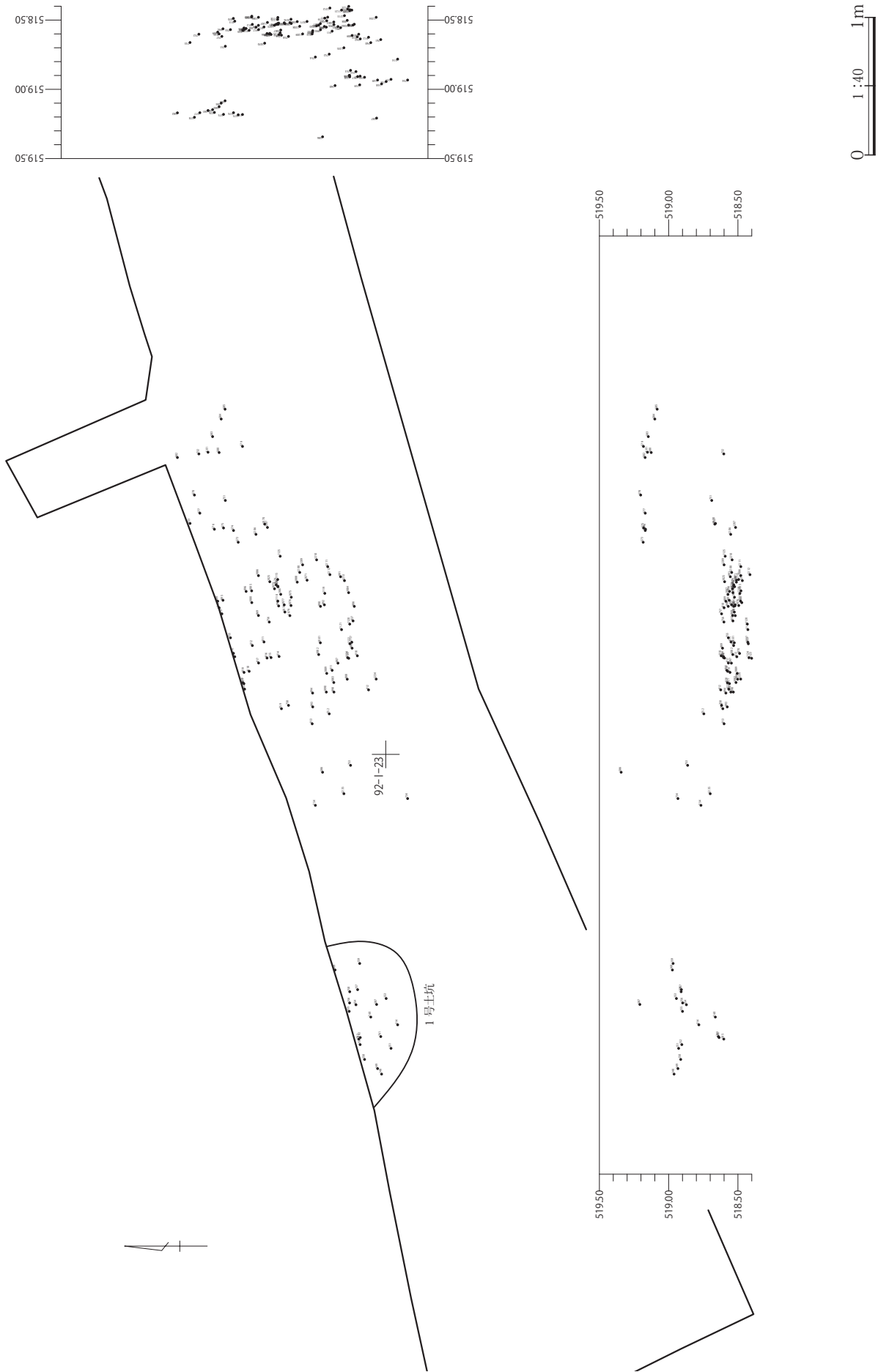
第77図 石畑I岩陰B区北第4面



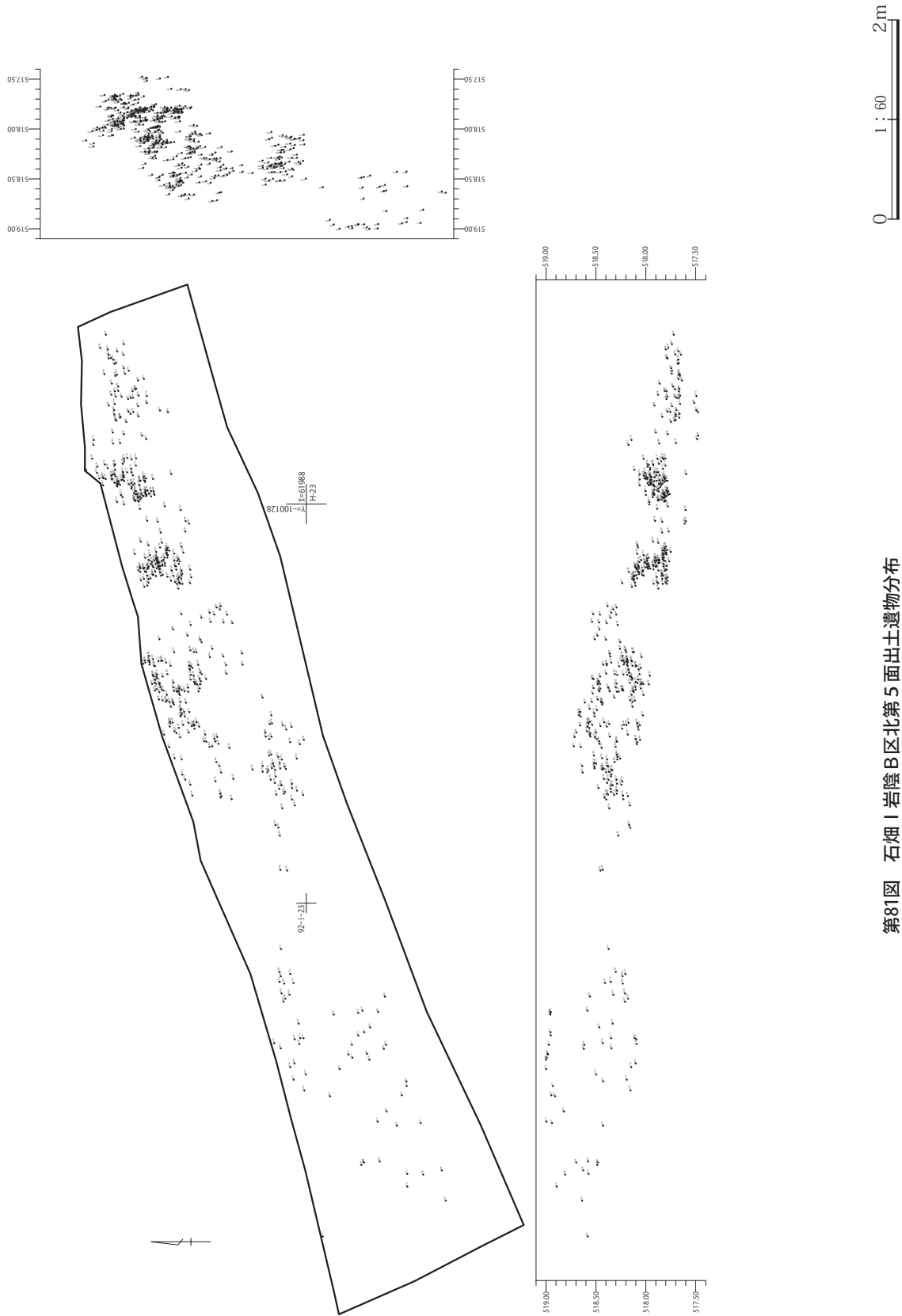
第78図 石畑Ⅰ岩陰B区北第4面遺物分布図



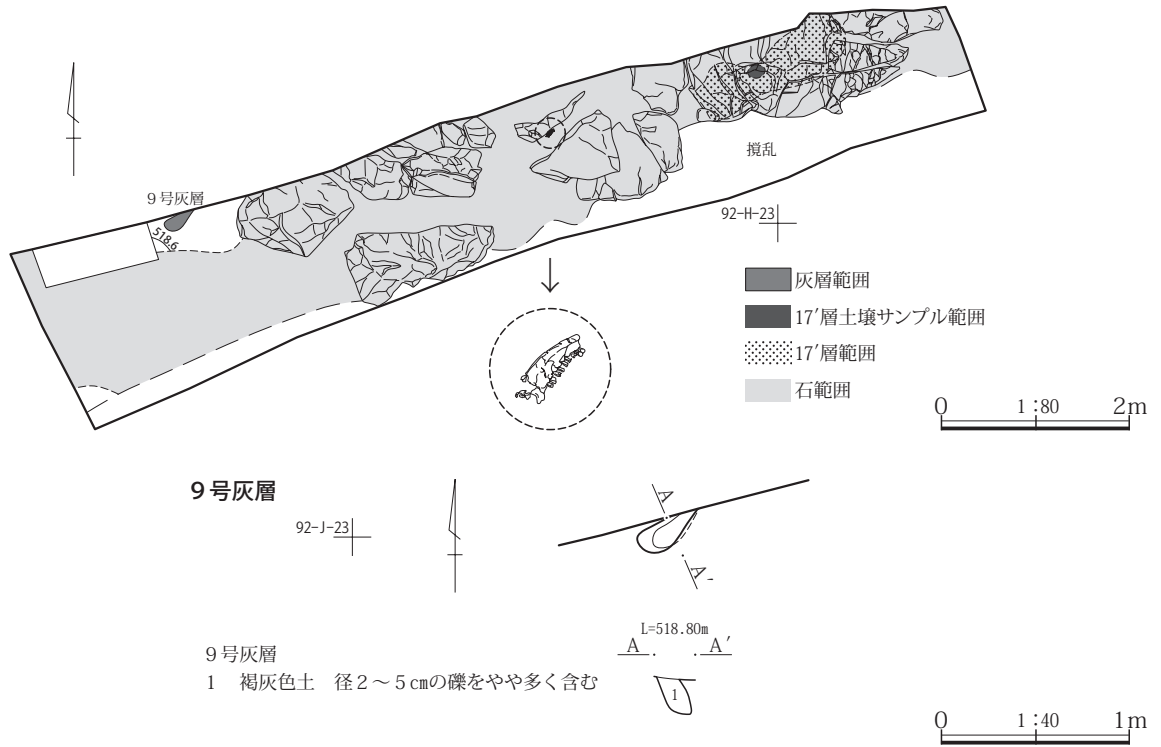
第79図 石畑I岩陰B区北第4面灰層分布と出土遺物分布



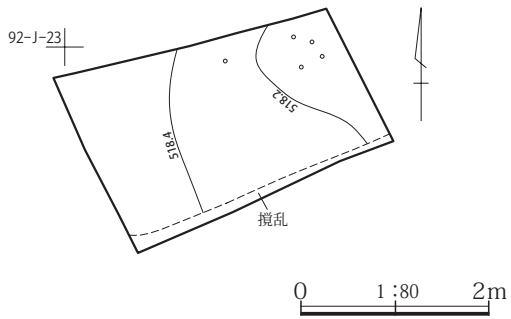
第80図 石畑I 岩陰B区北第4面出土遺物分布



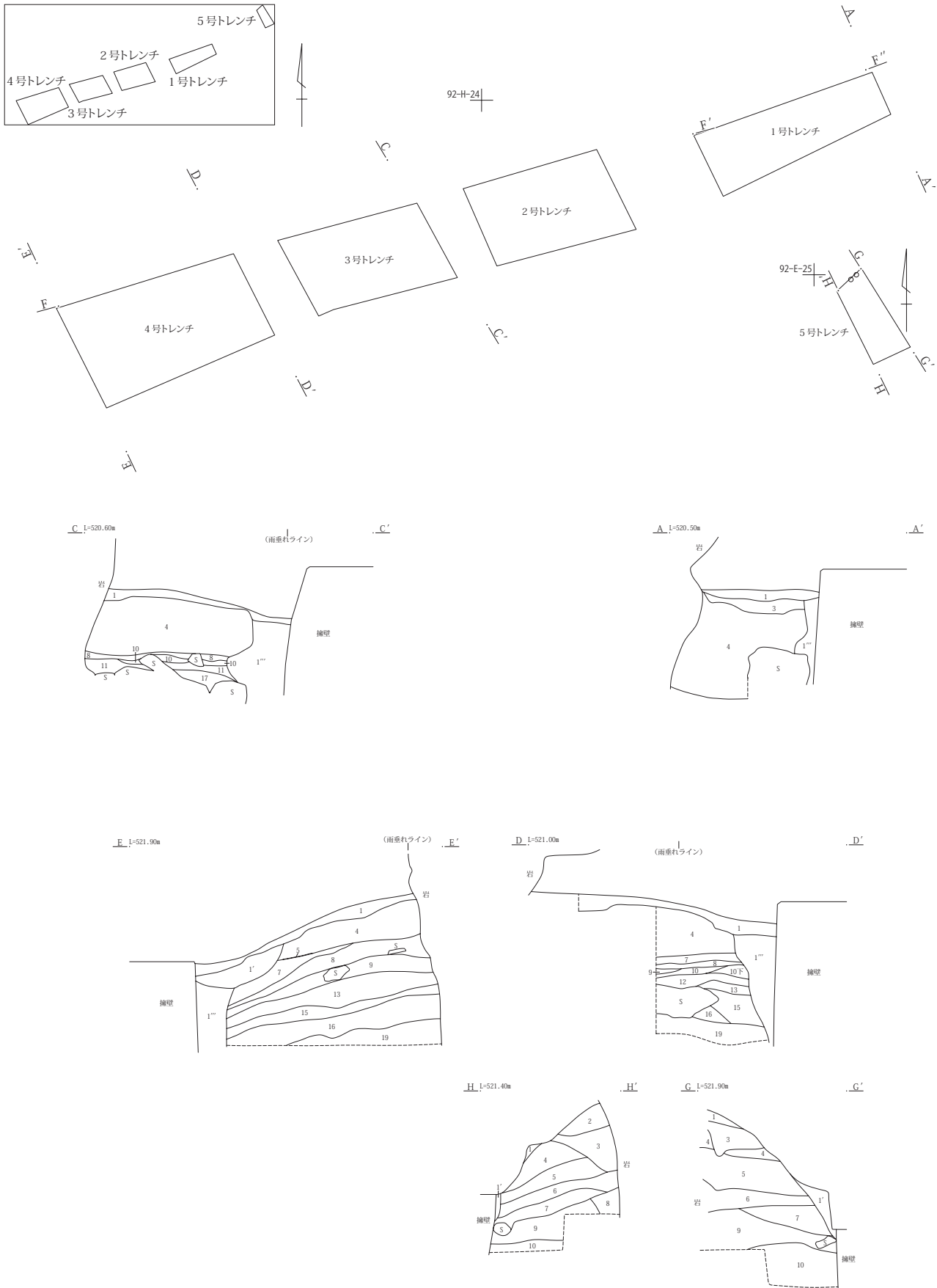
第81図 石畑I岩陰B区北第5面出土土遺物分布



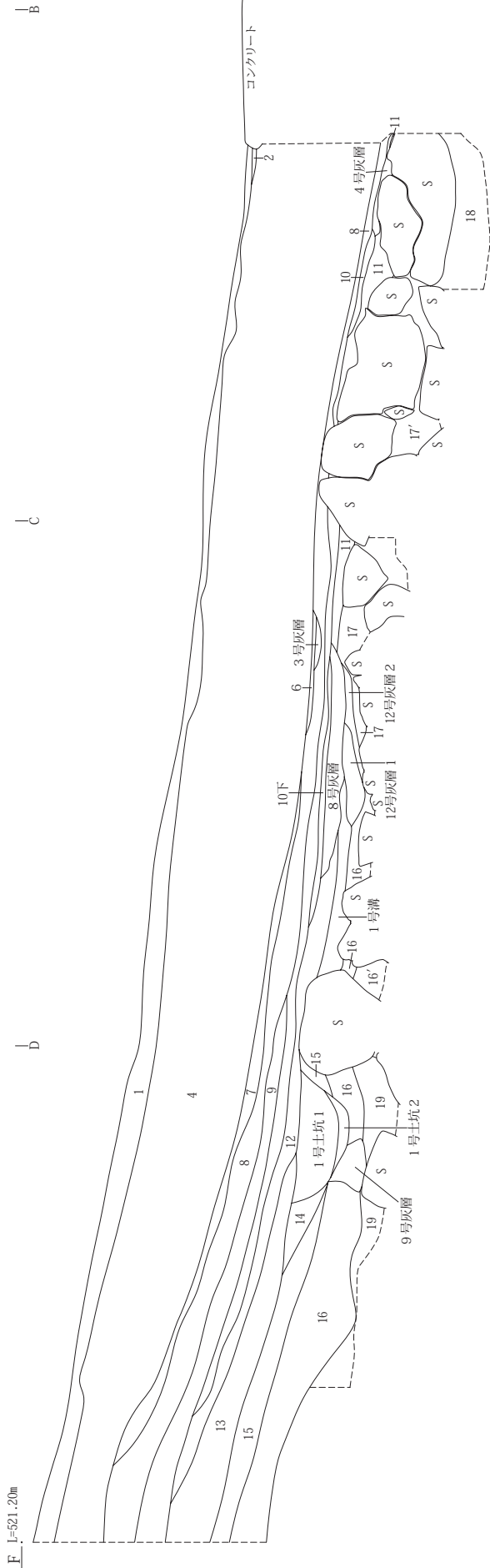
第82図 石畑Ⅰ岩陰B区北第5面9号灰層



第83図 石畑Ⅰ岩陰B区北第6面



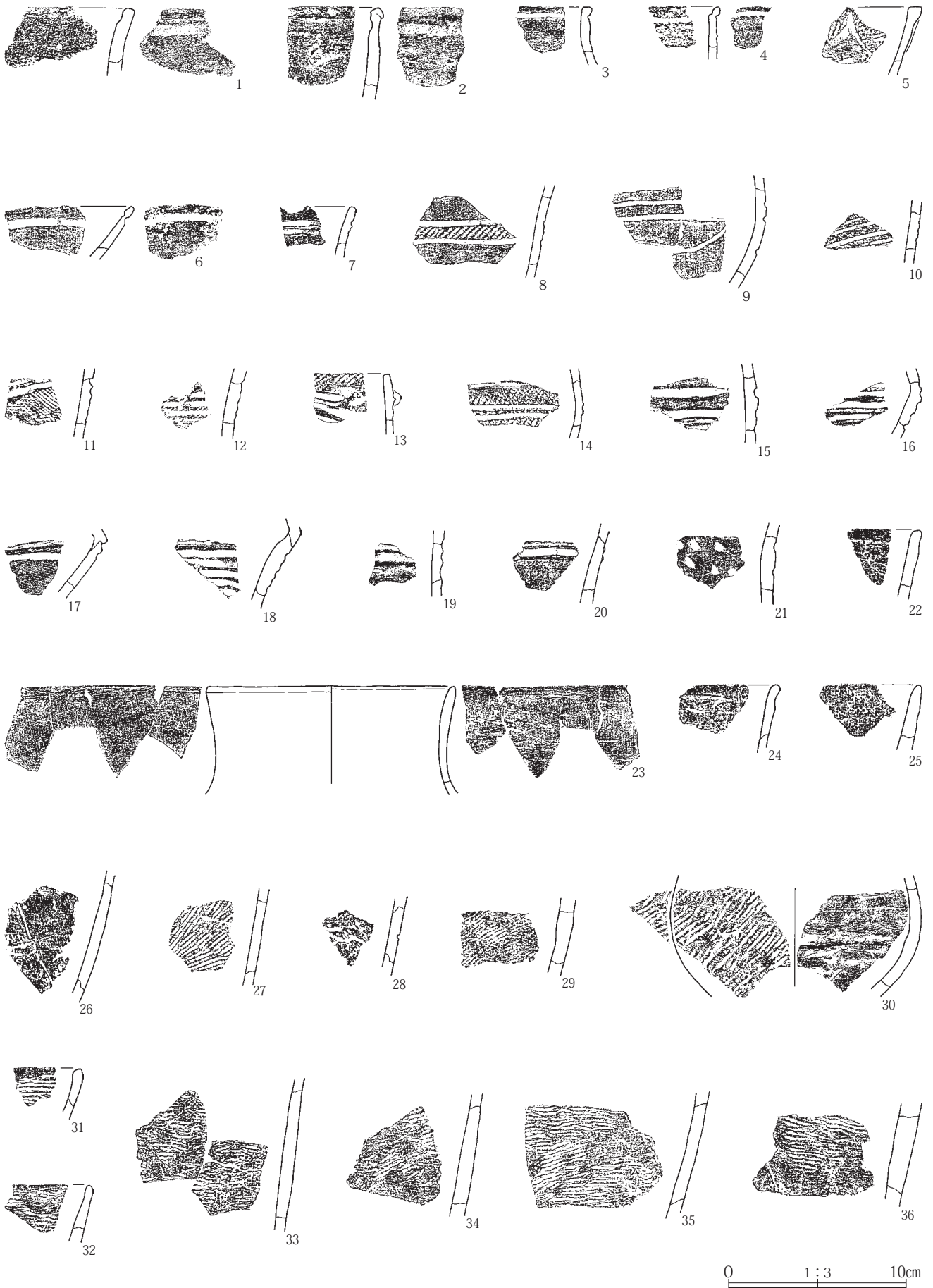
第84図 石畑I岩陰B区北トレンチ平面図・断面図(1)



トレンチ

- | | | | | | |
|-----|--------|------------------------------------|-----|------|---|
| 1 | 極暗褐色土 | 腐植質を多く含み、しまり非常に弱い。径3～5cmの角礫をやや多く含む | 11 | 黒色土 | 径1～2cmの礫を非常に多く含み、径3～10cmの礫を多く含む |
| 1' | 極暗褐色土 | 腐植質をやや多く含み、しまり弱い。径3～5cmの角礫を少量含む | 11' | 黒褐色土 | 径1～5cmの角礫を多く含む。灰を多く含み、非常に硬くしまる |
| 1'' | 黒色土 | しまり弱く、空隙あり。径10～30cmの角礫を多く含む | 12 | 黒色土 | 径1～2cmの礫をやや多く含み、径3～20cmの礫を多く含む |
| 2 | 黒褐色土 | やや砂質。しまり弱い。灰層を含む | 13 | 黒褐色土 | 径1～2cmの角礫を非常に多く含み、径3～5cmの角礫を少量含む |
| 3 | 暗褐色土 | やや砂質。しまり強い。径3～5cmの円礫・角礫を多く含む | 14 | 黒褐色土 | 径1～3cmの角礫を非常に多く含む |
| 4 | 暗褐色砂質土 | しまり強い。径10～70cmの円礫を多く含む(As-A泥流) | 15 | 黒褐色土 | 径1～2cmの角礫をやや多く含む |
| 5 | 灰白色軽石 | 径2～5mm程度。まばらに堆積。(As-A軽石) | 16 | 黒色土 | 径1～3cmの角礫を非常に多く含む(東ほど少なくなる) |
| 7 | 黒褐色土 | 径1～3cmの角礫を非常に多く含み、径3～10cmの角礫を少量含む | 16' | 黒色土 | しまりなく空隙あり。骨片をやや多く含む |
| 8 | 黒褐色土 | 径1～2cmの角礫を多く含み、径3～10cmの角礫をやや多く含む | 17 | 黒色土 | 径1～3cmの角礫を少量、5～20cmの角礫を非常に多く含む。骨片を非常に多く含む |
| 9 | 黒褐色土 | 径1～2cmの角礫を多く含み、径3～10cmの角礫をやや多く含む | 17' | 黒色土 | しまりなく空隙あり。非常に多くの骨片を含む。小動物の糞?を含む |
| 10 | 黒色土 | しまり弱い。径3～10cmの礫を少量含む | 18 | 黒色土 | 径5～50cmの礫を多く含む。骨片を多く含む |
| 10下 | 黒色土 | しまり弱い。As-Kkの可能性のある砂粒を含む | 19 | 崩落礫層 | 径10～150cmの礫を主体とし、空隙あり |

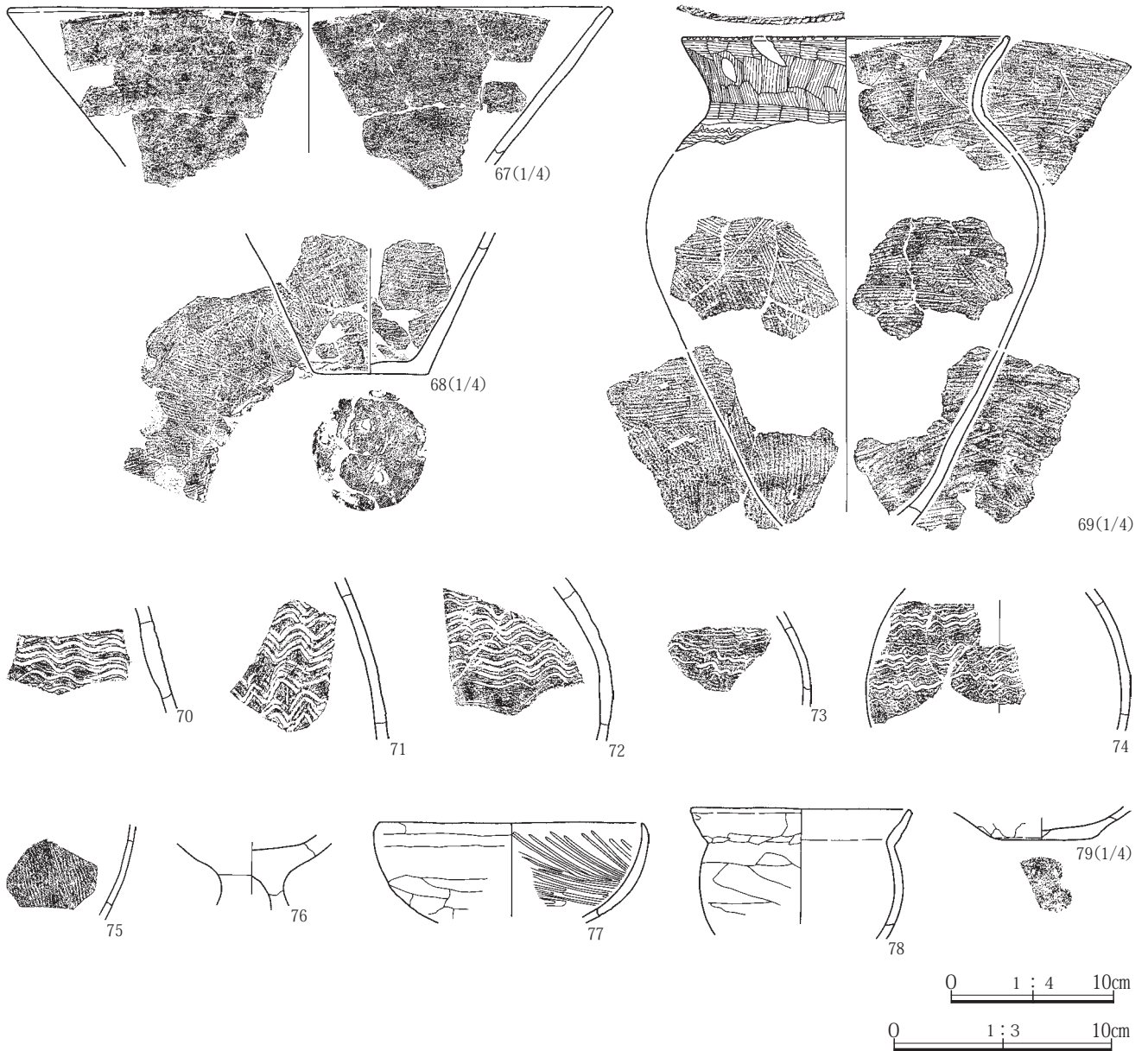
第85図 石畑I岩陰B区北トレンチ断面図(2)



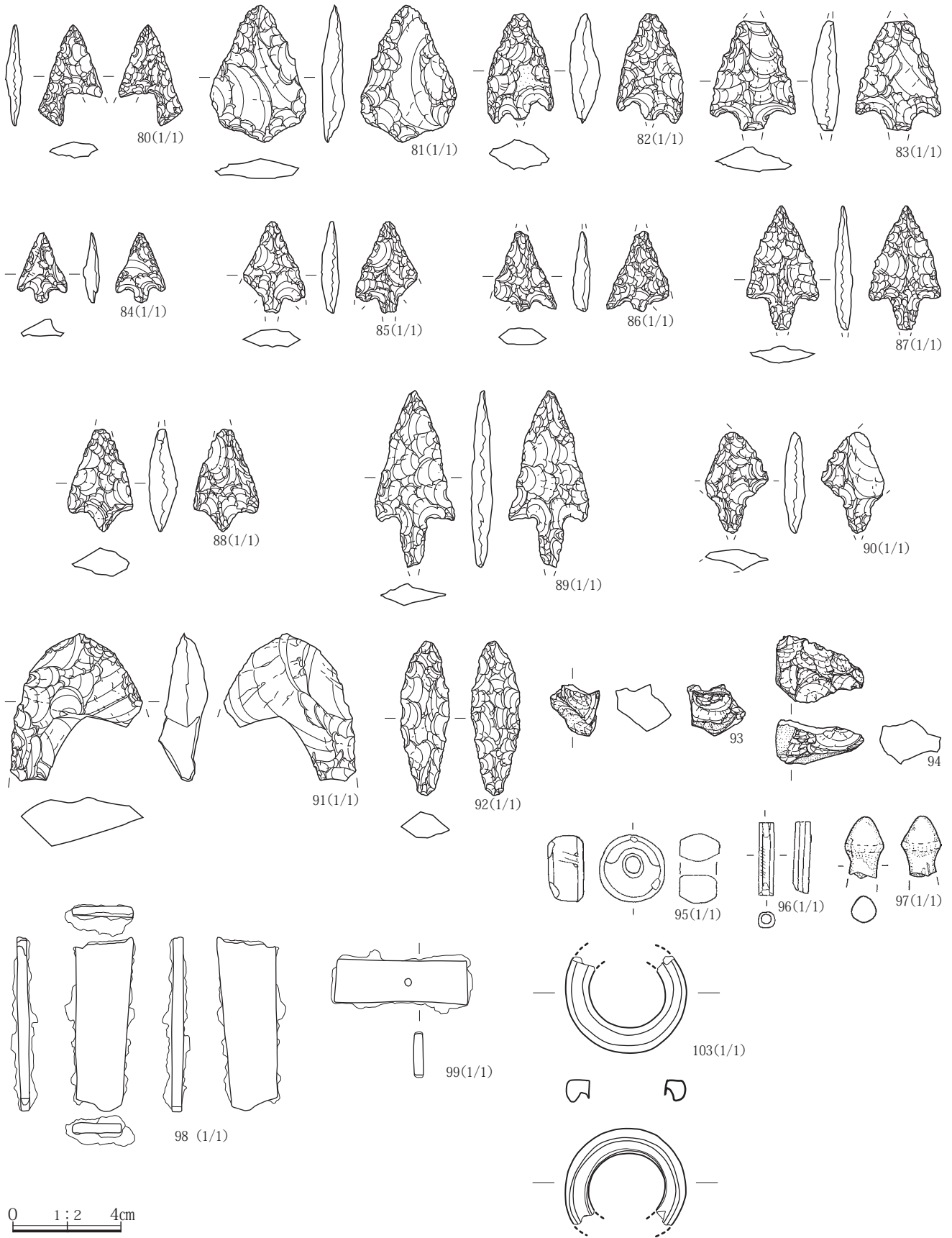
第86図 石畑I岩陰B区北出土遺物(1)



第87図 石畑Ⅰ岩陰B区北出土遺物(2)



第88図 石畑I岩陰B区北出土遺物(3)



0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

0 1:1 5cm

第89図 石畑 I 岩陰B区北出土遺物(4)

第6表 B区北出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第86図 PL.54	1	縄文土器 深鉢	7灰層 口縁部片	-	-	石英・雲母多/良/ 暗褐色	平縁。口唇部内面に幅広凹線。内外面研磨	佐野I式
第86図 PL.54	2	縄文土器 深鉢	7灰層 口縁部片	-	-	砂粒多/良/黒褐色	平縁、口縁に突起。口唇部外面に押圧文、口唇部内面に幅広凹線。内外面燻し、黒色化。内外面ナデ。	佐野I式
第86図 PL.54	3	縄文土器 壺形か	1号トナリ11灰層 口縁部片	-	-	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	口縁部に沈線。内外面入念ナデ。	佐野I式
第86図 PL.54	4	縄文土器 壺形か	1号トナリ7灰層 口縁部片	-	-	砂粒少/良/くすん だ黒褐色	口唇部内面に沈線。口縁部外面に数条の沈線。内外面燻し、研磨、光沢。内面に赤彩残る。外面被熱、劣化。	佐野I式
第86図 PL.54	5	縄文土器 深鉢	7灰層 口縁部片	-	-	砂粒少/良/明褐色 ～黒褐色	波状口縁。口縁部に弧状文、縄文LR。無文部印刻様。内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	6	縄文土器 浅鉢	7灰層 口縁部片	-	-	石英、砂粒多/良/ 黒褐色	口縁部小波状。口縁部内外面に沈線。内外面燻し、研磨、光沢。赤彩であろう。	佐野I式
第86図 PL.54	7	縄文土器 深鉢	不明 口縁部片	-	-	砂粒少/良/黒褐色	小波状口縁。口縁部に平行沈線。内外面燻し、研磨、光沢。	晩期
第86図 PL.54	8	縄文土器 深鉢	3号トナリ7灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/黒褐色	外面に横位縄文帯、縄文LR。内外面燻し、外面研磨光沢、内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	9	縄文土器 鉢	3号トナリ7灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/灰黄褐 色	外面に条痕後ナデ、内面に横位～斜位の条痕。	晩期
第86図 PL.54	10	縄文土器 深鉢	1号トナリ11灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/暗褐色	外面に数条の平行沈線。内外面燻し、内面かい研磨。外面被熱、変色	晩期
第86図 PL.54	11	縄文土器 深鉢	7灰層 頸部片	-	-	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	頸部に数条の平行沈線。地文は撚糸R。内外面燻し、研磨。外面被熱、変色。	佐野II式
第86図 PL.54	12	縄文土器 深鉢	7灰層 頸部片	-	-	砂粒少/良/にぶい 褐色	頸部に数条の平行沈線。地文は縄文LR。内面ナデ。外面被熱、変色。	佐野II式
第86図 PL.54	13	縄文土器 鉢か	7d灰層 口縁部片	-	-	砂粒少/良/灰黄褐 色	口縁部に眼鏡状浮線文と平行沈線。縄文LR。内外面燻し、研磨。	佐野II式
第86図 PL.54	14	縄文土器 鉢か	7灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/明褐～ 暗褐色	242と同個体。被熱、変色。	佐野II式
第86図 PL.54	15	縄文土器 深鉢	7灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/黒褐色	外面に数条の横位平行沈線。内面粗いナデ。	佐野II式
第86図 PL.54	16	縄文土器 鉢	8灰層 胴部片	-	-	砂粒多/良/灰褐色	外面に横位隆線と平行沈線。内面研磨。被熱、変色。	佐野II式
第86図 PL.54	17	縄文土器 鉢	7灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/灰褐色	く字状屈曲部に横位平行沈線。外面研磨光沢。内面ナデ。	佐野II式
第86図 PL.54	18	縄文土器 深鉢	7灰層 頸部片	-	-	砂粒少/良/灰褐色	頸部に数条の横位平行沈線。内外面燻し、研磨光沢。外面被熱、変色。	佐野II式
第86図 PL.54	19	縄文土器 深鉢	1号トナリ 頸部片	-	-	砂粒少/良/黒色	頸部に数条の横位平行沈線。内外面燻し、研磨光沢。	氷I式
第86図 PL.54	20	縄文土器 深鉢	1号トナリ11灰層 11灰層 頸部片	-	-	砂粒少/良/黒褐色	頸部に数条の横位平行隆線。内外面燻し、研磨。	氷I式
第86図 PL.54	21	縄文土器 深鉢	7灰層 胴部片	-	-	砂粒多/良/灰褐色	外面に横位2列のへら状押引文。内面荒れ。	晩期
第86図 PL.54	22	縄文土器 深鉢	7f灰層 口縁部片	-	-	砂粒少/良/黒色	外面劣化、縄文か。内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	23	縄文土器 深鉢	1号トナリ7d灰層 口頸部片	-	-	砂粒多/良/にぶい 黄褐色～黒褐色	口頸部1/4残。平縁。内外面燻し、研磨光沢。部分的に被熱、変色。	晩期
第86図 PL.54	24	縄文土器 深鉢	7灰層 口縁部片	-	-	砂粒多/良/にぶい 褐色	内外面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	25	縄文土器 深鉢	7灰層 口縁部片	-	-	砂粒多/良/褐灰色	内外面ナデ。内外面燻し、黒色化。	晩期
第86図 PL.54	26	縄文土器 深鉢	7灰層 胴部片	-	-	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	内外面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	27	縄文土器 深鉢	7灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	外面に縄文LR。内面かい研磨。	晩期
第86図 PL.54	28	縄文土器 深鉢	7f灰層 胴部片	-	-	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	外面に縄文LRと結節縄文施文。内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	29	縄文土器 深鉢	7灰層 胴部片	-	-	砂粒多/良/灰黄褐 色	外面に縄文LR。内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	30	縄文土器 壺形	7灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/くすん だ褐色	外面に縄文LR。内面横位の粗いナデ。	晩期
第86図 PL.54	31	縄文土器 深鉢	1号トナリ 口縁部片	-	-	砂粒少/良/黒褐色	外面に撚糸Rを横位施文。内外面燻し、内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	32	縄文土器 深鉢	1号トナリ11灰層 口縁部片	-	-	砂粒少/良/黒褐色	255と同個体。	晩期
第86図 PL.54	33	縄文土器 深鉢	1号トナリ7・11灰 層 胴部片	-	-	砂粒少/良/黒褐色	255と同個体。	晩期
第86図 PL.54	34	縄文土器 深鉢	1号トナリ11灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	255と同個体。	晩期
第86図 PL.54	35	縄文土器 深鉢	1号トナリ11灰層 胴部片	-	-	砂粒少/良/褐灰色	255と同個体。	晩期

第3章 発見された遺構と遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第86図 PL.54	36	縄文土器 深鉢	1号トレンチ11灰層 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐灰色	外面に擦糸Rを横位施文。内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	37	縄文土器 深鉢	1号トレンチ18灰層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/灰褐色	口唇部上面に押圧文。外面に斜行する条痕文。内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	38	縄文土器 深鉢	1号トレンチ11灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	外面に細密条痕施文後に数条の平行沈線で斜行する文様施文。内外面燻し、内面研磨光沢。	氷I式
第86図 PL.54	39	縄文土器 深鉢	2号トレンチ18灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	264と同個体。	晩期
第86図 PL.54	40	縄文土器 深鉢	2号トレンチ18灰層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色 ～灰黄褐色	内外面ヘラナデ。	晩期
第86図 PL.54	41	縄文土器 深鉢	3号トレンチ17灰層 胴部下半	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	胴部下半1/3残。外面縦位ヘラナデ、内面斜位ヘラナデ。底面入念ナデ。	晩期
第86図 PL.54	42	縄文土器 深鉢	2号トレンチ18灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	外面に横位条痕文。内面ナデ。	晩期
第86図 PL.54	43	弥生土器 鉢	2号トレンチ18灰層 口縁部片	—	—	砂粒少/並/暗褐色	口縁部に沈線で変形工字文。内外面燻し、研磨光沢。外面に赤彩残る。	弥生前期
第86図 PL.54	44	弥生土器 甕	胴部片	—	—	砂粒少/並/黒褐色	外面横位刷毛目調整後に縄文LR。燻し焼成。内面ナデ。	弥生前期
第86図 PL.54	45	弥生土器 甕	胴部片	—	—	砂粒少/並/黒褐色	276と同個体	弥生前期
第86図 PL.54	46	弥生土器 甕	7灰層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	外面に斜位の細密条痕文。内面入念ナデ。	弥生前期
第86図 PL.54	47	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 口縁部片	—	—	砂粒少/並/褐灰色	口縁部受け口状。口縁部に縄文LRと波状沈線。燻し焼成、内面ナデ。	弥生中期前半
第86図 PL.54	48	弥生土器 甕	12灰層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	受け口状口縁。口唇部と口縁部に縄文LR、頸部に廉状文。燻し焼成、内面研磨光沢。	弥生中期前半
第86図 PL.54	49	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/明褐色	284と同個体。	弥生中期前半
第86図 PL.54	50	弥生土器 甕	17灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/暗黄褐 色	胴部に平行沈線で曲線的な文様構成。縄文無節L。燻し焼成。内面粗い研磨。	弥生中期前半
第86図 PL.54	51	弥生土器 甕	2号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	砂粒少/並/黄灰色	数条の平行沈線で文様構成。縄文LR。燻し焼成、内面ナデ。	弥生中期前半
第86図 PL.54	52	弥生土器 高環	2号トレンチ17灰層 環部片	—	—	砂粒少/良/暗赤褐 色	環部がくの字状に屈曲。内外面研磨、光沢。内外面赤彩。	弥生中期前半
第86図 PL.54	53	弥生土器 甕	4号トレンチ 口縁部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	口唇部上面に縄文LR。内外面ヨコナデ、一部に刷毛目を残す。	弥生中期前半
第86図 PL.54	54	弥生土器 壺	3号トレンチ16灰層 口縁部片	—	—	砂粒少/並/暗褐色	口縁部外反、口唇部に縄文LR。頸部に廉状文と波状文。外面燻し、内面研磨光沢。	弥生中期前半
第86図 PL.54	55	弥生土器 高環	3号トレンチ17灰層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/暗赤褐 色	口縁部外折、切れ目が施された突起が付く。内外面研磨、光沢、赤彩。胎土は白灰色。	弥生中期後半
第86図 PL.54	56	弥生土器 壺	2号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒色～ にぶい黄褐色	胴部上半に刺突を伴う連弧文。外面燻し、黒色、研磨光沢、赤彩。内面ヨコナデ。	弥生中期後半
第86図 PL.54	57	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 口頸部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	口縁部外反。口唇部外面に刻み目。頸部に沈線か。内外面燻し、研磨光沢。赤彩か。	弥生中期後半
第86図 PL.54	58	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 頸部片	—	—	砂粒少/良/黄灰色	頸部無文下に斜行条痕文。内面入念ナデ。	弥生中期後半
第86図 PL.54	59	弥生土器 甕	4号トレンチ15灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	外面に綾杉状条痕文。内面入念ナデ。一部に研磨。外面に煤不着。	弥生中期後半
第86図 PL.54	60	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	296と同個体。	弥生中期後半
第86図 PL.54	61	弥生土器 甕	8灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	外面横位刷毛目を地文に横位刺突列と斜行する条痕文。内面研磨。	弥生中期後半
第86図 PL.54	62	弥生土器 甕	12灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	外面に斜行する条痕文。内面入念ナデ。横位刷毛目が残る。	弥生中期後半
第86図 PL.54	63	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	外面横位刷毛目を地文に斜行する条痕文。内面研磨光沢。	弥生中期後半
第86図 PL.54	64	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/灰褐色	外面に波状文。内面研磨光沢。	弥生中期後半
第86図 PL.54	65	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 橙色	外面に縦位区画線と波状文。内面研磨光沢。	弥生中期後半
第86図 PL.54	66	弥生土器 甕	胴部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	299と同個体。	弥生後期
第88図 PL.55	67	弥生土器 高環	4号トレンチ 口縁部片	—	—	砂粒多/良/明黄褐 色	口縁部外傾。内外面研磨。内面に一部赤彩が残る。被熱で赤彩喪失か。	弥生後期
第88図 PL.55	68	甕	3号トレンチ17灰層 胴～底部	—	—	砂粒少/良/にぶい 褐色	外面に斜位～縦位の刷毛目。内面に横位～斜位の刷毛目。	
第88図 PL.55	69	弥生土器 甕	1号土坑 1/4残	—	—	砂粒少/良/暗褐色	305と307で復元。口唇部外面に斜めの刻み目。頸部に等間隔の廉状文、肩部に波状文。口頸部外面に横位～縦位の刷毛目、内面横位ヘラ磨き。胴部外面に横位～縦位の刷毛目、内面刷毛目調整後に横位ヘラ磨き。	弥生後期
第88図 PL.55	70	弥生土器 甕	12灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	外面に波状文。内面ヨコナデ。一部に刷毛目が残る。	弥生後期
第88図 PL.55	71	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	72と同個体	弥生後期

第4節 石畑I岩陰の調査

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	重 量			
第88図 PL.55	72	弥生土器 甕	12灰層 胴部片	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	外面に波状文。内面ヨコナデ。一部に刷毛目が残る。	弥生後期
第88図 PL.55	73	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	—	砂粒少/良/暗褐色	74と同個体	弥生後期
第88図 PL.55	74	弥生土器 甕	3号トレンチ17灰層 胴部片	—	—	—	砂粒少/良/褐色	外面に波状文。内面かいる研磨。	弥生後期
第88図 PL.55	75	土師器 甕	4号トレンチ12灰層 胴部片	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	S字台付き甕か。外面に斜行する細かな刷毛目。内面ナデ。	4世紀
第88図 PL.55	76	土師器 高坏	12灰層 坏底部	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	内外面研磨。	5世紀末～6 世紀初頭
第88図 PL.55	77	土師器 坏	3号トレンチ12灰層 体部片	—	—	—	砂粒少/良/灰褐色	外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	5世紀末～6 世紀初頭
第88図 PL.55	78	土師器 椀	3号トレンチ17灰層 1/5残	—	—	—	砂粒少/良/赤褐色	口縁部ナデ、胴部ヘラ削り～ナデ。内面ナデ。	5世紀末～6 世紀初頭
第88図 PL.55	79	土師器 甕	3号トレンチ10灰層 底部1/4	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	外面ヘラナデ、内面ナデ。	5世紀末～6 世紀初頭
第88図 PL.55	80	打製石鏃	8灰層 片脚欠損	長幅 (1.9) (1.2)	厚重 0.3 0.3		黒曜石	凹基無茎(I類)。	
第89図 PL.55	81	打製石鏃	1号トレンチ7灰層4 完形	長幅 2.5 1.8	厚重 0.4 1.3		赤碧玉	凸基無茎(III類)。	
第89図 PL.55	82	打製石鏃	1号トレンチ7c灰層 先端・茎部欠損	長幅 (2.0) 1.2	厚重 0.6 1		黒曜石	凹基有茎(IV類)。灰付着。	
第89図 PL.55	83	打製石鏃	8灰層 先端・茎部欠損	長幅 (2.0) 1.6	厚重 0.5 1.3		黒色頁岩	凹基有茎(IV類)。灰付着。	
第89図 PL.55	84	打製石鏃	1号トレンチ11層 完形	長幅 1.3 0.9	厚重 0.3 0.2		黒曜石	凹基有茎(IV類)。	
第89図 PL.55	85	打製石鏃	1号トレンチ11層 茎部・片脚欠損	長幅 (1.7) (1.1)	厚重 0.3 0.4		珪質頁岩	凹基有茎(IV類)。	
第89図 PL.55	86	打製石鏃	1号トレンチ7d灰層 先端・茎部欠損	長幅 (1.5) (1.1)	厚重 0.3 0.4		黒曜石	凹基有茎(IV類)。	
第89図 PL.55	87	打製石鏃	8灰層 茎部欠損	長幅 (2.3) 1.3	厚重 0.3 0.6		黒曜石	平基有茎(V類)。	
第89図 PL.55	88	打製石鏃	1号トレンチ11層 先端欠損	長幅 (1.9) 1.2	厚重 0.5 0.9		黒色頁岩	平基有茎(V類)。	
第89図 PL.55	89	打製石鏃	1号トレンチ7f灰層 完形	長幅 3.3 1.5	厚重 0.4 1.3		流紋岩	平基有茎(V類)。	
第89図 PL.55	90	打製石鏃	1号トレンチ11'層 完形	長幅 1.9 1.2	厚重 0.4 0.6		流紋岩	凸基有茎(VI類)。	
第89図 PL.55	91	打製石鏃	1号トレンチ7f灰層2 未成品	長幅 (2.7) (2.4)	厚重 (0.9) 3.1		赤碧玉	脚部欠損か？	
第89図 PL.55	92	石錐	1号トレンチ7f灰層 完形	長幅 2.8 0.9	厚重 0.6 1.4		黒色頁岩	摘まみ部無し。灰付着。	
第89図 PL.55	93	石核	1号トレンチ7f灰層2 完形	長幅 2.8 2.7	厚重 3.2 20.6		赤碧玉	原石面残存。2面剥離。	
第89図 PL.55	94	石核	1号トレンチ4面11' 層 完形	長幅 2.5 4.9	厚重 3.7 37.1		流紋岩	原石面残存。3面剥離。	
第89図 PL.55	95	玉(小玉)	1号トレンチ7c層 完形	長幅 0 0	厚重 0.7 1.7		蛇紋岩	灰付着。両方からの穿孔。	
第89図 PL.55	96	管玉	1号トレンチ11'層 完形	長幅 1.3 0.3	厚重 0 0.2		赤碧玉	両方からの穿孔。	
第89図 PL.55	97	管玉	1号トレンチ11'層 完形	長幅 1.3 0.3	厚重 0 0.2		赤碧玉	両方からの穿孔。	
第89図 PL.65	98	板状鉄斧か	1号土坑4面	長幅 11.9 4.2	厚重 0.9 218.3			長方形の板状鉄製品。板状鉄斧とも考えられるが、刃部が確認できないことから断定はできない。劣化の状況から鍛造製品と見られる。	
第89図 PL.65	99	不明鉄製品	2面泥流直下	長幅 5.2 2.4	厚重 0.4 13.6			中心に穴が開いている金属製品。長方形の板状の製品。穴以外の加工は見られない。	
	100	半銭銅貨	1面1層	径 2.2	厚重 1.24 3.4			明治17年。全体に錆にやや覆われている。	
PL.65	101	寛永通寶	1面2層	径内 2.340 1.968	厚重 0.138 3.7		新寛永	面の文字、輪、郭は明瞭だが、背は彫がほとんど無く不明瞭。	
PL.65	102	寛永通寶	擁壁攪乱	径内 2.366 1.855	厚重 0.107 2.5		新寛永	面、背ともに文字、輪、郭は明瞭。一部割れが見られる。	
第89図 PL.65	103	貝製指輪	7号灰層	径内 2.2 1.4"	厚重 "0.45 1.3"		巻貝の縫合(段差) 部分を使用か	一部欠損。素材に入り込む凹部面を除き、横断面径が径4mm程を測る円形になるよう研磨。	

第3章 発見された遺構と遺物

6 B区南の調査

1面の調査

B区南は令和元年度に調査が行われた調査区で、JR吾妻線の旧路線跡に所在する。当地は吾妻線(旧国鉄長野原線)を敷設するに当たり、南東或いは南南東方向に傾斜する地形を切り土で削平した鉄道敷跡地であり、北側は切土を擁壁が補強し、南側は下方に降りる傾斜面保護のための擁壁が敷設されている。(第90図)

B区南は確認トレンチを除いた調査範囲は東西32.3m、南北8.3m程であったが、この調査範囲は谷状の凹部であり、調査範囲の東西に広がる尾根上の凸部は削平されていた。

B区南の発掘調査は天明三(1783)年に発生した浅間山噴火に伴う泥流堆積物を掘削し、遺構確認を行ったが、調査区南側、発掘調査範囲の東半部の北側と南側の一部でAs-A軽石を確認した。このAs-A軽石の下面では特段の遺構は確認されなかった。

しかし西半部では、東北東-西南西方向に走行する1号道と、その北側に0.6~1.8m隔てて並走する2号道を確認した。1号道は幅1.4m以上ある道路で、長さ17.5mを確認した。北側は緩斜面が昇っており、斜面を削平して普請しているが、その走行は極く緩やかな蛇行を呈していて、自然地形に合わせて普請されていたことが分かる。一方2号道は幅0.7m、長さ8m程の範囲を調査したに過ぎず、様相を明らかに把握することはできなかった。

なお、出土遺物は得られなかったが、As-A泥流堆積物に覆われていることから、1・2号道を含め、B区南の1面は近世中期の面と認識できる。

2面の調査

B区南では下位面の遺構確認のため、7本の試掘トレンチを設定して確認調査を行った。確認トレンチは東端の1号トレンチを方形プランで掘削した他は、土地の傾斜方向(北北西-南南東)に長方形のプランで掘削された。1面の調査範囲に東から2~6号トレンチは3.6~5.4メートル間隔で掘削され、1面の調査範囲の東側に1号トレンチ、西側に7号トレンチを設定した。トレンチの幅は0.9~1.8mほどであった。掘削深度は山側で

2.2m、線路敷から谷側では0.1m以下であった。

これらの確認トレンチからは縄文土器と石器類、弥生土器とわずかな土師器が出土した。石器については後述するが、縄文土器では鶴が島台式等の早期の土器が12点、花積下層式、関山式、黒浜式、諸磯a・b・c式のものを含む前期の土器が94点、五領ヶ台式、阿玉台式等中期の土器が4点、堀之内式、加曾利b式の後期の土器が15点、安行式や大洞式等の晩期の土器13点を合わせて138点を数え、弥生土器では前期のもの2点、中期のもの11点、後期の13点を合わせて26点を数えた。土師器も僅かに出土した。石器も含めた出土遺物から推して、縄文時代前期を中心とした、縄文時代早期から弥生時代後期にかけての遺物包含層があることを確認された。

7 石器

本遺跡では、旧国道245号線の路線敷地の部分と旧JR吾妻線の線路部分、及びその周辺の4地点で発掘調査を実施した。北から、B区北・南、A区北・南のそれぞれ4地点に分けて行い、それぞれ層位毎に遺構の有無と遺物の取り上げを行った。その結果、数量や内容に違いはあるものの、4地点すべてで土器や石器・石製品などの遺物が出土した。特にB区南を中心に3層から7層で多くの遺物が出土しており、A区からも数は少ないものの、重要な遺物が出土している。全体では遺構内及び遺構外から800点を超える量の石器・石製品の遺物が出土している。これらについてはすべての資料を確認して石器遺物台帳を作成すると共に、そこから器種組成表(第8表)を作成し、本報告への掲載遺物のみならず、すべての出土資料についても石材鑑定を行い、石材組成表(第12表)を作成した。

ここでは、縄文時代に所属する石器を中心に記述するが、それ以外の時代の石製品などは認められなかった。

本遺跡出土の石を素材とする遺物は、打製石鏃、石匙、削器、くぼみ石、磨石、石皿、砥石等の石器と玉類や垂飾などの石製品が確認されている。これらは、竪穴等の遺構や、遺物の集中分布として、あるいは遺構外とした遺跡内での表採の形で数多く出土している。その点数は、約800点(第4~7表 石器観察表 参照)であるが、今回の報告はそのうちの114点について報告することとした。なお、器種分類にあたって、一部でその分類判断に

迷ったものもある。

また、所属の時期についても、早期前半の撚糸文と共に出土するスタンプ形石器や後期以後の分銅形の打製石斧のように明確な時期を特定できる特徴的な資料はほとんど認められず、そのために時期の判断が石器からはほとんど出来なかった。

さらに、出土した石器は主に小型の剥片を素材とする資料と、大小の礫を素材とする資料とに大きく分けられる。小型では石錐と石匙がそれぞれ1点と少なく、大型では打製石斧、磨製石斧などの資料がほとんど出土していない。さらに石皿もまったく出土していない。この点については後ほど考察したい。

1 打製石鏃

(第48・67・89・52図、PL.52・53・55・59)

縄文時代を代表する石器のひとつである打製石鏃は未成品も含めて、総数36点が出土している。それらは従来通りの区分である形状の特徴などから、無茎と有茎、さらに基部の有無などで大きく8つの形態に区分される。なお、欠損により分類不可能な資料は不明とする。

また、形状と石材の関係についても見ていくこととする。なお、加工痕ある剥片と分類した資料に打製石鏃の未成品の可能性がある資料もいくつか存在するが、今回はこの記述から除外する。

I類は茎をもたず、基部に抉入がある。いわゆる無茎凹基であり、最も多い15点が確認されている。(第80図、第178図、第188・189図、第240・241図、第88・89図、第26・27図)その形状の一部に違いがあり、凹基の抉りの程度によりさらに分類が可能である。また、縄文時代の早期の特徴である鋏形鏃が1点だけが出土している。石材も黒曜石・流紋岩・黒色頁岩・珪質頁岩が利用されている。

II類は茎をもたず、基部が直線である。いわゆる無茎平基の三角鏃と呼ばれる形態であり、3点が確認されている。(第80図、第177図、第28図)石材も黒曜石・流紋岩・黒色頁岩・珪質頁岩がそれぞれ1点ずつ利用されている。

III類は茎をもたず、基部が丸みをおびている。いわゆる無茎凸基(円基)であり、1点だけ確認されている。(第81図)石材は流紋岩である。

IV類は茎をもち、基部に抉入がある。いわゆる有茎凹基であり、5点が確認されている。(第82～86図)石材

には黒曜石3点、黒色頁岩と珪質頁岩が各1点利用されている。

V類は茎をもち、基部が直線である。いわゆる有茎平基であり、5点が確認されている。(第87～89図)石材は黒色頁岩が3点、黒曜石と流紋岩が各1点利用されている。

VI類は茎をもち、基部が張り出している。いわゆる有茎凸基(円基)であり、1点だけ確認されている。(第90図)石材は流紋岩を用いており、III類と同様に数が少ない。

さらに、先端部のみの残存資料については、全体の形状がはっきりしないために形態の分類が不可能であることから不明とした。2点が確認されている。打製石鏃の未成品についてはその素材の形状からみてほとんどがI類と考えられるが、ここではあくまで完成形ではないことから不明に分類する。

まず、全体を見通してみても他の遺跡の事例からみても、VI類が少ないのは珍しい。時期については、前回の発掘調査では縄文時代草創期から晩期にかけてとされているが、今回の発掘調査での確認では出土した土器の様相から縄文時代早期から後期までと想定される。しかも、今回も前回と同様に岩陰の基盤までは掘削が及ばなかった。石材も、この地域の在地系統の流紋岩、以前は珪質変質岩と呼称していたが、石材の鑑定をお願いしている飯島静男氏により、今回から名称変更となった。

2 石錐(第89図、PL.55)2点の出土である。形態分類で回転軸部分のみのI類と、摘み部を持つII類に大きく分けられるが、ここでは菱型の断面であるI類のみで、石材は黒色頁岩と赤碧玉の各1点である。

3 石匙(第104図、PL.60)2点の出土である。刃部が長めの横長剥片を素材とするII類だが、摘み部が横位である。石材は黒色頁岩と珪化流紋岩の各1点である。

4 削器(第101図、PL.59)全体で7点出土しているが、その可能性が高い資料も2点あげられる。大型の剥片を素材とし、縁の部分に加工を施している。あるいは打製石斧の未成品の欠損の可能性もある。石材は黒曜石3点・流紋岩2点・黒色頁岩1点・珪質頁岩1点・変質安山岩1点・細粒輝石安山岩1点である。

6 礫器(第104・109図、PL.49・63)全体で2点出土している大型の剥片を素材とし、縁の部分に加工を施

第3章 発見された遺構と遺物

している。石材は細粒輝石安山岩と変質安山岩の各1点である。

7 石核(第89図、PL.55)全体で8点出土しているが、その可能性が高い資料も5点あげられる。そのうち図化したのは2点だけである。形状は立方体で、剥片の剥出を2面、ないしは3面で行っている。背面に礫面を残す資料もある。石材は赤碧玉8点・流紋岩3点・チャート1点・粗粒輝石安山岩1点である。

8 磨り石(第101～113図、PL.52・59～63)最も出土例の多いこの遺跡を代表する器種として「磨り石」があげられる。この石器は円礫ないしは楕円礫、あるいは扁平な礫を素材として、その一面、あるいは両面に研磨の痕跡が認められる資料である。研磨の程度はつるつるで光るような資料もあれば、若干の研磨が認められる程度の資料もある。また、この器種には、断面が楕円形、あるいは角の丸い三角形も一部に認められる。「くぼみ」が確認された資料については、基本的に人為的に穿孔された痕跡であるか、あるいは元々の礫面に見られる自然のへこみなのかどうか、判断が難しい資料もあるが、へこみ部分の表面の様子、具体的には擦れた感じが観察できれば間違いのないと言える。さらに、磨り石の一部に「くぼみ石」との併用が見られるのも、特徴のひとつである。こうした複数の作業が、時間的な前後関係は分からないものの、複合作業が施されたことが推測される。具体的には、「くぼみ」の縁の様子から、「磨り」の作業から「くぼみ」を作り出す作業へと移行した場合と、逆に「くぼみ」を作り出してから「磨り」を行ったとも考えられる。「くぼみ」部分の周縁の様子を観察から、その前後関係が推測される。あるいは相互に何度も併用されたものもある。これ以外にも、磨り石と敲き石を合わせ持った資料もあり、これは扁平な楕円礫の両面に磨り面を残し、周縁の一端に複数の敲打痕を多数残す複合石器である。これらを含めた総数は127点であり、そのうちの46点もの資料に煤の付着や被熱による赤化やひび割れや破損が認められる。石材は粗粒輝石安山岩が102点と最も多く、変質安山岩が15点、ひん岩7点、溶結凝灰岩と石英閃緑岩と玄武岩の各1点である。

9 くぼみ石(第101・106・108・109図、PL.59・61・63)円礫ないしは楕円礫を素材として、その両面にくぼみ痕が認められる資料である。4点出土しており、磨り

石との併用の資料も1点ある。石材は粗粒輝石安山岩が3点、変質安山岩とデイサイトが各1点である。

10 敲き石(第113図、PL.65)前記したように、そのほとんどが磨り石との併用であり、円礫ないしは楕円礫を素材として、その周縁や一面、あるいは両面に敲打の痕跡が認められる資料である。敲き石のみの資料は2点のみである。石材は粗粒輝石安山岩や凝灰質砂岩が各1点である

11 台石(第103・109図、PL.60・63)大型の扁平な礫を素材とし、5点出土している。また可能性のある資料が4点である。石材は粗粒輝石安山岩が7点で変質安山岩が2点である

12 丸玉(第89図、PL.55)両面からの穿孔で、周囲を細かな研磨で、石材は蛇紋岩である。

13 管玉(第89図、PL.55)管玉は細長く、片側からの穿孔を主体にしている。石材は赤碧玉である。

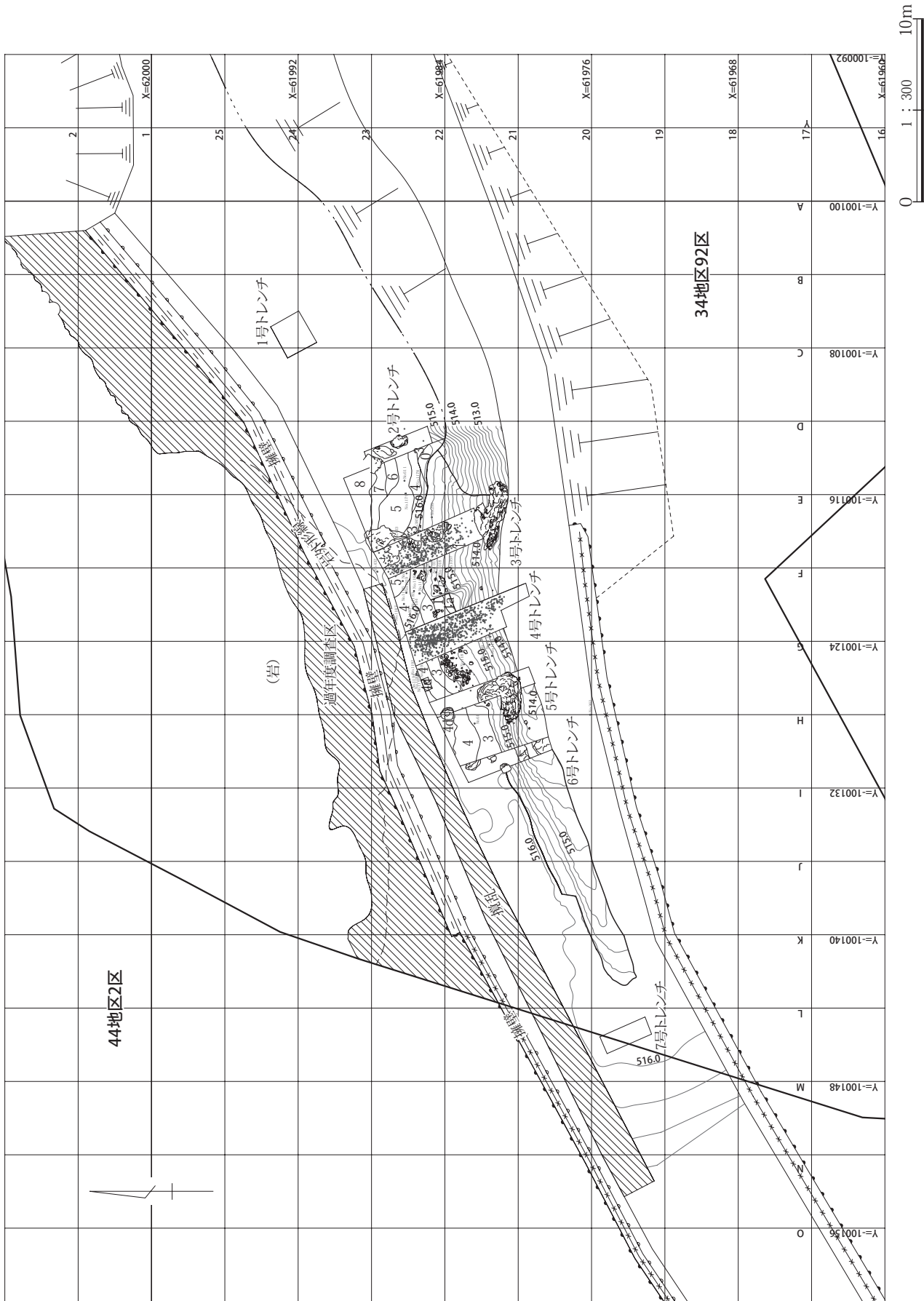
14 石棒(第89図、PL.53)かなり小型の資料であるが、しっかりと頭をもつ。折れているために全体に様子は不明である。石材は珪質頁岩である。

15 加工痕ある剥片(第89図、PL.55)総数37点であり、打製石鏃の未成品の可能性のある資料が7点、打製石鏃の調整剥片が1点認められる。石材は黒曜石15点・黒色頁岩8点・珪質頁岩5点・流紋岩5点・赤碧玉2点・黒色安山岩1点・変質玄武岩1点である。

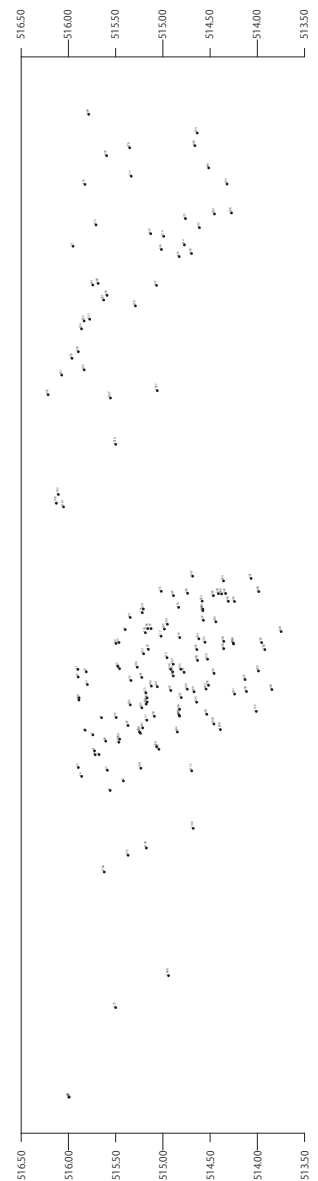
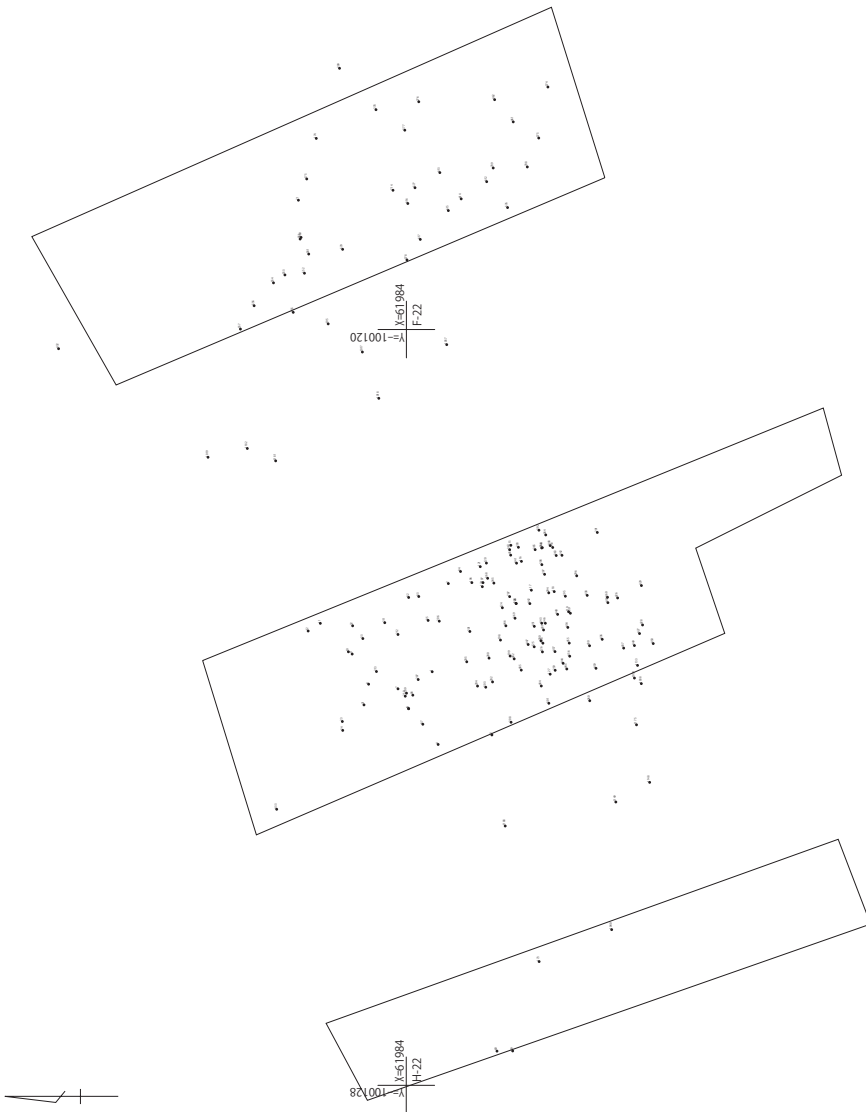
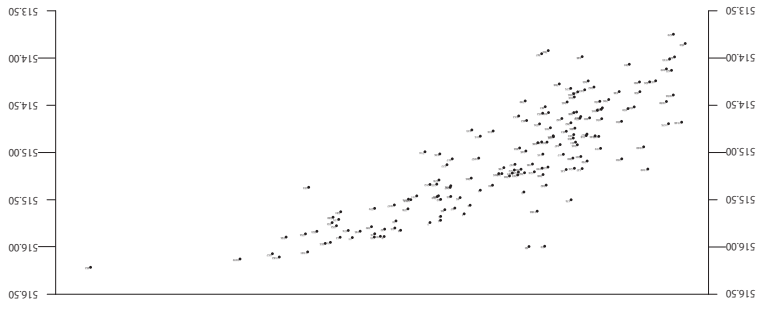
16 使用痕ある剥片(第67図、PL.53)明確な資料は2点であり、一辺に痕跡が認められる。石材は黒曜石2点である。

17 剥片・碎片(第101・108・109・113図、PL.59・63・65)総数245点であり、石材は黒曜石・流紋岩・黒色頁岩・珪質頁岩・赤碧玉などであり、調整剥片も見受けられる。

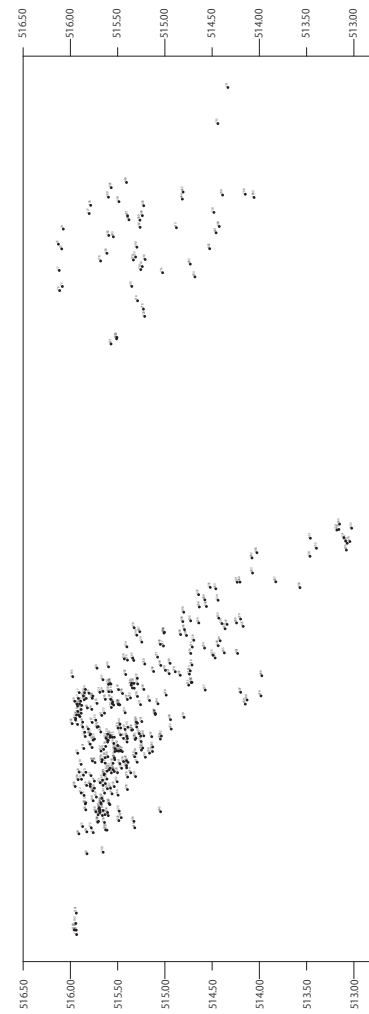
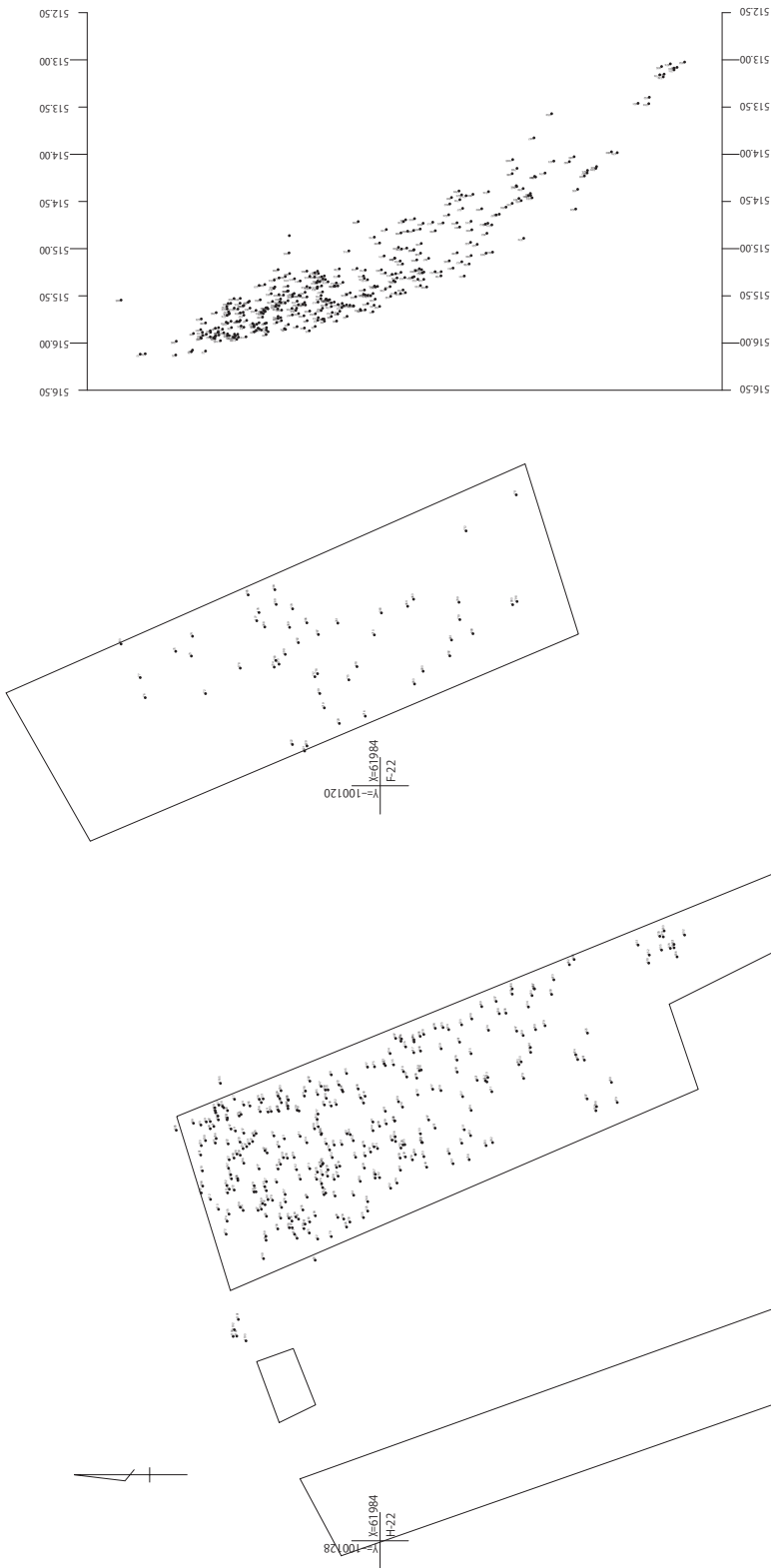
これ以外に、軽石2点や礫4点なども出土しているが、ここでは実測など掲載しないので、観察はしているものの、その詳細は明記しない。



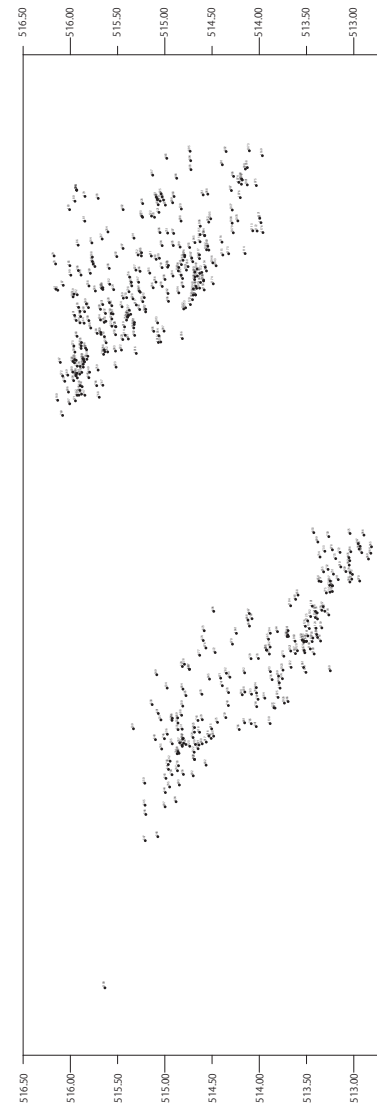
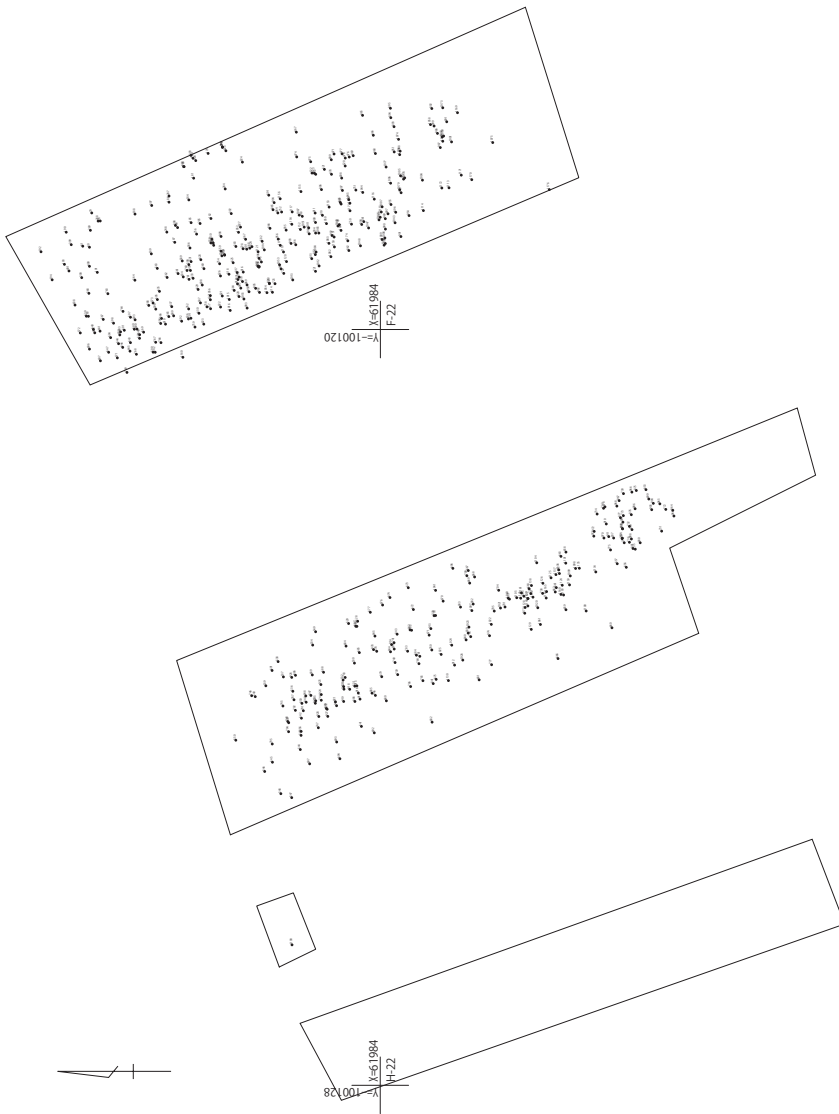
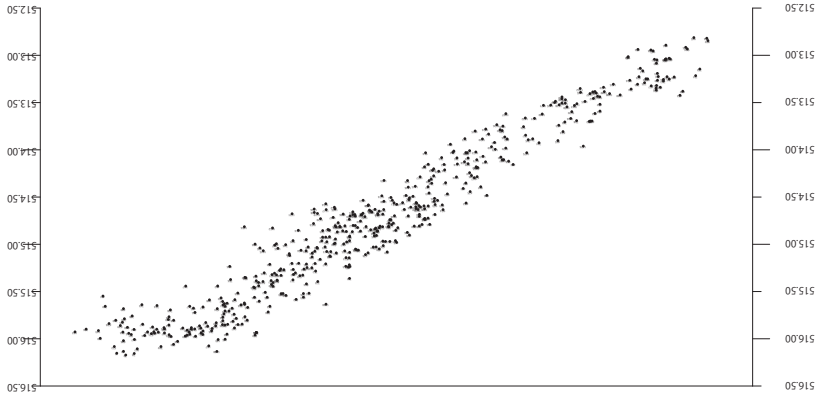
第90図 石畑I岩陰B区南全体図



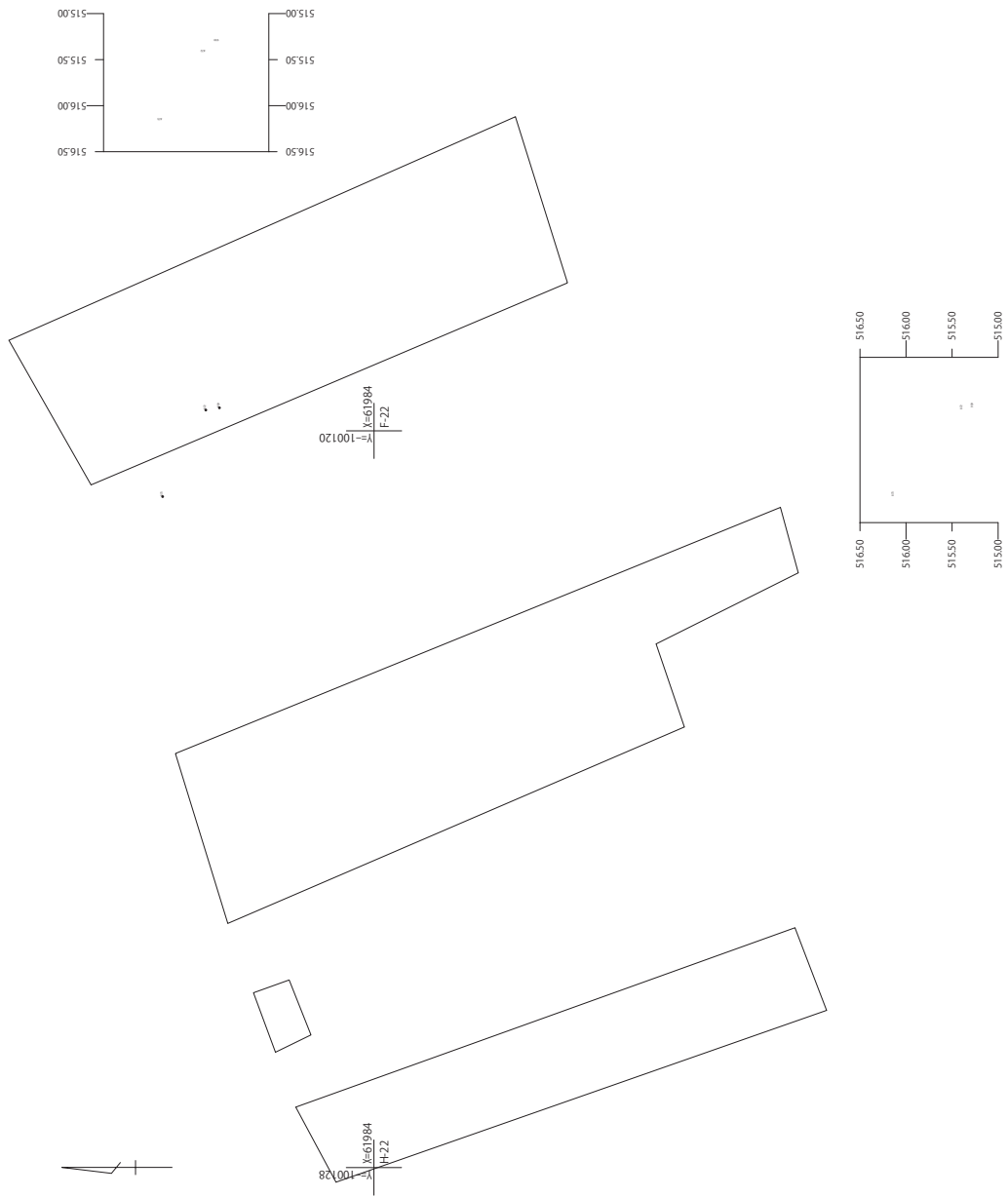
第91図 石畑I岩陰B区南第2面3層遺物分布図



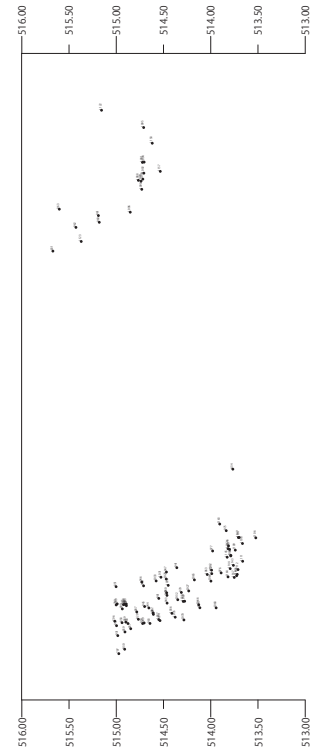
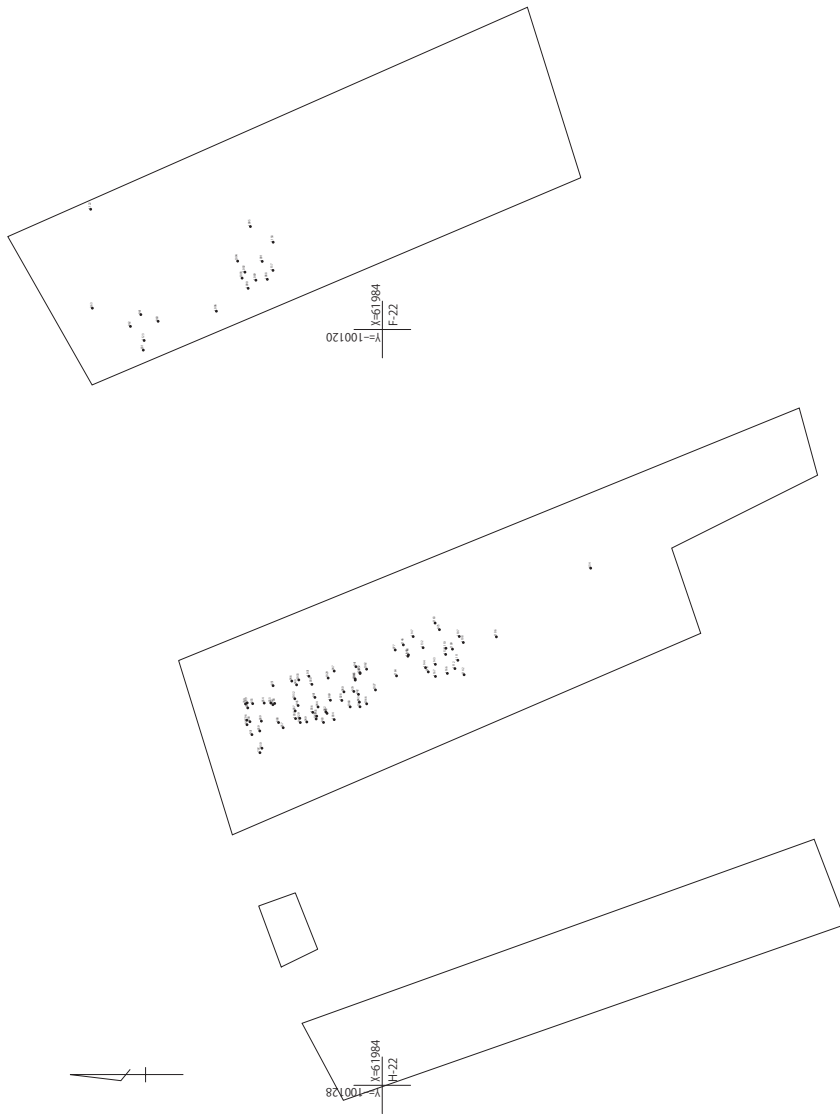
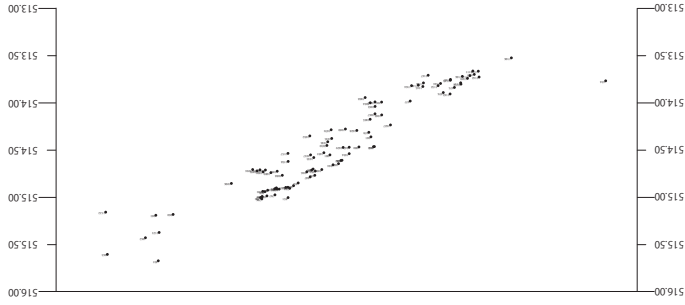
第92図 石畑I岩陰B区南第2面4層遺物分布図



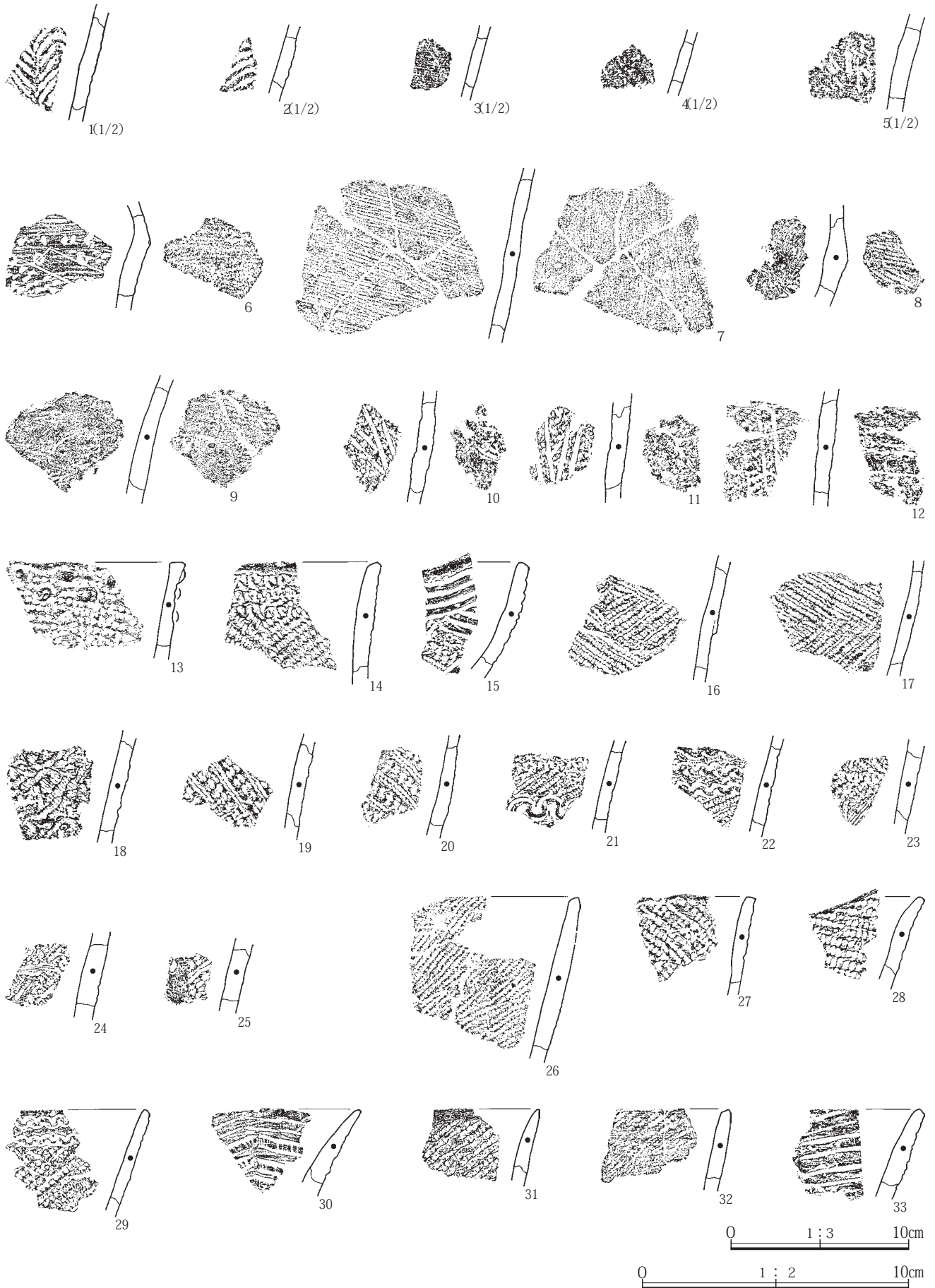
第93図 石畑I岩陰B区南第2面5層遺物分布図



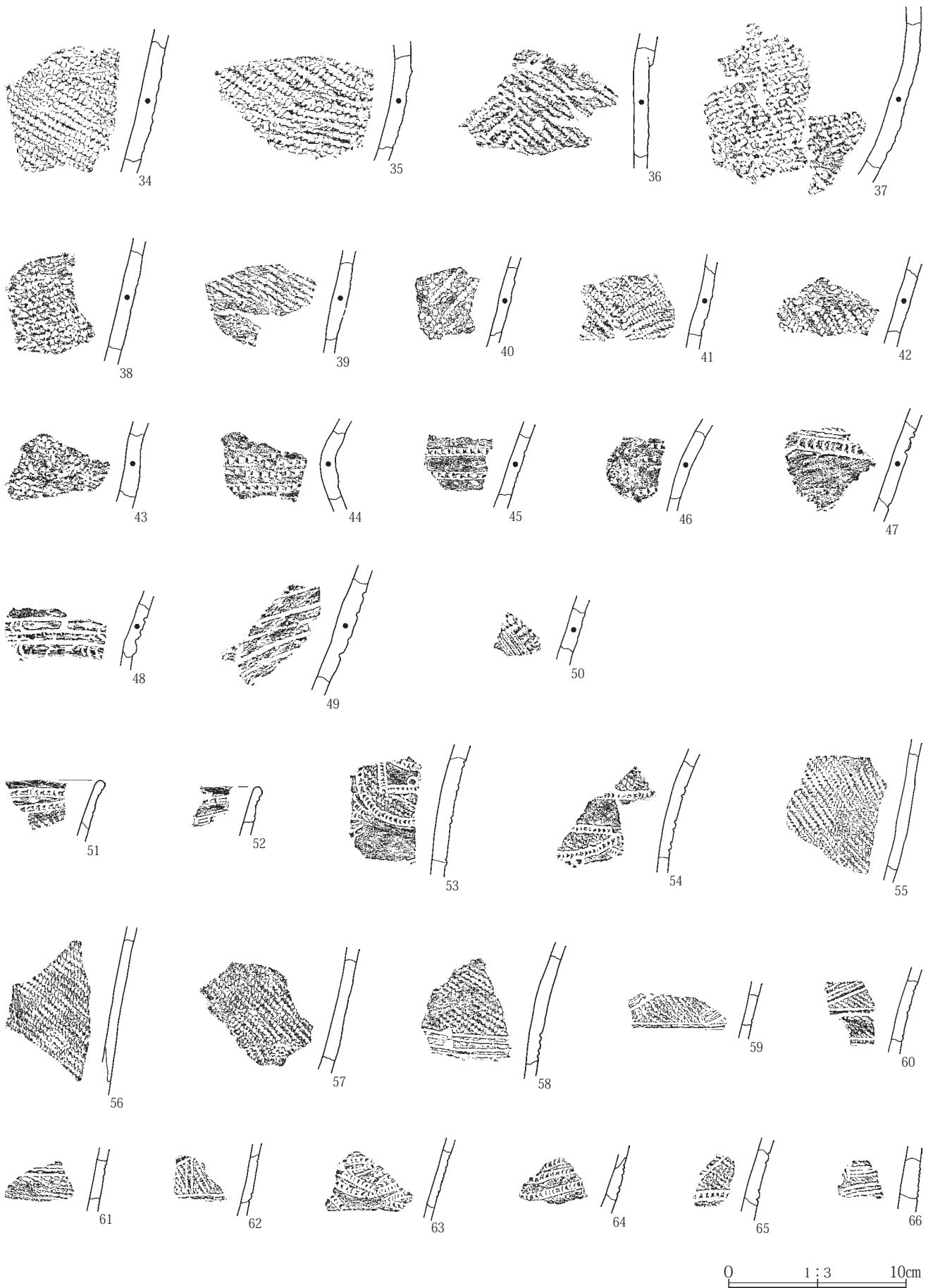
第94図 石畑I岩陰B区南第2面6層遺物分布図1



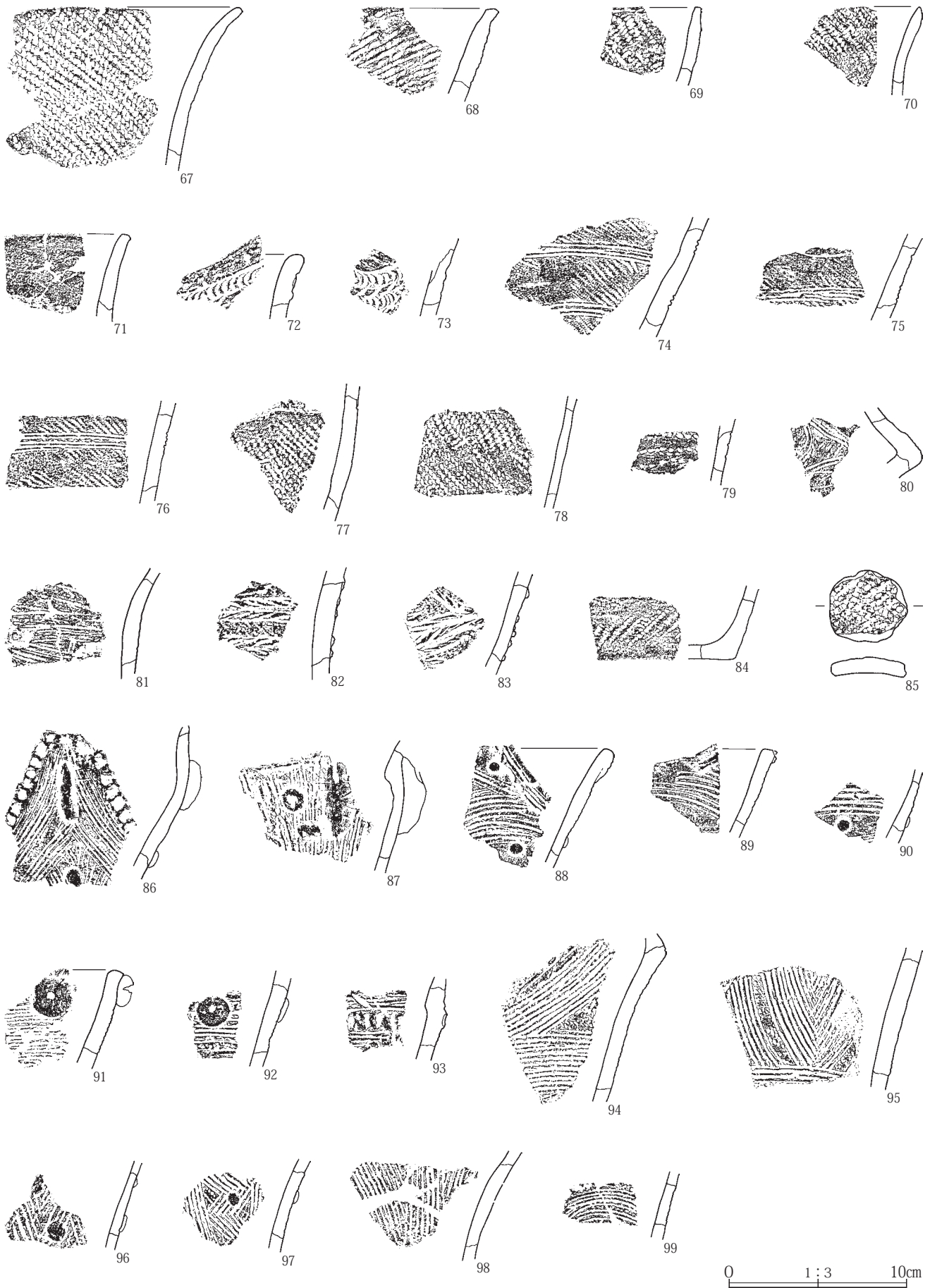
第95図 B区南 石畑I 岩陰B区南第2面7層遺物分布図



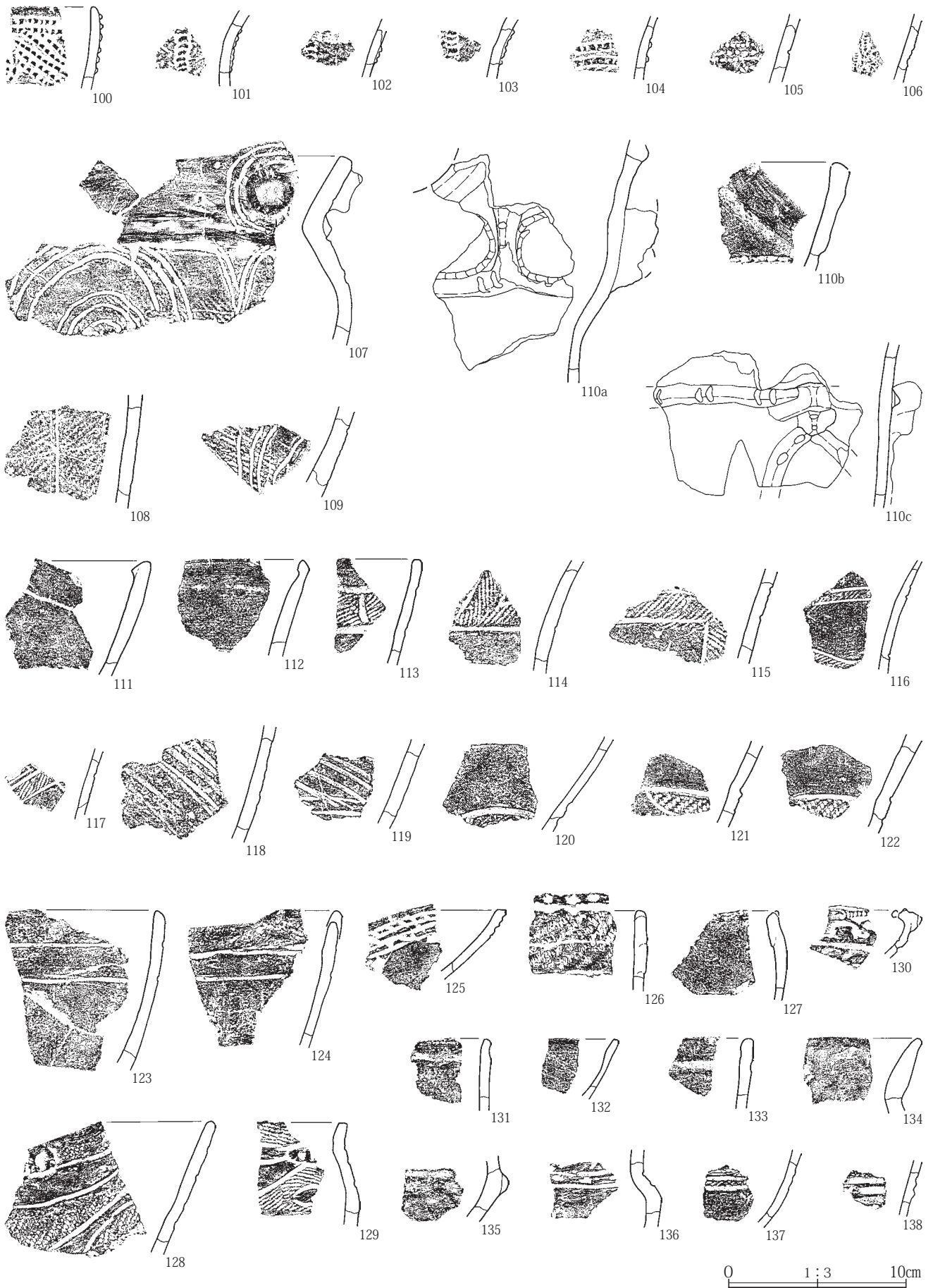
第96図 石畑I岩陰B区南出土遺物(1)



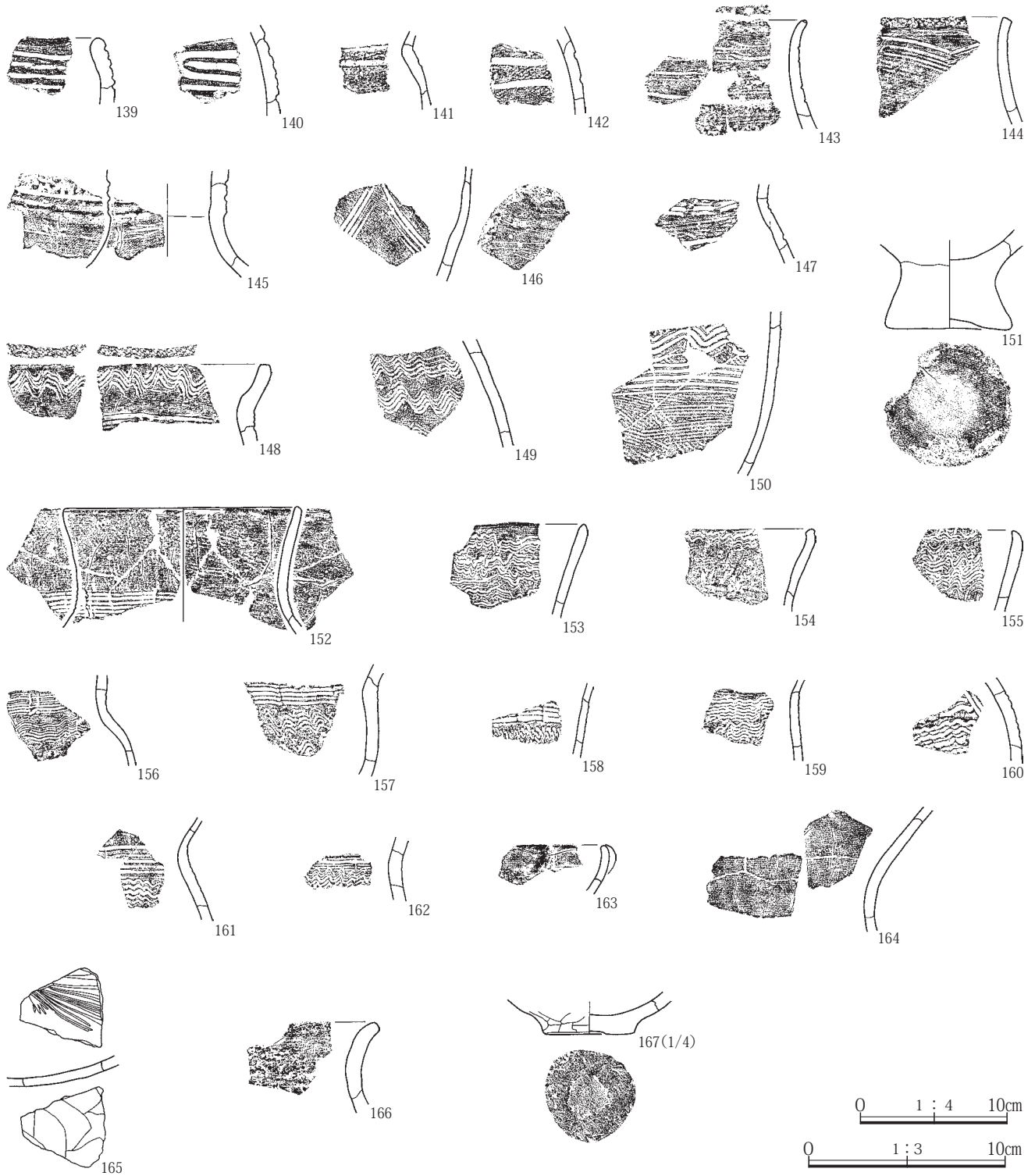
第97図 石畑Ⅰ岩陰B区南出土遺物(2)



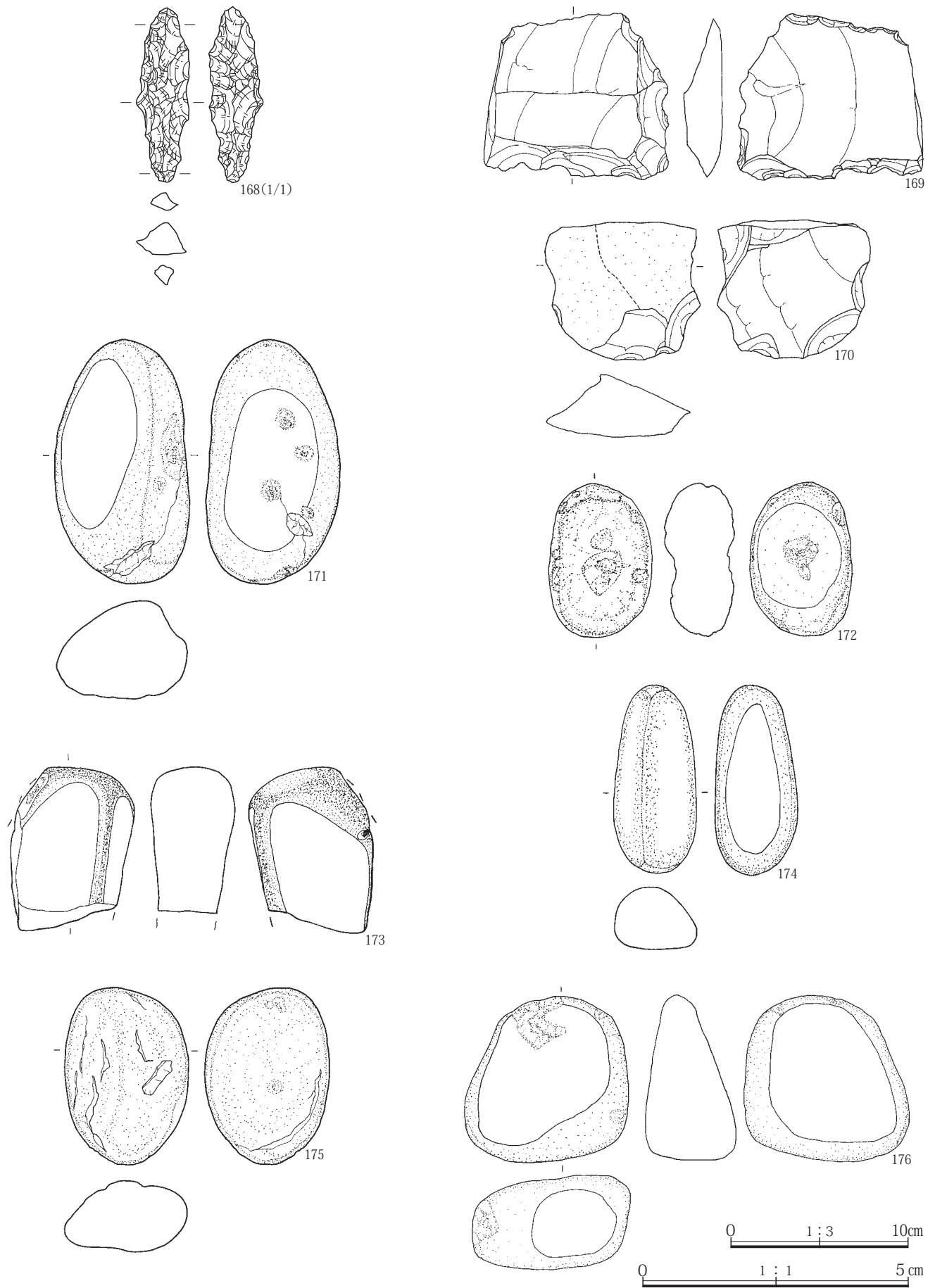
第98図 石畑I岩陰B区南出土遺物(3)



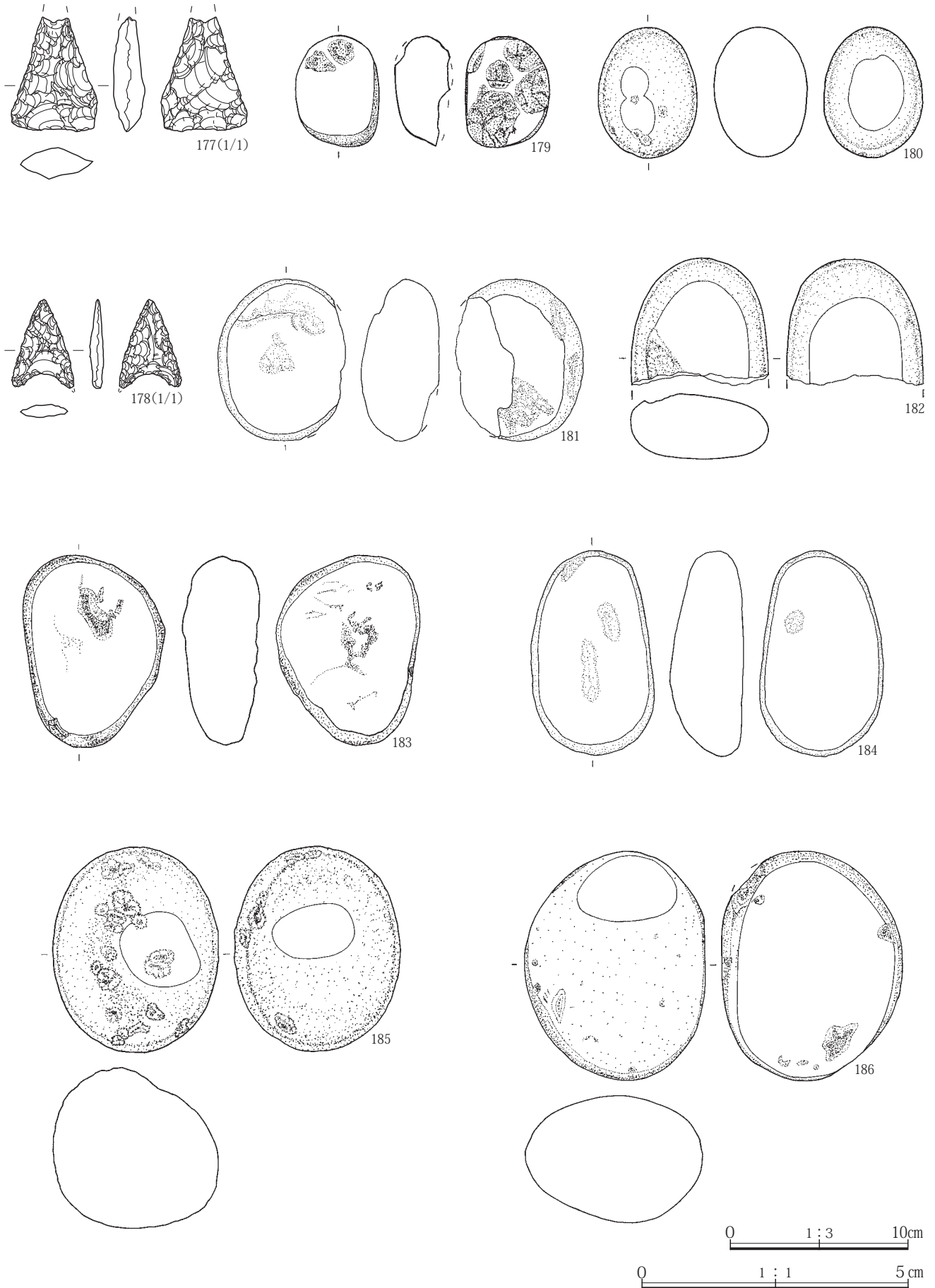
第99図 石畑I岩陰B区南出土遺物(4)



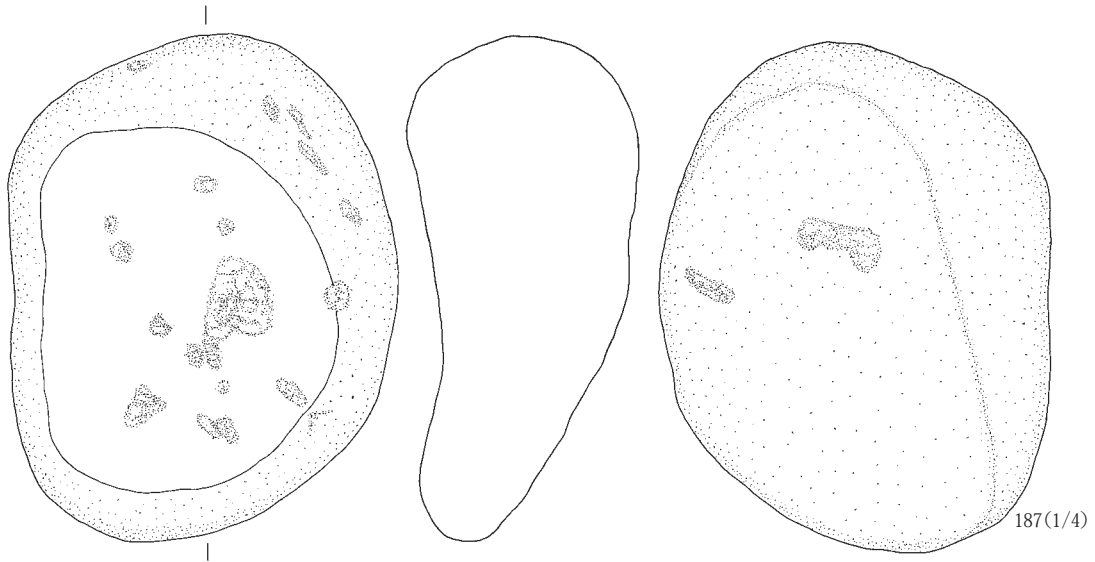
第100図 石畑I岩陰B区南出土遺物(5)



第101図 石畑Ⅰ岩陰B区南3層出土遺物



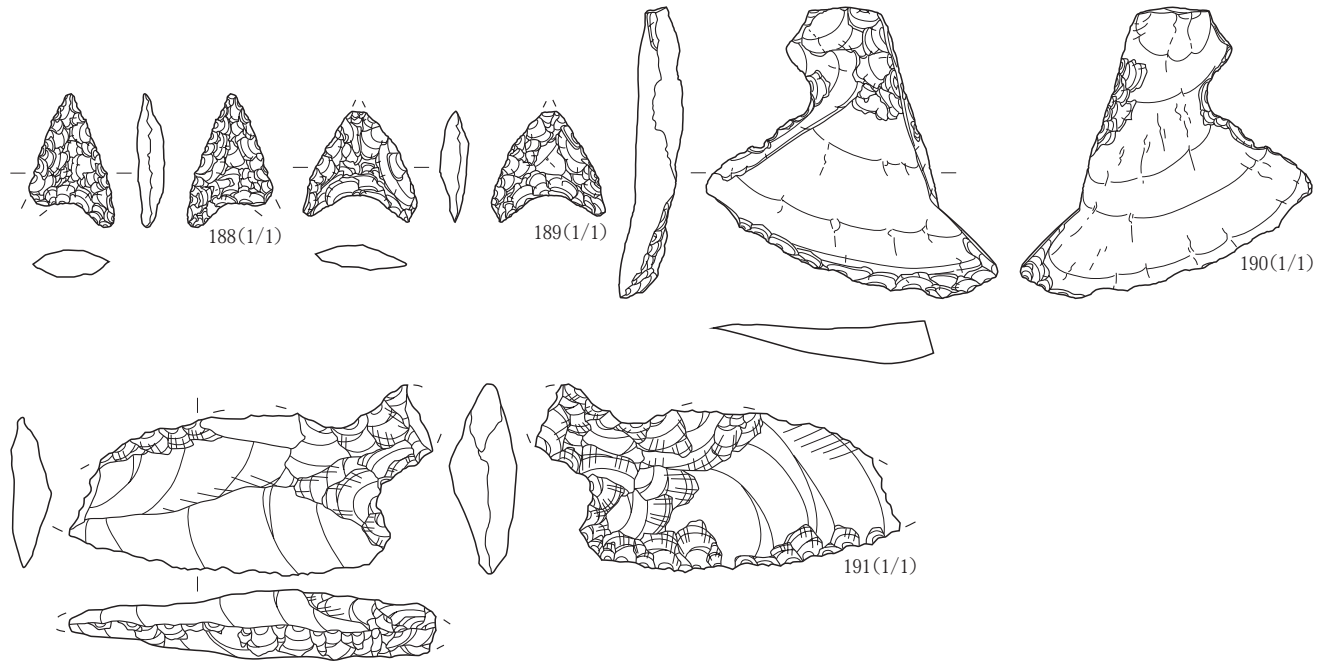
第102図 石畑I岩陰B区南4層出土遺物(1)



187(1/4)

第103図 B区南4層 出土遺物(2)

0 1 : 4 10cm

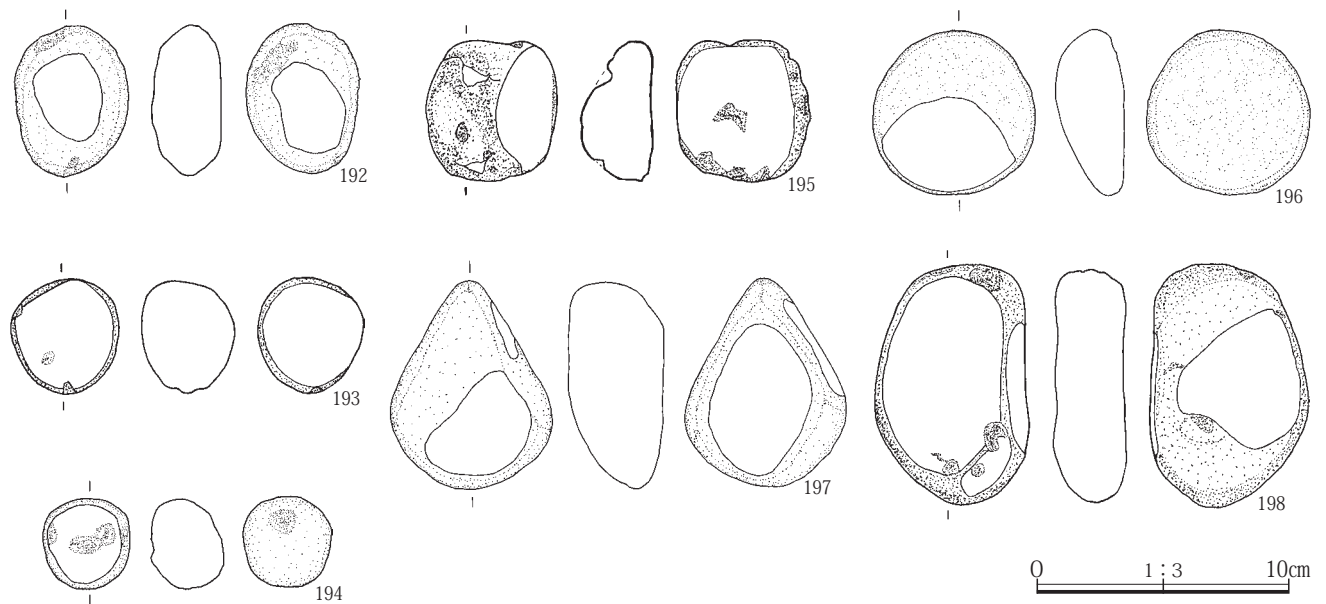


188(1/1)

189(1/1)

190(1/1)

191(1/1)



192

195

196

193

197

198

194

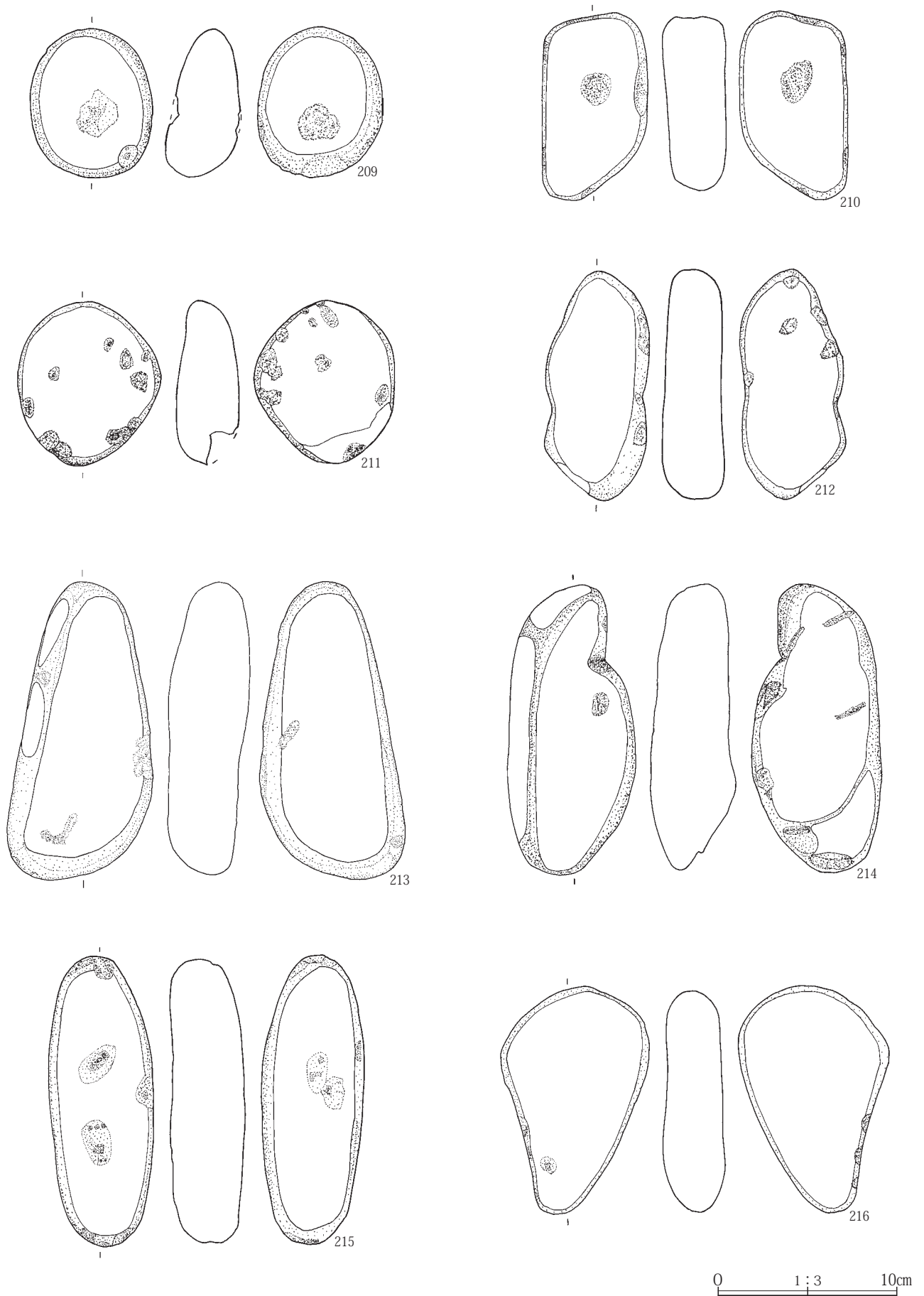
0 1 : 3 10cm

0 1 : 1 5cm

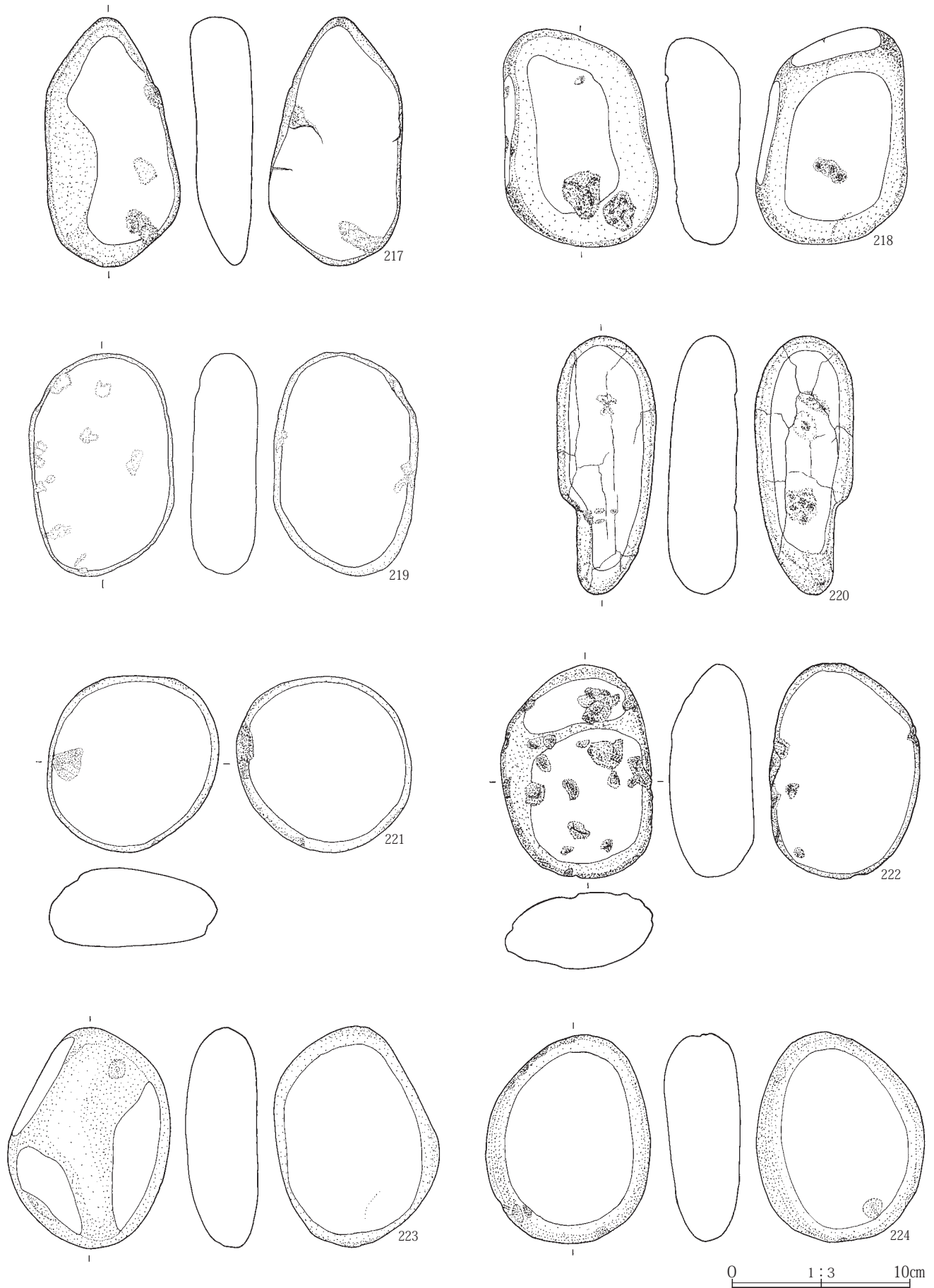
第104図 石畑I岩陰B区南5層出土遺物(1)



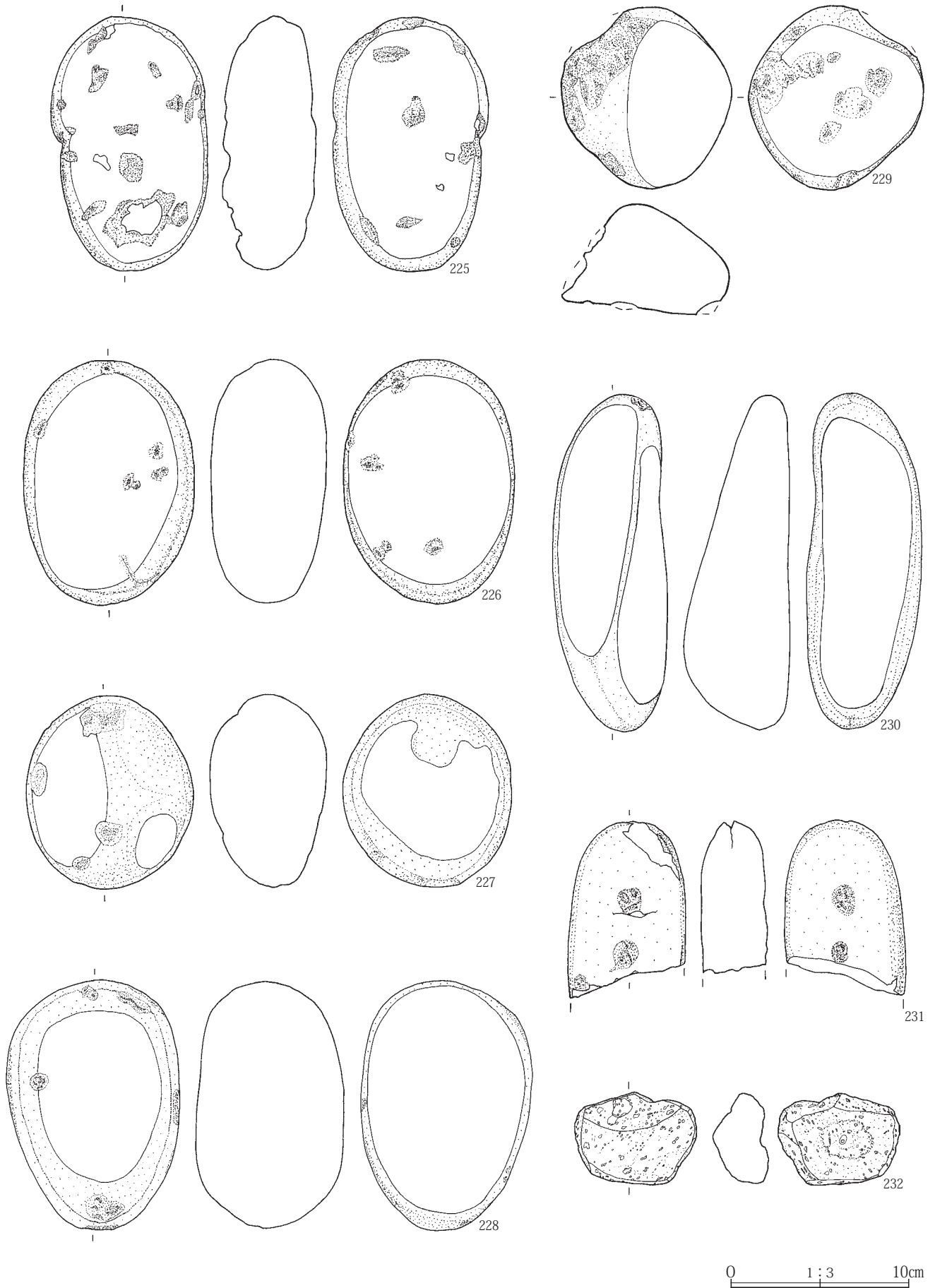
第105図 石畑I岩陰B区南5層出土遺物(2)



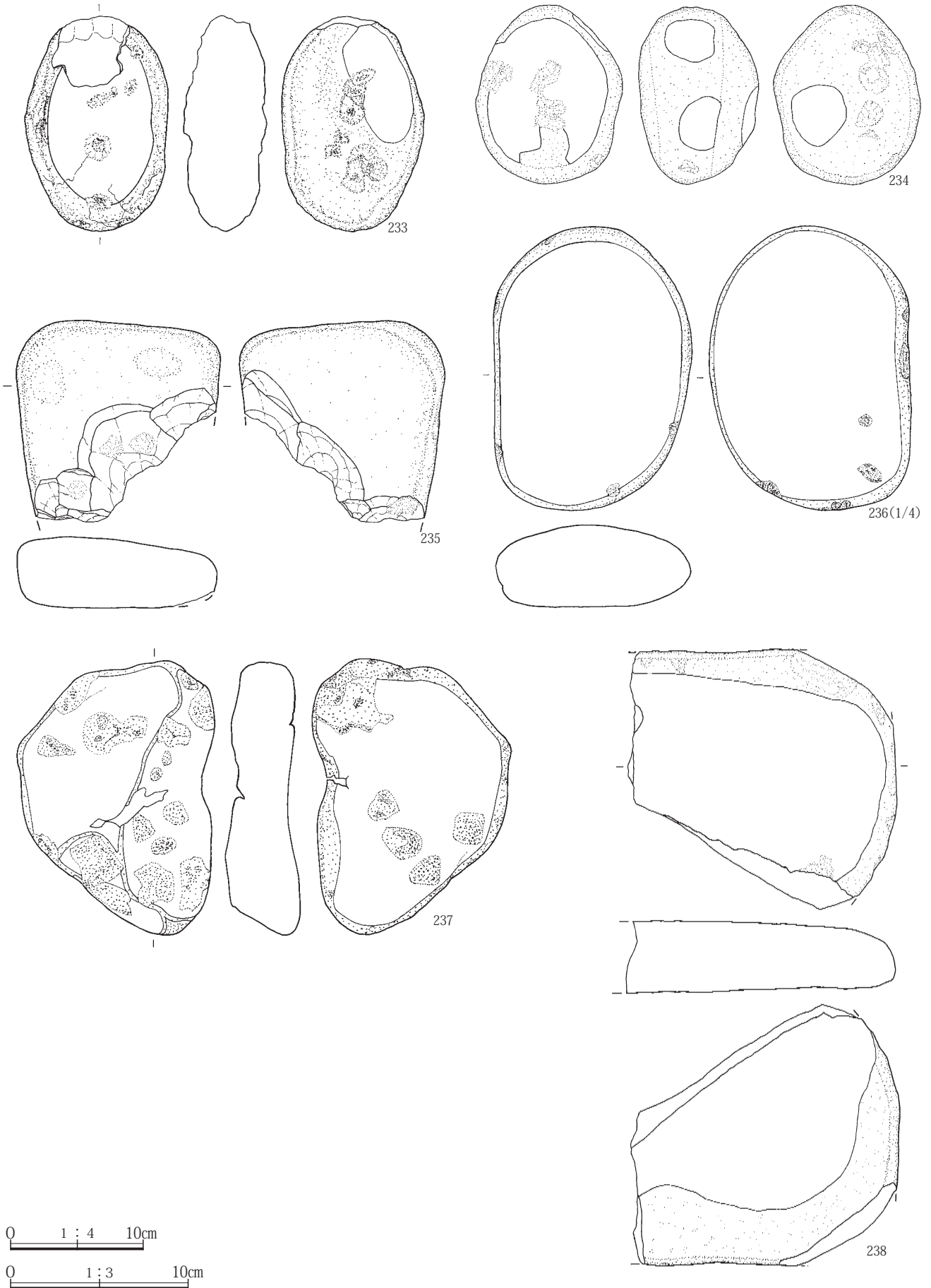
第106図 石畑I岩陰B区南5層出土遺物(3)



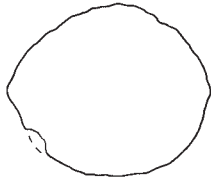
第107図 石畑I岩陰B区南5層出土遺物(4)



第108図 石畑I岩陰B区南5層出土遺物(5)

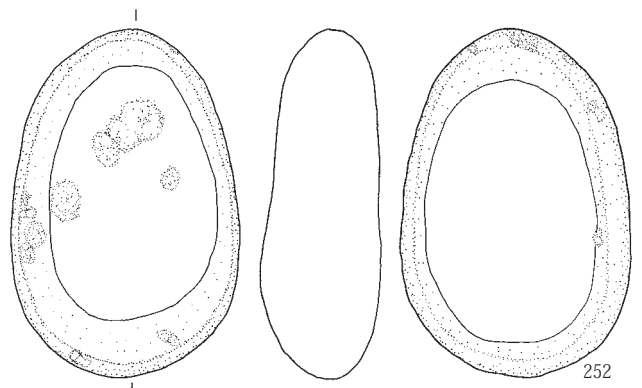
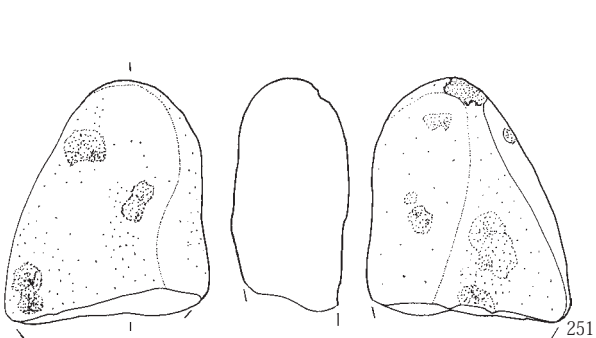
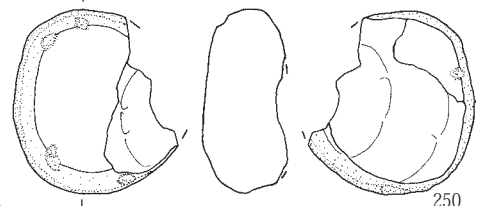
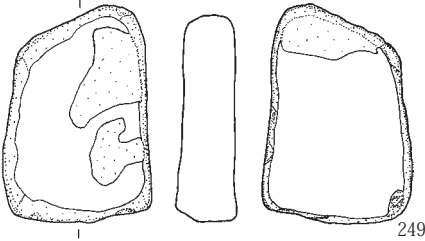
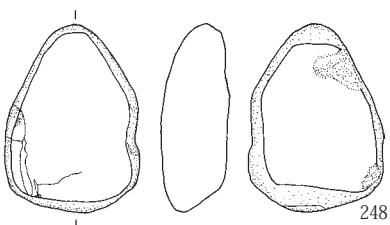
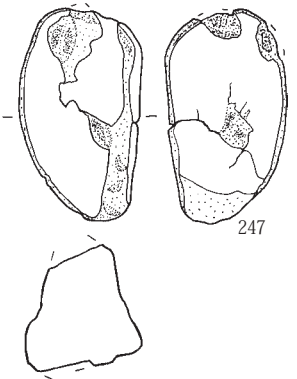
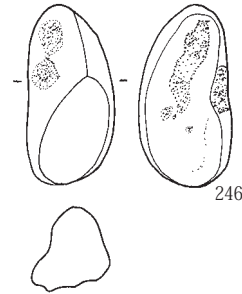
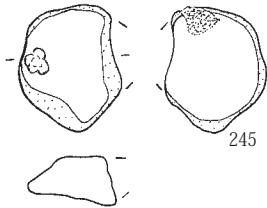
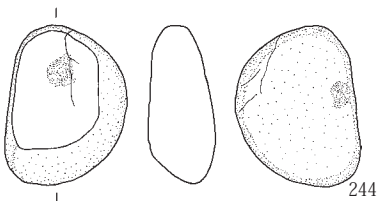
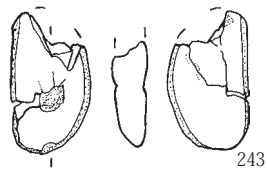
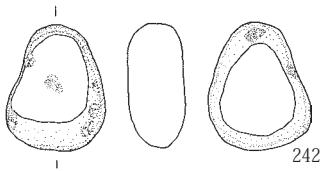
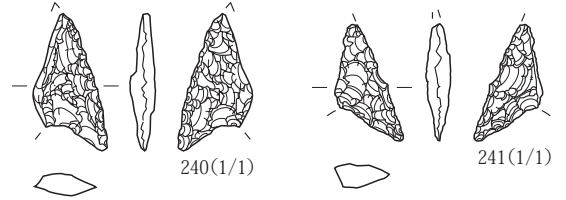


第109図 石畑I岩陰B区南5層出土遺物(6)



0 1:3 10cm

第110図 石畑 I 岩陰B区南6層出土遺物



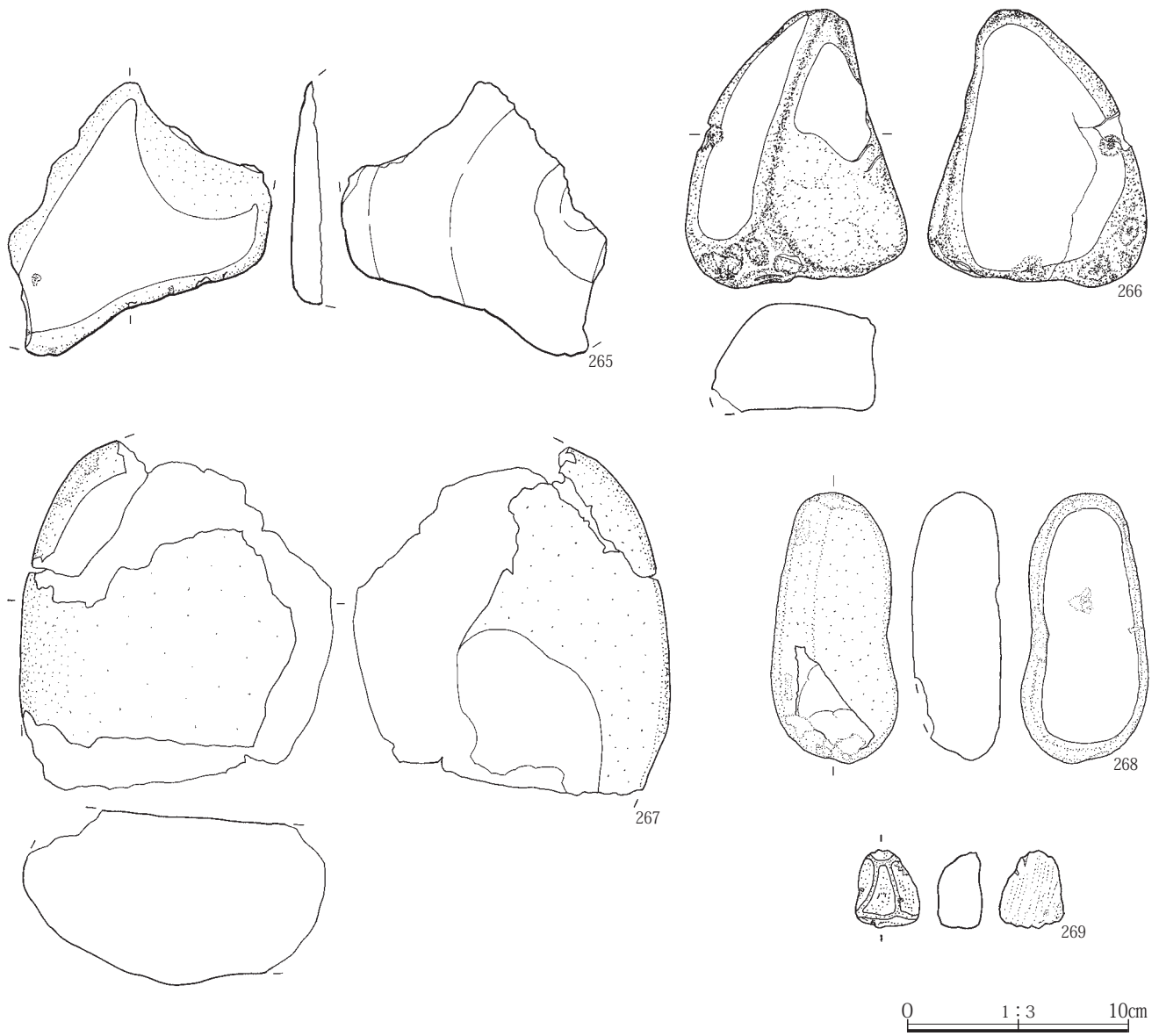
0 1:3 10cm

0 1:1 5cm

第111図 石畑 I 岩陰B区南7層出土遺物(1)



第112図 石畑I岩陰B区南7層出土遺物(2)



第113図 石畑I岩陰B区南7層出土遺物(3)

第7表 B区南遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第96図 PL.56	1	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	山形状の押型文。内面：丁寧ナデ	縄文早期前半
第96図 PL.56	2	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少/良/明褐色	山形状の押型文。内面：ナデ	縄文早期前半
第96図 PL.56	3	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少/良/にぶい 褐色	山形状の押型文か、文様不明瞭。内面：ナデ	縄文早期前半
第96図 PL.56	4	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少/良/にぶい 赤褐色	山形状の押型文か、文様不明瞭。内面：ナデ	縄文早期前半
第96図 PL.56	5	縄文土器 深鉢	0 胴部片	-	-	砂粒少/良/明褐色	文様不明瞭。内面：ナデ	縄文早期前半 か
第96図 PL.56	6	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒多、繊維少/ 良/赤褐色	沈線と刺突文で文様構成。内外面に横位条痕。	鶴ヶ島台式
第96図 PL.56	7	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	石英雲母多、繊維 少/良/黒褐色	外面に横位～斜位の条痕、内面に縦位条痕。	縄文早期後半
第96図 PL.56	8	縄文土器 深鉢	7層 胴部片	-	-	砂粒多、繊維少/ 良/にぶい黄褐色	内外面に条痕施文後ナデ。	縄文早期後半
第96図 PL.56	9	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒多、繊維少/ 良/にぶい黄褐色	外面に条痕後ナデ、内面に横位～斜位の条痕。	縄文早期後半
第96図 PL.56	10	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	体部上半に平行沈線で菱形の文様を構成。内面：粗け、凹凸顕著。	早期後半
第96図 PL.56	11	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	99と同個体	早期後半
第96図 PL.56	12	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	99と同個体	早期後半
第96図 PL.56	13	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	数条の横位押引文と粒状貼付文。内面：擦痕ナデ。	関山1式
第96図 PL.56	14	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/暗褐色	口縁部に2帯のノブ文、以下に0段3条RLとLRで菱形縄文施文。内面：かい研磨。	関山式
第96図 PL.56	15	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	4条単位の平行線で文様構成。地文は付加条縄文。内面：研磨。	関山式
第96図 PL.56	16	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	胴部に0段3条RLとLRで菱形羽状縄文。内面：研磨。	関山式
第96図 PL.56	17	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/暗褐色	104と同個体	関山式
第96図 PL.56	18	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	胴部に綾り縄文LRを施文。内面：研磨、光沢。	関山式
第96図 PL.56	19	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒多、繊維多/ 良/明黄褐色	胴部に付加条縄文LR+RRを施文。内面：粗け。	関山式
第96図 PL.56	20	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	胴部に付加条縄文LR+LLを施文。内面：かるい研磨。	関山式
第96図 PL.56	21	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	胴部にループ縄文LRとコンパス文。内面：研磨、光沢。	関山式
第96図 PL.56	22	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	胴部に付加条縄文LR+Rとコンパス文。内面：研磨。	関山式
第96図 PL.56	23	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/暗褐色	胴部にRLとLRで羽状縄文構成。内面：丁寧ナデ。	関山式
第96図 PL.56	24	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	胴部に正反の合攪り縄文LRR。内面：研磨。	関山式
第96図 PL.56	25	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	胴部に付加条縄文RL+LLを施文。	関山式
第96図 PL.56	26	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	平縁。外面に縄文LR、内面：研磨。	黒浜式
第96図 PL.56	27	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	平縁。外面にRLとLRで羽状縄文構成。内面：研磨。	黒浜式
第96図 PL.56	28	縄文土器 深鉢	7層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	波状口縁。外面に縄文RL、内面荒れ。	黒浜式
第96図 PL.56	29	縄文土器 深鉢	表土 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	平縁。外面に縄文LR、内面研磨。	黒浜式
第96図 PL.56	30	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	波状口縁。幅広の爪形文で菱形文様を構成。内面：研磨。	黒浜式
第96図 PL.56	31	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	平縁。外面に無節縄文L。内面：研磨。	黒浜式
第96図 PL.56	32	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維少/ 良/暗褐色	縄文LRか、施文不明瞭。内面：ナデ。	黒浜式
第96図 PL.56	33	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 並/暗褐色	平行沈線で菱形文様を構成。内面：かい研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	34	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒多、繊維多/ 良/黒褐色	外面に縄文RL、婦負面に横位のナデ。	黒浜式
第97図 PL.56	35	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	外面に縄文RL、内面研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	36	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	-	-	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	外面に0段多条縄の菱形縄文構成。内面：丁寧ナデ。	黒浜式

第3章 発見された遺構と遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				—	—			
第97図 PL.56	37	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	外面に縄文LR、内面に縦位の粗い研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	38	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/黄褐色	外面に縄文LR、内面研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	39	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多、繊維多/ 良/暗褐色	外面に無節縄文R、内面ナデ。	黒浜式
第97図 PL.56	40	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維少/ 良/暗褐色	胴部にRLとLRで菱形羽状縄文。内面：研磨、光沢。	黒浜式
第97図 PL.56	41	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	RLとLRで菱形羽状縄文。内面：粗い研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	42	縄文土器 深鉢	7層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	外面に縄文RL、内面かるい研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	43	縄文土器 深鉢	7層 胴部片	—	—	砂粒多、繊維多/ 良/褐色	外面に縄文RLとLRで菱形羽状縄文構成。内面かるい研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	44	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多、繊維多/ 良/褐色	胴屈曲部に3条の爪形文。内面：粗い研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	45	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/褐色	132と同様。	黒浜式
第97図 PL.56	46	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/橙色	134と同個体	黒浜式
第97図 PL.56	47	縄文土器 深鉢	3号トレンチ 胴部片	—	—	砂粒多、繊維多/ 良/褐色	2条の幅広爪形文で菱形文様構成。内面粗い研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	48	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	幅広の爪形文で文様構成。内面：粗い研磨。	黒浜式
第97図 PL.56	49	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/にぶい黄褐色	129と同様。	黒浜式
第97図 PL.56	50	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少、繊維多/ 良/黒褐色	櫛状施文具による刺突を伴う条線で文様構成。内面丁寧ナデ。	黒浜式
第97図 PL.56	51	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 橙色	平縁。口縁部に爪形文2条、縄文RL。内面研磨。	諸磯a式
第97図 PL.56	52	縄文土器 深鉢	不明 口縁部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	平縁。口縁部に爪形文。内面研磨。	諸磯a式
第97図 PL.56	53	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐色	爪形文で木の葉文様構成。円形竹管文施文。縄文RL。内 面研磨。	諸磯a式
第97図 PL.56	54	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐色	144と同個体。	諸磯a式
第97図 PL.56	55	縄文土器 深鉢	3層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙色	154と同個体。	諸磯a式
第97図 PL.56	56	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙色	外面に縄文RL。内面粗い研磨。	諸磯a式
第97図 PL.56	57	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	外面に縄文RL。内面研磨。	諸磯a式
第97図 PL.56	58	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	胴部中に横位平行沈線と刺突文。縄文RL。内面荒れ。	諸磯a式
第97図 PL.56	59	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	平行沈線で直線的な文様を施文。縄文RL。内面ナデ。	諸磯a式
第97図 PL.56	60	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	平行沈線で文様構成。縄文RL。内面研磨、光沢。	諸磯a式
第97図 PL.56	61	縄文土器 深鉢	7層 胴部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	150と同個体。	諸磯a式
第97図 PL.56	62	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒少/良/明赤褐 色	150と同様。	諸磯a式
第97図 PL.56	63	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	爪形文でやや変形した木の葉文様構成。縄文RL。内面ナデ。	諸磯a式
第97図 PL.56	64	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	横位に数条の爪形文。内面研磨。	諸磯a式
第97図 PL.56	65	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	爪形文で木の葉文様構成。縄文RL。内面研磨。	諸磯a式
第97図 PL.56	66	縄文土器 深鉢	7層 胴部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	条線で肋骨文構成。内面研磨。	諸磯a式
第98図 PL.57	67	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	平縁。外面に縄文RL。内面研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	68	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/赤褐色	平縁。外面に無節縄文L。内面かるい研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	69	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	平縁。外面に縄文RL。内面かるい研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	70	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/暗赤褐 色	平縁。外面に縄文RL。内面荒れ。	諸磯b式
第98図 PL.57	71	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/赤褐色	平縁。外面に縄文LR。内面研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	72	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	波状口縁。幅広爪形文で文様構成。内面ナデ。	諸磯b式
第98図 PL.57	73	縄文土器 深鉢	5層 頸部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	168と同個体。	諸磯b式

第4節 石畑I岩陰の調査

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.57	74	縄文土器 深鉢	5層 頸部片	—	—	砂粒多/良/灰黄褐色	2条単位の平行沈線で文様構成。縄文RL。内面かるい研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	75	縄文土器 深鉢	5層 頸部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	171と同個体。	諸磯b式
第98図 PL.57	76	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黄褐色	胴部に数帯の横位集合沈線。縄文RL。内面かるい研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	77	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	郷部に横位爪形文。内面研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	78	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	外面に縄文RL。内面粗い研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	79	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	外面に横位平行刺突文。内面研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	80	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	くの字に屈曲する波状口縁。1～2条の平行沈線で曲線的な文様を構成。縄文無節Lか。内面ナデ。	諸磯b式
第98図 PL.57	81	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	数条単位の平行沈線で文様構成。縄文RL。内面粗いナデ。	諸磯b式
第98図 PL.57	82	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	浮線文で文様構成。縄文RL。内面研磨。	諸磯b式
第98図 PL.57	83	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	176と同個体。	諸磯b式
第98図 PL.57	84	縄文土器 深鉢	5層 底部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	外面に縄文LR。内面丁寧ナデ。	諸磯b式
第98図 PL.57	85	縄文土器 土製凹盤	5層 完存	—	—	砂粒多/良/にぶい 褐色	諸磯b式深鉢の胴部破片を使用。周縁部打ち欠き。	諸磯b式
第98図 PL.57	86	縄文土器 深鉢	5層 口頸部片	—	—	砂粒少/良/黒褐色	大波状口縁。集合沈線で文様構成、要点に耳状・粒状の貼付文がつく。内面研磨、光沢。	諸磯c式
第98図 PL.57	87	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄褐色	集合沈線で文様構成、要点に耳状・ボタン状の貼付文がつく。内面ナデ。	諸磯c式
第98図 PL.57	88	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	石英・片岩多/良/ 片岩暗褐色	大波状口縁。集合沈線で文様構成、要点に粒状の貼付文がつく。内面丁寧ナデ。	諸磯c式
第98図 PL.57	89	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	石英・片岩多/良/ 片岩暗褐色	181と同個体。	諸磯c式
第98図 PL.57	90	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	石英・片岩多/良/ 片岩暗褐色	181と同個体。	諸磯c式
第98図 PL.57	91	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/赤褐色	口縁部に横位集合沈線、ボタン状貼付文がつく。内面丁寧ナデ。	諸磯c式
第98図 PL.57	92	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黄褐色	178と同個体。	諸磯c式
第98図 PL.57	93	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐色	集合沈線で文様構成、要点に耳状・ボタン状の貼付文がつく。内面ナデ。胴部に横位押引文がめぐる。内面ナデ。	諸磯c式
第98図 PL.57	94	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	185と同個体。	諸磯c式
第98図 PL.57	95	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	集合沈線で文様構成。内面ナデ。縄文RL。内面研磨。	諸磯c式
第98図 PL.57	96	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	集合沈線で文様構成、粒状の貼付文がつく。内面ナデ。	諸磯c式
第98図 PL.57	97	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/赤褐色	集合沈線で文様構成、胴部に雷状の文様、粒状の貼付文がつく。内面ナデ。	諸磯c式
第98図 PL.57	98	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	集合沈線で文様構成。内面ナデ。	諸磯c式
第98図 PL.57	99	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐色	集合沈線で文様構成。内面丁寧ナデ。	諸磯c式
第99図 PL.57	100	縄文土器 深鉢	5層 口縁部片	—	—	砂粒・片岩少/良/ 片岩暗褐色	2～3条単位の結節浮線文で文様構成。内面研磨。	前期末
第99図 PL.57	101	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 褐色	1条単位の結節浮線文で文様構成。縄文LR。内面研磨。	前期末
第99図 PL.57	102	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 褐色	194と同個体。	前期末
第99図 PL.57	103	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒少/良/褐色	194と同個体。	前期末
第99図 PL.57	104	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	石英・雲母多/良/ 褐色	2～3条単位の結節浮線文で文様構成。内面研磨。	前期末
第99図 PL.57	105	縄文土器 深鉢	不明 胴部片	—	—	砂粒・片岩多/良/ 片岩褐色	数条単位の平行刺突列で文様構成。地紋不明瞭。内面研磨。	前期末
第99図 PL.57	106	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒・片岩少/良/ 片岩灰黄褐色	192と同個体。	前期末
第99図 PL.57	107	縄文土器 深鉢	5層 口頸部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	平縁。頸部に隆帯がめぐり、口縁部に隆帯で円文施文。胴部に2～3条の沈線で文様構成。縄文RL。内面粗いナデと研磨。	五領ヶ台式
第99図 PL.57	108	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	石英・雲母多/良/ にぶい褐色	縄文LRを地文に平行沈線を縦位に施文。内面粗い研磨。	中期初頭
第99図 PL.57	109	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	3条単位の沈線で文様構成。縄文無節L。内面かるい研磨。	五領ヶ台式

第3章 発見された遺構と遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第99図 PL.57	110	縄文土器 深鉢	4層 口頸部片	—	—	石英・雲母多/良/ 暗褐色	大波状口縁。隆帯と押引文で文様構成。内面ナデ。	阿玉台I b式
第99図 PL.57	111	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	平縁。口唇部内面肥厚。器面荒れ。	堀之内1式
第99図 PL.57	112	縄文土器 深鉢	口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黒褐色	平縁。口唇部くの字に内折。内外面研磨、光沢。	堀之内1式
第99図 PL.57	113	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/褐色	平縁。横位縄文帯に縦位の沈線を加える。縄文LR。内面 研磨、光沢。	堀之内2式
第99図 PL.57	114	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	縄文帯で文様構成。縄文LR。内面研磨。	堀之内2式
第99図 PL.57	115	縄文土器 深鉢	5層 胴部片	—	—	砂粒多/良/褐灰色	206と同個体。	堀之内2式
第99図 PL.57	116	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/灰黄褐 色	縄文帯で文様構成。縄文LR。内面研磨、光沢。	堀之内2式
第99図 PL.57	117	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	縄文帯と沈線で文様構成。縄文LR。内面研磨。	堀之内2式
第99図 PL.57	118	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	外面に斜行沈線。内面研磨。	加曾利B式
第99図 PL.57	119	縄文土器 深鉢	4層 胴部片	—	—	砂粒少/良/褐灰色	外面に斜行沈線。内面研磨、光沢。	加曾利B式
第99図 PL.57	120	縄文土器 鉢	4層 口頸部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	頸部に縄文帯がめぐる。縄文LR。内外面研磨、光沢。	加曾利B式
第99図 PL.57	121	縄文土器 鉢か	表土 口頸部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	胴部に弧状区画文、縄文LR充填。内面研磨。	加曾利B式
第99図 PL.57	122	縄文土器 鉢か	5層 口頸部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	201と同個体。	加曾利B式
第99図 PL.58	123	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒少/並/暗褐色	215と同個体。	加曾利B式
第99図 PL.58	124	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒少/並/暗褐色	平縁で突起がつく。口縁部に横位平行沈線施文。内面かる い研磨。	加曾利B式
第99図 PL.58	125	縄文土器 鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/橙色	平縁。口縁部に4条の平行沈線を施し、上位2線間に刻目を 施文。内外面研磨、光沢。	加曾利B式
第99図 PL.58	126	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/赤褐色	平縁。口唇部上面に押圧施文。体部に輪積痕を残す。外面 に縄文LR。内面ナデ。	晩期
第99図 PL.58	127	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙～褐灰色	平縁。口縁部弱く内湾。内外面ナデ。	晩期
第99図 PL.58	128	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	波状口縁。入り組み文と三叉状印刻文で文様構成。ブタ鼻 状の貼付文がつく。縄文LR。内面研磨、光沢。	安行3a式
第99図 PL.58	129	縄文土器 鉢	4層 口頸部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	文様は213と同様。口縁部内面研磨、胴部内面ナデ。	安行3a式
第99図 PL.58	130	縄文土器 鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/褐灰色	雲形文を印刻的な手法で施文。縄文LR。外面黒漆地に赤 漆を施す。内面研磨、光沢。彩色不明。	大洞C1式
第99図 PL.58	131	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/黒褐色	平縁。口縁部に凹線が1条めぐる。内面かるい研磨。	晩期
第99図 PL.58	132	縄文土器 鉢	不明 口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 赤褐色	平縁。外面丁寧ナデ。内面研磨、光沢。	晩期
第99図 PL.58	133	縄文土器 深鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	平縁。口縁部に凹線が1条めぐる。内面ナデ。	晩期
第99図 PL.58	134	縄文土器 深鉢	表土 口縁部片	—	—	砂粒多/良/褐色	外面粗いナデ。内面入念ナデ。	晩期
第99図 PL.58	135	縄文土器 鉢か	4号トレンチ 頸部片	—	—	石英・雲母多/良/ 褐色	口縁部くの字状に内折、外面に隆帯。内面かるい研磨。	晩期
第99図 PL.58	136	縄文土器 深鉢	4層 頸部片	—	—	砂粒多/良/暗褐色	頸部に刺突を施した平行沈線。内面ナデ。	晩期前半
第99図 PL.58	137	縄文土器 鉢	4層 頸部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 橙色	頸部に平行沈線、縄文LR。内外面研磨、光沢。	晩期前半
第99図 PL.58	138	縄文土器 深鉢	4層 頸部片	—	—	砂粒少/並/褐灰色	頸部に横位平行隆線。内面研磨、光沢。	晩期後半
第100図 PL.58	139	弥生土器 鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒少/良/暗赤褐 色	口縁部に数条の平行沈線。内外面やや粗い研磨、光沢。外 面の一部に赤彩が残る。	弥生前期
第100図 PL.58	140	弥生土器 鉢	4層 口縁部片	—	—	砂粒/良/暗褐色	口縁部に変形工字文。内面研磨光沢。外面に赤彩。	弥生前期
第100図 PL.58	141	弥生土器 壺形	4層 肩部片	—	—	砂粒少/良/褐色	頸部に縄文帯、縄文LR。内外面かるい研磨。	弥生中期前半
第100図 PL.58	142	弥生土器 甗	4層 胴部片	—	—	砂粒少/良/橙色	胴部に横位縄文帯、縄文LR。内面ナデ。	弥生中期前半
第100図 PL.58	143	弥生土器 甗	3層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 橙色	口唇部に刻み目。口縁部に横位平行沈線。内面ナデ。	弥生中期前半
第100図 PL.58	144	弥生土器 甗	3層 口縁部片	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	口唇部に縄文LR。口縁部に横位条痕文、内面ヨコナデ。 被熱で変色、劣化。	弥生中期前半
第100図 PL.58	145	弥生土器 壺	表土 頸部片	—	—	砂粒少/良/暗褐色	頸部に隆帯と刺突列。外面かるい研磨、内面ナデ。	弥生中期後半
第100図 PL.58	146	弥生土器 甗	表土 胴部片	—	—	細砂少/良/暗褐色	外面に櫛状施文具で斜格子文構成。内面横位刷毛目。	弥生中期後半

第4節 石畑I岩陰の調査

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	備 考			
第100図 PL.58	147	弥生土器 甕	4層 肩部片	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙色	頸部に刺突列、肩部に平行沈線。外面横位刷毛目、内面ヨコナデ。	弥生中期後半
第100図 PL.58	148	弥生土器 甕	4層 口縁部片	—	—	—	砂粒少/良/褐色	口縁部受け口状。口唇部に縄文LR。口縁部に波状文、頸部に廉状文。内面丁寧ナデ。	弥生中期後半
第100図 PL.58	149	弥生土器 甕	4層 胴部片	—	—	—	砂粒多/良/褐色	胴部に波状文。内面研磨光沢。	弥生後期
第100図 PL.58	150	弥生土器 甕	表土 胴部片	—	—	—	細砂多/良/灰黄褐色	胴部に波状文と横帯文。外面に横位刷毛目、内面斜位刷毛目調整後ナデ。	弥生中期後半
第100図 PL.58	151	弥生土器 台付き甕	表土 台部	—	—	—	砂粒多/良/褐色	外面ナデ。内面研磨光沢。台部底面も研磨光沢。	弥生中期後半
第100図 PL.58	152	弥生土器 甕	3層 口頸部1/4	—	—	—	砂粒少/良/暗褐色	頸部に廉状文。内外面刷毛目調整後ナデ。	弥生後期
第100図 PL.58	153	弥生土器 甕	4層 口縁部片	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙色	外面全体にやや乱れた波状文。内面燻し、黒色、研磨。	弥生後期
第100図 PL.58	154	弥生土器 甕	4層 口縁部片	—	—	—	砂粒少/良/暗褐色	口縁部受け口状。口唇部下に波状文1条施文。内面ナデ。	弥生後期
第100図 PL.58	155	弥生土器 甕	4層 口縁部片	—	—	—	砂粒少/良/明褐色	口唇部外面外削ぎ状。外面全体に波状文。内面ナデ。	弥生後期
第100図 PL.58	156	弥生土器 甕	4層 頸部片	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙色	頸部に廉状文、胴部に波状文。内面ナデ。	弥生後期
第100図 PL.58	157	弥生土器 甕	3層 頸部片	—	—	—	砂粒少/良/褐色	頸部に廉状文、胴部に波状文。内面かるい研磨。	弥生後期
第100図 PL.58	158	弥生土器 甕	4層 胴部片	—	—	—	砂粒少/良/暗褐色	頸部に廉状文、胴部に細かな波状文。内面入念ナデ。	弥生後期
第100図 PL.58	159	弥生土器 甕	3層 胴部片	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙色	胴部に波状文。内面荒れ。	弥生後期
第100図 PL.58	160	弥生土器 甕	3層 胴部片	—	—	—	砂粒多/良/にぶい 黄橙色	胴部縦位区画線と波状文。内面研磨光沢。	弥生後期
第100図 PL.58	161	弥生土器 甕	3層 頸部片	—	—	—	砂粒多/良/暗褐色	頸部に廉状文、胴部に波状文。内面かるい研磨。	弥生後期
第100図 PL.58	162	弥生土器 甕	3層 頸部片	—	—	—	砂粒多/良/暗褐色	343と同個体	弥生後期
第100図 PL.58	163	弥生土器 高環か鉢	3層 口縁部片	—	—	—	砂粒多/良/暗赤褐色	口縁に耳状の突起。内外面研磨光沢、赤彩。	弥生後期
第100図 PL.58	164	弥生土器 壺	3層 頸部片	—	—	—	砂粒少/良/赤褐色	内外面研磨光沢、赤彩。	弥生後期
第100図 PL.58	165	土師器 環	4層 体部片	—	—	—	砂粒少/良/灰褐色	外面へラ削り、内面放射状暗文。	5世紀末～6世紀初頭
第100図 PL.58	166	土師器 甕	表土 口縁部片	—	—	—	砂粒少/良/にぶい 黄橙色	器面荒れ、劣化。	5世紀末～6世紀初頭
第100図 PL.58	167	土師器 甕	表土 底部	—	—	—	砂粒多/良/暗褐色	外面へラナデ、内面入念ナデ。	5世紀末～6世紀初頭
第101図 PL.59	168	石錐	92F21b 3層 完形	長幅 1	3.2 厚重 0.6 1.8	—	赤碧玉	摘まみ部無し。	
第101図 PL.59	169	削器	92E22b 3層 完形	長幅 9.1	10.3 厚重 9.1	2.1 277.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。片側縁に加工。	
第101図 PL.59	170	礫器	92E21c 3層 完形	長幅 8.6	7.6 厚重 8.6	3.5 265.1	細粒輝石安山岩	表面に原石面残存。縦長剥片素材。	
第101図 PL.59	171	磨石	92E21b 3層 完形	長幅 13.8	7.5 厚重 7.5	5.5 788.8	溶結凝灰岩	二面磨り面。	
第101図 PL.59	172	凹石	92E21d 3層 完形	長幅 8.6 5.7	8.6 厚重 5.7	3.9 216.1	粗粒輝石安山岩	表裏両面に数個のくぼみ。	
第101図 PL.59	173	磨石	92E21c 3層 半分欠損	長幅 -9.3 -6.3	9.3 厚重 6.3	4.9 418.6	粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第101図 PL.59	174	磨石	92E21d 3層 完形	長幅 10.6 4.7	10.6 厚重 4.7	3.6 247.4	粗粒輝石安山岩	三面磨り面。(表裏両面と一側面)	
第101図 PL.59	175	磨石	92E22b 3層 完形	長幅 9.9 7	9.9 厚重 7	4 374	粗粒輝石安山岩	一面に僅かな磨り面。	
第101図 PL.59	176	磨石	92E21d 3層 完形	長幅 9.2 9	9.2 厚重 9	5.3 593.3	粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第102図 PL.59	177	打製石鏃	92G22a 4層 先端欠損	長幅 1.6	-2.2 厚重 1.6	0.6 1.7	珪質頁岩	平基無茎(Ⅱ類)。	
第102図 PL.59	178	打製石鏃	92G22a 4層 完形	長幅 1.2	1.7 厚重 1.2	0.3 0.3	黒曜石	凹基無茎(Ⅰ類)。	
第102図 PL.59	179	磨石	92E22b 4層 表裏両面の一部 欠損	長幅 6 -4.6	6 厚重 -4.6	-3 91.8	粗粒輝石安山岩	焼けて砕けている。	
第102図 PL.59	180	磨石	92E22b 4層 完形	長幅 7.2 5.5	7.2 厚重 5.5	5.2 282.9	粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第102図 PL.59	181	磨石	92E22b 4層 両面の一部欠損	長幅 9 -7.1	9 厚重 -7.1	4.3 361.7	粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。	
第102図 PL.59	182	磨石	92E22b 4層 半分欠損	長幅 7.7	-7 厚重 7.7	3.6 309.8	粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	

第3章 発見された遺構と遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚 重			
第102図 PL.59	183	磨石	92E22b 4層 完形	10.6 7.8	4.3 472.4		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。	
第102図 PL.59	184	磨石	92E21d 4層 完形	11.4 6.9	4.1 483.3		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。	
第102図 PL.59	185	磨石	92G22a 4層 完形	11.5 9.4	9 1173.3		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。	
第102図 PL.59	186	磨石	92F21a 4層 完形	12.8 9.9	7.1 1286.3		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第103図 PL.60	187	台石	92F22b 4層 完形	26.8 20.5	12.2 9000		粗粒輝石安山岩	片面磨り面と表裏両面に多数のくぼみ。	
第104図 PL.60	188	打製石鏃	92F21d 5層 片脚欠損	-1.8 -1.1	0.4 0.4		流紋岩	凹基無茎(1類)。	
第104図 PL.60	189	打製石鏃	5層 先端欠損	-1.5 1.5	0.4 0.6		黒色頁岩	凹基無茎(1類)。	
第104図 PL.60	190	石匙	92F21b 5層 完形	3.9 3.9	0.9 6.6		黒色頁岩	横型	
第104図 PL.60	191	石匙	5層 先端欠損	-2.5 -4.8	0.9 8.1		珪化凝灰岩	横型	
第104図 PL.60	192	磨石	92E22b 5層 完形	5.9 4.5	2.7 84.7		粗粒輝石安山岩	被熱によるヒビ割れ。スス付着。	
第104図 PL.60	193	磨石	92E22d 5層 完形	5.9 5.3	3 104		粗粒輝石安山岩	被熱によるヒビ割れ。スス付着。	
第104図 PL.60	194	磨石	92E22d 5層 完形	6.4 6.4	2.7 155.1		粗粒輝石安山岩	一面磨り面。	
第104図 PL.60	195	磨石	92G22a 5層 完形	4.4 4.1	3.7 98.6		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第104図 PL.60	196	磨石	92E22b 5層 完形	3.5 3.4	2.8 39.8		粗粒輝石安山岩	一面磨り面。	
第104図 PL.60	197	磨石	92E22d 5層 完形	8.2 6.4	3.8 239.5		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第104図 PL.60	198	磨石	92E22d 5層 完形	9.4 6	3.3 254.9		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。被熱破砕?	
第105図 PL.60	199	磨石	92E22d 5層 欠損	-7.7 -5.6	2.2 110.5		変質安山岩	表裏両面磨り面。被熱。スス付着。	
第105図 PL.60	200	磨石	92E22d 5層 一端欠損	-9.3 -5.1	-4 279.1		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第105図 PL.60	201	磨石	92F22b 5層 完形	10.9 5.9	2.9 292.3		粗粒輝石安山岩	三両面磨り面。	
第105図 PL.60	202	磨石?	92E22b 5層 完形	11.5 6.2	4 335.4		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。被熱破?	
第105図 PL.61	203	磨石	92F21d 5層 一部破損	12.7 -4.6	3.3 301.9		変質安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第105図 PL.61	204	磨石	92E22d 5層 一部破損	14 5.6	-5.9 546		ひん岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。	
第105図 PL.61	205	磨石	92F21b 5層 一端欠損	-11.2 -6.5	3.7 329.4		変質安山岩	表裏両面磨り面。	
第105図 PL.61	206	磨石	92F21d 5層 一部破損	-9.7 -7.2	-3.2 291.1		粗粒輝石安山岩	被熱によるヒビ割れ。スス付着。	
第105図 PL.61	207	磨石	92F22b 5層 完形	10.3 7.4	6.6 629.4		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。被熱によるヒビ割れ。	
第105図 PL.61	208	磨石	92F21d 5層 半分欠損	-10.9 -6.4	-4.1 356.4		変質安山岩	一面磨り面。	
第106図 PL.61	209	凹石	92E22b 5層 完形	8.2 6.7	4.1 342.2		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第106図 PL.61	210	磨石	92F22b 5層 完形	10.3 5.7	3.6 371.4		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第106図 PL.61	211	磨石	92E22d 5層 一部破損	-9 7.7	-3.6 327.1		ひん岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱によるヒビ割れ。	
第106図 PL.61	212	磨石	92F21d 5層 完形	12.8 5.8	3.4 404.1		変質安山岩	表裏両面磨り面。	
第106図 PL.61	213	磨石	92E22d 5層 完形	16.5 8	4.4 840.4		変質安山岩	表裏両面磨り面。	
第106図 PL.61	214	磨石	92E22d 5層 完形	16.1 7	4.8 752.8		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第106図 PL.61	215	磨石	92F22c 5層 完形	15.9 5.8	4.5 693.8		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第106図 PL.61	216	磨石	92F22b 5層 完形	12.4 7.9	3.3 506.7		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第107図 PL.62	217	磨石	92E22b 5層 完形	13.9 7.5	3.3 499.8		変質安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第107図 PL.62	218	磨石	92E22d 5層 完形	11.7 8.2	4.3 722.1		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱?	
第107図 PL.62	219	磨石	92E22b 5層 完形	12.4 8.1	3.6 581.7		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	

第4節 石畑I岩陰の調査

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長幅	厚	重			
第107図 PL.62	220	磨石	92E22b 5層 完形	14.4 5.5	3.9 407.8		細粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱によるヒビ割れ。	
第107図 PL.62	221	磨石	92F21d 5層 完形	10.1 9.3	4.6 689.2		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。一部赤化。被熱によるヒビ割れ。	
第107図 PL.62	222	磨石	92F22c 5層 完形	12.1 8.2	4.6 663.3		石英閃緑岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。	
第107図 PL.62	223	磨石	92F22b 5層 完形	11.8 8.6	4.2 628.8		粗粒輝石安山岩	三面磨り面。	
第107図 PL.62	224	磨石	92E22b 5層 完形	11.6 9.1	4.6 741.1		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第108図 PL.62	225	磨石	92F21d 5層 完形	14.1 8.5	5.2 571		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と多数のくぼみ。	
第108図 PL.62	226	磨石	92E21c 5層 完形	10.1 9.6	6.2 694.2		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱による剥がれとヒビ割れ。	
第108図 PL.62	227	磨石	92E21d 5層 完形	13.7 9.5	6.4 1205.5		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第108図 PL.62	228	磨石	92F22c 5層 完形	18.8 6.4	6 962.5		ひん岩	表裏両面磨り面。	
第108図 PL.63	229	磨石	92F21d 5層 完形	10.7 9.3	6.4 861.3		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第108図 PL.63	230	凹石	92F22c 5層 半分欠損	-9.8 6.5	3.6 267.5		デイサイト	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱。	
第108図 PL.63	231	磨石	92F22b 5層 完形	13.9 9.4	8.1 1426.6		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第108図 PL.63	232	軽石	92E22a 5層 完形	6.8 5	3 43.6		軽石	くぼみ。	
第109図 PL.63	233	凹石	92E22b 5層 完形	12 7.9	4.6 576.5		変質安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱による破碎。	
第109図 PL.63	234	凹石	92F22b 5層 完形	10 8.2	6.6 702.1		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱によるヒビ割れ。スス付着。	
第109図 PL.63	235	礫器	92G22a 5層 一部欠損	-11.2 -11.5	4 769.2		変質安山岩	一端からの交互剥離。	
第109図 PL.63	236	台石	92F22c 5層 完形	21 14.8	6.4 3000		変質安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第109図 PL.63	237	台石?	92E22b 5層 一部欠損	-15.4 -10.9	4.2 859.4		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第109図 PL.63	238	台石	92F22d 5層 欠損	-15 -14.5	4 1394		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第110図 PL.64	239	磨石	92E22b 6層 一部欠損	-10.7 -8.1	6.8 710		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第111図 PL.64	240	打製石鏃	7層 片脚欠損	-1.8 1	0.3 0.4		黒曜石	凹基無茎(1類)。	
第111図 PL.64	241	打製石鏃	92F21d 7層 片脚欠損	-1.5 0.9	0.3 0.3		黒曜石	凹基無茎(1類)。	
第111図 PL.64	242	磨石	92E22b 7層 完形	5 3.9	2.3 65.8		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第111図 PL.64	243	磨石?	92F21d 7層 一端欠損	-5.3 3.2	1.5 25.5		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。焼けて砕けている。	
第111図 PL.64	244	磨石	92E22b 7層 完形	7.4 3.4	3 81.6		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第111図 PL.64	245	磨石?	92E22b 7層 一端欠損	-8.3 -4.7	-6.2 222.7		変質安山岩	焼けて砕けている。	
第111図 PL.64	246	磨石	92E22b 7層 完形	6.2 4.7	2.6 100.1		粗粒輝石安山岩	一面磨り面と少数のくぼみ。	
第111図 PL.64	247	磨石?	92F22b 7層 一端欠損	4.9 -3.9	1.9 55		粗粒輝石安山岩	被熱?	
第111図 PL.64	248	磨石	92E22b 7層 完形	7.4 5.3	2.7 141.7		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第111図 PL.64	249	磨石	92E22b 7層 完形	8.5 5.8	2.4 198.9		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第111図 PL.64	250	磨石	92F21d 7層 一部欠損	7.2 -6.5	-3.3 151.7		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第111図 PL.64	251	磨石?	92F22b 7層 一端欠損	-9.3 -8.4	5.1 474.2		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第111図 PL.64	252	磨石	92G22a 7層 完形	13.7 9	4.7 790.1		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第112図 PL.64	253	磨石?	92E22d 7層 両端欠損	-9.2 -8.6	-5 551.6		粗粒輝石安山岩	一面磨り面と多数のくぼみ。	
第112図 PL.64	254	磨石	92E22d 7層 完形	8.4 7	2.7 250.1		細粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。被熱?	
第112図 PL.64	255	磨石	92F22b 7層 完形	6.4 5.2	4.5 175.9		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。被熱?	
第112図 PL.64	256	磨石	92F22b 7層 一端欠損	-6.7 -3.9	3.2 92		粗粒輝石安山岩	二面磨り面。	

第3章 発見された遺構と遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長幅	厚	重量			
第112図 PL.64	257	磨石	92E22b 7層 一部欠損	-6.4 5	3.5 187.9		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第112図 PL.64	258	磨石	92E22b 7層 完形	7 6.3	3.4 210.2		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第112図 PL.64	259	磨石	92F22b 7層 一端欠損	-10.7 6.5	5.2 518.9		ひん岩	三面磨り面。	
第112図 PL.64	260	磨石	92G22a 7層 半分欠損	11.3 -6	-4.4 334.6		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第112図 PL.64	261	磨石	92F22b 7層 完形	7.1 4	3.6 155.9		ひん岩	一面磨り面。	
第112図 PL.64	262	磨石	92F22b 7層 半分欠損	-8.2 -7.6	4.1 291.5		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第112図 PL.64	263	磨石	92F22b 7層 完形	10.7 5.1	3.5 260.3		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面と少数のくぼみ。	
第112図 PL.65	264	磨石	92F22c 7層 完形	11.5 6.7	4.2 538.8		粗粒輝石安山岩	五面磨り面と少数のくぼみ。被熱。	
第113図 PL.65	265	磨石?	92F22b 7層 欠損	-9.8 -11.9	-1.5 249.2		粗粒輝石安山岩	三面磨り面。	
第113図 PL.65	266	磨石	92G22a 7層 一部欠損	-12 -9.8	5.6 862.5		粗粒輝石安山岩	表裏両面磨り面。	
第113図 PL.65	267	磨石? 台 石?	92F21d 7層 一端欠損	-13.9 -13.8	-7.5 2000		粗粒輝石安山岩	焼けて砕けている。	
第113図 PL.65	268	敲石	92E22b 7層 完形	12.1 5.6	4 424.9		粗粒輝石安山岩	一面剥離面と一面磨り面。	
第113図 PL.65	269	軽石	92E22b 7層 完形	3.3 2.8	2 5.7		軽石	一面磨り面。	

第8表 出土石器一覧表

地区	面	打製石鏃	未成品	石錐	石匙	削器	加工痕	使用痕	打製石斧	礫器	磨製石斧	敲石	磨石	石皿	台石	砥石	石棒	多孔石	くぼみ石	軽石	原石	石核	剥片 破片	計	割合	
																										1
A北	1																						0	0.0		
	2																						1	0.2		
	3	1				1	1	2					1								1	7	14	岩片1	2.9	
	4	1																					1	0.2		
	一括																						0	0.0		
A南	1																						0	0.0		
	2	1																					2	3	0.6	
	2.5	1																					1	0.2		
	3	1				2																	6	9	小礫1	1.8
	4																						0	0.0		
一括																						0	0.0			
B北	1																						0	0.0		
	2	4	1				7										1						17	30	6.2	
	3	3																					8	11	未1	2.3
	4	5	4				5					1		1								8	54	78	礫片1	16.0
	5						1																5	6	礫片2	1.2
	一括																						0	0	0.0	
B南	1						1																1	2	0.4	
	2																						0	0	0.0	
	3	1	1	1		1	3		1				5						1				9	23	7.7	
	4	3				1	6						7		1	1				1		2	21	43	礫片3	8.8
	5	4			2		10		1			1	84		2				6	1		2	86	199	礫4	40.9
	6												2										2	2	0.4	
	7	2				3						1	28							1			21	56	礫1	11.5
一括					1																	7	8	1.6		
計		27	6	1	2	9	34	2	0	2	0	3	127	0	4	1	1	0	7	4	0	12	245	487	487	100
割合		5.5	1.2	0.2	0.4	1.8	7.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.6	26.1	0.0	0.8	0.2	0.2	0.0	1.4	0.8	0.0	2.5	50.3	100		

第9表 打製石器石鏃形態表

出土/類	I	II	III	IV	V	VI	VII	他	計	備考
A区北	2								2	曜2
A区南	2	1							3	曜1流1赤1
B区北	2		1	5	5	1		6	20	※
B区南4層	3	1							4	曜3珪頁1
B区南5層	4								4	曜2黒頁1流1
B区南6層									0	
B区南7層	2								2	曜2
計	15	2	1	5	5	1	0	6	35	

第4章 自然科学分析

第1節 石畑I岩陰遺跡出土の動物遺体の同定

1 同定委託について

(1)同定委託の目的

石畑I岩陰は縄文時代早～晩期の遺跡である。本遺跡からは多量の焼骨が遺構内外出土しており、収納ケース10箱ほどが出土した。大半は細片であるが、同定可能な個体も認められた。本分析は、動物骨を同定することにより各遺跡で消費された動物種及び消費傾向などを明らかにし、生活形態などを考える一助とすることを目的とした。

[分析試料]

石畑I岩陰は、比較的大形の個体が多いように見受けられ、49点を抽出した。

(2)同定の結果

ニホンジカとイノシシを中心にツキノワグマ、ニホンザルなどが出土した。層位が漠然としないため、獣骨出土の時期を明確に捕らえることができない。ニホンジカとイノシシの年齢には、偏りはない。縄文時代晩期に相当する層位からヒトが出土している。

(3)所見

ニホンジカが中心に出土しているが、縄文時代後期、晩期から弥生時代の中期および後期と時代幅は大きい。

縄文時代晩期に相当するヒトについては、岩陰を墓域として利用した可能性が考えられる。周辺遺跡では、居家以岩陰遺跡で縄文時代早期の墓域が確認され、ニホンジカを中心とした動物骨が出土している。

2 石畑I岩陰遺跡から出土した動物遺体

(1)はじめに

群馬県吾妻郡長野原町川原畑地内に位置する石畑I岩陰遺跡の発掘調査で出土した動物遺体の同定結果を報告

する。

(2)試料および方法

試料は、動物遺体49点である。肉眼および実体顕微鏡で動物遺体を観察し、現生標本との比較により、部位と分類群の同定を行った。また、焼けているか否かなどの観察結果も記載した。

(3)結果

表1に、同定結果を示す。同定された分類群は次のとおりである。

哺乳綱 Mammalia

ニホンジカ Cervus Nippon

イノシシ Sus scrofa

ツキノワグマ Ursus thibetanus

ニホンザル Macaca fuscata

ヒト Homo sapiens sapiens

トレンチごとの最小個体数を表2に、面・層ごとの最小個体数を表3に示した。

出土した動物骨は、ニホンジカとイノシシの出土が中心となる。以下、出土した動物遺体について、トレンチごとに主な特徴を述べる。

① 1号トレンチ

11層からヒト、4面11層からニホンジカ、5面17層からヒト、7号灰層からイノシシが出土した。ニホンジカは中節骨、イノシシは左距骨が出土しており、いずれも完存状態であった。1号トレンチだけでみると、ヒトの出土が最も多く、11層から下顎骨、胸椎、中手骨、5面17層からは下顎骨の、計4点が出土した。出土層位が異なっており、1号トレンチからは、少なくとも2個体分の人骨が出土したことになる。分析No. 1の左下顎骨は、第3大白歯部(M 3)から下顎枝までの破片で、第3大白歯(M 3)は未萌出である。第3大白歯(M 3)は、15～28歳ころに萌出するため(松井, 2008)、この人骨は少なくともこれらの年齢よりも若いと推定される。分析

第4章 自然科学分析

No.49aの下顎骨は、左右ともに歯が脱落しており、中切歯(I 1)、側切歯(I 2)、犬歯(C)、第1小白歯(P 1)の歯槽が残存している。年齢は不明である。

② 2号トレンチ

5面17層からニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、5面18層からニホンジカ、ツキノワグマが出土した。ニホンジカは、上顎骨や臼歯、下顎骨などの頭骨周辺の部位と、上腕骨、脛骨などが出土している。上顎骨および上顎臼歯には乳臼歯が認められ、未萌出の第3後臼歯(M 3)も出土しているため、若い個体が利用されたと考えられる。また上顎臼歯には、火を受け、一部炭化している試料も見られた。

イノシシは、下顎骨と、上顎および下顎臼歯が出土している。乳臼歯の萌出する下顎骨や未萌出の第2後臼歯(M 2)が出土しており、イノシシも若い個体が利用されたと考えられる。

ニホンザルは左大腿骨の近位部が出土した。骨端が癒合しており、成獣個体と考えられる。ツキノワグマは、右上顎の第3後臼歯(M 3)が出土した。摩滅も進んでおり、成獣個体と考えられる。

③ 3号トレンチ

4面11層からニホンジカ、5面17層からニホンジカとイノシシが出土している。ニホンジカは上顎骨、下顎骨、上顎および下顎臼歯を中心に出土している。

ニホンジカでは、乳臼歯の萌出する上顎骨(31a、32、34など)や、未萌出の前臼歯(31d)などが出土しており、若獣個体が多く含まれると考えられる。

イノシシも乳臼歯の萌出する個体が多く、中には摩滅の著しい第3後臼歯(M 3)もあり、45ヵ月齢を大幅に超えた個体も含まれている。

④ 4号トレンチ

5面16層からイノシシ、6面19層からニホンジカが出土した。ニホンジカは上顎臼歯、イノシシは下顎臼歯である。いずれも永久歯であり、成獣と考えられる。

4. 考察

今回同定された動物遺体は、2号および3号トレンチ

の、5面17層の試料が中心となる。時期は縄文時代後・晩期～弥生時代中・後期と時代幅が広く、この層における最小個体数は、ニホンジカ5個体、イノシシ1個体、ニホンザル1個体、ヒト1個体で、ニホンジカが最も多い。ヒトが1点含まれているため、岩陰が墓域として利用された可能性がある。

出土部位をみると、ニホンジカの上顎骨、下顎骨、上顎および下顎臼歯を中心とした試料が得られているが、今回同定したのは出土資料のごく一部であり、部位による偏りは定かでない。

なお、同じ長野原町にある居家以岩陰遺跡においても、縄文時代早期の動物遺体の出土が報告されている(石澤・鈴木・松本, 2020)。この報告によれば、ニホンジカを中心とした哺乳類と、わずかながら淡水性貝類や、両生類、魚類、鳥類が出土している。哺乳類の部位では、上顎骨や下顎骨、遊離歯のほか、主要四肢骨の破片、椎骨など、多様な部位の出土が認められる。

居家以岩陰遺跡は、今回の石畑I岩陰遺跡とは時期の異なる岩陰遺跡であるが、出土する動物種や部位に共通性が認められる。今後、動物遺体のより詳細な観察と他の岩陰遺跡との比較により、遺跡利用の実態をより詳しく明らかにできるとと思われる。

第1節 石畑I岩陰遺跡出土の動物遺体の同定

第10表 動物遺体一覧

番号	出土位置	層位	時期	出土No.	分類群	部位	左右	現存長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	被熱	状態	カットマーク	備考	品名	部位
1	1号トレンチ	11層	縄文晩期	505	ヒト	下顎骨	左	94.6	47.2	15.9	16.9				第3大臼歯未萌出(歯槽5mm開孔)	骨	下顎骨
2	1号トレンチ	11層	縄文晩期	510	ヒト	胸椎	-	31.5	35.3	13.1	3.1				上関節突起部	骨	不明
3	1号トレンチ	11層	縄文晩期	497	ヒト	中手骨	左	36.7	16.3	15.5	2.4				第1中手骨(親指)	骨	中節骨か
4	1号トレンチ	4面11層	縄文晩期	623	ニホンジカ	中節骨	-	34.5	14.3	17.4	4.6				ほぼ完存	骨	中節骨か
48	1号トレンチ	7号灰層	縄文晩期～弥生中期	781	イノシシ	距骨	左	51.6	26.9	25.2	16				ほぼ完存	骨	腰椎
49a	1号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1272	ヒト	下顎骨	-	50	27.9	12.7	9.9				左右ともに、I1,I2,C.P1部残	骨	下顎骨
49b	1号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1272	陸獣類	四肢骨	-	57.9	19	6.1	6.3				破片1点	骨	下顎骨
9	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1056	イノシシ	下顎白歯	左	11.2	18.1	14.9	2.1				未萌出のM2	歯	
10	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1148	イノシシ	下顎骨	左	72.4	34.8	19.5	15.1				dm2,dm3,dm4,M1	骨・歯	
11	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1408	ニホンジカ	上顎白歯	左	44.5	22.8	16.3	6.1	○	一部黒色		p2,p3,M1	歯	
12	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1271	ニホンジカ	大腿骨	右	112.5	29.1	69.3	38.3				遠位部残、骨端癒合	骨	大腿骨か
13a	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1304	ニホンジカ	頭骨	-	51.5	35.4	19.3	6.7				前頭骨破片	骨	頭骨周辺
13b	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1304	ニホンジカ	下顎骨	左	56.1	61.8	15.9	16.6				M3～下顎孔付近残(M3未萌出、歯槽開孔)	骨	頭骨周辺
13c	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1304	イノシシ	上顎白歯	左	19	16.2	8.3	1				P2	歯	頭骨周辺
13d	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1304	陸獣類	頭骨	-	29.7	28.2	23.7	4.3				破片11点	骨	頭骨周辺
13e	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1304	陸獣類	下顎骨	-	31.6	20.3	4.4	3.6				破片4点	骨	頭骨周辺
14	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1272	ニホンジカ	上腕骨	右	88.5	39.8	38	33.1				遠位部残、骨端癒合	骨	大腿骨か
15	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1522	陸獣類	腰椎	-	20.4	21	17.4	0.9				小型陸獣	骨	胸椎か
16	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1183	イノシシ	下顎白歯	右	18.1	11.6	5.3	0.5				P3	歯	
17	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1282	ニホンザル	大腿骨	左	84.9	33.9	22.4	6.9				近位部残、骨端癒合	骨	尺骨か
18	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1312	ニホンジカ	上腕骨	右	97.8	39.7	36.8	24.5				遠位部残、骨端癒合	骨	橈骨か
19	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1517	ニホンジカ	脛骨	左	44.8	57.2	35.2	13				近位端、骨端癒合		不明
20	2号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1272	ニホンジカ	上顎骨	左	49.3	32.6	21.5	18.6				p3,M1,M2	歯	
43	2号トレンチ	5面18層	縄文晩期～弥生前期	876	ニホンジカ	中手・中足骨	-	17.6	14.5	21	2				遠位端、滑車部	骨	不明
44	2号トレンチ	5面18層	縄文晩期～弥生前期	800	ニホンジカ	上顎白歯	右	21.6	20.8	17.7	5.3				未萌出の後臼歯(M3)	歯	
45	2号トレンチ	5面18層	縄文晩期～弥生前期	874	ツキノワグマ	上顎白歯	右	23.6	19.9	14	4.4				M3	歯	
46	2号トレンチ	5面18層	縄文晩期～弥生前期	1067	ニホンジカ	胸椎	-	25.4	35.7	20.1	2.2				椎体	骨	胸椎か
5	3号トレンチ	4面11層	縄文晩期	991	ニホンジカ	下顎白歯	左	27.4	17	11	4.1				M1(摩滅指数2)	歯	
6	3号トレンチ	4面11層	縄文晩期	992	ニホンジカ	上顎白歯	右	65.8	25.6	18.8	24.2				P2～M3	歯	
21	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	747	ニホンジカ	耳骨	左	28.2	20.3	17.7	5.3					骨	不明
22	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	782	陸獣類	脛骨	-	24.4	24.9	24.7	4.7				近位端破片	骨	不明
23	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	740	ニホンジカ	上顎白歯	左	20.9	18.4	18.5	5.4				後臼歯(M2)	歯	
24	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1008	ニホンジカ	下顎白歯	右	23.1	31.4	11.4	7.3				M3	歯	
25	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	895	ニホンジカ	中心・第4足根骨	右	28.6	34.9	28.8	8.9				ほぼ完存	骨	腰椎か
26	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1438	イノシシ	下顎白歯	左	38	27.7	23.3	10				M3、摩滅著しい	歯	
27a	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1532	ニホンジカ	上顎骨	左	57.9	27.8	19.7	22.7				P2,P3,M1,M2	歯	
27b	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	1532	陸獣類	四肢骨	-	39	15.1	8.7	5.8				破片9点	歯	
28	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	784	ニホンジカ	下顎骨	左	54.7	44.1	15.7	21.3				M2,M3	歯	
29	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・弥生中期・後期	854	ニホンジカ	下顎白歯	右	18.9	26	10.5	3.6				後臼歯(M2)	歯	

第4章 自然科学分析

番号	出土位置	層位	時期	出土 №a	分類群	部位	左右	現存長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	被熱	状態	カット マーク	備考	品名	部位
30	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	855	ニホンジカ	下顎臼歯	右	27.5	22.3	9.1	2.4				p3	歯	
31a	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	736	ニホンジカ	上顎骨	左	51.4	30.6	31.1	16.3	○	一部 黒色		p3,M1,M2、p3に被熱	歯	
31b	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	736	ニホンジカ	上顎臼歯	左	26.1	18.8	20.5	5.6	○	一部 黒色		後臼歯 (M2)	歯	
31c	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	736	ニホンジカ	上顎臼歯	左	14.1	13.8	9.6	0.7				p1	歯	
31d	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	736	ニホンジカ	上顎臼歯	左	17.5	12.7	14.6	3.7				未萌出のP1,P2,P3	歯	
31e	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	736	ニホンジカ	上腕骨	右	55.4	16.3	20	5.7				骨幹部破片	歯	
32	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1429	ニホンジカ	上顎臼歯	右	24.7	16.9	16.9	5.7				p3,M1	歯のみ	
33	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1437	ニホンジカ	距骨	右	40.5	24.9	21.4	11.7				完存	骨	腰椎か
34	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1069	ニホンジカ	上顎骨	右	30.9	18.9	15.4	3.1				p2,p3	歯	
35	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1130	ニホンジカ	大腿骨	左	82.9	37.6	36	19.7				遠位部、遠位端未癒合	骨	桃骨か
36	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1554	ニホンジカ	基節骨	-	50.4	15.2	19.6	5.8	○	一部 黒色		完存	骨	中節骨か
37	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1545	イノシシ	下顎臼歯	右	38.2	22	21.5	15				M3、摩滅著しい	歯	
38	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1242	イノシシ	距骨	左	49.2	29.5	25.6	15				完存	骨	腰椎か
39	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1434	イノシシ	下顎骨	左	53.2	47	26.5	9				関節突起部		不明
40	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1068	ニホンジカ	上顎骨	右	48.6	27.1	25.9	10				p2,p3,M1	歯	
41	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1550	イノシシ	下顎骨	右	44.7	27.1	16.4	7.9				dm4,M1	歯	
42	3号トレンチ	5面17層	縄文後・晩期・ 弥生中期・後期	1551	ニホンジカ	上顎臼歯	左	23.7	20.1	20	5.6				未萌出の後臼歯 (M3)	歯	
47	4号トレンチ	6面19層	遺物出土なし 不明	1114	ニホンジカ	上顎臼歯	左	25.8	18.8	18.6	4.6				後臼歯 (M2)	歯	
8	4号トレンチ	5面16層	弥生中期	1472	イノシシ	下顎臼歯	右	19.3	10.5	5.5	0.8				P3	歯	
7		4面11層	縄文晩期	79	イノシシ	第4中手骨	右	56.6	19.3	18	6.6				近位部残	骨	中節骨か

第11表 トレンチごとの最小個体数

	哺乳綱				
	ニホンジカ	イノシシ	ニホンザル	ツキノワグマ	ヒト
1号トレンチ	1	1			2
2号トレンチ	2	1	1	1	
3号トレンチ	4	1			
4号トレンチ	1	1			

第12表 面・層ごとの最小個体数

	哺乳綱				
	ニホンジカ	イノシシ	ニホンザル	ツキノワグマ	ヒト
11層					1
4面11層	1	1			
5面16層		1			
5面17層	5	1	1		1
5面18層	1			1	
6面19層	1				
7号灰層		1			

第2節 石畑岩陰遺跡 植物遺存体の同定

1 同定委託について

(1) 同定委託の目的

本遺跡ではB区北調査区で検出された多くの灰層から、大量の種子を中心とする植物遺体が検出された。これらの灰層からは縄文時代の土器や石器が出土していることから、灰層が縄文時代の人間が火を使用して活動を行った痕跡であると考えている。

従って、これらの植物遺体を同定することにより、岩陰を利用していた縄文人がどのような種類の植物を利用したかを認識すると共に、縄文時代の岩陰周辺の植生環境を復元することが可能であると考えた。

(2) 分析結果

同定の成果の概略は以下の通りである。

① 分析の結果、植物遺存体はコナラ属・エノキ属・マメ科の3分類に同定された。

・コナラ属は温帯などに広く分布し、種実は食用として利用され、カシ類(アカガシ 亜属)の中には渋抜きなしに食べられる種類もある。エノキ属のうち、エノキは温帯を中心に広く分布する落葉広葉樹で、谷あい、斜面、河川沿いや平坦地に生育するが、エゾエノキは寒冷種で高地に分布する。いずれの果実も小さいが食用になる。

・エノキ属はエゾエノキの種子と考えられるが、エノキ属の種子は食用となる。

・種子の他マメ科は分類上マメ科としか分けられず、

【引用・参考文献】

石澤茉衣子・鈴木明香・松本耕作(2020)第6章第4節 動物遺体。谷口康浩編「居家以岩陰遺跡Ⅱ—第2次・第3次発掘調査報告書—國學院大學文学部考古学実習報告第56集」, 國學院大學文学部考古学実習報告: 109-122.

新美倫子(1991)愛知県伊川津遺跡出土ニホンイノシシの年齢及び死亡時期査定について。国立歴史民俗博物館研究報告, 29, 123-148.

林 良博(1977)日本産イノシシの歯牙による年令と性の判定。日本獣医学雑誌, 392, 165-174.

松井 章(2008)動物考古学。312p, 京都大学学術出版会。

食用かどうかは確認できない。

② 種子の他、植物の細片・哺乳類の骨や歯の細片や貝類細片も確認できた。

・植物の細片は炭化しているものがあり、骨の細片も火を受けているものがある。

・3面8号灰層より同定された哺乳類の歯は未萌芽であるため、若獣である。

③ 同定された試料は、いずれも石灰化または炭化している。

・石灰化および炭化したもののみが残存したとみなされる。

(3) 所見

①については、マメ科は不明であるが、コナラ属・エノキ属は食用になる可能性が高いことから、食用になる木の実などを採取してここで加工したものと考えられる。

②で見られる哺乳類の骨や歯や貝類の細片が出土しており火を受けていることも判明しているため、食用となる動物・植物をこの地で火を使って加工したことが判明した。

③について今回は石灰化・炭化した資料のみが残存していたので、かつては大量の種子や骨が岩陰周辺に存在していたと考えられる。従って今後岩陰周辺からより残存状態の良い有機資料が検出される可能性あるだろう。

2 石畑 I 岩陰遺跡出土植物遺存体(種子)

(1) はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

群馬県長野原町に所在する石畑 I 岩陰遺跡の調査では、縄文時代とされる灰層などから植物遺存体が出土した。ここでは、これら植物遺存体を同定し、当時の植物利用や周囲の植生環境について検討する。

第4章 自然科学分析

(2) 資料

試料は、B区北調査区より出土した種実である。詳細の詳細を表1に示す。なお、遺構の時期は縄文時代と考えられている。

(3) 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

(4) 結果

① 分類群

コナラ属、エノキ属、マメ科の3分類群が同定された。学名、和名および粒数を表2に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。なお、種実以外に材片、枝片、哺乳類歯の細片、骨細片、貝類細片、土塊が認められた。

[木本]

・コナラ属 *Quercus* 炭化子葉 (破片) ブナ科

黒褐色で楕円形を呈し、一端につき部が残る。表面は平滑である。当該分類群は殻斗が欠落した破片であり、属レベルの同定に留まる。

・エノキ属 *Celtis* 核 (完形・破片) ニレ科

黄褐色ないし淡褐色で球形を呈し、石灰化している。表面に隆起した皺があり、基部に白色の突起を持つ。エノキ属にはエノキとエゾエノキがあり類似するが、本試料はやや大きく皺が深いことからエゾエノキの可能性はある。エノキ属の果実は小さいがいずれも食用となる。

[木本・草本]

・マメ科 *Leguminosae* 炭化子葉 マメ科

黒色で楕円形を呈しやや薄く、側片には偏って丸い臍がつく。マメ科の子葉とみられるが、形態からダイズやアズキおよびそれらの野生種とは異なる。マメ科は木本から草本と種類も多く、マメ科の分類に留まる。

② 種実群集の特徴

1) 2号灰層- 2

マメ科子葉1が同定された。他に材片など11が認められた。

2) 4号灰層1層

種実は検出されず、骨細片1、枝片1が認められた。

3) 3面8号灰層

木本種実のエノキ属の核2と破片17、哺乳類歯の細片1が同定された。

4) 9号灰層

木本種実のコナラ属炭化子葉破片2、エノキ属破片12が同定された。他に骨細片1、土塊1が認められた。

5) 1トレンチ7号灰層

木本種実のエノキ属破片6が同定された。他に不明細片2、骨細片4、材片など2、土塊1が認められた。

6) 1トレンチ7号灰層西端サブトレ

土塊3が認められた。

7) 1トレンチ7号灰層- 3

木本種実のエノキ属破片9、哺乳類歯の細片1が同定された。他に不明植物遺体細片3が認められた。

8) 1トレンチ7号灰層- 4

木本種実のエノキ属の核2と破片11が同定された。他に骨細片4、不明植物遺体細片6が認められた。

9) 1トレンチ11層

木本種実のエノキ属の核1と破片5が同定された。

10) 1トレンチ11'層

木本種実のエノキ属核2と破片5が同定された。他に不明植物遺体細片4が認められた。

11) 1トレンチ7c灰層

木本種実のエノキ属破片2が同定された。

12) 1トレンチ7g灰層

木本種実のエノキ属破片3が同定された。

13) 1トレンチ7e. 7m. 7j灰層

木本種実のエノキ属の核1と破片3が同定された。他に不明植物遺体細片1が認められた。

14) 1トレンチ7h灰層

木本種実のエノキ属1が同定された。

15) 1トレンチ7h~7i灰層間層

木本種実のエノキ属破片1が同定された。他に材片など1が認められた。

16) 1トレンチ2灰層o

土塊1が認められた。

17) 2トレンチ3面10層

木本種実のエノキ属の核1と破片2が同定された。他に不明細片2が認められた。

18) 3トレンチ3面10層下

木本種実のエノキ属破片1が同定された。

19) 3トレンチ4面12号灰層

木本種実のエノキ属の核16と破片51が同定された。貝類細片3、材片など1が認められた。

20) 3トレンチ5面17層

木本種実のエノキ属破片36が同定された。他に骨細片1が認められた。

21) 3トレンチ5面17灰層 1270

木本種実のエノキ属破片1が同定された。

(5)考察

石畑1岩陰で出土した植物遺存体の同定を行った結果、コナラ属子葉、エノキ属核、マメ科子葉であった。その他に哺乳類の歯の細片や貝類細片も確認できた。コナラ属は温帯などに広く分布し、種実は食用として利用され、カシ類(アカガシ亜属)の中には渋抜きなしに食べられる種類もある。エノキ属のうち、エノキは温帯を中心に広く分布する落葉広葉樹で、谷あい、斜面、河川沿いや平坦地に生育するが、エゾエノキは寒冷種で高地に分布する。いずれの果実も小さいが食用になる。他にマメ科がみられるが、炭化しており詳細な観察ができなかった。マメ科には木本と草本と種類が多く、当該試料が食用になる種かは不明である。なお、同定された試料は、いずれも石灰化または炭化している。石灰化および炭化したもののみが残存したとみなされる。また、3面8号灰層より同定された哺乳類の歯は未萌芽であるため、若獣である。

【参考文献】

- 笠原安夫(1985)日本雑草図説, 養賢堂, 494p.
南木睦彦(1993)葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276-283.
渡辺誠(1975)縄文時代の植物食. 雄山閣, 187p.

第5章 まとめ

第1節 調査の成果（総括）

石畑 I 岩陰は、昭和53年に鉄道敷設に伴う擁壁設置工事に際し発掘調査が行われ、縄文時代の土器片や獣骨が大量に出土し注目を集めた。その概要は、『石畑遺跡 略報』1979長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局、および「石畑岩陰遺跡」『群馬県史 資料編 1 原始古代 1』1988 群馬県史編さん委員会に報告されている。その中では、主に表裏縄文系土器群として位置づけられる土器を中心に縄文時代草創期・早期の土器群が図示され、その他の時期については、縄文時代前期・晩期の遺物について若干触れられている。

本調査でも、縄文時代草創期・早期の遺物を念頭に調査を開始した。しかし、昭和53年調査範囲に接し、岩陰遺跡の核心となるB区北では、岩陰岩体の崩落や亀裂あるいは既存擁壁の倒壊の危険性など、安全上の制約から、同時代の層位まで到達できず、近世から縄文時代晩期の遺物を含む層位までの調査となった。

本岩陰調査の特徴としては、第一に、灰層の存在があげられる。灰層の存在は、すでに県史や略報で報告されているが、本調査においても改めて確認することができた。調査で確認された灰層には、次の2種類が認められる。①直径30cmから50cm程度の円形や楕円形の小規模な灰層と、②面的な広がりをもち厚さ10cmを超える灰層の2種類である。ただし、後者の灰層についても、詳細に観察すると直径30cm程度の単位灰層の集合体として捉えることが可能であった。2号灰層と7号灰層は、ともに厚さ20cm程度の灰層であるが、どちらも単位灰層の検出が可能であった。単位灰層は浅く皿状に掘りくぼめた、いわゆる地床炉的な形態である。この地床炉が少しずつ位置を変え、さらに重複して築かれることによって、結果的に厚い灰層が残されたものと捉えられる。このことから、厚い灰層も単独で存在する小規模な灰層も、その両者に大きな形態の差はないものと考えられた。

灰層からの遺物としては、焼骨の小破片があげられる。ただし、これら焼骨が、意図的な焼成によるものか、付近に散らばる骨片が混入した偶発的な焼成によるものかの判断はできなかった。

2号灰層は天明泥流直下であり江戸時代、7号灰層には

縄文時代晩期の土器片が多く含まれることから、多少の時間幅は想定されるものの、おそらく当該期のものであろう。灰層は、天明泥流堆積後にも認められ、寛永通宝や明治期の古銭を伴っている。泥流後の灰層も皿状に円形に掘りくぼめた地床炉状のものであり、形態としては大きな差は認められない。そのほかの灰層も時期の明確な遺物を伴わないことから時期を特定できないが、同様な状況と捉えられよう。縄文時代から近世・近代に至るまで、この岩陰が繰り返し利用されている実態か確認できたと言える。

第2の特徴として、多量の骨類の出土かあげられる。ニホンジカを主体とし、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザルなどが認められた。多くは、細かく割れた細片となっており、意図的に割られている可能性が考えられる。灰層から出土したものは被熱しているものも多いが、間層や崩落礫の隙間から出土した骨はほとんど被熱していない。狩猟によって獲得した動物を本岩陰で解体したものと考えることができよう。

また、出土した骨類には、人骨も複数個体含まれている。人骨の出土状況は他の獣骨と混在し、特定の埋葬を示すような状況ではないが、岩陰が墓域として利用されていた可能性も想定されるであろう。なお、墓域としての利用としては、B区北1号土坑も注目される。調査区の都合で半分程度の検出であるが、弥生時代後期の土坑である。頸部に等間隔止めの簾状文を施す甕とともに鉄製品1点が出土した。墓坑と副葬品とも考えられ、岩陰の利用形態の一端を示すものとして重要であろう。

本岩陰の南には、東吾妻町と長野原町とを結ぶ近世の「道陸神峠越え」の道と呼ばれ街道が存在する。B区南で検出した2本の道が該当しよう。天明泥流以前の道と泥流堆積後に復旧した道と考えられる。A区の畑跡は、この道に沿って開発がすすめられた結果であろう。傾斜地かつ大岩が点在する狭小な地においても積極的に耕地の拡大が図られた結果と捉えられる。

この道がいつから存在したかは明らかでないが、岩陰の出土遺物の時期を考慮すると、縄文時代にはルートとしてしていたと考えたい。そして本岩陰は、弥生時代以降も長期にわたり狩猟や移動の際に利用され、ある時期には墓域としても利用されたものと考えられる。

第2節 石畑 I 岩陰の 縄文時代の石器について

本遺跡からは、打製石鏃・石錐・石匙・削器・磨り石・敲き石・くぼみ石・多孔石・台石などが出土しているが、前述したように打製石斧や磨製石斧、石皿などはまったく出土していない。この点は本遺跡を読み解く上で重要であると思われるので、後ほど考察することとする。

本遺跡の初見は、群馬大学考古学研究室の尾崎喜左雄らによる昭和33年(1958)の現地調査で確認され、当時の日本考古学協会が推進していた洞穴遺跡調査会の会報などで紹介された。その後の昭和53年(1978)の国鉄吾妻線の安全対策工事に伴う発掘調査概報で知られ、群馬県史でも要約が記述されている。そこでの記述では表裏縄文系土器群を中心とする層から石器は主に出土しており、剥片石器がほとんど無く、磨石や敲き石が多いとしている。そして燃糸文系土器群の時期の石器の特徴と一致するとし、両者の時期の関係に注目している。

今回の発掘調査でも、くぼみ石、磨石等の石器・石製品が灰層等の遺構や表採の形で数多く出土している。また、打製石鏃や削器などの剥片系統の石器も数は多くないものの出土しており、この点は縄文時代全般の中で考えることといえる。

ここではそのうちの148点について報告することとし、器種分類の後に実測・写真撮影を実施した。以下にその概要について記述する。

今回の発掘調査では、打製石鏃は36点(製品30点、未製品6点)、石錐2点、石匙は2点(縦型1点、横型1点)、削器2点、磨り石127点、たたき石3点、くぼみ石4点、台石5点石核4点、加工痕ある剥片37点、使用痕ある剥片2点、剥片・碎片が245点、礫などが出土している。

まず、打製石鏃の細分については、従来のⅠ類からⅥ類までの形を踏襲しており、Ⅰ類の凹基無茎15点、Ⅱ類の平基無茎3点とⅢ類の円基無茎1点、Ⅳ類の凹基有茎5点とⅤ類の平基有茎5点、Ⅵ類の凸基有茎1点である。この構成が本遺跡での縄文時代の特定の時期ではなく、全般での傾向を示していると考えられるが、それにしても無茎のみで有茎がⅠ点も認められないのは特異である。出土土器が縄文時代前期を中心としているが、石器のみでみると前記したようにⅥ類が最も多く、その様

相からやはり後期が主体と考えられる。

近隣の遺跡と比較すると、本遺跡のある川原畑地区の上位段丘に位置する三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡や上ノ平遺跡などでは、やはり縄文時代前期が主体で、A～F類としているが、Ⅰ～Ⅵ類に置き換えるとB類の凹基無茎がⅠ類でD類の鋤形とE類の長脚を含み、A類の平基無茎がⅡ類、C類の円基無茎がⅢ類、不明がF類で、Ⅳ～Ⅵ類に相当する有茎鏃の出土が無いために、凹基無茎の占める割合が高い事となる。実際の数としては、凹基無茎が圧倒的に多いが、他の遺跡と比較すると、三平Ⅰ遺跡ではⅡ類4点、Ⅰ類12点と類2点、未製品4点、三平Ⅱ遺跡では、A類12点とC類3点、B類119点とD類4点とE類10点、それにF類9点となる。従来のⅠ～Ⅵ類を使用した。

上ノ平遺跡では、Ⅰ類が49点、Ⅱ類が7点、Ⅲ類が4点、Ⅳ類が1点、Ⅵ類が1点で、ほぼ無茎が占める。東宮遺跡では報告資料323点のうち、Ⅰ類が220点、Ⅱ類が80点に対してⅢ類は無く、Ⅳ類とⅥ類が各3点、Ⅴ類と石槍が各2点と圧倒的に無茎類が多い。やや上流域に位置する立馬Ⅰ遺跡では、Ⅰ類が33点、Ⅱ類とⅣ類が各1点で、ほぼ無茎が占める。立馬Ⅱ遺跡ではⅠ類が点、Ⅱ類が1点、Ⅲ類が1点が出土している。

以上あげた遺跡では報告された資料だけであるが、それぞれの遺跡が縄文時代の前期から中期後半にかけての所産であることから、やはり無茎が多く、有茎が少ない傾向は見て取れる。

打製石鏃の未製品がいくつか出土しているが、製作址遺構そのものが検出された訳ではなく、直接的に結びつける根拠はない。また、三平Ⅰ遺跡の報告の中で篠原正洋氏が指摘しているように、「製作跡」や「製作工房」などの名称を用いると、それは專業集団による大量生産をも想起させる事となる。本遺跡においては、未製品や剥片類の出土量から、石鏃が遺跡内で製作されていたことはおそらく間違いないが、石鏃の製作活動は、集落においてある程度日常的、一般的に行われていたとの説もあり、結論に導くのは困難である。また、そこには日々のメンテナンスによる再生工程も当然含まれていたであろう。いずれにしても、この地域における未製品の多さが、一つの特徴である事は間違いない。

上ノ平Ⅰ遺跡では黒曜石を利用した打製石鏃の製作工

程が確認されており、まとめの項目で記述したが、他の遺跡でも黒曜石のみならず、在地系石材の流紋岩でもその輪郭が確認されているが、本遺跡では別の在地系石材である赤碧玉の事例が確認された。この石材の利用は黒曜石や流紋岩ほどは多用されておらず、その出土量も多くはないことから、比較的利用頻度が低いものの打製石鏃への使用例も少なくはないが、石核や調整剥片などの資料から製作過程が推定されることが確認されている。

ハツ場地域での縄文時代の遺跡では、流紋岩や黒曜石の剥片・碎片が多い。赤碧玉も数は少ないものの、打製石鏃の完成品から未成品、素材剥片、石核まで揃っており、製作工程の復元が可能である。こうした小型の剥片石器に利用される石材は、質の良いものが選択されており、主に黒曜石や頁岩、流紋岩、チャートなどである。

近接する三平Ⅰ遺跡でも黒曜石に関して同様の成果が得られている。打製石鏃や石匙、削器などの小型の石器に、黒曜石の多用が顕著である。吾妻地区での黒曜石の原産地推定分析は、長野原一本松遺跡や坪井Ⅱ遺跡、それに暮坪遺跡といずれも長野原町だけで、まだまだ数が少なく限られているものの、大部分が信州系統である事が分かっている。つまり、片道約80～100kmもの遠距離であるにもかかわらず、かなりの量が持ち込まれており、重要な位置を占めていた様相が見えてくる。それぞれの遺跡での点数の把握はなされているが、重量計測はなされていないために不明な部分が多いが、横壁中村遺跡などの石器総数の集計の実例から、多量に持ち込まれていたことは間違いない。今後の資料の集積を待ちたい。

また、この地域の特徴の一つとして、流紋岩(珪質変質岩)を使用する事例が多く認められる。三平遺跡では、打製石鏃とその未製品の10%程度を占めており、長野原一本松遺跡のこれまでの報告分でも、110点中22点と約20%を占めている。横壁中村遺跡など他の遺跡でも同様に高い割合を示している。特に、打製石鏃や石匙、削器、石錐などの小型の精製な石器に多く用いられており、まるで貴重な黒曜石の補完を図っているか様相である。この石材については、吾妻川流域の北西側にある凝灰岩質の岩石が変成作用で変質したものであり、色調も赤から灰白まで様々である。一見、チャートに類似するような剥離を示す事から、出土地域も長野原町から中之条町にかけての限られた地域に多く、確認されている範囲で最

も距離が遠い資料は、利根川と合流する渋川地区でも僅かであるが検出されている。この石については、長野原町の北東側の中之条町の野反湖周辺に広がる「高間山層」を中心としており、須川(白砂川)等を流下して、吾妻川に流れ込んでいるものと考えられる。あるいは、直接に露頭から採取していた可能性も想定されよう。おそらくは白砂と言う名称自体が、この石の微細片等が川の景観を決定付けている可能性が高い。

次に、石器組成の面でも周辺の遺跡との比較を行うこととする。本遺跡より上位の段丘上に位置する三平Ⅰ遺跡では、剥片を含む298点が出土しており、器種では打製石鏃21点(製品17点、未製品4点)、石匙2点(縦型1点、横型1点)、石槍2点、削器4点、石飾1点、石製品1点、打製石斧1点、筐状石器1点、磨製石斧1点、くぼみ石3点、磨石2点、スタンプ形石器1点、石皿1点、砥石3点、剥片254点が出土している。剥片を除いた器種では打製石鏃が47.7%の割合を占める。隣接する三平Ⅱ遺跡では剥片を含む5861点が出土しており、器種では打製石鏃245点(製品157点、未製品88点)、石匙(縦型5点、横型15点、未製品4点)、石槍1点、石核6点、削器48点(製品45点、未製品3点)、石錐21点(製品11点、未製品10点)、石飾5点、異形石器1点、打製石斧11点、筐状石器17点、磨製石斧12点、くぼみ石25点、磨石4点、叩き石3点、スタンプ形石器1点、石皿5点、砥石3点、石臼8点、剥片5421点が出土している。器種では打製石鏃が56%の割合を占める。

縄文時代早期を中心とする立馬Ⅰ遺跡では、剥片を含む2982点が出土しており、器種では打製石鏃39点、石匙8点(縦型2点、横型6点)、石槍1点、削器18点、石錐3点、異形石器1点、打製石斧15点、磨製石斧2点、くぼみ石5点、磨石103点、スタンプ形石器2点、石皿3点、砥石4点、剥片2500点以上と多数出土している。器種では打製石鏃が19.1%の割合を占める。縄文時代中期初頭から前半を中心とする立馬Ⅱ遺跡では、剥片を含む4338点が出土しており、器種では打製石鏃151点、石匙6点(縦型2点、横型4点)、削器36点、石錐6点、石製品2点、石棒2点、打製石斧35点、磨製石斧16点、くぼみ石42点、磨石24点、スタンプ形石器3点、石皿6点、石核2点、剥片多数が出土している。器種では打製石鏃が45.9%の割合を占める。こうしてみると、各遺跡共に打製石鏃の

割合がほぼ半分を占めており、狩猟への依存度が高いようにみえるが、立馬Ⅰ遺跡のみは割合が低い。だがこれはこの遺跡での磨石の数が非常に多いためであり、それが無ければ66.8%とやはり高い割合になる。

また、同様の遺跡環境である居家似岩陰遺跡でも、公表されている資料はまだ少ないものの、打製石鏃や打製石斧が出土しており、その詳細な成果の公表が待たれる。その際にまた比較検討を加えたい。

こうした事例との比較の中から、この地域での縄文時代の石器組成と石材組成を検討する事で、様々な様相が垣間見えるものと考えられる。特に、縄文時代の古い段階から各時期の様相を調べる事で、この地域での生業の様子を把握する事が可能かも知れない。

次に、本遺跡での空間の有り様について、見てみることにする。

地区ごとの出土で見ると、まずA区北では打製石鏃2点と磨り石1点が出土している。打製石鏃は共にⅠ類である。A区南は打製石鏃3点で、うち2点はⅠ類で、1点はである。B区北では、打製石鏃11点、打製石鏃未成品1点、石錐1点、石核2点が出土している。本遺跡の今回の調査の中で打製石鏃が最も出土しており、場の機能を推定する上で重要な点である。さらに、管玉や丸玉の出土は、これらの石製品の装飾品としての役割を考えれば、副葬品の意味合いが強いかも知れない。削器2点、小型石棒1点も出土している。B区南は遺物数が最も多いうえに、出土層位でみても、3層からは石錐1点、磨り石とくぼみ石の複合2点、磨り石4点、4層からは打製石鏃2点、磨り石、5層からは打製石鏃2点、削器1点、磨り石点、6層は磨り石1点、7層からは打製石鏃2点、磨り石28点と3層から7層にかけてほぼ満遍なく磨り石が伴うことから、あまり時期差を感じない点も垣間見える。

前記したように、打製石鏃の形態の偏りから、縄文時代中期から後期にかけてのこの時期の資料が少ないと考えられるとしたが、実際にはこの岩陰の下位の岩盤まで調査が及ばなかった点も加味しなければならない。縄文時代の早期や草創期まで調査の範囲が及んでおらず、本遺跡の重要な部分が把握出来ていない可能性が高い訳である。また、遺跡全体からみて、B区南の石器の割合が高い。(約79%)また、B区南での磨石の占める割合が高

い。(約26%)

また、打製石斧や磨製石斧がまったく認められないが、このことは本遺跡での利用形態を示していると言える。縄文時代の早期から後期、特に中期を中心にあるいはそれ以後の時期のいくつもの灰層の存在が認められることから、短期間の居住空間として利用されていた可能性も考えられる。あるいは打製石鏃の多さから狩猟時の短期型キャンプ、また磨石類や火処としての焼土の多さから、楡木Ⅱ植遺跡のような植物採取時の加工場としての機能が考えられる。

ただ、打製石斧の未成品とも考えられる資料が1点出土していることから、存在の有無をすぐに直結して考えるのには無理があり、その可能性を示唆するにとどめておく。

特定の石材として地域性の限定された流紋岩、以前は珪質変質岩の名称であったが、今回の石材鑑定の結果変更がなされた。詳細は『石川原遺跡(3)縄文時代編』で記述したい。

居家似岩陰遺跡の報告でも、「変質岩」と報告されており、他の遺跡ではⅥ類が多い、特に後期・晩期に多く認められる傾向が強いことから、本遺跡との時期差を想定することが出来る。

この点については、発掘調査された遺跡での報告の文章でも指摘がなされている。

さらに、灰層の存在から食材となった可能性の高い動物について、考察してみよう。

狩猟の対象となる動物について、本遺跡での分析ではA区北の1号トレンチの11層でヒトと二ホンジカ、3号トレンチの11層で二ホンジカ、4号トレンチの16層でイノシシ、1号トレンチの17層でヒト、2号トレンチの17層で二ホンジカとイノシシと二ホンザル、3号トレンチの17層で二ホンジカとイノシシ、2号トレンチの18層で二ホンジカとツキノハグマ、4号トレンチの19層で二ホンジカがそれぞれ検出されている。

地層の年代が縄文時代から弥生時代にかけてと幅広いことから、時期的な推移が細かく判断できる訳ではないが、一定の傾向が読み取れる。どの時期も二ホンジカが顕著で、イノシシがそれに続き、二ホンザルやツキノワグマも見られる。これらのすべてが食用だとは限らないものの、その可能性は決して低い訳でないだろう。さら

第5章 まとめ

に、ヒトの検出は墓域の可能性も考えられる。居家以岩陰遺跡でも、縄文時代早期の埋設された多くの人骨と、縄文時代早期後半から前期前半の時期のニホンジカとイノシシの獣骨が出土しており、同様の傾向といえる。

次に、周辺の岩陰遺跡についてみてみよう。遺跡の所在する吾妻郡長野原町で平成(1990)年に実査された町の分布調査で、20箇所もの岩陰遺跡が確認されている。

遺跡の名称は、滑沢、石畑Ⅱ、二社平、三ッ堂、西宮、久森沢Ⅰ、久森沢Ⅱ、滝沢観音、蜂ッ沢、御嶽山、仙下、とち洞、駒倉、ガン沢、屋家以、油郎、貝瀬、遠西、長井、穴谷観音であり、読み方や遺跡の内容については一覧にまとめた。(第13表)

これらの大部分は河川による浸食や岩体の一部崩落による抉れとみられ、多野郡上野村の不二洞のように動物遺体が多量に出土した石灰岩地帯の鍾乳洞などと異なり、利用した洞穴遺跡は発見されていない。

利用される時期も、縄文時代の古い時期から弥生時代の後期までと時間幅が大きく、特定の時期の産物と特定できる遺跡は少ない。時間的な古さでも、桐生市の不動穴遺跡や屋家以岩陰遺跡、さらには本遺跡のように縄文時代草創期の段階まで遡る事例がある一方で、新しい時期としては弥生時代の墓域として利用される事例があり、吾妻郡東吾妻町の著名な鷹の巣岩陰遺跡や幕岩岩陰遺跡、甘楽郡下仁田町の只川橋下岩陰墓地の事例があるものの、事例は少なく、地形的にもやや異質である。

第13表 長野原町岩陰一覧

番号	番号	遺跡名	ふりがな	地番	地点	標高	時期	遺物	備考	文献
1	8	滑沢岩陰	なめざわ	1108		530				1
2	9	石畑Ⅰ岩陰群	いしはたけいち	1054-3、1059-4		510	縄文時代草創期～晩期	土器、石器、獣骨、人骨		1、5
3	10	石畑Ⅱ岩陰	いしはたけに			515				1
4	11	二社平岩陰	にしやだいら	甲870		560				1
5	12	三ッ堂岩陰	みっどう	252～255		530				1
6	13	西宮岩陰	にしみや	乙160		550	近世			1、4
7	53	久森沢Ⅰ岩陰群	くもりざわ		3	610				1
8	54	久森沢Ⅱ岩陰	くもりざわ			585				1
9	55	滝沢観音岩陰	たきざわかんのん	148乙		635				1
10	56	蜂ッ沢岩陰	はちがざわ			725		打製石斧		1
11	57	御嶽山岩陰	おんたけさん			620				1
12	76	仙下岩陰	せんした	814		845				1
13	77	とも洞岩陰群	ともぼら	695	3	750				1
14	78	駒倉岩陰	こまくら			835				1
15	79	ガン沢岩陰	がんだわ			705				1
16	80	屋家似岩陰群	いやい	854～861、863～876	4	640	縄文時代	黒曜石片、石斧	6か所	1、2、3
17	81	油郎岩陰群	あぶろう	458	4	670				1
18	82	貝瀬岩陰群	かいぜ	483	2	610				1
19	83	遠西岩陰群	とにおにし	1607-1	2	635				1
20	107	長井岩陰	ながい			870				1
21	190	穴谷観音岩陰	あなやかんのん	577、1629-4		830				1

さらに、概要が報告されているにも関わらずに、群馬県の『マッピングぐんま』に収録されていない岩陰遺跡もいくつかあり、例えば吾妻町中之条町の細尾岩陰遺跡や鷹ノ巣岩陰遺跡のように、著名であるにもかかわらず含まれない。群馬県内の岩陰遺跡は、「マッピングぐんま」によれば、24件の登録があるが、そのうちの21件が長野原町に所在する。だが、その大部分は遺物がほとんど確認されていない。

ただ、屋家以岩陰遺跡のように縄文時代草創期からの遺物のみならず、群馬の事例だけでそれも長野原町だけに集中する傾向はやや強いと指摘出来る。

あるいは、八ッ場ダム建設に絡んで昭和62年から平成元年にかけて町が実施した詳細分布調査が絡んでいるといえる。いずれにしても、県内の他地域、特に石灰岩の多野市域や利根川上流部の北毛地域などでの、今後の発見を期待したい。

また、洞穴遺跡は実際には、不動穴遺跡や縄文土器出土したみどり市の八王子洞穴の2か所が既に報告されているが、これも同様に『マッピングぐんま』に掲載されていない。早急な修正が必要である。

参考文献

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013 横壁中村遺跡(13)、2002 長野原一本松遺跡(1)、2006 立馬Ⅰ遺跡、2006 立馬Ⅱ遺跡、2007 横壁中村遺跡(5)、2007 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、2008 上ノ平Ⅰ遺跡(1) 2017(2) 2018(3)
 長野原町教育委員会 2000 坪井Ⅱ遺跡、2001 暮坪遺跡
 大工原豊 『縄文石器提要』 考古学ハンドブック20 ニューサイエンス社 2020
 中東耕志 群馬県の洞穴・岩陰遺跡について 一立地条件の分析を中心として 『人間・遺跡・遺物 3』1997
 群馬県 『マッピングぐんま』

写真図版



1 調査前風景（北東から）



2 調査前風景（南西から）



1 1区1面 基本土層断面A (南西から)



3 1区1面 基本土層断面B (西から)



4 1区1面 基本土層断面B (南西から)



2 1区1面 基本土層断面A (南西から)



5 1区1面 基本土層断面C (南西から)



6 1区1面東端トレンチ確認 (南から)

二社平遺跡



1 1区1面 土層断面D (北西から)



2 1区1面 土層断面D (東から)



3 1区1面 土層断面D (東から)



4 1区1面 土層断面D (東から)



5 1区1面 土層断面E (南西から)



6 1区1面 土層断面E (北から)



7 1区1面 土層断面E (南東から)



8 1区1面 土層断面F (南西から)



1 1区1面 土層断面F (北西から)



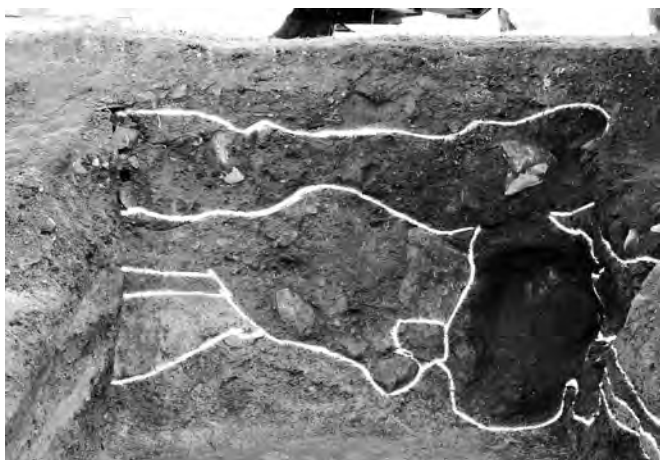
2 1区1面 土層断面G (北西から)



3 1区1面 土層断面H (南から)



4 1区1面 土層断面H (南西から)



5 1区1面 土層断面I (西から)



6 1区1面 土層断面I (西から)



7 1区1面 西側自然地形確認 (北東から)

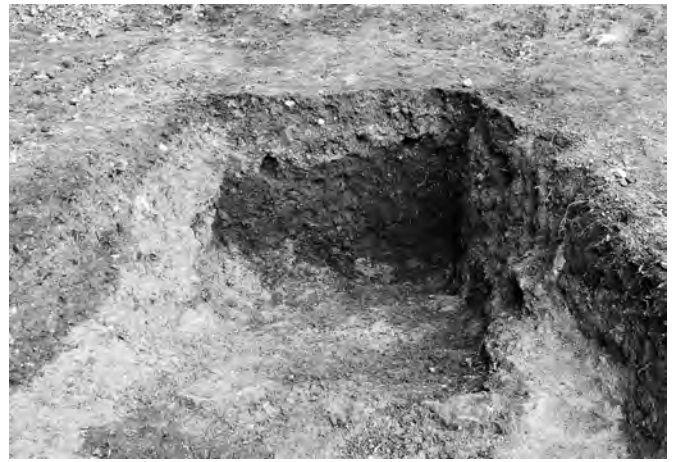


8 1区1面 西側崩落土、畑 (南から)

二社平遺跡



1 1区1面 7号トレンチ土層断面 (南西から)



2 1区1面 7号トレンチ土層断面 (南から)



3 1区1面 西部全体図 (南から)



4 1区1面 西部全体図 (南から)



5 1区1面 畑 (南から)



1 1区1面 1号土坑 (南から)



2 1区1面 1号土坑 (南から)



3 1区1面 As-A 下旧地形 (東から)



4 1区1面 As-A 下旧地形 (西から)



5 1区1面 As-A 下旧地形 (西から)



6 1区1面 As-A 下旧地形 (西から)



7 1区1面 As-A 下旧地形 (東から)



8 A区1面 As-A 下旧地形 (西から)

石畑遺跡



1 A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)



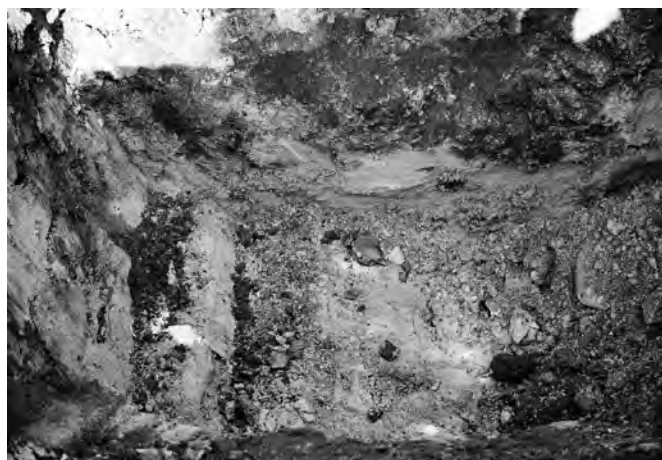
2 A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)



3 A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)



4 A区1面 褐色土層上面谷地形一部 (西から)



5 A区1面 下位層黄褐色砂礫層 (南から)



6 A区1面 下位層黄褐色砂礫層 (南から)



7 A区1面 東部谷跡 (南から)



8 A区1面 東部谷跡 (東から)



1 A区1面 西端表土盛土下 (西から)



2 A区1面 遺物出土状況



3 A区1面 遺物出土状況



4 A区1面 暗褐色土上面遺物出土状況 (東から)



5 A区1面 暗褐色土上面遺物出土状況 (東から)



6 A区2面 1号トレンチ土層断面 (東から)



7 A区2面 1号トレンチ土層断面 (西から)



8 A区2面 柱状基本土層 (西から)

石畑遺跡



1 A区2面 柱状基本土層 (南から)



2 A区2面 柱状基本土層 (南から)



3 A区2面 西端黒褐色土土層断面 (東から)



4 A区2面 遺物出土状況



5 A区2面 遺物出土状況



6 A区2面 遺物出土状況



7 A区2面 遺物出土状況

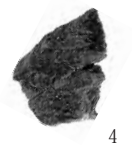


8 A区2面 遺物出土状況

石畑遺跡



二社平遺跡





1. 調査区全景(西より)



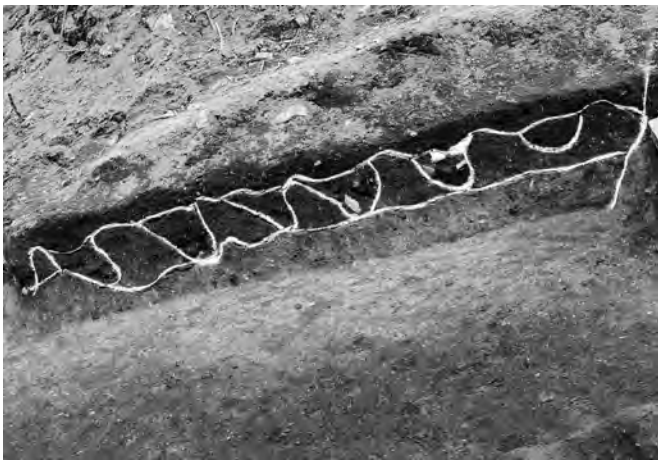
2. 調査区全景(東より)



1. 1号畑全景および土層断面(西より)



2. 中央部トレンチ東部(西より)



3. 1号畑中央部土層断面(東より)



4. 1号畑と中央部土層断面(東より)



5. 1号畑中央部土層断面(東より)



6. 1号畑中央部土層断面(東より)



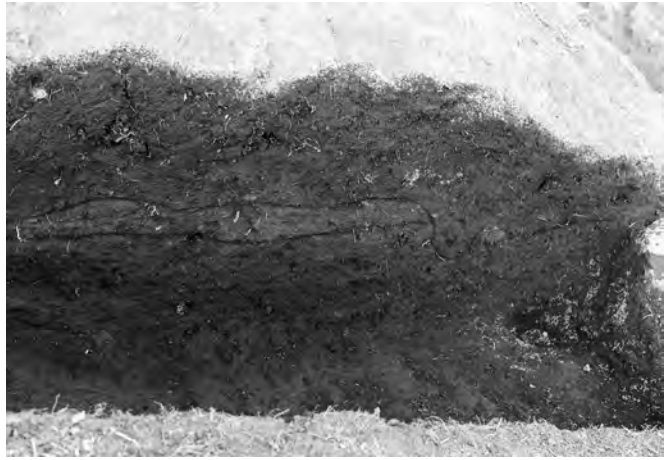
7. A区東端部土層断面(西より)



8. A区東部中央土層断面(南より)



1. A区1・2号トレンチ全景(南西より)



2. A区土層断面(西より)



3. A区土層断面(西より)



4. A区土層断面(西より)



5. A区北部土層断面(西より)



6. A区北部土層断面(西より)



7. A区北部土層断面(南より)



8. A区北部土層断面(南より)



1. A区北部土層断面(南より)



2. A区北部土層断面(南より)



3. A区中央部土層断面(東より)



4. A区中央東部下層確認(西より)



5. A区中央東部下層確認(西より)



6. A区中央東部下層確認(西より)



1. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



2. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



3. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



4. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



5. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



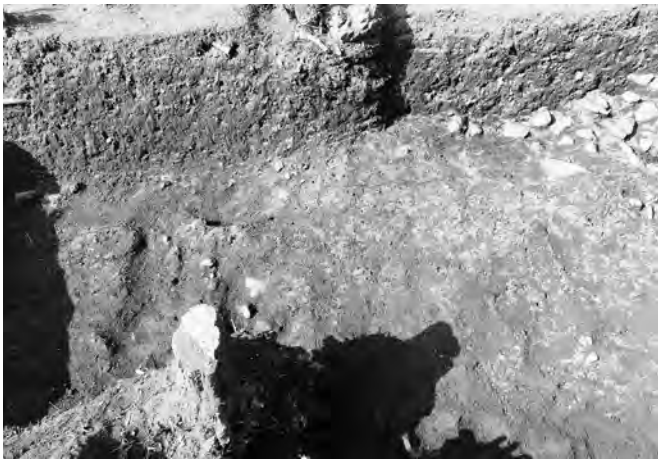
6. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



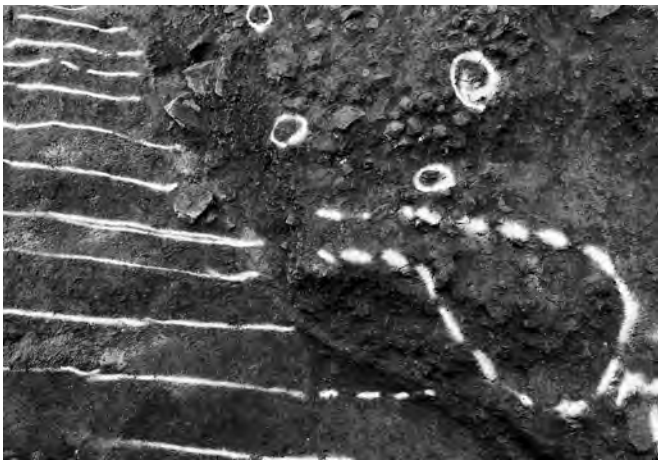
7. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



8. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



1. A区北部As-A軽石検出状況(南東より)



2. A区As-A下土砂崩れ下面(南より)



3. A区1号畑東部全景(南より)



4. A区畑遺物出土状況(南より)



5. A区1号畑南部(東より)



6. A区トレンチ軽石確認状況(北より)



7. A区東部軽石状況(西より)



1. A区1号畑北部全景(南西より)



2. A区1号畑南西部全景(南より)



1. A区1号畑南西部全景(東より)



2. A区1号畑東半中央東部全景(西より)



1. A区1号畑東半中央東部全景(南より)



2. A区1号畑東半中央東部全景(東より)



3. A区1号畑東半中央西部土層断面(東より)



4. A区1号畑北部全景(南東より)



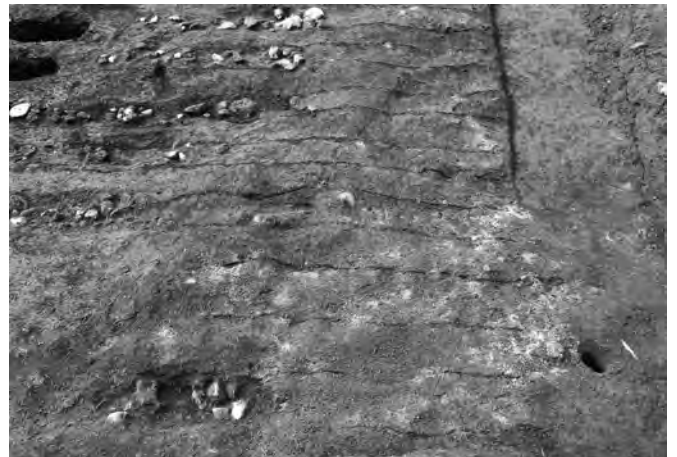
5. A区1号畑西部土層断面(東より)



6. A区1号畑西部土層断面(東より)



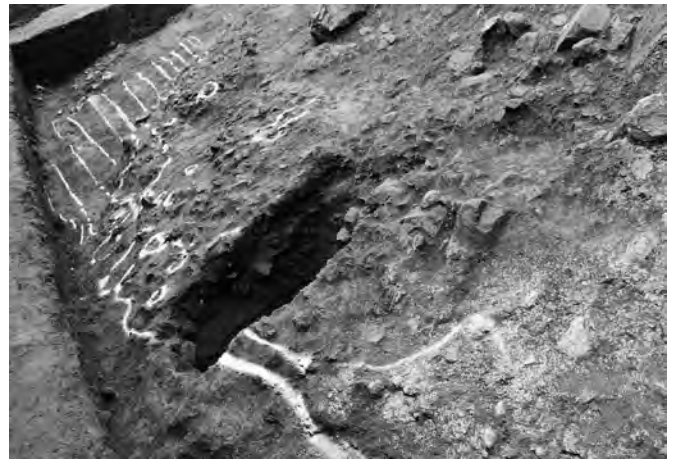
7. A区1号畑西部土層断面(東より)



8. A区1号畑As-A軽石状況(南より)



1. A区As-A下土砂崩れ全景(西より)



2. A区As-A下土砂崩れ全景(西より)



3. A区東部瀬なり軽石状況(東より)



4. A区東部瀬なり軽石状況(東より)



5. A区東部瀬なり軽石状況(西より)



6. A区東部瀬なり軽石状況(西より)



7. A区東部瀬なり軽石状況(西より)



8. A区東部瀬なり軽石状況(西より)



1. A区3号畑中央東部出土状況(西より)



2. A区3号畑中央東部(中央攪乱、東より)



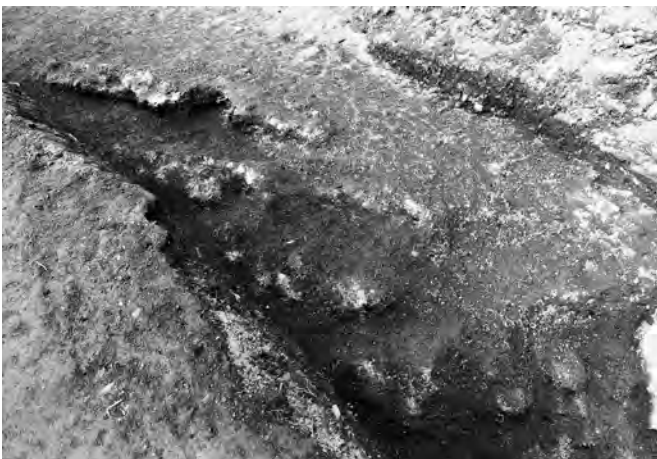
4. A区3号畑中央東部出土状況(西より)



3. A区3号畑中央東部出土状況(西より)



5. A区3号畑中央東部出土状況(西より)



6. A区3号畑中央東部出土状況(西より)



7. A区3号畑中央東部出土状況(西より)



1. A区北部土層断面(西より)



2. A区北部石垣全景(南東より)



3. A区北部石垣全景(南東より)



4. A区北部石垣全景(南東より)



5. A区北部石垣全景(南東より)



6. A区北部石垣全景(南東より)



7. A区北部石垣全景(南より)



1. A区中央部2面石垣(南より)



2. A区中央部2面土石崩れ(南より)



3. A区中央部土層断面(西より)



4. A区中央部北西土層断面(南より)



5. A区中央部2面石垣(南より)



6. A区中央部2面土石崩れ石垣(南より)



7. A区中央西部2面遺物出土状況(No.3、西より)



8. A区中央西部2面遺物出土状況(No.2、西より)



1. B区1号道土層断面(東より)



2. B区1号道土層断面(東より)



3. B区1号道土層断面(東より)



4. B区2号道下段土層断面(北より)



5. B区下段東端道部分検出状況(東より)



6. B区下段遺物出土状況(南より)



7. B区3号石垣全景(東より)



8. B区3号石垣全景(南より)



1. B区4号石垣全景(西より)



2. B区5号石垣全景(西より)



3. B区5号石垣全景(東より)



4. B区5号石垣西端部(南より)



5. B区5号石垣西部(東より)



6. B区5号石垣中西部(南より)



7. B区5号石垣中部(南より)



8. B区5号石垣中東部(東より)



1. B区5号石垣東部(東より)



2. B区5号石垣東端部(東より)



3. B区上部緩斜面部1号ヤックラ全景(北東より)



4. B区1号ヤックラ全景(東より)



5. B区1号ヤックラ遺物出土状態(東より)



6. B区1号ヤックラ土層断面(西より)



7. B区1号ヤックラ土層断面西部(南より)



8. B区1号ヤックラ土層断面中部(南より)



1. B区1号ヤックラ土層断面東部(南より)



2. B区1号ヤックラ縁部分礫検出状況(南より)



3. B区1号ヤックラ遺物出土状況(No.4、西より)



4. B区2号ヤックラ土層断面(南より)



5. B区2号ヤックラ上部緩斜面全景(東より)



6. B区2号ヤックラ上部緩斜面全景(南より)



7. B区1号トレンチ土層断面(西より)



8. B区1号トレンチ全景(北より)



1. B区2号トレンチ土層断面(西より)



2. B区2号トレンチ全景(北より)



3. B区3号トレンチ土層断面(西より)



4. B区3号トレンチ全景(北より)



5. B区5号トレンチ土層断面(西より)



6. B区5号トレンチ中部土層断面(西より)



7. B区5号トレンチ南部土層断面(西より)



8. B区5号トレンチ全景(南より)



1. B区6号トレンチ土層断面(南より)



2. B区6号トレンチ全景(西より)



3. B区7号トレンチ全景(南より)



4. B区7号トレンチ土層断面(西より)



5. B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)



6. B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)



5. B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)



6. B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)



1. B区7号トレンチ遺物出土状況(南より)



2. B区8号トレンチ全景(南より)



3. B区8号トレンチ土層断面(南より)



4. B区8号トレンチ土層断面(西より)



5. C区上部緩斜面全景(東より)



6. C区上部緩斜面全景(南より)



1 調査区遠景(西より)



2 調査区遠景(南東より)



1 A区北東部(南西より)



2 A区北1面全景(西より)



3 A区北1面畑全景(南より)



4 A区北1面断ち割り状況(西より)



5 A区北土層断面(東より)



6 A区北南部天明畑耕作土中出土遺物(南より)



7 A区北2面遺物出土状況(東より)



8 A区北2面遺物出土状況(東より)



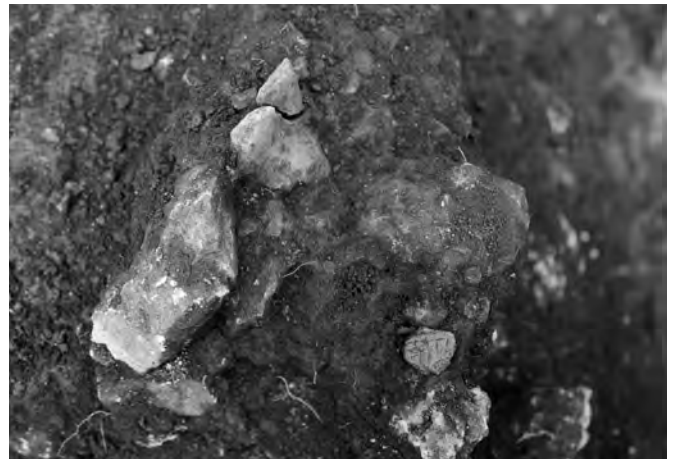
1 調査区全景(南より)



2 調査区全景(西より)



1 A区北3面遺物出土状況(南より)



2 A区北3面遺物出土状況(南より)



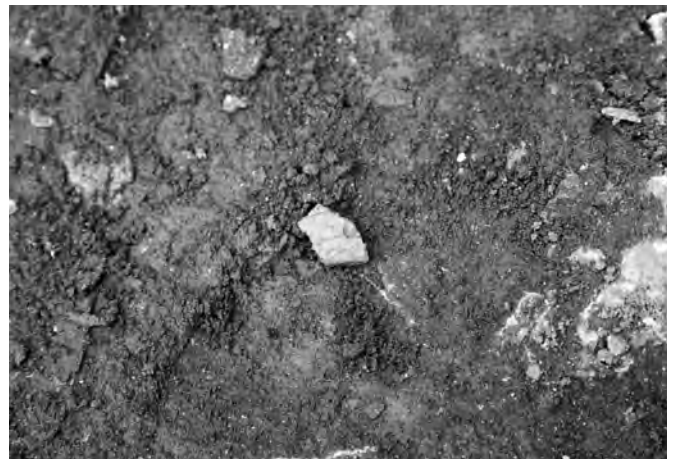
3 A区北3面No.53出土状況(南より)



4 A区北3面遺物出土状況(南より)



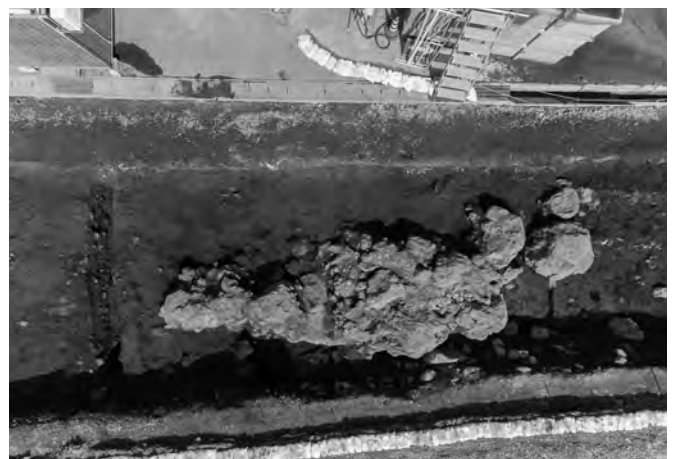
5 A区北3面遺物出土状況(南より)



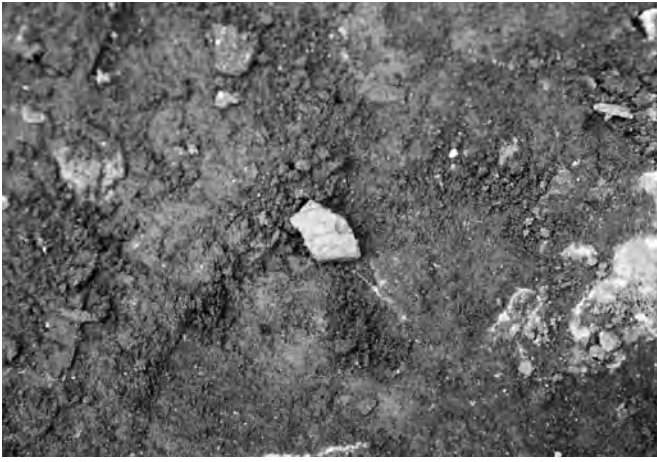
6 A区北3面No. 3出土状況(南より)



7 A区北東部(西より)



8 A区北中部航空写真



1 A区北3面No. 3出土状況(南より)



2 A区北3面遺物出土状況(南より)



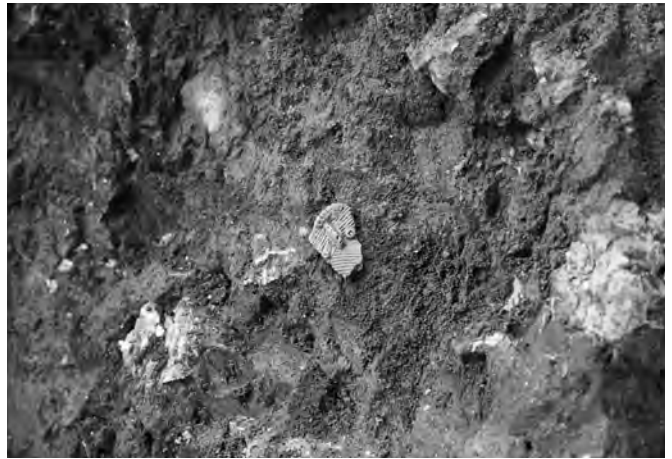
3 A区北3面No.89出土状況(南より)



4 A区北3面遺物出土状況(南より)



5 A区北3面No.42出土状況(南より)



6 A区北3面No.54出土状況(南より)



7 A区北3面遺物出土状況(南より)



8 A区北3面No.22出土状況(南より)



1 A区南調査区全景(東南より)



2 A区南調査区航空写真



1 A区南1面西側(東より)



2 A区南石鏝出土状況(南西より)



3 A区1面西部全景(西より)



4 A区1面東側調査風景(東より)



5 A区南拡張部1面全景(東より)



6 A区拡張区As-A下面(西より)



7 A区南の南東部トレンチ調査(北より)



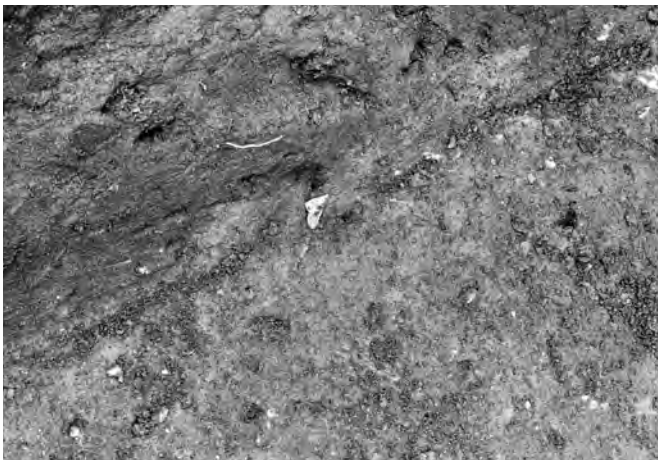
8 A区南の南側法面部分トレンチ全景(南より)



1 A区南1面西側全景(西側)



2 A区南5面拡張部(北より)



3 A区南5面遺物出土状況(南より)



4 A区南5面西部焼土検出状況(北より)



5 A区南5面西部焼土検出状況(北より)



6 A区南5面西部焼土面(南西より)



7 A区南拡張部3面全景(西より)



8 A区南拡張部3面全景(東より)



1 A区南3面礫集中遺物出土状況(北より)



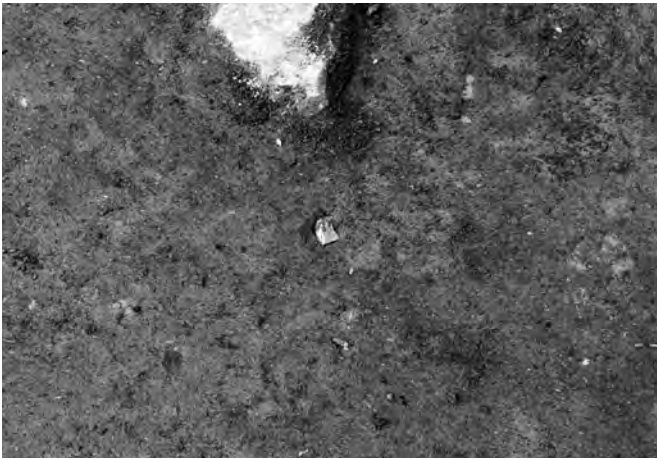
2 A区南3面No.19破片出土状況(南より)



3 A区南3面No.148出土状況(南より)



4 A区南3面遺物出土状況(南より)



5 A区南3面遺物出土状況(南より)



6 A区南3面No. 7出土状況(北より)



7 A区南3面遺物出土状況(西より)



8 A区南3面遺物出土状況(西より)



1 A区南4面旧地形調査風景(東より)



2 A区南中央部自然流路(東より)



3 A区南中央部全景(東より)



4 A区南中央部自然流路周辺(西より)



5 A区南拡張部全景(北より)



6 A区南中央部遺物出土状況(南より)



7 A区南の東側トレンチ(北より)



8 A区南東側旧石器確認調査(東より)



1 B区北岩張り出し状況(西より)



2 B区北調査前状況(西より)



1 B区北1面泥流上面(西より)



2 B区北1面泥流上面トレンチ(西より)



3 B区北B-B'土層断面(西より)



4 B区北E-E'土層断面(南東より)



5 B区北F-F'土層断面(南西割)



6 B区北鉄製品(No.99)出土状況(南より)



7 B区北2面灰層含む全景(西より)



8 B区北2面1号トレンチ灰層(西より)



1 B区北2号灰層検出状況(南より)



2 B区北2号灰層検出状況(南より)



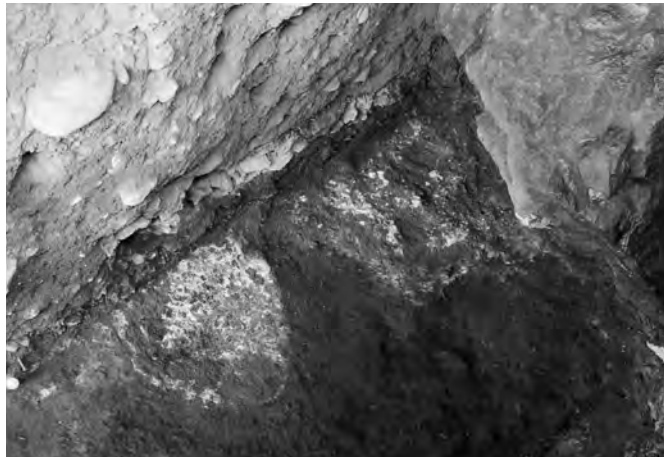
3 B区北2号灰層遺物出土状況(南より)



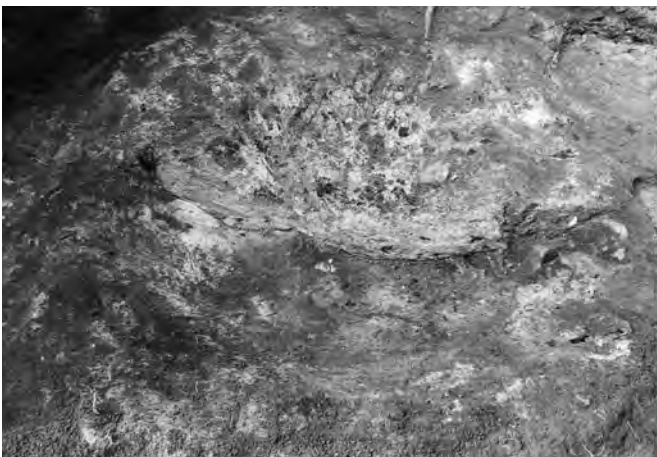
4 B区北2A号灰層土層断面(西より)



5 B区北2号灰層検出状況(南より)



6 B区北2号灰層東部検出状況(南より)



7 B区北2面灰層土層断面(南より)



8 B区北2号灰層遺物出土状況(南西より)



1 B区北3号灰層全景(南より)



2 B区北3号2面灰層全景(南より)



3 B区北5号灰層検出状況(南より)



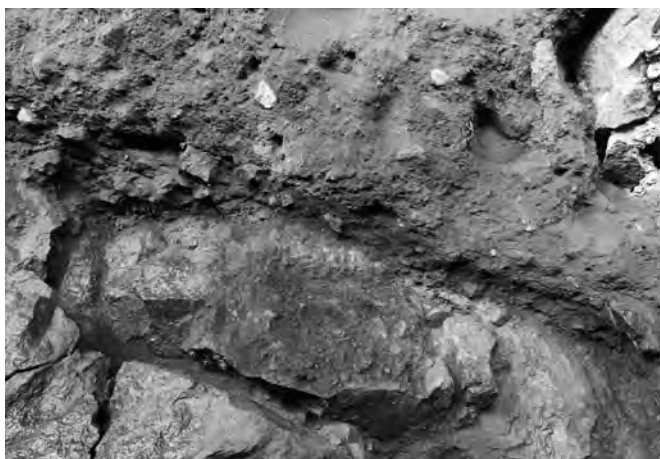
4 B区北2面5号灰層掘方全景(南より)



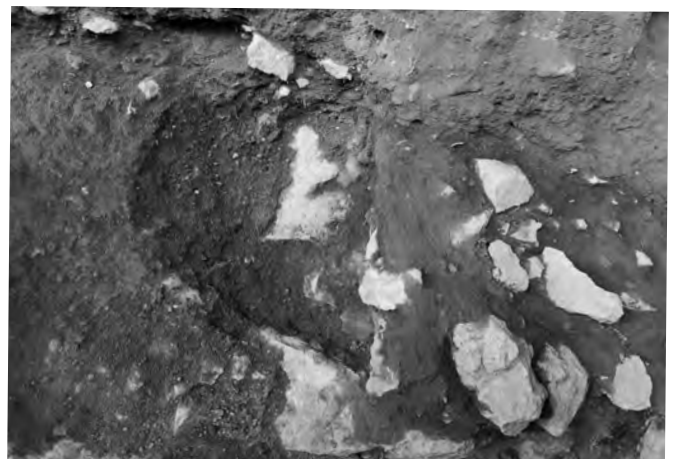
5 B区北10・11号灰層検出状況(南より)



6 B区北4号灰層遺物出土状況(南より)



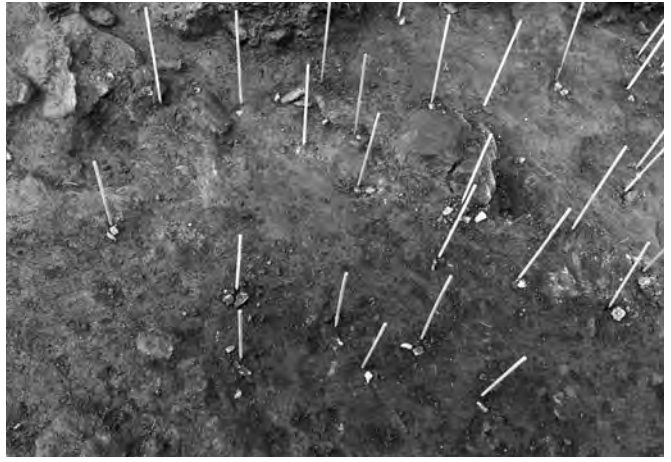
7 B区北4号灰層F-F'土層断面部分(南より)



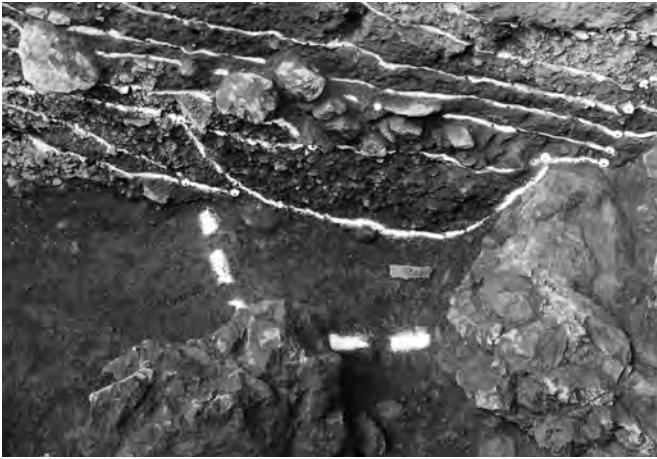
8 B区北4号灰層掘方全景(南より)



1 B区北3面6号灰層(東より)



2 B区北3面10層遺物出土状況(南より)



3 B区北1号土坑板状鉄斧出土状況(南より)



4 B区北3号トレンチ10層遺物出土状況(南より)



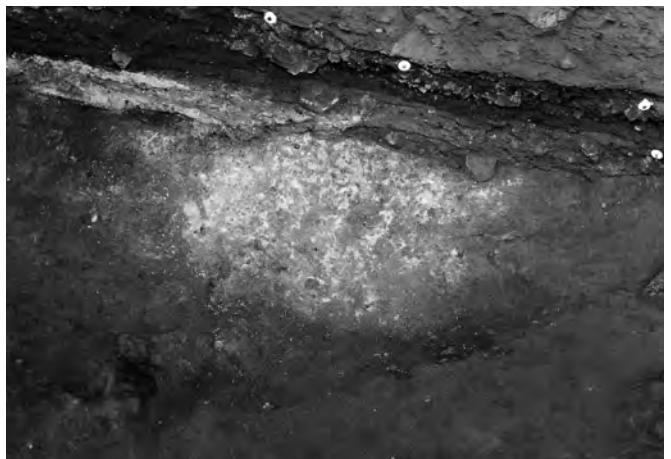
5 B区北7号灰層検出状況(西より)



6 B区北9号灰層検出状況(南より)



7 B区北3面8号灰層(南より)



8 B区北8号灰層掘方(南より)



1 B区北5面17号灰層獣骨出土状況(西より)



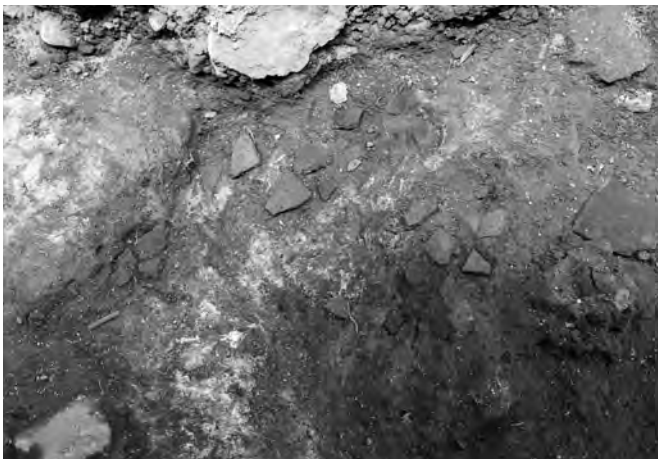
2 B区北5面17号灰層人骨出土状況(南より)



3 B区北3号トレンチ遺物出土状況



4 B区北5面2号トレンチ17号灰層(南西より)



5 B区北1号トレンチ遺物出土状況(南より)



6 B区北5面2号トレンチ17層(南西より)



7 B区北4号トレンチ15層礫状況(東より)



8 B区北2号トレンチ17号灰層(南より)



1 石畑 I 岩陰全景(西より)



2 石畑 I 岩陰全景(南より)



3 B区南調査区全景(東より)



4 B区南1面1号道全景(南東より)



5 B区南1面全景(西より)



1 B区南調査風景(東より)



2 B区南調査風景(西より)



3 B区南1号トレンチ(南より)



4 B区南2号トレンチ(南より)



5 B区南2号トレンチ(西より)



6 B区南3号トレンチ(東より)



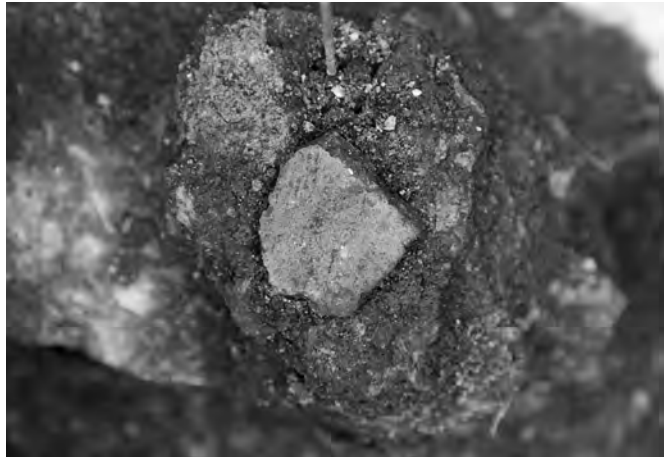
7 B区南3号トレンチ遺物出土状況



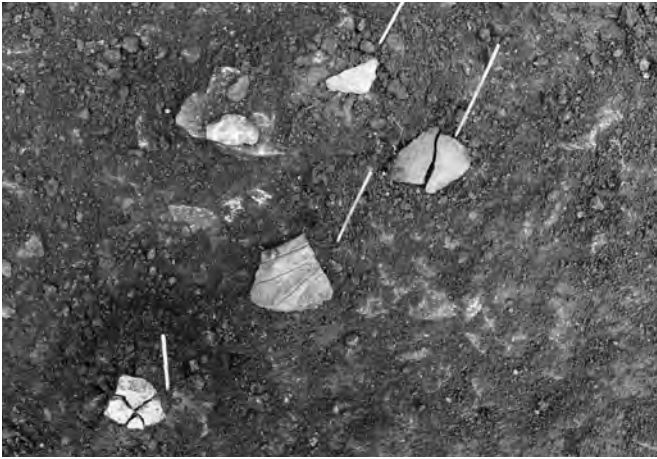
8 B区南3号トレンチ遺物出土状況(南より)



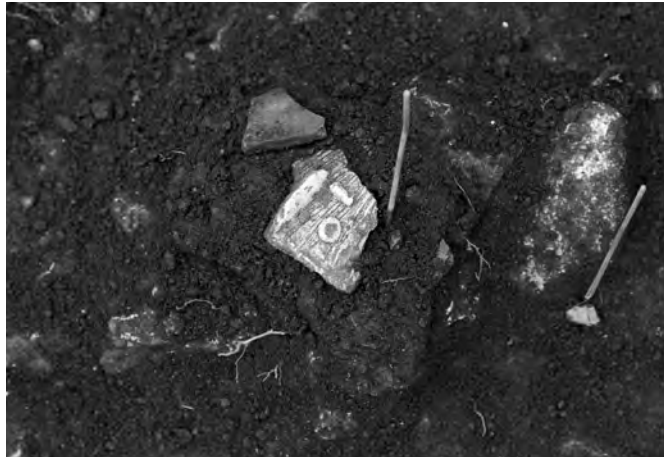
1 B区南3号トレンチ遺物出土状況



2 B区南4号トレンチ遺物出土状況



3 B区南4号トレンチ遺物出土状況



4 B区南4号トレンチ遺物出土状況



5 B区南4号トレンチ遺物出土状況



6 B区南4号トレンチNo. 1 出土状況(南より)



7 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況(南より)



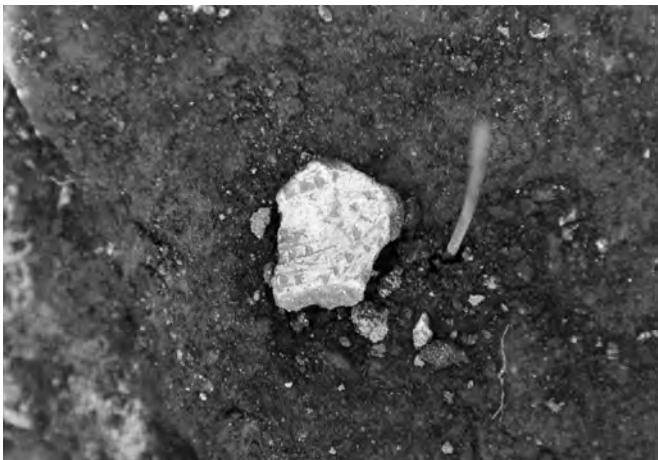
8 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況



1 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況



2 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況(南より)



3 B区南4号トレンチ7層遺物出土状況(南より)



4 B区南4号トレンチNo.67出土状況(南より)



5 B区南5号トレンチ遺物出土状況(東より)



6 B区南6号トレンチ(南より)

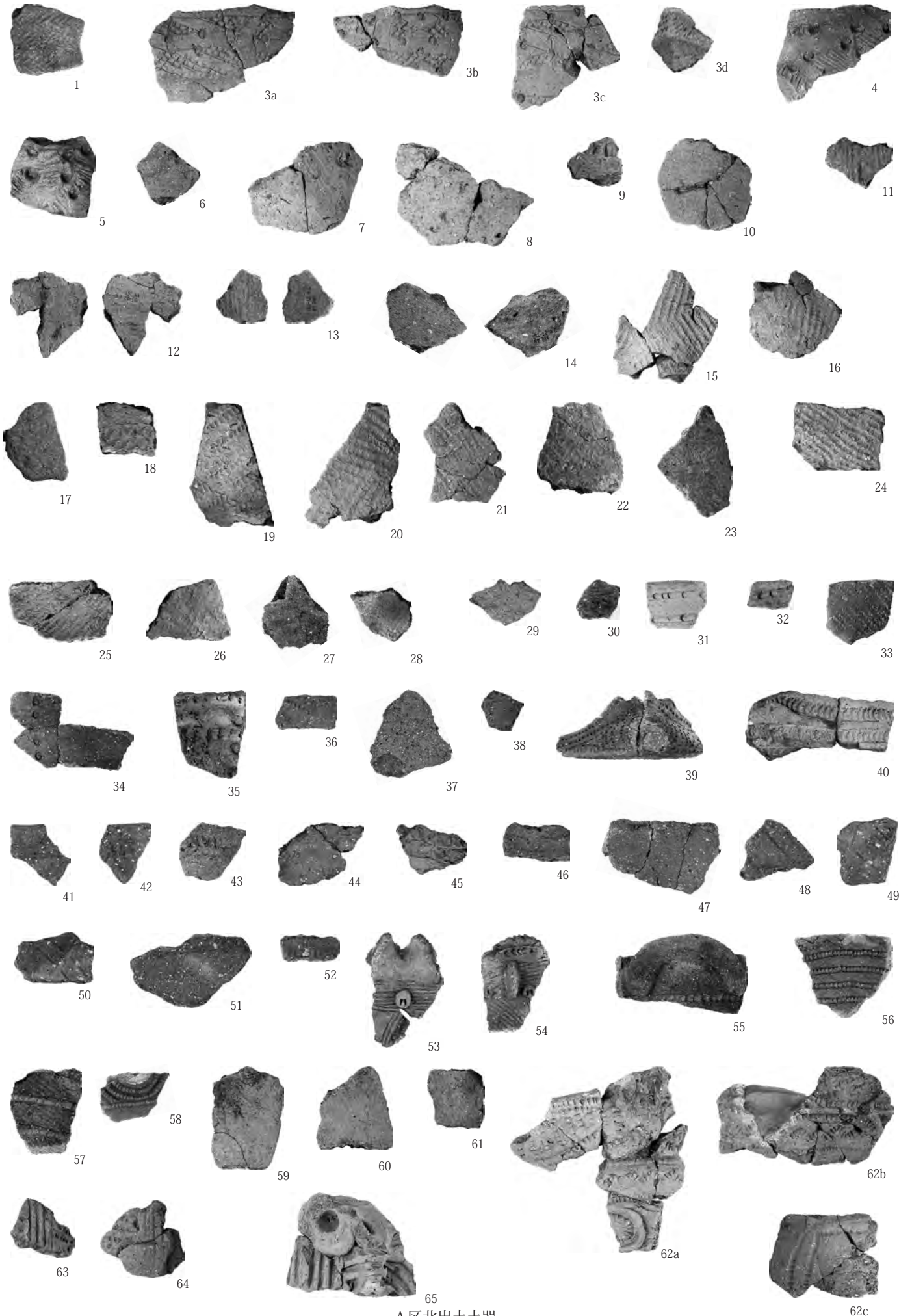


7 B区南調査風景(北より)

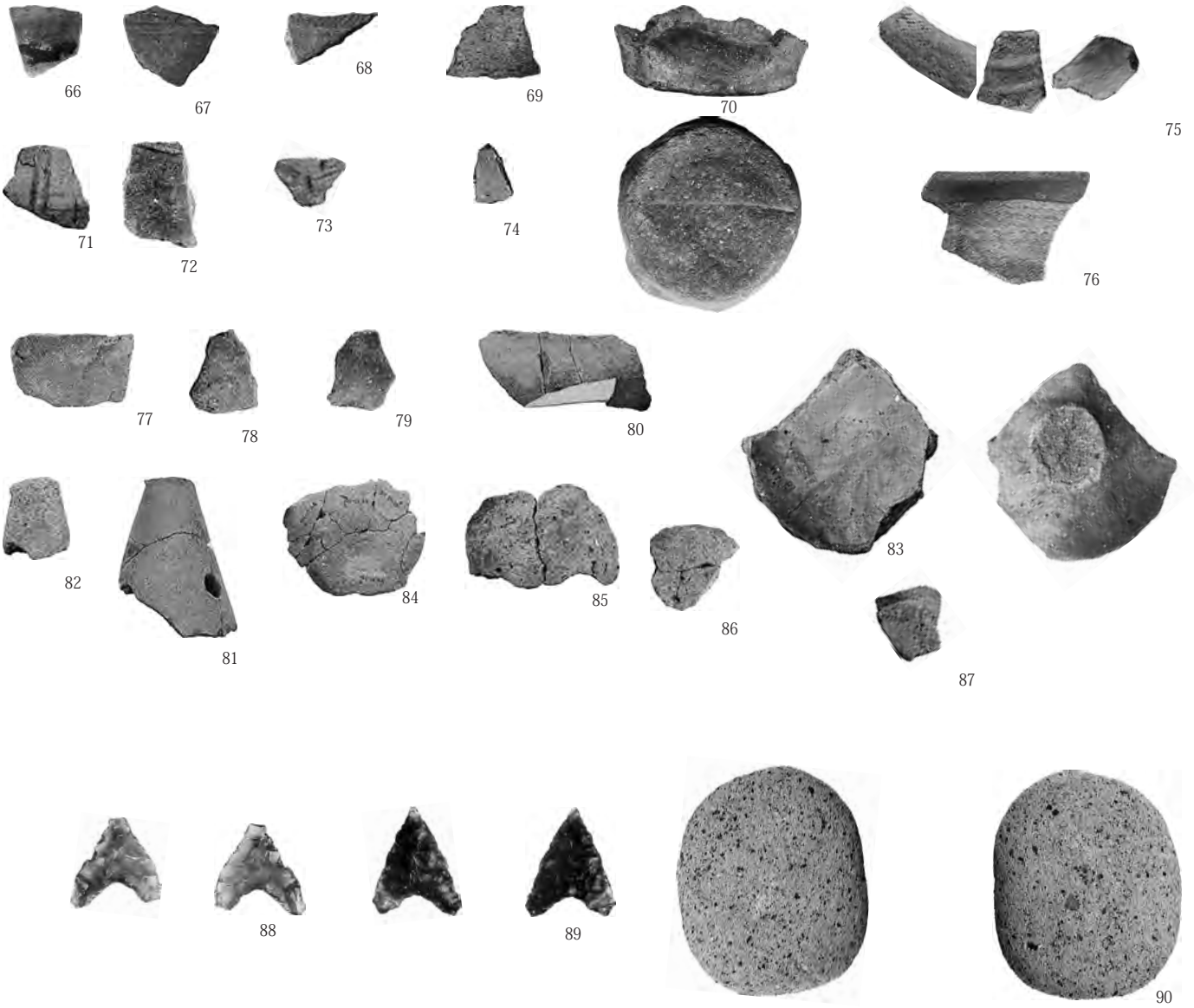


8 B区南6号トレンチB-B'土層断面(東より)

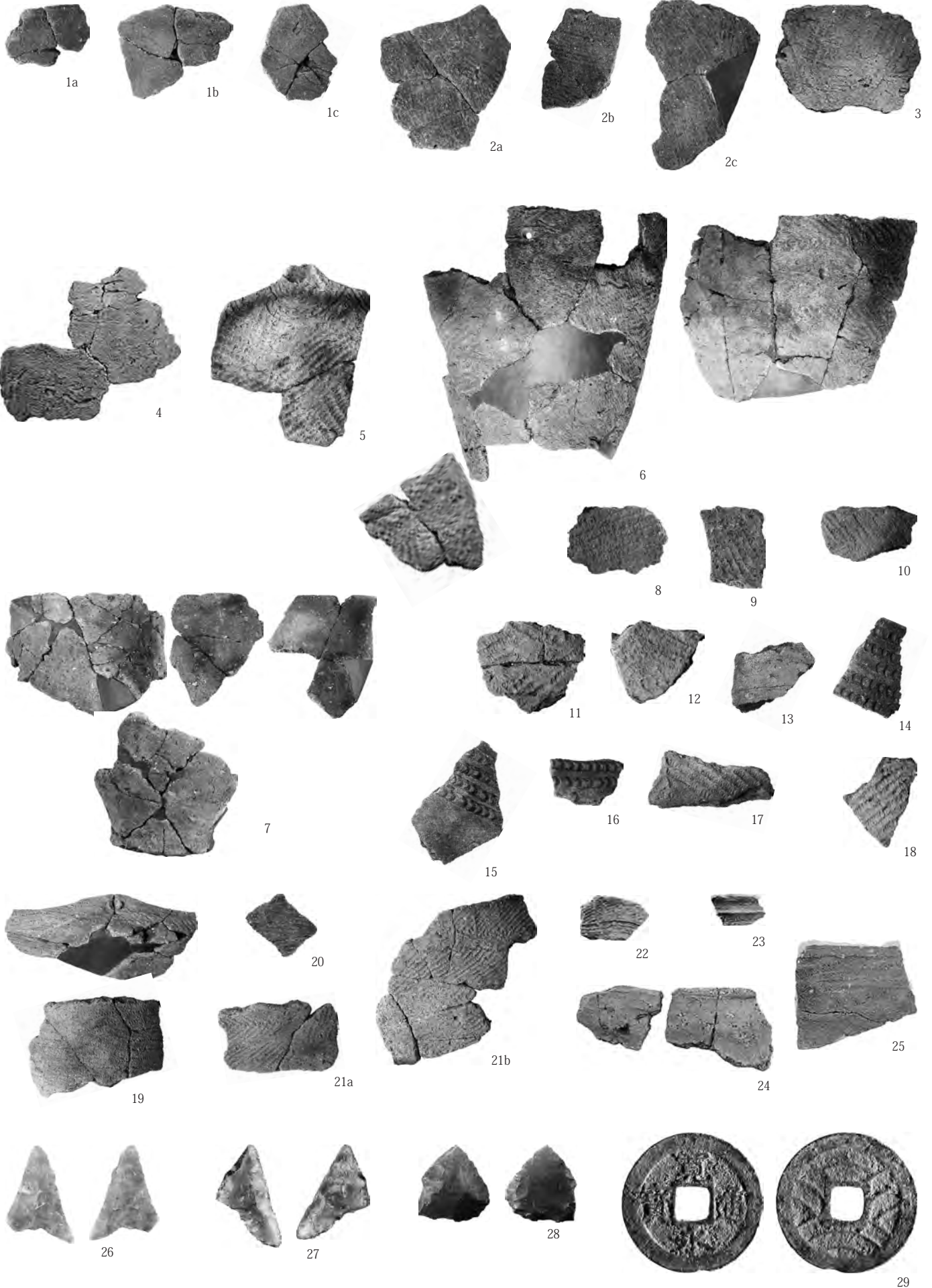
石畑 | 岩陰

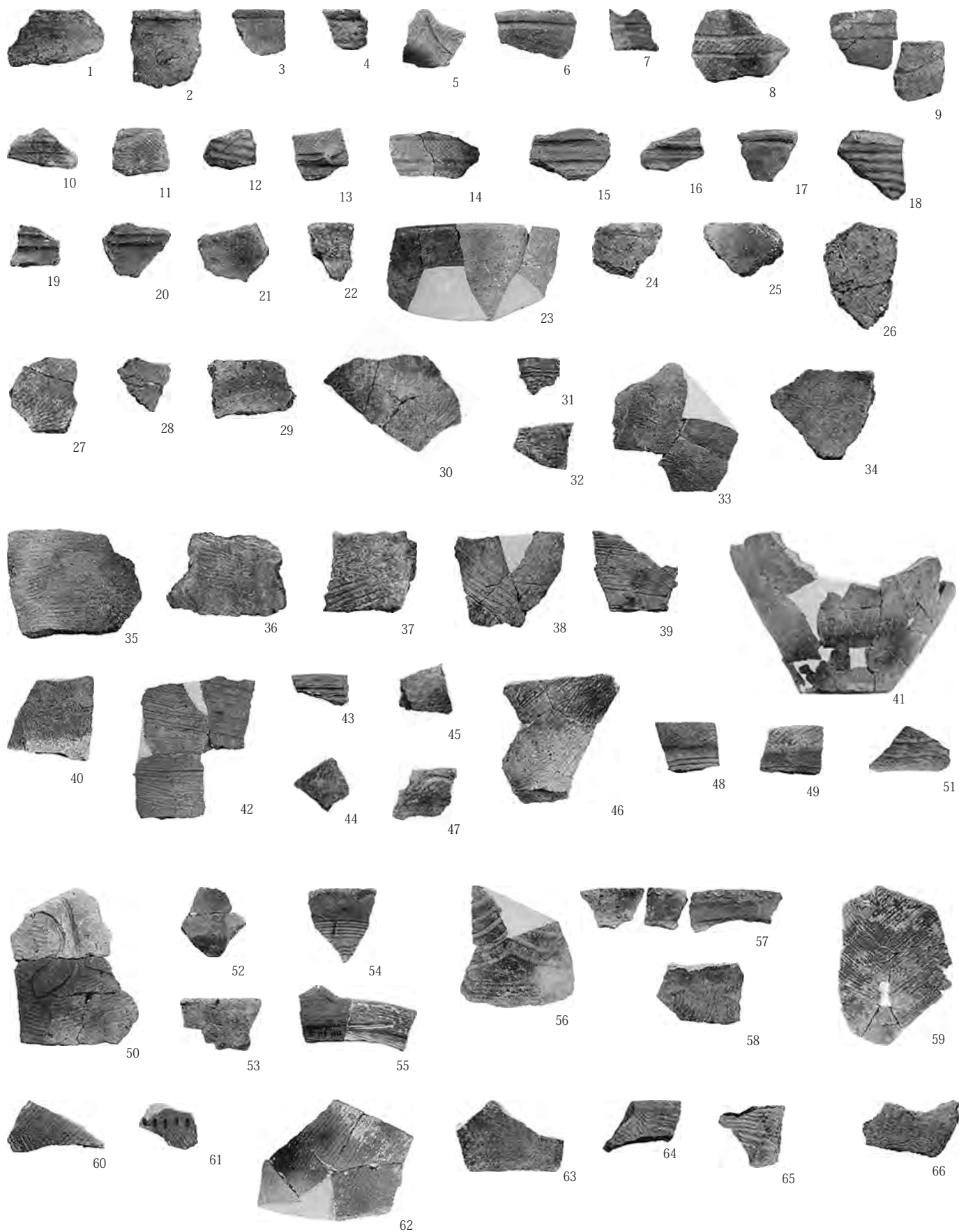


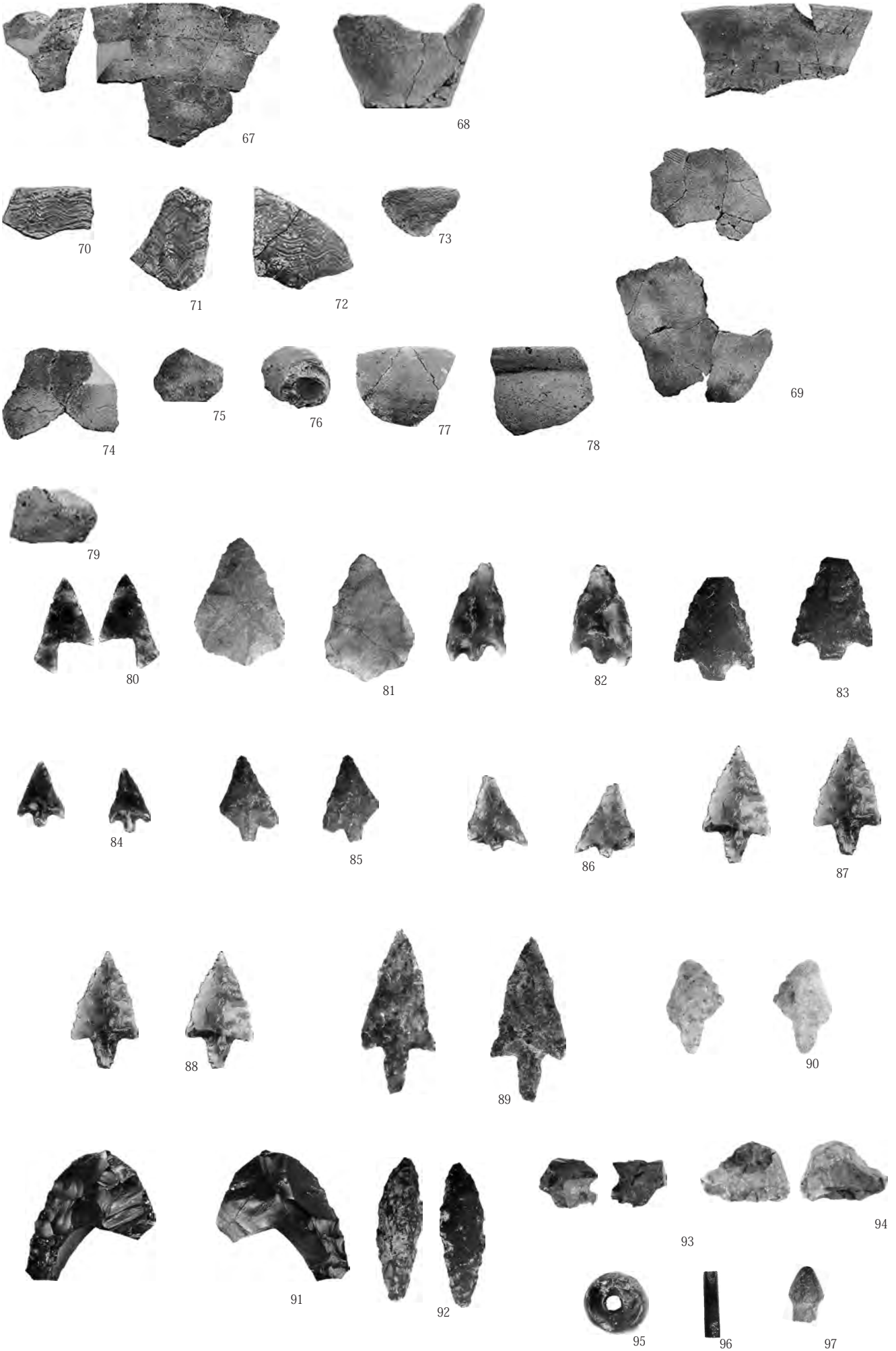
A区北出土土器

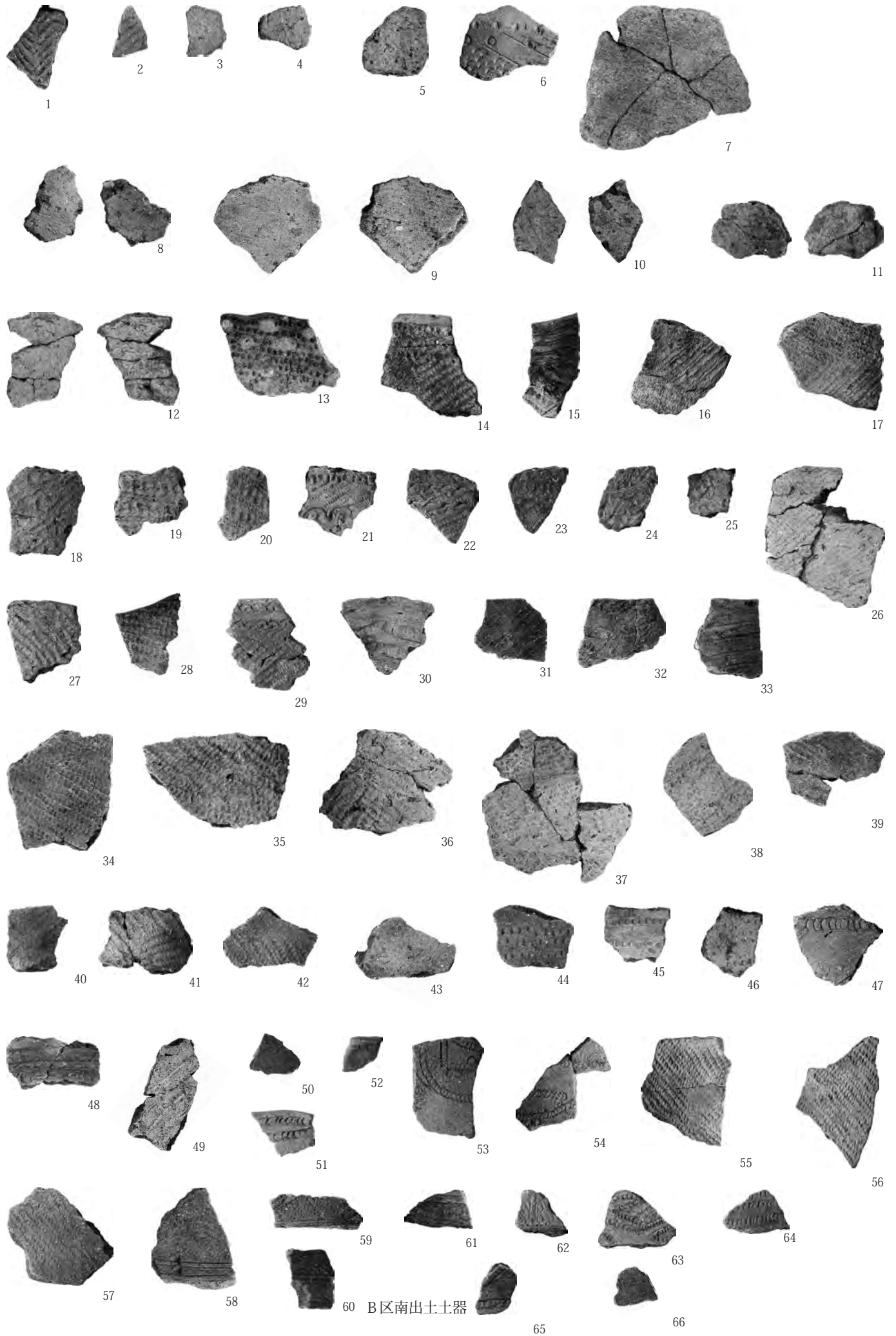


石烟 | 岩陰

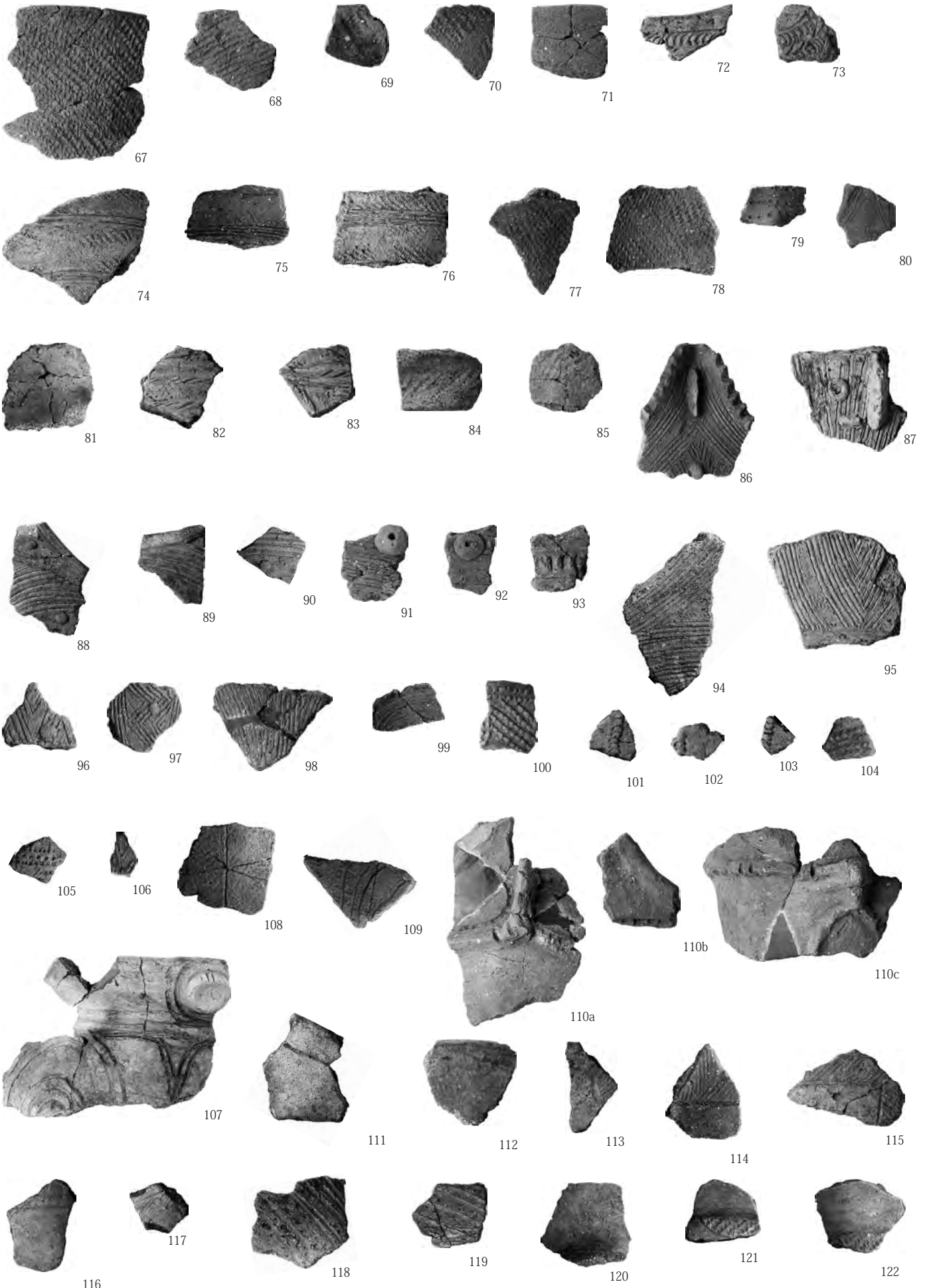


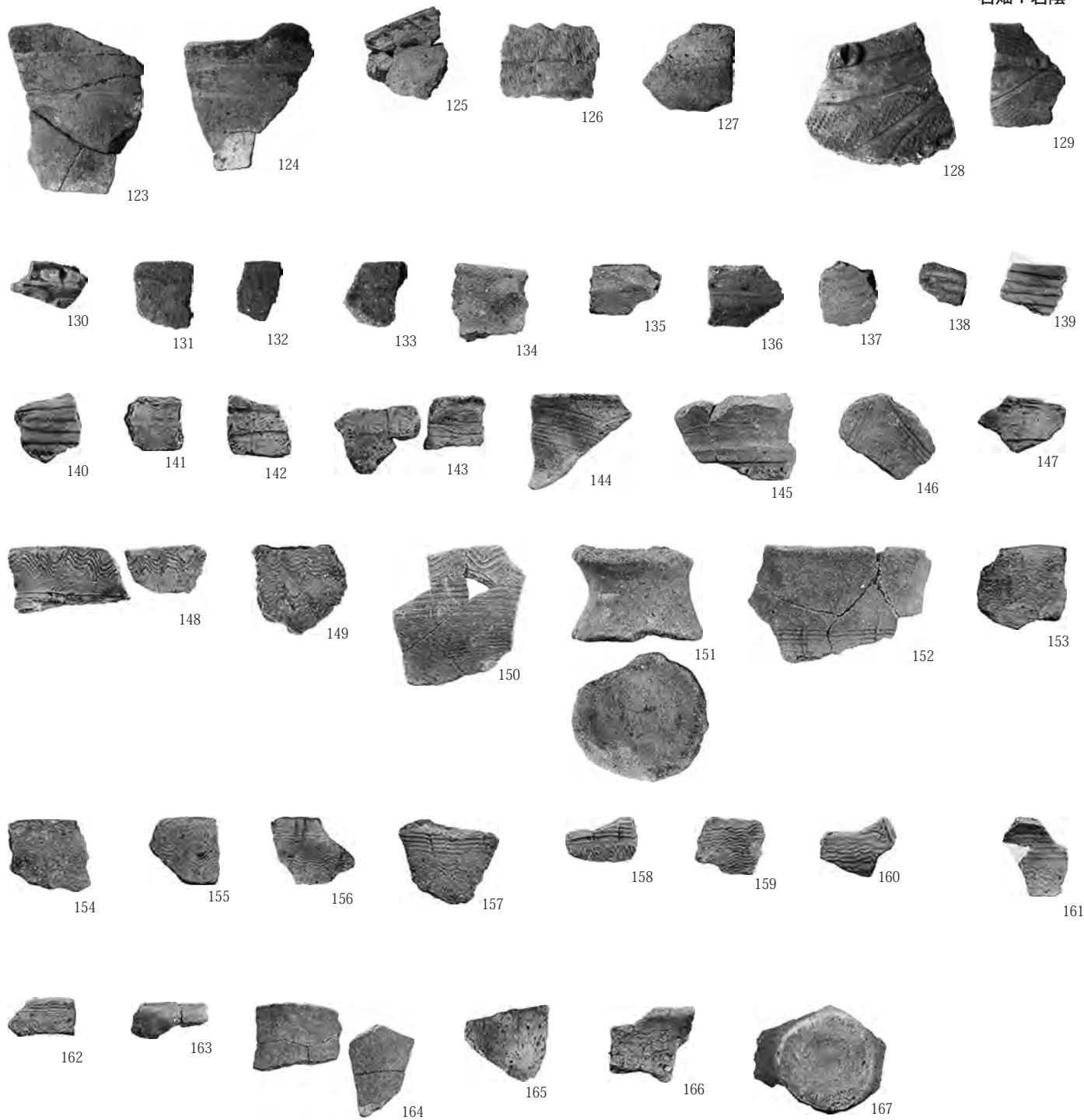






B区南出土土器





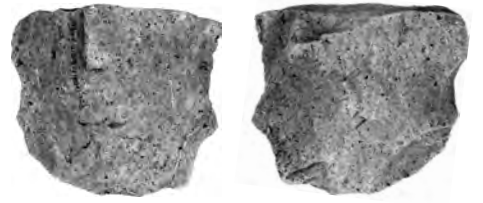
石燧 | 岩陰



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



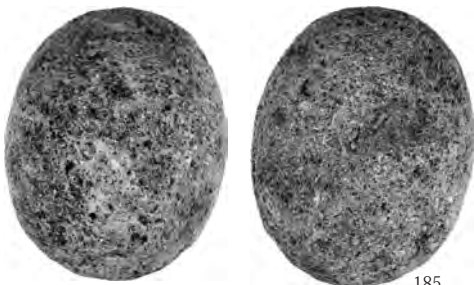
182



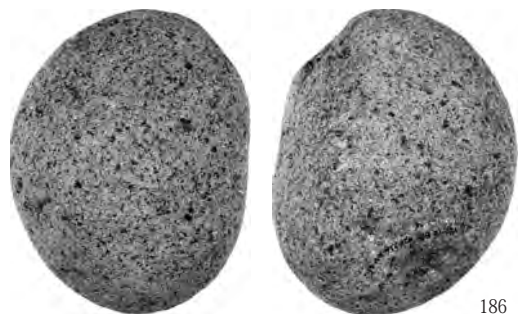
183



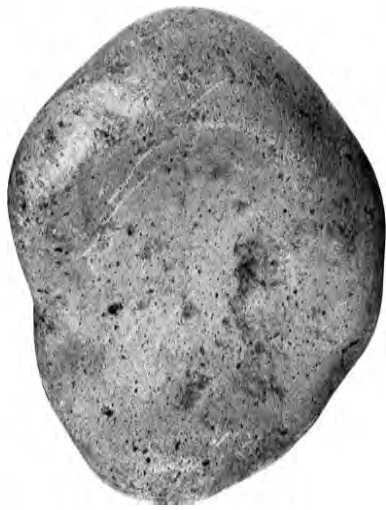
184



185



186



187



188



189



190



192



193



194



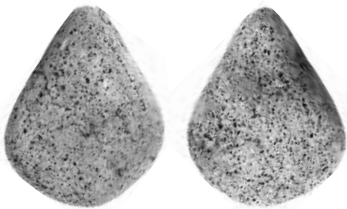
195



191



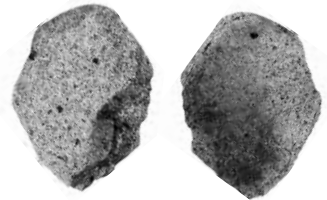
196



197



198



199



200



201



202

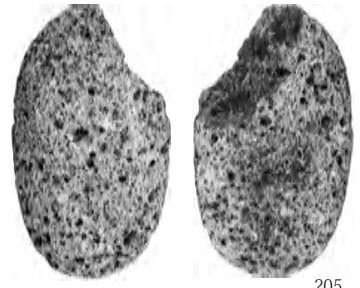
石烟 | 岩陰



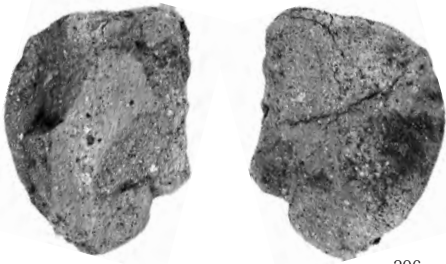
203



204



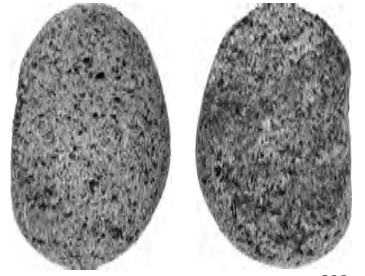
205



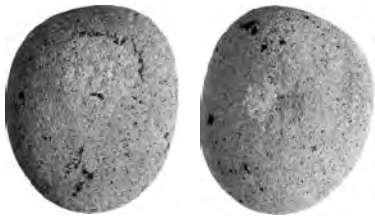
206



207



208



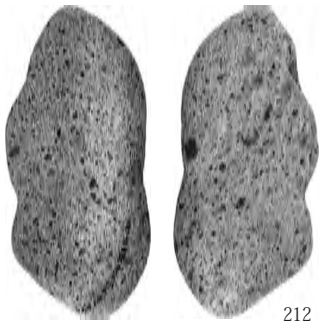
209



210



211



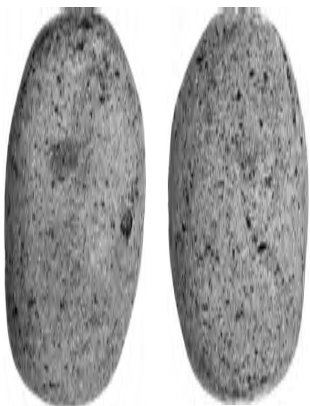
212



213



214

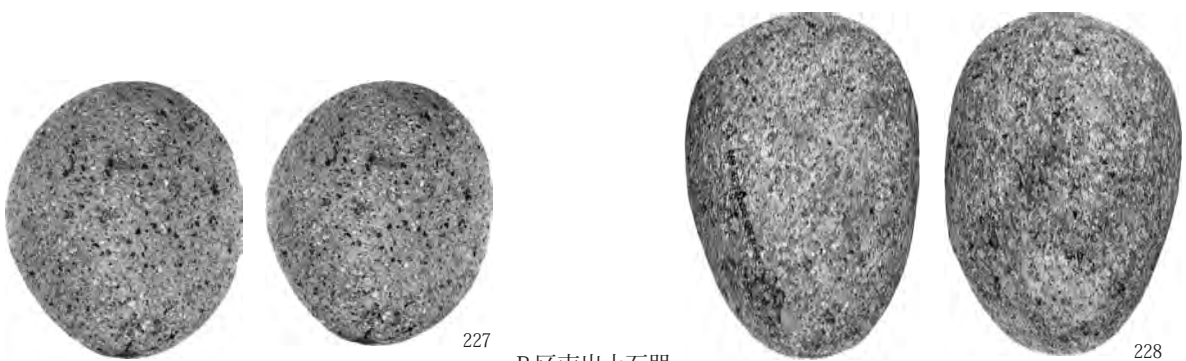
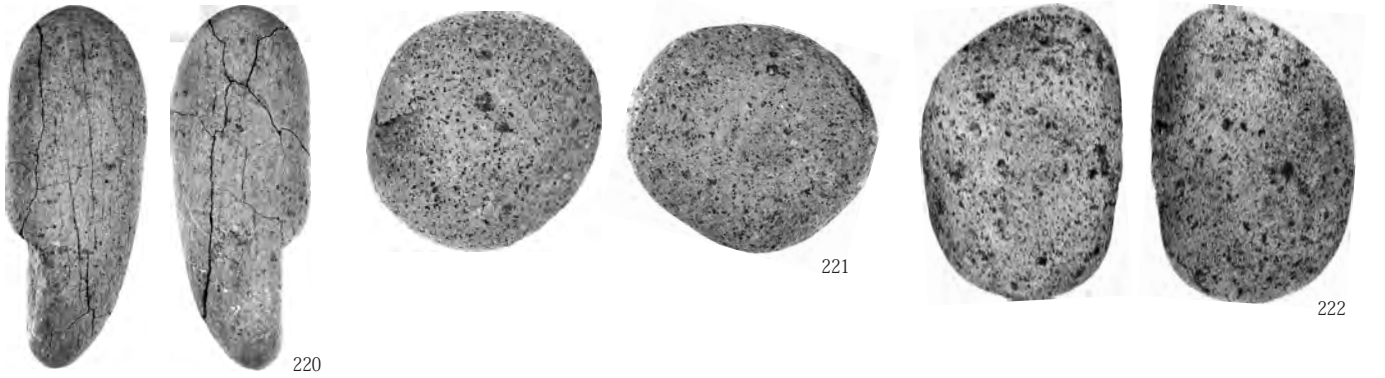


215

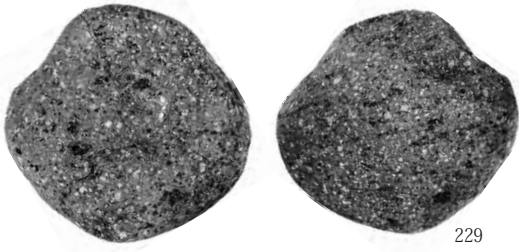


216

B区南出土石器



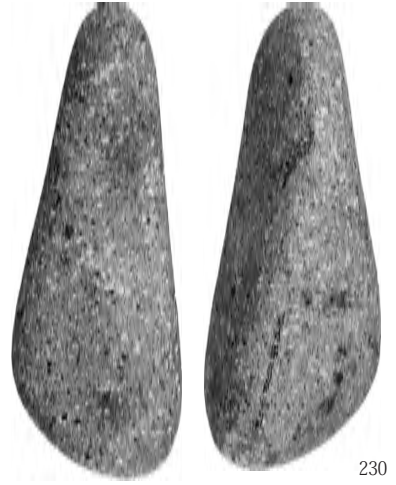
石烟 | 岩陰



229



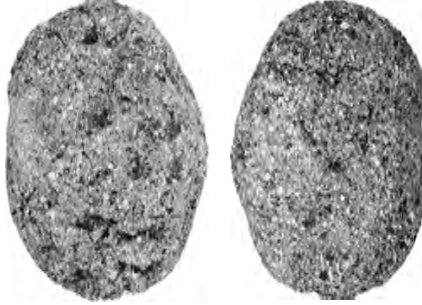
231



230



232



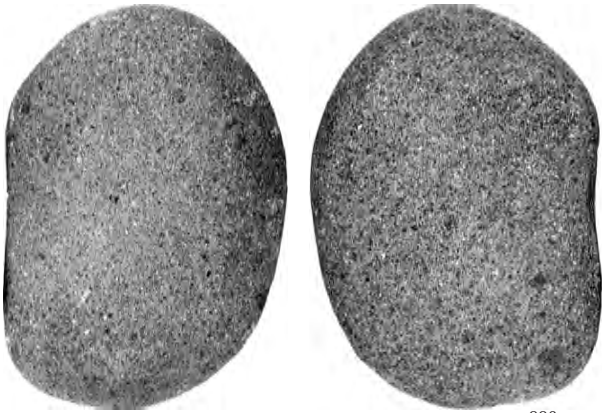
233



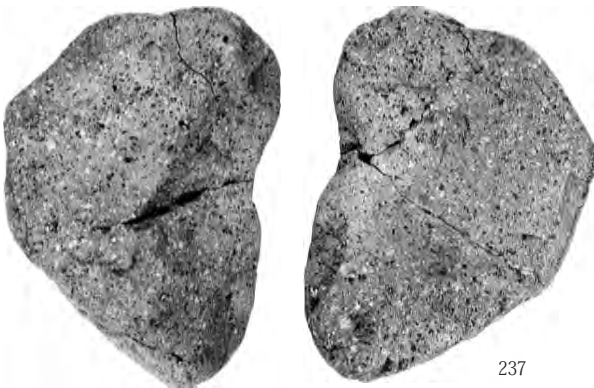
234



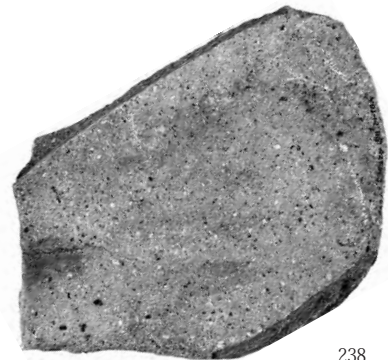
235



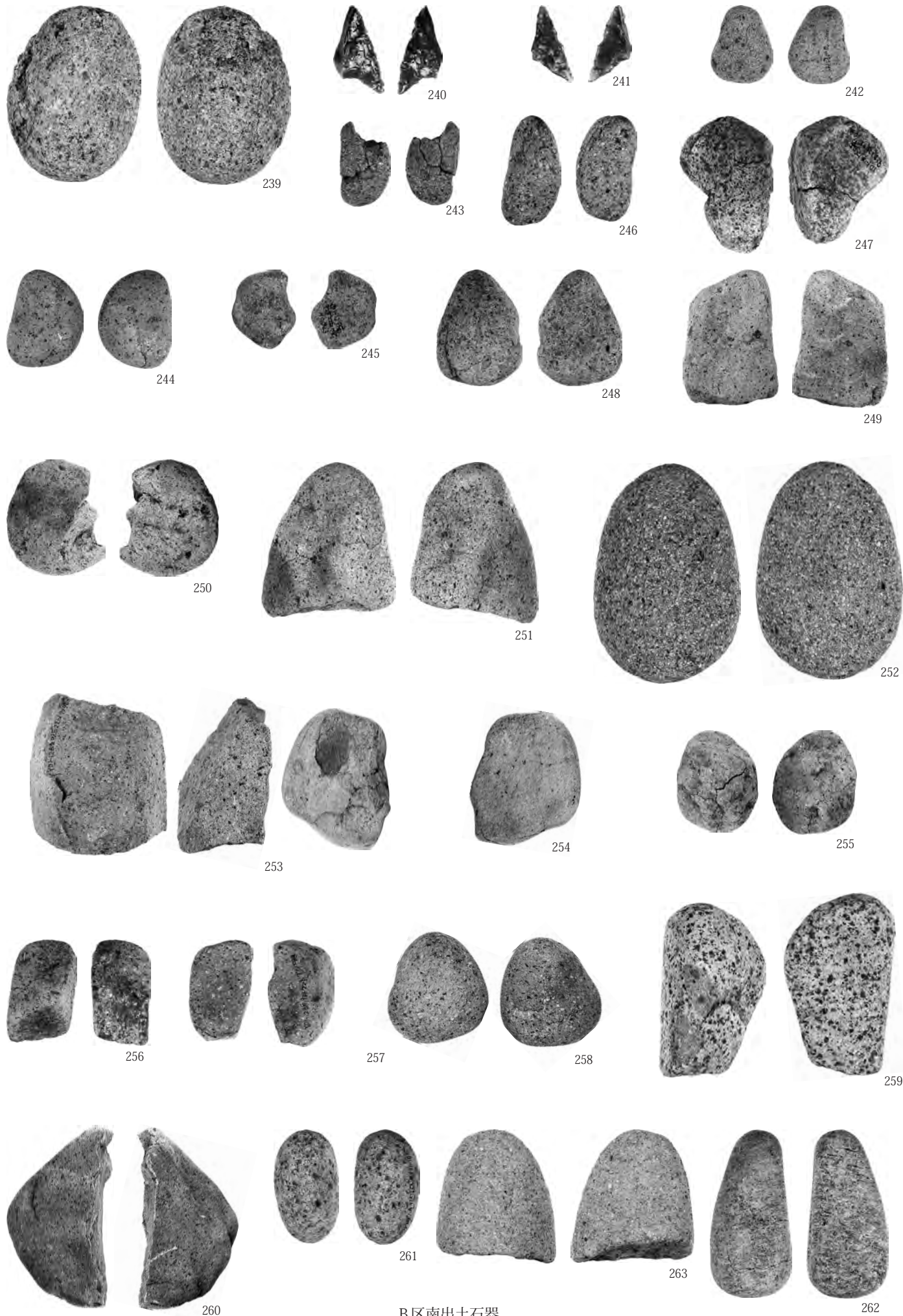
236



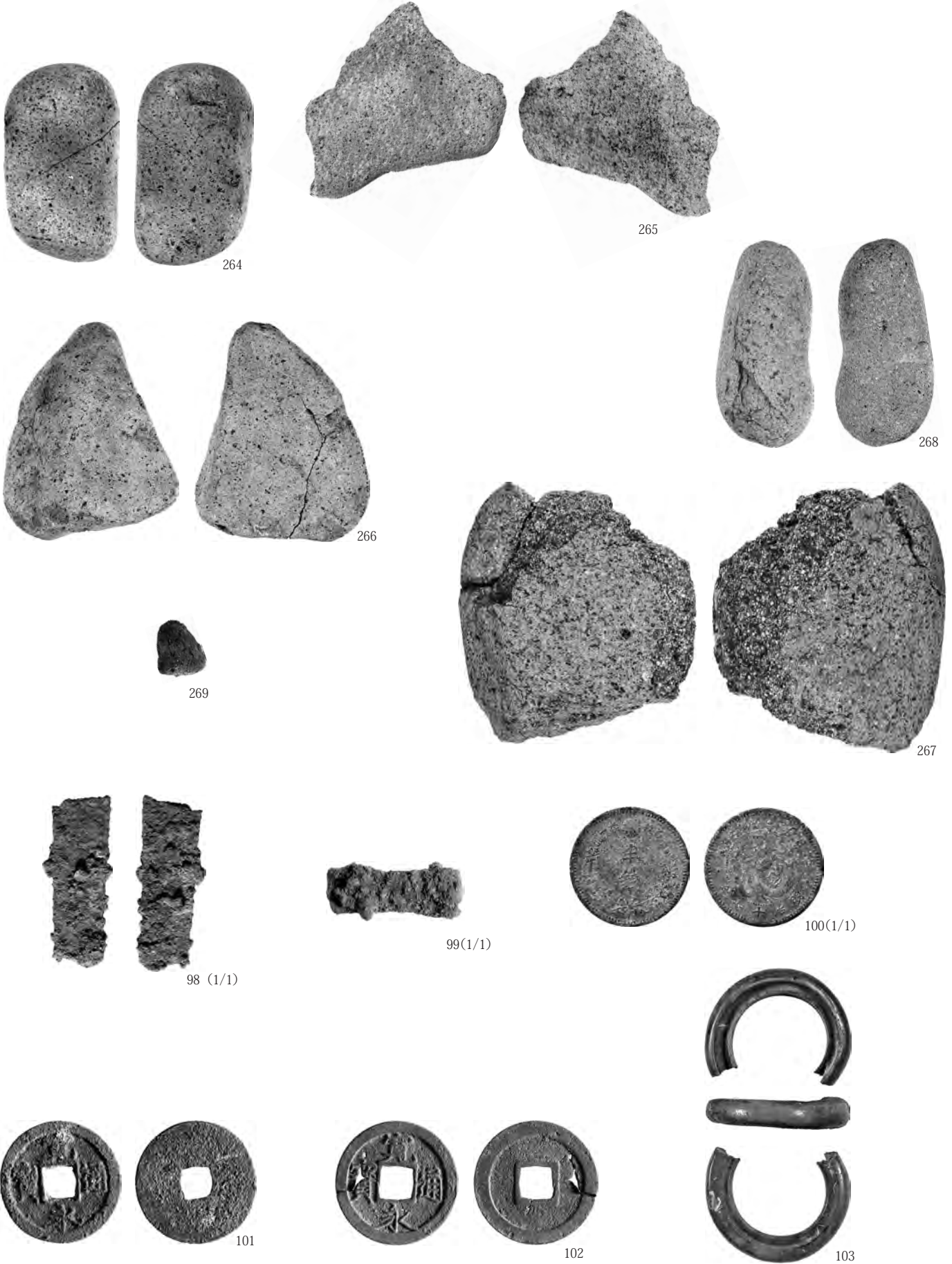
237



238



B区南出土石器



写真図版 1 石畑 I 岩陰遺跡出土の種実、歯破片

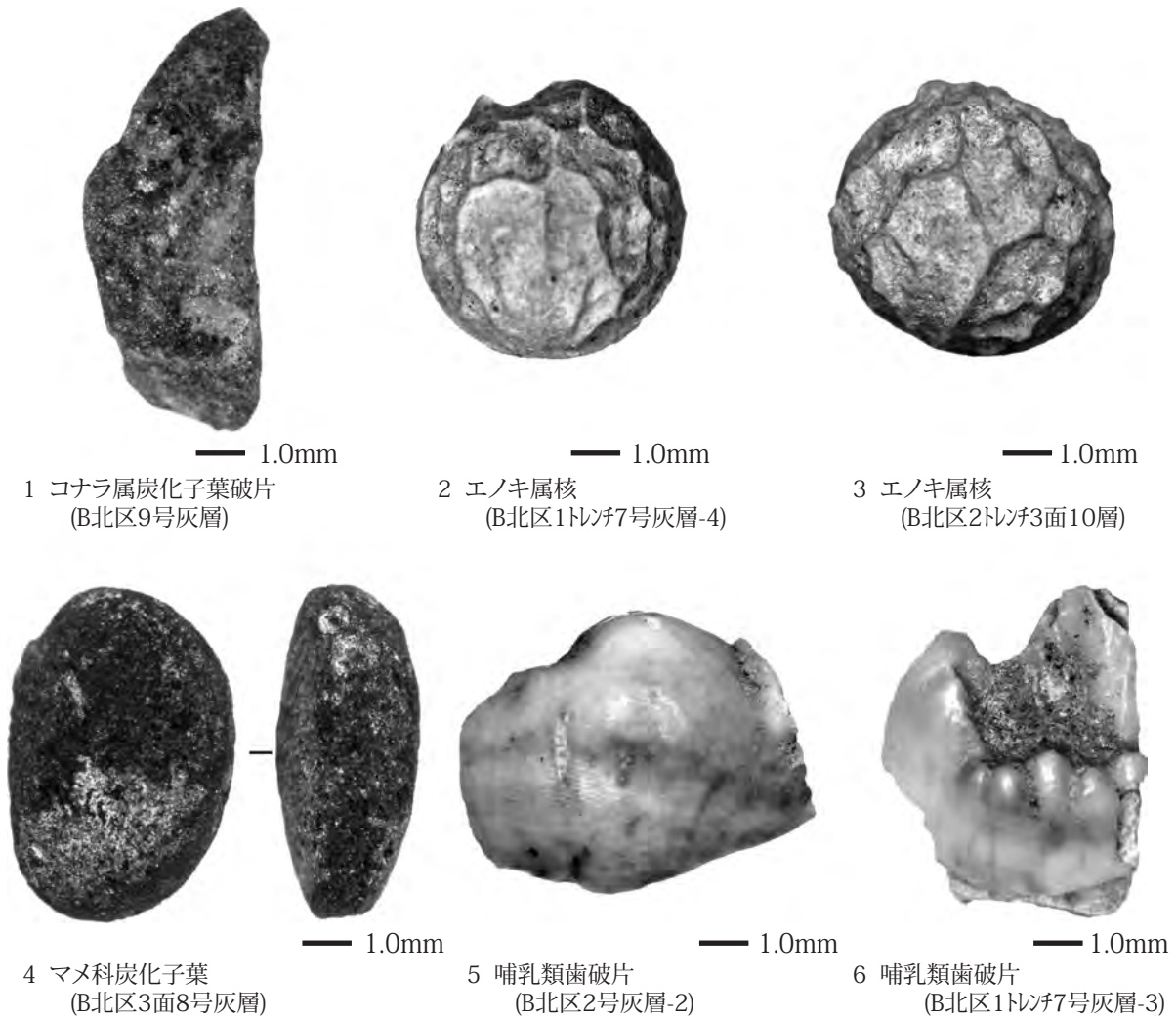


表 1 試料一覧

番号	遺物 処理番号	区	出土層位
1	61231	B 北区	2号灰層-2
2	61232	B 北区	4号灰層 1層
3	61233	B 北区	3面 8号灰層
4	61234	B 北区	9号灰層
5	61235	B 北区	1トレンチ7号灰層
6	61236	B 北区	1トレンチ7号灰層西端部ト
7	61237	B 北区	1トレンチ7号灰層-3
8	61238	B 北区	1トレンチ7号灰層-4
9	61239	B 北区	1トレンチ11層
10	61240	B 北区	1トレンチ11層
11	61241	B 北区	1トレンチ7c 灰層
12	61242	B 北区	1トレンチ7g 灰層
13	61243	B 北区	1トレンチ7e.7m.7j 灰層
14	61244	B 北区	1トレンチ7h 灰層
15	61245	B 北区	1トレンチ7h~7i 灰層間層
16	61246	B 北区	1トレンチ2 灰層 o
17	61247	B 北区	2トレンチ3 面 10層
18	61248	B 北区	3トレンチ3 面 10層下
19	61249	B 北区	3トレンチ4 面 12号灰層
20	61250	B 北区	3トレンチ5 面 17層
21	61342	B 北区	3トレンチ5 面 17 灰層 1270

表 2 石畑 I 岩陰出土種実同定結果

番号	遺物 処理番号	区	出土層位	学名	分類群	和名	部位	個数	備考
1	61231	B 北区	2号灰層-2	Leguminosae	マメ科	炭化子葉	1		
2	61232	B 北区	4号灰層 1層	wood	木材・樹皮等	細片	11		
3	61233	B 北区	3面 8号灰層	bone	骨	細片	1		枝
4	61234	B 北区	9号灰層	wood	木材・樹皮等	細片	2		
5	61235	B 北区	1トレンチ7号灰層	Celtis	エノキ属	核	17		
6	61236	B 北区	1トレンチ7号灰層西端部ト	bone	骨	(破片)	1		
7	61237	B 北区	1トレンチ7号灰層-3	Quercus	コナラ属	炭化子葉(破片)	2		哺乳類歯 土塊 1
8	61238	B 北区	1トレンチ7号灰層-4	Celtis	エノキ属	核(破片)	12		
9	61239	B 北区	1トレンチ11層	bone	骨	細片	1		
10	61240	B 北区	1トレンチ11層	unknown	不明	核(破片)	6		土塊 1
11	61241	B 北区	1トレンチ7c 灰層	bone	骨	細片	2		内 1 焼け
12	61242	B 北区	1トレンチ7g 灰層	wood	木材・樹皮等	細片	4		
13	61243	B 北区	1トレンチ7e.7m.7j 灰層	Celtis	エノキ属	核(破片)	2		土塊 3
14	61244	B 北区	1トレンチ7h 灰層	bone	骨	細片	9		
15	61245	B 北区	1トレンチ7h~7i 灰層間層	unknown plants	不明植物遺体	細片	1		哺乳類歯
16	61246	B 北区	1トレンチ2 灰層 o	Celtis	エノキ属	核	3		
17	61247	B 北区	2トレンチ3 面 10層	unknown plants	不明植物遺体	(破片)	11		
18	61248	B 北区	3トレンチ3 面 10層下	bone	骨	細片	4		
19	61249	B 北区	3トレンチ4 面 12号灰層	unknown plants	不明植物遺体	細片	6		
20	61250	B 北区	3トレンチ5 面 17層	Celtis	エノキ属	核	5		
21	61342	B 北区	3トレンチ5 面 17 灰層 1270	Celtis	エノキ属	(破片)	2		
				unknown plants	不明植物遺体	核(破片)	5		
				Celtis	エノキ属	核(破片)	4		
				Celtis	エノキ属	核(破片)	2		
				Celtis	エノキ属	核(破片)	3		
				unknown plants	不明植物遺体	細片	1		
				Celtis	エノキ属	核	1		
				Celtis	エノキ属	核(破片)	1		
				unknown plants	不明植物遺体	細片	1		
				Celtis	エノキ属	核	1		
				Celtis	エノキ属	核(破片)	1		
				shell	貝類	細片	1		
				wood	木材・樹皮等	細片	1		
				Celtis	エノキ属	核(破片)	36		炭化 土塊 1
				bone	骨	細片	1		
				Celtis	エノキ属	核(破片)	1		



図版1 石畑 I 岩陰遺跡から出土した人骨および動物遺体 (1~3. ヒト 4~9. ニホンジカ 10~13. イノシシ 14. ニホンザル 15. ツキノワグマ)

1. 左下顎骨 (分析No. 1) 2. 下顎骨 (分析No. 49) 3. 左第1中手骨 (分析No. 3) 4. 左上顎骨 (分析No. 20)
 5. 右上腕骨 (分析No. 14) 6. 左大腿骨 (分析No. 35) 7. 右距骨 (分析No. 33) 8. 右中心・第4足根骨 (分析No. 25)
 9. 基節骨 (分析No. 36) 10. 左下顎骨 (分析No. 10) 11. 左下顎第3後臼歯 (分析No. 26) 12. 右下顎第3後臼歯 (分析No. 37)
 13. 左距骨 (分析No. 38) 14. 左大腿骨 (分析No. 17) 15. 右上顎第3後臼歯 (分析No. 45)

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	じしゃだいらいせき・いしはたいせき・いしはたいちいわかげ		
書 名	二社平遺跡・石畑遺跡・石畑 I 岩陰		
副 書 名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
巻 次	75		
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書		
シリーズ番号	676		
編 著 者 名	黒田 晃		
編 集 機 関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団		
発 行 機 関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団		
発行年月日	20210323		
作成法人ID	21005		
郵便番号	377-8555		
電話番号	0279-52-2511		
住 所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2		
遺跡名ふりがな	じしゃだいらいせき	いしはたいせき	いしはたいちいわかげ
遺 跡 名	二社平遺跡	石畑遺跡	石畑 I 岩陰
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんな がのはらまちかわらはた	ぐんまけんあがつまぐんな がのはらまちかわらはた	ぐんまけんあがつまぐんな がのはらまちかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町川原 畑	群馬県吾妻郡長野原町川原 畑	群馬県吾妻郡長野原町川原 畑
市町村コード	104248	104248	104248
遺 跡 番 号	長野原町0209	長野原町0201	長野原町0009
北緯（世界測地系）	363308.1	363311.6	363311.6
東経（世界測地系）	1384238.6	1384249.8	1384254.6
調 査 期 間	20160630-20171231	20171101-20190821	20170607-20180316
調 査 面 積	5,354	6,021	3,027
調 査 原 因	ダム建設	ダム建設	ダム建設
種 別	畑地・山林	山林・道路	山林・鉄道敷
主 な 時 代	中世/近世	縄文/近世	縄文～近世
遺 跡 概 要	縄文：土器(前・後)/近世： 土坑1+畑	縄文：土器(前期) 近世： 畑9+石垣+ヤックラ2	縄文：焼土1-土器(早～晩)+ 石器+人骨・獣骨/縄文～古 墳：溝1+灰層3/弥生：土 坑1-鉄斧/古墳：土器/古代 ～中世：灰層3-土器/近世： 道4+畑4+灰層8-土器+陶磁 器+寛永通宝
特 記 事 項			多数の縄文土器や弥生土器 等が出土したが、1号土 坑から弥生時代の板状鉄斧 とみられる鉄斧が出土し た。
要 約	本遺跡は吾妻川左岸の緩斜 面及び急斜面に位置する。 天明3(1783)年のAs-A 軽 石と泥流で覆われた畑等を 確認した。下位面の確認調 査において遺構は確認でき なかったが、縄文土器が出 土した。	本遺跡は吾妻川左岸の緩斜 面及び旧道下を調査した。 天明3(1783)年のAs-A 軽 石と泥流で覆われた畑、石 垣、ヤックラ等を確認し た。下位面の確認調査にお いて遺構は確認できなかつ たが、縄文時代前期の土器 が出土した。	吾妻川左岸の岩陰の斜面を 中心とした遺跡である。本 遺跡は昭和43年に群馬県 が発掘調査を実施した石畑 岩陰遺跡の一部である。縄 文時代から近世までの灰層 が多数確認され、縄文時代 早・前・中・後・晩期と弥 生時代前・中・後期の土器、 石器、人骨や、シカを中心 とした獣骨、植物遺体、灰 化した種子などが出土し た。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第676集

二社平遺跡・石畑遺跡・石畑 I 岩陰

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第75集

令和3(2021)年3月19日 印刷

令和3(2021)年3月23日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社

